

序

東日本大震災から8年が経過した令和元年度は、未だ多くの子どもたちが避難先の学校で学習活動が続けるなど、震災に起因する課題が山積している一方で、広野町に「ふたば未来学園中学校」が開校し、併設型中高一貫教育がスタートするとともに、福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成に取り組む未来創造型の教育が展開されるなど、着実に復興への歩みを進めました。

また、これまでの本県の中高一貫教育の成果や今般の社会情勢を踏まえ、本県における今後の併設型及び連携型中高一貫教育の在り方についての方向性を示す「中高一貫教育後期実施計画（2019年度～2028年度）」を策定しました。

一方、令和元年10月の東日本台風（台風第19号）等により、校舎の床上浸水や断水、停電などの大きな被害が発生するとともに、多くの学校において休校を余儀なくされました。さらに、年度末には、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う学校の一斉臨時休業を余儀なくされた年でもありました。

このような中、県教育委員会では、「第6次福島県総合教育計画（改定版）」の後半4年間に当たる平成29年度～令和2年度の取組を加速させるため、平成29年3月に策定した「頑張る学校応援プラン」に掲げた5つの主要施策を推進しました。

さて、本教育年報は、令和元年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望できる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいているところです。

今後も本書が、教育施策を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

令和2年10月

福島県教育委員会

※ 本書は、旧字体等（機種依存文字）が用いられている場合、常用漢字で表記しています。
また、敬称は省略しています。

教育年報目次

第1章 教育行政の概観

1 令和元年度の本県教育の概要	1
2 第6次福島県総合教育計画及び「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組	1
3 新しい県立高校改革計画の概要	5
4 福島県地域学校活性化推進構想の概要	7

第2章 教育行政

第1節 教育委員会	9
1 教育委員会	9
2 審議事項	9
第2節 教育庁組織	12
第3節 企画調整	13
1 教職員現職教育計画の策定	13
2 調整事務	13
第4節 広報・広聴	14
1 教育委員会だより	14
2 教育年報	14
3 福島県の教育	14
4 ふくしま教育ニュース	14
5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙	15
6 記者発表及び資料提供（投げ込み）件数	16
7 教育フォーラム	17
8 「ふくしま教育の日」啓発推進事業	18
9 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト	18
第5節 調査統計	18
1 学校統計要覧	18
2 地方教育費調査（一般統計）	18
3 学校教員統計調査（基幹統計）	18
4 進路状況等に関する調査	18
第6節 教職員の給与	18
1 給料関係	18
2 諸手当関係	19
第7節 附属機関等	19
1 福島県社会教育委員の会議	19
2 福島県文化財保護審議会	20
第8節 市町村教育委員会	21
1 概要	21
2 組織	21
3 令和元年度市町村教育委員会援助指導の概要	22
第9節 職員団体との話し合い	22
1 福島県教職員組合	22
2 福島県高等学校教職員組合	23
3 福島県立高等学校教職員組合	23
4 福島県学校事務労働組合	23
第10節 不審査請求事件及び訴訟事件	24
1 審査請求事件	24
2 訴訟事件	24

第11節	公益法人等の指導等並びに公益信託の状況	25
	1 公益法人等	25
	2 公益信託	25
第12節	表彰及び叙勲	25
	1 教育・文化関係表彰	25
	2 文部科学大臣表彰	26
	3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲	26
第13節	奨学育英	28
	1 福島県奨学資金	28
	2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度	28

第3章 教育財政

第1節	令和元年度決算	29
	1 歳入	29
	2 歳出	30
第2節	学校教育施設	32
	1 県立学校	32
	2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）	33
第3節	産業教育設備整備事業	34
	1 産業教育施設・設備の整備	34
第4節	理科教育振興法補助事業	34
	1 理科設備	34
	2 算数・数学特別設備	34
第5節	情報処理設備整備事業	34
	1 県単独事業	34
第6節	体育施設	35
	1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）	35
	2 社会体育施設整備費補助	35

第4章 教育の情報化

第1節	基盤整備	37
第2節	人材の育成・活用	37

第5章 義務教育

第1節	概要	39
第2節	学校管理	39
	1 児童生徒数・学級数と教職員定数	39
	2 教職員人事・任用	42
	3 教育職員免許状の授与状況	42
	4 学校の設置及び統廃合	43
	5 学校防火	43
	6 へき地対策	44
第3節	学校教育	45
	1 概要	45
	2 現職教育	48
	3 教育課程	50
	4 学力向上等	50
	5 放射線教育（地域と共に創る放射線・防災教育推進事業）	51

6	防災教育（地域と共に創る放射線・防災教育推進事業）	51
7	道徳教育	51
8	特別活動	53
9	生徒指導・進路指導	53
10	幼稚園教育	53
11	へき地教育	54
12	環境教育	54
13	教科用図書	54
14	教育研究団体	56
第4節	国際化・科学技術の進展等への対応	59
1	中学生・高校生の科学・技術研究論文	59
2	中学生・高校生の国際理解・国際交流論文	60

第6章 高等学校教育

第1節	概要	61
第2節	学校管理	62
	1 生徒数と教職員数	62
	2 教職員人事・任用	67
	3 学校の設置及び統廃合 - 公立高等学校の設置・廃止等(令和2年度) -	70
第3節	学校教育	71
	1 概要	71
	2 現職教育	77
	3 教育課程	78
	4 学力向上対策等	80
	5 生徒指導・進路指導	80
	6 学校行事	80
	7 産業教育	81
	8 学校訪問	82
	9 県立学校学校教育指導委員	82
	10 教科用図書	83
	11 教育研究団体	83
第4節	文化活動の振興	85
	1 文化活動の振興	85

第7章 特別支援教育

第1節	概要	91
第2節	学校管理	91
	1 児童生徒数と教職員定数	91
	2 特別支援学校及び特別支援学級の実態	94
	3 教職員人事・任用	96
第3節	学校教育	97
	1 概要	97
	2 現職教育	99
	3 教育課程（特別支援学校教育課程運営改善講座）	100
	4 訪問教育	101
	5 生徒指導・進路指導	101
	6 特別活動	102
	7 学校訪問	102
	8 県立学校学校教育指導委員	102
	9 就学指導	102

10 教科用図書	103
11 教育研究団体	103

第8章 体育・健康

第1節	概要	105
	1 学校体育の充実	105
	2 学校保健・学校安全の充実	105
	3 食育の推進	105
	4 学校給食の充実	106
第2節	表彰	106
	1 体育関係	106
	2 学校保健・学校安全関係	106
	3 学校給食関係	110
第3節	学校体育	110
	1 学校体育関係各種研修	110
	2 福島県高等学校体育連盟	111
	3 福島県中学校体育連盟	113
第4節	学校保健・学校安全	114
	1 学校保健・学校安全研修会等	114
	2 児童・生徒の健康管理費補助	114
	3 福島県学校保健会	114
	4 独立行政法人日本スポーツ振興センター	114
第5節	学校給食	115
	1 学校給食に関する研修会	115
	2 学校給食用パン品質調査	115
	3 食育等に関する研修会等	115
	4 学校給食関係の国庫助成実績	116

第9章 社会教育

第1節	概要	117
	1 社会教育一般	117
	2 地域コミュニティの再生	117
	3 家庭教育	117
	4 青少年教育	117
	5 成人教育	117
	6 子どもの読書活動推進	117
	7 ユネスコ活動	117
	8 チャレンジ!子どもがふみだす体験活動応援事業	117
第2節	社会教育一般	118
	1 社会教育推進体制の充実	118
	2 社会教育施設の整備充実	118
	3 社会教育関係職員の研修	118
	4 社会教育研究集会	118
	5 社会教育指導員の設置	119
	6 社会教育主事の市町村派遣	119
	7 社会教育研修会	119
	8 福島県公民館研究集会	119
	9 社会教育職員研修派遣	119
	10 出版資料	120

第3節	地域コミュニティの再生	120
	1 地域学校協働活動事業	120
	2 放課後子ども教室事業	120
	3 学校支援活動事業	121
	4 学校・家庭・地域連携サポート事業	121
	5 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業	122
第4節	家庭教育	122
	1 地域でつながる家庭教育応援事業	122
第5節	青少年教育	125
	1 地域学校協働本部事業	125
	2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業	126
第6節	成人教育	126
第7節	子どもの読書活動推進	126
	1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト	126
第8節	ユネスコ活動	127
	1 ユネスコ協会事務局一覧	127
	2 福島県ユネスコ活動研修会	128
第9節	チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業	128
	1 「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業	128
	2 心のケアが必要な子どもを対象とした事業	128
	3 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業	129
第10節	公民館等社会教育施設	129
	1 公民館を除く主な社会教育施設	129
	2 文化施設の整備充実	134
第11節	福島県立図書館	135
	1 概要	135
	2 資料の収集・整理	135
	3 館内奉仕	137
	4 館外奉仕	142
	5 図書館協力	143
第12節	福島県立美術館	145
	1 概要	145
	2 美術品の収集・保存	145
	3 展示事業	146
	4 調査研究事業	150
	5 普及事業	150
第13節	福島県立博物館	153
	1 概要	153
	2 資料収集事業	153
	3 保存管理事業	154
	4 展示事業	157
	5 調査研究事業	161
	6 教育普及事業	164
	7 文化財・自然資料レスキュー	170
	8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト	171
	9 ライフミュージアムネットワーク	172
第14節	福島県自然の家	172
	1 概要	172
	2 教育目標及び基本的視点	173
第15節	福島県郡山自然の家	173
	1 概要	173
	2 施設・設備の概要	174
	3 利用状況	175
	4 企画事業	175

第16節	福島県会津自然の家	178
	1 概要	178
	2 施設・設備の概要	179
	3 利用状況	180
	4 企画事業	180
第17節	福島県いわき海浜自然の家	182
	1 概要	182
	2 施設・設備の概要	184
	3 利用状況	184
	4 企画事業	184

第10章 文化財

第1節	文化財保護体制の充実	187
	1 指定文化財保護体制の充実（文化財パトロール）	187
	2 文化財保護指導者研修会	187
	3 市町村文化財保護担当国会議	187
第2節	埋蔵文化財の保護の充実	187
	1 埋蔵文化財保護体制	187
	2 開発事業地内の保護対策	187
	3 令和元年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況	188
	4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修	188
	5 埋蔵文化財保護普及活動	188
	6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業	188
	7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数	189
	8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査	189
	9 令和元年度 試掘・確認調査	190
	10 令和元年度 発掘調査	191
第3節	文化財保存助成の充実	191
	1 文化財保存助成事業	191
	2 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）	192
	3 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）	192
第4節	文化財の保護と公開の推進	193
	1 第61回北海道・東北ブロック民俗芸能大会	193
	2 文化財保護強調週間の実施	193
	3 文化財防火デーの実施	193
第5節	銃砲刀剣類の登録状況	193
	1 登録審査委員	193
	2 登録審査会の実施状況	193
	3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況	194
第6節	福島県文化財センター白河館の運営状況	194
	1 入館者数	194
	2 入館者の内訳と傾向	194
	3 団体利用者の内訳と傾向	194
	4 情報発信事業の利用者	195
	5 資料管理業務	195
	6 研修事業の状況	195
	7 体験学習事業の状況	196
	8 講演会・講習会	197
	9 常設展事業	197
	10 企画展事業	197
	11 ボランティア運営事業	197
	12 市町村への技術支援の状況	198

第11章 福利厚生

[教職員の健康管理・福利厚生事業]

第1節	概要	199
第2節	事業実績	199
	1 教職員の健康管理	199
	2 保健事業	200
	3 厚生事業	202
第3節	貸付事業	205
	1 共済組合	205
第4節	宿泊・保養施設	205
第5節	児童手当（特例給付を含む）	205
第6節	財産形成貯蓄制度	205

[福利給付事業]

第7節	概要	205
第8節	短期給付	206
	1 共済組合	206
	2 互助会	206
第9節	長期給付	207
	1 恩給	207
	2 退職手当	207
	3 年金	208

第12章 福島県教育センター

第1節	概要	211
	1 調査・研究事業	211
	2 研修事業	211
	3 情報教育事業	211
	4 教育相談事業	211
	5 教育図書・資料事業	211
第2節	調査・研究事業	212
	1 調査・研究	212
	2 長期研究員制度による研究	213
第3節	研修事業	213
	1 研修講座の概要	213
	2 研修講座	215
	3 指導主事派遣等	219
第4節	情報教育事業	219
	1 研修講座の概要	219
	2 施設利用概況	219
第5節	教育相談	219
	1 対象別	219
	2 区分別	219
	3 地区別来所相談件数	219
	4 月別相談件数・回数	219
第6節	教育図書・資料事業	220
	1 教育図書・教育資料の収集	220
	2 教育資料の刊行	220

第13章 福島県特別支援教育センター

第1節	概要	221
	1 教育相談事業	221
	2 教職員研修事業	221
	3 調査研究・教育研究事業	221
	4 教育図書・資料の収集・提供事業	222
	5 広報・啓発事業	222
	6 情報教育事業	222
第2節	教育相談事業	222
	1 相談対象	222
	2 形態	222
	3 現状と課題	222
第3節	教職員研修事業	223
	1 教職員の研修講座	223
第4節	調査研究・教育研究事業	224
	1 調査研究	224
	2 教育研究	226
	3 長期研究員制度による研究	227
第5節	教育図書・資料の収集・提供事業	227
	1 教育図書・資料の収集・整理	227
第6節	広報・啓発事業	227
	1 所報「特別支援教育」(72号)	227
	2 研究紀要「第33号」	228
第7節	情報教育事業	228
	1 ICT活用支援	228
	2 情報機器活用	228
	3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実	228

第1章 教育行政の概観

1 令和元年度の本県教育の概要

東日本大震災、原子力発電所事故から8年が経過してもなお、多くの子どもたちが県内外への避難生活を続けているなど厳しい状況が続いているが、ふたば未来学園中学校が開校し、新たな学び舎で中高一貫教育が始まるなど、本県教育の復興が着実に進んだ。また、本県の教育をめぐる課題に対応するため、県立高等学校改革基本計画前期実施計画に基づく改革懇談会を開催するとともに、第二次福島県特別支援学校全体整備計画に基づく特別支援学校の整備を進めた。

このような中、県教育委員会においては、平成29年3月に策定し、平成31年3月に一部改定した教育政策の骨太の方針「頑張る学校応援プラン」に掲げた主要施策を戦略的に推進し、本県教育の充実を図った。また、年度末には新たに始める「会津地区での地域人材を活用した地域課題探究活動」や「新たな時代に向けたICT活用環境整備」など、プラン策定後の状況の変化を踏まえてプランの一部を改定した。

新たな取組である「ふくしま学力調査」は、平成31年4月に県内の全公立小学校（436校、特別支援学校の一部を含む）、中学校（225校、特別支援学校の一部を含む）を対象に実施した。小学校4年生から中学校2年生まで、問題の難易度を考慮に入れ学力を測定することで、一人一人の学習内容の定着度や学力の伸びを把握でき、学習等に対する意識や生活の状況等を把握する調査と併せ、教育施策の成果と課題を検証するとともに、その改善を図り、一人一人の学力を確実に伸ばす教育の推進を図った。

「福島県地域学校活性化推進構想」の推進については、本年度から全ての公立学校に「地域連携担当教職員」を任命し、令和2年2月には「福島県地域学校活性化推進会議」を開催した。学校側と企業側のそれぞれにニーズ調査を行い、地域学校協働本部によるマッチング調整も進めた。また、令和2年度からコミュニティ・スクールを導入する県立高校3校に対する支援を行った。

2 第6次福島県総合教育計画及び「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組

(1) 第6次福島県総合教育計画

ア 基本理念

“ふくしまの和”で奏でる、
こころ豊かなたくましい人づくり

イ 基本目標

- 基本目標1 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
- 基本目標2 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
- 基本目標3 豊かな教育環境の形成

本計画の運用に当たっては、毎年度重視する観点を定め、これに基づく事業を明らかにするとともに、計画の進捗状況を点検・評価することとしている。平成29年度からの4年

間の重視する観点を「頑張る学校応援プラン」に掲げた5つの主要施策とし、これらに沿った事業を重点的に推進することにより、本県教育の充実を図った。

(2) 「頑張る学校応援プラン」

ア 性質



第6次福島県総合教育計画の後半4年間の取組を加速化させるべく、教育政策の骨太の方向性と必要な主要施策を厳選して打ち出したもの。

イ 特徴

本県の教育をめぐる現状について、データによる分析を行い、本県の強みや課題を「見える化」した。

課題等に応じた有効な「手立て」として5つの主要施策を掲げ、戦略的に実行することとした。

ウ 主要施策及び対応する主な取組

主要施策1 学力向上に責任を果たす

- 取組1 学びのスタンダードによる授業力の向上
- 取組2 ふくしま学力調査による一人一人の学力の伸びを支援
- 取組3 高校入試の見直し（ふくしまの中高接続改革）
- 取組4 苦手分野の指導の充実と小学校英語教育への対応
- 取組5 アクティブ・ラーニングなど本県ならではの教育の強化

主要施策2 教員の指導力、学校のチーム力の最大化

- 取組1 新たな職（副校長、主幹教諭）の設置拡充
- 取組2 多忙化解消アクションプランの推進
- 取組3 同僚間で学び合うアクティブ・ラーナーとしての教員へ
- 取組4 教員研修の質的充実
- 取組5 学校における達成目標や特色の明確化

主要施策3 地域と共にある学校

- 取組1 福島県地域学校活性化推進構想の推進
- 取組2 地域と学校の協働の促進
- 取組3 コミュニティ・スクールの導入促進
- 取組4 地域連携担当教職員の任命
- 取組5 地域課題探究活動の推進

主要施策4 ふくしまの未来に向けた創造的復興教育

- 取組1 「変革者たれ！」ふたば未来学園の中高一貫教育
- 取組2 小高産業技術高校における小高ならではの教育
- 取組3 福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成

- 取組 4 12市町村の特色ある教育（学校再開支援チーム）
- 取組 5 「新」双葉地区教育構想の推進
- 取組 6 元気な福島の発信と震災の教訓の継承

主要施策5 学びのセーフティネットの構築

- 取組 1 子どもたちの心のケアの充実
- 取組 2 健康長寿に向けた子どもたちの健康教育の推進
- 取組 3 家庭の経済状況等に関わらない学びの環境整備
- 取組 4 特別支援教育の環境の充実
- 取組 5 スマートフォン・インターネットとのつきあい方

(3) 「頑張る学校応援プラン」に関連する主な事業・取組

主要施策1 学力向上に責任を果たす

継続 道徳教育総合支援事業・人権教育開発事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

大震災の経験を踏まえ、「いのち」「家族愛」「郷土愛」等について系統的に学ぶため、福島独自の読み物資料の活用促進や、ゲストティーチャーの派遣を行った。

人権意識を培うため幅広い観点から実践的な研究を行い、指導方法等の改善及び充実を図った。

継続 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

県内各地域で活躍できる読書活動支援者を育成することにより、より良い読書環境づくりを進めた。

継続 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業

学習内容の定着度や学力の伸びの把握、学習に対する意識や生活状況を調べる「ふくしま学力調査」を実施し、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図った。

継続 「ふくしま活用力育成シート」実践事業

児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成や活用力の状況判断、日々の授業改善に活用できる「ふくしま活用力育成シート」を、小学4年生から中学2年生を対象に、8月、11月、2月の年間3回に渡りホームページに掲載した。

新規 「学びのスタンダード」進化プロジェクト

授業や家庭学習の方法を示す「学びのスタンダード」を基に、質の高い授業の実施、効果的な家庭学習の実践等により児童生徒の学力向上を図った。また、「教科担任制」「タテ持ち」を実施する学校への指導助言、小学校外国語教育の教科化に対応する指導方法の普及や評価等について研修を行った。

新規 授業の充実支援事業（小・中学校）

県内小中学校に本庁指導主事が直接訪問し、授業改善及び家庭学習の質の向上について指導助言を行った。

継続 アクティブ・ラーニングによる学力向上推進事業

アクティブ・ラーニングの視点を授業に取り入れ、新しい時代に求められる学力の向上を図ったほか、各学校のミッションを全面的に支援することにより生徒の進路希望実現を図った。

継続 未来へはばだけ！イノベーション人材育成事業

福島の復興に資する地域に根ざした新たな産業を創出するため、「福島イノベーション・コースト構想」による児童生徒へのキャリア教育を加味した理数教育の推進を

図った。

継続 地域と共に創る放射線・防災教育推進事業

災害や放射線に関する問題と取組について児童生徒に考えさせ、安全・安心な社会づくりに貢献する態度を育成した。

継続 ふくしまの未来を拓く産業人材育成事業

学校と受け入れ企業が連携し、「基礎的・汎用的能力」の育成により、生徒の職業観、勤労観を醸成、生徒の主体的な進路選択の能力と態度を育成した。

継続 ふくしまで生活基盤を築くための高校生支援事業

生徒面談や講話などを通して、社会人として自立するためのサポートを行った。また、県外に避難している高卒就職希望者の帰還を支援するため、求人情報等の提供を行った。

継続 ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業

医療に携わることで復興や社会に貢献したいと考える高校生の夢を実現させるため、地域医療現場の体験学習を行い、進路実現に向けた学習意欲の醸成を図った。

新規 ふくしま未来の農業者GAP教育実践事業

農業に誇りと自信を持ち、国際的に通用する人材育成のため、農業高校生がGAP等の先進的な取り組みをしている県外農業高校との交流や県外での農産物販売会等を行った。

継続 未来を担う高校生海外研修・グローバル支援事業

国際社会に貢献できる人材を育成するため、ホームステイ研修の旅費の一部を支援したほか、研修で得た経験などを発信するための英語プレゼンテーションコンテストを実施した。

継続 グローバル人材を育成する英語教育強化事業

生徒の資格試験受験と結果データ分析及び各種研修を行い、4技能のバランスのとれた生徒の英語力を向上させると共に、教員の英語指導力の向上と充実を図った。

継続 語学指導等を行う外国青年招致事業

県立学校に外国語指導助手（ALT）を配置し、訪問による指導を行い、生徒の英語コミュニケーション能力の向上や、国際理解の深化を図った。

継続 少人数教育推進事業

小学校、中学校において30人学級、30人程度学級編制に必要な教員を配置した。

主要施策2 教員の指導力、学校のチーム力の最大化

継続 復興を担うアクティブ・ラーナー育成事業

地域課題等の解決に取り組む「アクティブ・ラーナー」を育成することにより、地域との共生を図り、本県復興を担うたくましい人材を育成した。

継続 特別支援学校教科指導充実事業

特別支援学校教員への新特別支援学校学習指導要領の周知徹底と、知的障がいのある児童生徒に対する各教科の指導の充実に向けた研修と公開授業を実施し、指導力向上を図った。

継続 県立学校IT環境整備事業

学校における情報セキュリティの確保や多忙化解消のため、教職員用パソコンの更新、配備を行った。

新規 統合型校務支援システム整備事業

情報セキュリティの向上や、調査書の電子化への対応など、

学習成績を含む児童生徒の個人情報等を一元管理するシステムを整備した。

継続 教職員の資質向上に向けた研修の充実

今日的な教育課題や教職員のライフステージに応じた研修を体系的・計画的に行い、教職員の資質向上を図った。

継続 優秀教職員による学校のチーム力向上事業

優秀教職員に表彰された教職員を対象に、研修会や先進校視察等に参加させ、個々の教員が持つ長所の更なる伸長を図るとともに、研修成果を広く普及・啓発させた。

継続 優秀教職員表彰制度

学習指導や生徒指導等において、日常的に努力を積み重ね顕著な成果を挙げている教職員を表彰し、教職員の志気を高め、教育活動全体の活性化を図った。

継続 福島スクール・サポート・スタッフ事業

大規模小学校70校へスクール・サポート・スタッフを配置し、学習プリントの印刷等教員の補助業務を担い、勤務時間の削減等に加え、台風19号による被災小学校での復旧を支援した。

継続 部活動指導員配置促進事業

適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を推進するため、部活動指導員を中学校に49名、高校に35名を配置し、担当する教員の支援及び部活動の質的向上を図った。

継続 学校評議員制度の導入の促進

保護者や地域住民等の意向を把握・反映させ、学校経営を改善し、開かれた学校づくりを進めるため、学校評議員制度の導入を促進した。

継続 学校評議員による学校関係者評価の実施

保護者や地域住民等の意向を把握・反映させ、学校経営を改善することにより開かれた学校づくりを進めた。

継続 校長・教頭のためのマネジメント講座

校長及び教頭の管理職としての資質を向上させ、学校経営、運営面での体制を強化した。

継続 児童生徒の体力向上推進事業（後掲）

継続 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業（再掲）

継続 「ふくしま活用力育成シート」実践事業（再掲）

新規 「学びのスタンダード」進化プロジェクト（再掲）

新規 授業の充実支援事業（小・中学校）（再掲）

継続 アクティブ・ラーニングによる学力向上推進事業（再掲）

継続 未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業（再掲）

継続 グローバル人材を育成する英語教育強化事業（再掲）

主要施策3 地域と共にある学校

継続 児童生徒の体力向上推進事業

小・中・高等学校の教員に対し、体育授業等における指導力向上のための研修を行ったほか、武道やダンスの指導に地域人材を活用した。

継続 地域学校協働本部事業

学校と地域が相互に連携協力を進め、社会総ぐるみでの教育の実現を推進した。

新規 福島県地域学校協働本部事業

学校支援ボランティアの登録と活動のコーディネート等を進め、地域で教育を支える仕組み作りを進めた。

継続 地域でつながる家庭教育応援事業

P T Aと連携して親自身が学ぶ機会を充実させたほか、企業と連携して地域の家庭教育推進を働きかけた。

新規 県立高校コミュニティ・スクール推進事業

県立高等学校におけるコミュニティ・スクール導入に当たり、モデル校において研修会の開催等支援を行った。

一部新 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業（後掲）

継続 ふくしまの未来をひらく読書のカ プロジェクト（再掲）

一部新 ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト（後掲）

継続 復興を担うアクティブ・ラーナー育成事業（再掲）

継続 地域と共に創る放射線・防災教育推進事業（再掲）

継続 未来へつなぐ子育て・教育充実事業（後掲）

継続 夢に向かってテクノチャレンジ事業（後掲）

継続 福島スクール・サポート・スタッフ事業（再掲）

継続 部活動指導員配置促進事業（再掲）

継続 学校評議員制度の導入の促進（再掲）

継続 学校評議員による学校関係者評価の実施（再掲）

主要施策4 ふくしまの未来に向けた創造的復興教育

一部新 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

子どもたちが充実した自然体験活動等を行う機会を通して、心身共に健康で豊かな人間性を育成するとともに、社会体験活動を通して、主体的に復興に寄与するたくましい子どもたちの育成を図る取組を支援した。

継続 オリンピック・パラリンピック教育推進事業

各学校で、オリンピック・パラリンピック教育を実施し、県全体の機運醸成を図るとともに、スポーツの価値や国際・異文化の理解等の多面的な教育を通じて児童生徒の育成を図った。

継続 福島イノベーション人材育成支援事業

福島イノベーション・コースト構想推進機構に委託し、対象校と企業・大学等との連絡調整や成果発表会、生徒間交流会を開催した。

継続 福島イノベーション人材育成実践事業

構想を担う人材育成のため、新たな教育プログラムの実施に必要な環境を整備し、大学や企業、自治体と連携し、魅力あるプログラムを実践した。

継続 福島イノベーション人材育成広域連携事業

浜通り地区に限らず、県内全域において構想に関わる企業等と専門高校が連携し、産業人材の育成を組織的に展開した。

継続 スーパーグローバルハイスクール事業

ふたば未来学園高校が企業・大学等との連携を図り、国際的素養の育成をはじめとした質の高いカリキュラムの開発・実践等に取り組んだ。

継続 双葉地区教育構想（国際人育成プラン）

震災からの復興に向けて国際社会に貢献できるグローバル人材の育成等を図るため、スポーツ交流事業や国際理解事業

に取り組んだ。

継続 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

人と人との関わりの中で感じた思いや願い、震災からの更なる復興などを綴った十七音の作品を募集し、県内外に広く発信した。

継続 双葉郡中高一貫校設置事業

ふたば未来学園高校の寮及び食堂の施設を運営するための事業を行った。

継続 ふたば未来学園中学校・高等学校整備事業

ふたば未来学園中学校・高等学校の施設を整備し、生徒の学習環境や生活環境の確保を図った。

新規 小高スーパープロフェッショナル人材育成事業

小高産業技術高校において、専門的な知識・技術を習得するカリキュラムを実施し、幅広い知識と高度技術を身に付けた産業人材の育成を図った。

継続 小高統合高等学校教育環境整備事業

小高産業技術高校の通学バスを運行し、通学時における安全、安心を確保した。

継続 福島県教育復興推進事業

「ふるさと創造学」を始めとする双葉郡8町村の小中学校での教育活動を、双葉郡教育復興ビジョン推進協議会事務局と連携し支援した。ふたば未来学園中学校・高校及び南相馬地域高校において、外部講師の招へい、講演会や研修授業、フィールドワーク等の教育活動を支援した。避難地域12市町村において、魅力ある学校づくりのために必要な教職員研修等を実施した。

継続 学校改革推進事業

高校の統合、募集停止等に係る関係者からの意見を聴く機会とするための懇談会を開催したほか、中高一貫教育を推進するための協議会の開催、交流授業や地域理解教育等を行った。

継続 双葉地区教育構想緊急対応事業

ふたば未来学園高校において、猪苗代町で緊急的に設置していた学生寮の原状復旧や、授業トレーニング環境の維持を行った。

継続 復興を担うアクティブ・ラーナー育成事業（再掲）

継続 未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業（再掲）

継続 ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業（再掲）

主要施策5 学びのセーフティネットの構築

継続 教育相談推進事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの派遣、24時間電話相談体制の整備など、子どもたちの心や生活のケアに当たった。

継続 不登校・いじめ等対策総合推進事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

東日本大震災・原発事故以降、不登校等生徒指導上の諸課題やいじめ等の問題行動の原因が複合化・多様化しており、学校と関係機関が連携・協力できる体制を整え、効果的な援助体制の充実を図った。

継続 スクールカウンセラー活用事業（ピュアハートサポートプロジェクト）

大震災で被災した高校生等の心のケアや、生徒指導の諸問題の未然防止と的確な対応、SNSを活用した相談体制の整備などを行った。また、震災の影響で安定した生活環境等を取り戻せていない生徒に対して、心のサポートに資する学習支援を実施した。

継続 ふくしま未来キッズワクワクプロジェクト

自然の家においてアスレチック等の様々な体験活動を楽しめる事業を開催し、自然体験や体を動かすことの魅力を伝え、運動不足解消や体力増進につなげた。

一部新 ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト

震災後の子どもたちの体力低下や肥満傾向児出現率の増加などの健康課題を解決するため、自分手帳の活用やプレイリーダーや栄養教諭等の派遣により、運動能力の向上や食育等による健康増進に向けた取組を行った。

一部新 ふくしまから はじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業

元気なふくしまっ子を育むため、関係部局等と連携して、学校、家庭、地域が一体となった食育推進体制を整備した。

継続 未来へつなぐ子育て・教育充実事業

特別な支援を必要とする子どもたちの就学前から学校卒業後までの切れ目のない支援体制構築のため、小・中学校等や関係機関との連携強化を図りながら養育や教育に関する相談体制の充実を図った。

継続 高等学校学習支援推進事業

学習の遅れや東日本大震災による環境の変化への不応答等が見られる発達障がい等のある生徒が多く在籍する高等学校に学習支援員を配置し、生徒の特性に応じた手厚い学習支援を行った。

継続 夢に向かってテクノチャレンジ事業

特別支援学校高等部に在籍する生徒の自立と社会参加を促すため、「特別支援学校作業技能大会」を開催した。

継続 夜間中学調査・研究事業

義務教育未了者の就学機会、不登校等で通学できなかった既卒者への学びなおしの機会、外国籍の方への就学機会の確保のため、設置を目的とした調査研究を行った。

継続 大規模改造事業

老朽化した学校施設を改修し、機能の復元を行うとともに、構造体の劣化状況調査を行った。

継続 県有施設維持補修事業

安全性に問題のあるブロック塀の撤去工事やフェンス設置工事等を行った。

継続 被災児童生徒等就学支援事業

東日本大震災による被災や、原子力発電所の事故により避難している児童生徒等に就学支援等を行った。

継続 高校等奨学資金貸付事業

経済的理由や東日本大震災の被災により就学困難と認められる高校生等に奨学資金の貸付を行った。

継続 大学等奨学資金貸付事業

経済的理由や東日本大震災の被災により就学困難と認められる大学生等に奨学資金の貸与を行った。また、大学等へ入学しようとする生徒へ入学一時金の貸与を行った。

継続 高校等奨学資金給付事業

低所得世帯の高校生等の授業料以外の教育費負担を軽減するため、奨学資金を給付した。

継続 特別支援学校特別支援教育就学奨励費

特別支援学校に就学する幼児児童生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じて必要な費用を交付した。

継続 県立学校空調設備整備事業

前年の猛暑を踏まえ、児童生徒の健康管理や安全を確保するため、未設置の県立学校においてエアコンを設置した。

継続 学校給食安全・安心対策推進事業

学校給食の食材に対する保護者等の不安を軽減し、学校給食の一層の安全・安心を確保するため、放射性物質検査を実施した。

一部新 特別支援学校整備事業

児童生徒の増加や通学地域の広域化に伴う長時間通学等の課題を解消するための適切な教育環境づくり、複数の障がい種に対応した専門的な教育を行える学校づくりを推進した。

継続 県立特別支援学校学習環境整備事業

県立特別支援学校全体整備計画等に基づき整備する特別支援学校の学校備品や、教材・教具等を整備した。

継続 復旧・復興の基盤づくりのための教員配置

震災により懸念される児童生徒の学習の遅れを支援するための教員を配置した。

一部新 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業（再掲）

継続 地域学校協働本部事業（再掲）

3 新しい県立高校改革計画の概要

これまで県教育委員会では、1997年（平成9年）6月に「県立高等学校改革計画第一次まとめ」（以下、「一次まとめ」という。）、1999年（平成11年）3月に「県立高等学校改革計画第二次まとめ」（以下、「二次まとめ」という。）を策定し、すべての県立高等学校における男女共学化や学校規模の適正化、学校・学科の適正配置、新しいタイプの定時制単位制高等学校の配置などの取組を進めてきた。

「一次まとめ」及び「二次まとめ」が策定された後も、グローバル化や高度情報化が進展し、産業構造や就業構造の変化等が急速に進む中で、高等学校教育には、多様化する生徒の進路希望への対応、キャリア教育の充実、地域との連携の一層の推進などが求められてきた。

さらに、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災及び原子力災害などにより、児童生徒数の減少が震災前の予測を大きく上回り、今後10年間で中学校卒業見込者は約5,300人減少することが見込まれており、教育を取り巻く

様々な状況は、「二次まとめ」の策定時から大きく、急激に変化している。そこで、今後の急激な社会情勢の変化も考慮しながら長期的な改革の方向性を示し、計画的かつ着実に改革を推進する必要性が生じてきた。

このような中、県教育委員会は、福島県学校教育審議会に対して、2016年（平成28年）5月、「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」諮問を行い、部会を含めて10回にわたる審議の後、2017年（平成29年）6月に答申を受けた。この答申を踏まえ、県教育委員会では、県立高等学校改革を着実に推進するために、「一次まとめ」及び「二次まとめ」の取組・現状や成果・課題を土台として、今後10年間の県立高等学校改革の方向性を示す基本計画（長期計画）を2018年（平成30年）5月に策定し、併せて、再編整備の具体的な対象校名を含む前半5年間の実施計画（短期計画）を2019年（平成31年）2月に策定した。

(1) 県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）

ア 基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくり」

イ 計画の概要

上記の理念をもとに、高等学校における学びを通じて、地域に軸足を置きながら多様な主体と関わり、自己のアイデンティティと郷土への誇りを育み、生徒一人一人の志を実現させることができるよう、教育の質を向上させることとし、そのために、各高等学校の新たな在り方を検討し、再編整備と特色化を図る中で、より良い教育環境を提供することによって、生徒一人一人の資質や能力を向上させることのできる魅力ある高等学校づくりを推進することを目標に、以下の4つの基本方針と17の取組に沿って高等学校教育の充実を図ることとした。

基本方針1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む高等学校教育の推進

- (1) 生き抜く力を支える確かな学力の向上に向けた取組の推進
- (2) 豊かなこころを育成する取組の推進
- (3) 体力の向上や健康増進に向けた取組の推進
- (4) 様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する取組の推進
- (5) 地域と連携し、地域の特色を生かした学校づくりの推進

基本方針2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

- (6) 多様な学習機会の充実
- (7) 中高一貫教育の推進
- (8) 学びのセーフティネットの推進
- (9) 一人一人の夢を実現させる教育力の向上

基本方針3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

- (10) 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模
- (11) 望ましい学校規模への再編整備の推進

- (12) 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- (13) 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- (14) きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- (15) 学校の特色化と情報発信

基本方針4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の向上

- (16) 過疎・中山間地域の学習機会の確保
- (17) 過疎・中山間地域における教育環境の向上

(2) 県立高等学校改革前期実施計画（2019年度～2023年度）

ア 県立高等学校改革前期実施計画策定の性質

本計画は、県立高等学校改革基本計画を実効的、計画的に推進し、計画の理念を具現化するために、より具体的な高等学校改革の方向性と再編整備の具体的な対象校を含む前期5年間の方向性を示したものである。

策定に当たっては、第6次福島県総合教育計画の後半4年間における取組を重点化した「頑張る学校応援プラン」との整合性を図るとともに、基本計画の4つの基本方針に沿って、本県の高等学校全体の在り方を示した上で、各地区の中学校卒業見込者数の今後の推移、近年の各高等学校の志願動向や中学3年生の進路希望等を考慮した。また、各高等学校が所在する地域の実状や本県で求められる人材育成の観点等も考慮し、すべての県立高等学校の今後5年間の方向性を示すこととした。

イ 計画の概要

○本県の高等学校教育の質的向上に向けた取組の推進

- (1) 学力の向上を目指した取組の推進
- (2) 様々な課題に果敢に取り組み、社会に貢献する自立した人材の育成
- (3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進
- (4) 生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育の推進
- (5) 地域とともにある学校づくりの推進
- (6) 安心して学ぶことのできる環境の支援
- (7) 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進
- (8) 高等学校における特別支援教育の推進
- (9) ICT機器を活用した教育の充実
- (10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置

○社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり

- (1) 県立高等学校の再編整備案

以下の再編整備案を公表した。

【統合】25の対象校に係る12の統合案

梁川・保原、二本松工業・安達東、須賀川・長沼、白河実業・塙工業(併せて修明高校への農業科の集約)、喜多方・喜多方東、耶麻農業・会津農林、大沼・坂下、田島・南会津、湯本・遠野、小名浜・いわき海星、相馬東・新地、保原(定時制)・福島中央

【分校の募集停止】2校の募集停止案

安積高等学校御館校、修明高等学校鮫川校

- (2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置
川俣、湖南、猪苗代、西会津、川口、只見
(湖南、西会津、川口は平成30年度に先行実施)
- (3) 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校の特色化

様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する教育活動の推進や、多様な学習内容の確保及び教育の質の向上の観点から、すべての県立高校を「進学指導拠点校」「進学指導重点校」「キャリア指導推進校」「地域協働推進校」「職業教育推進校」「定時制・通信制高校」の6つの学校群に位置づけ、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動を展開できるよう、前期計画期間中の各校の改革の方向性を示した。

(3) 中高一貫教育後期実施計画

ア 中高一貫教育後期実施計画策定の趣旨

中高一貫教育は、中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的、継続的な教育課程及び学習環境のもとで一貫した教育を行うことにより、生徒一人一人の能力・適性、幅広い年齢集団の中での様々な活動により社会性や豊かな人間性を育てていくとともに、学校選択の幅を拡大することを目指して、1999年(平成11年)4月に制度化された。

本県においては、福島県学校教育審議会答申(2001年(平成13年)12月)及び第5次福島県長期総合教育計画(2001年(平成13年)3月)に基づき、本県の教育目標を達成するための施策のひとつである「学びの環境づくり」の一環として、中高一貫教育の導入にかかる基本的な考え方や、中高一貫教育校の形態、配置計画等を示すものとして、2003年(平成15年)3月に「中高一貫教育実施計画」(以下「前期実施計画」という。)を策定した。

前期実施計画に基づき、中高一貫教育校の配置については、広い県土を持つ本県において、児童、生徒、保護者が希望に応じて選択することができるよう配慮し、第5次福島県長期総合教育計画の目標年次である2010年度(平成22年度)までの期間を前期とし、併設型中高一貫教育校として会津学鳳高等学校に併設中学校を開設したほか、連携型中高一貫教育校を東白川郡塙町(塙工業高等学校)、南会津郡南会津町(田島高等学校)、相馬市(相馬東高等学校)に配置した。前期実施計画の期間後、東日本大震災・原子力災害等の影響により後期実施計画の策定は中断していたが、震災等の発生に伴う復興・再生に向けた取組を進めていく中、ふたば未来学園高等学校及び併設中学校を開設するとともに、県内4地区において連携型中高一貫教育を推進してきた。

このような中、県教育委員会は、「6年間を通じた計画的・継続的な教育をより魅力的・効果的に展開する特色ある中高一貫教育に関する取組を充実するべきである」との、福島県学校教育審議会答申(2017年(平成29年)6月)を受け、2018年(平成30年)5月に策定した「県立高等学校改革基本計画」の基本方針及び2019年(平成31年)

2月に策定した「県立高等学校改革前期実施計画」に基づき、これまでの本県の中高一貫教育の成果や今般の社会情勢を踏まえ、改めて本県における今後の併設型及び連携型中高一貫教育の在り方についての方向性を示すものとして、「中高一貫教育後期実施計画」（以下「後期実施計画」という。）を策定した。

イ 中高一貫教育に関する基本的な考え方

- (ア) 後期実施計画の策定に当たっては、福島県学校教育審議会答申（2017年（平成29年）6月）を尊重し、「県立高等学校改革前期実施計画」（2019年（平成31年）2月）等との整合性を図る。
- (イ) これまでの中高一貫教育校での取組を踏まえ、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応できる新たな中高一貫教育校を検討する。
- (ロ) 新たな中高一貫教育の実施形態の選択に当たっては、中高一貫教育校の教育理念や地域の実情等を考慮して柔軟に対応する。
- (ハ) 連携型中高一貫教育校については、県立高等学校改革の動向等を踏まえながら、より良い在り方について引き続き検討する。
- (ニ) 中高一貫教育については、本県の未来を担う人材育成の観点から、その在り方について引き続き検討していく。

ウ 計画期間

計画期間は、2018年（平成30年）に策定した「県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）」に合わせて、2019年度（令和元年度）から2028年度（令和10年度）までとする。

エ 配置計画

○ 新たな併設型中高一貫教育校の設置

新たな併設型中高一貫教育校を設置するに当たっては、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応する必要があり、難関大学への進学実績が豊富である高等学校へ併設することが重要である。また、公共交通機関の利便性の良さにより児童・生徒の志願がより広範囲から可能であることや、施設整備が可能となる敷地面積を有することなどの点を踏まえる。

さらに、これまで併設型中高一貫教育校を会津と浜通りに配置しており、地域のバランスを踏まえ、今後、全県的な中高一貫教育を展開するためには、中通りへの設置が必須である。以上のことを総合的に判断し、県立高等学校改革に取り組んでいる現状に鑑み、既設の安積高等学校に県立中学校を2025年度（令和7年度）（予定）に併設することとする。

併設中学校は、安積高等学校の同一敷地内に設置することとし、6年間を見通した教育課程に基づく教育活動などを適切に展開するために必要な施設、設備等を整備する。また、募集定員については、一定の人数を確保しつつ、周辺の市町村立中学校への影響を踏まえ、1学級30名の2学級編制とし、通学区域を県下一円とする。

接続する高等学校は、将来の多様な大学への進路希望に対応が可能となるよう、単位制による「普通科」とし、併設中学校と同様に通学区域を県下一円とする。

これらを踏まえ、以下のとおり設置することとした。

(仮称) 福島県立安積中学校・高等学校

- ・ 開校(予定) 2025年度（令和7年度）
- ・ 設置場所 福島県立安積高等学校（郡山市）
- ・ 生徒募集定員 中学校60名（2学級）
- ・ 通学区域 県下一円

○ 連携型中高一貫教育校

これまで東白川郡塙町、南会津郡南会津町、相馬市及び双葉郡に配置していた連携型中高一貫教育校については、以下の点を踏まえるとともに、「県立高等学校改革前期実施計画」の再編整備の状況を踏まえ、連携の新たな仕組みづくりを進め、連携先の中学校の拡充を図ることとした。

- ・ 中学校及び高等学校の連携の柱となる特色ある教育活動を展開するために活用可能な地域の自然環境等の教育資源の状況。
- ・ 対象となる高等学校の教育課程や学科の特色。
- ・ 中学校・高等学校双方において生徒、教員の人的交流等による連携活動をより緊密に行うための中学校と高等学校の立地状況。
- ・ 各中学校から対象となる高等学校への入学者数の状況。
- ・ 地域バランス等。

4 福島県地域学校活性化推進構想の概要

少子化や過疎化、核家族化などが進行し、地域コミュニティの希薄化や分断により、地域や家庭の教育力が低下しており、東日本大震災及び原子力発電所事故の影響がこれらに拍車をかける状況となっている。このような中、地域が学校を支援するという従来の一方向の関係だけでなく、学校も地域に貢献していくことで、地域と学校が強固なパートナーシップを構築し、社会に開かれた教育課程を実施しながら、地域づくりと一体となった社会総がかりによる教育の実現を目指すために、「福島県地域学校活性化推進構想」を平成31年2月に策定した。令和2年2月には、教育や企業等多様な関係機関の代表者による「福島県地域学校活性化推進会議」を開催し、令和元年度の取組等について情報共有や情報交換を行い、構想への理解の深化と協体制の強化を図った。また、令和2年度からの県立高校3校（湖南高校、西会津高校、川口高校）へのコミュニティ・スクールの導入に向け、合同ワークショップを開催する等準備を支援した。

(1) 構想が目指すもの

- ・ 地域の大人と子どもが交流する場を意図的に設け、子どもの社会性や郷土愛などを育むとともに、大人も子どもから学び、互いに育ち合うことのできる体制を構築する。
- ・ 体験活動などで地域が学校を支援し、ボランティア活動

などで学校も地域に貢献する、双方向で連携・協働する活動を通して、学校教育の充実と併せて学校を核とした地域の活性化を推進する。

- ・教科書だけでなく、ふるさと学習や地域を学びのフィールドとした探究活動など、地域と連携した教科横断的な学習を取り入れながら、社会に開かれた教育課程を編成する。
- ・障がいのあるなしに関わらず、地域で安心して子どもたちが学び、保護者が子どもを育てることができる環境の実現を図る。

(2) 構想を進めるための4本柱（12の方策）

ア 地域に根ざした学校運営

(7) 学校評議員制度の活用

学校外の地域住民等を構成員とする学校評議員制度を活用し、保護者や地域の意向の把握し、協力を得ることで地域に根ざした教育活動を推進する。

(4) コミュニティ・スクールの導入促進

学校や地域の実状に応じて地域住民等が構成員の学校運営協議会を設置し、地域と一体となった学校づくりを進める。県立学校へのコミュニティ・スクールの導入を進める。

(5) 学校を核とした地域との連携

副校長や主幹教諭の設置、地域住民のスクール・サポート・スタッフや部活動指導員への就任で、学校の組織体制を強化し、地域との連携の強化による地域ぐるみの教育体制を構築する。

イ 地域と学校の協働活動

(7) 地域学校協働活動の推進

県内8つの市町村で実施している地域学校協働活動を、フォーラムの開催などで発信し、県内全域に普及する。

(4) 地域コーディネーターの機能充実

地域側の窓口として地域コーディネーターの配置を促進し、地域と学校の協働活動を効率的に展開する。

(5) 地域連携担当教職員の任命

学校側の窓口となる地域連携担当教職員を2019年度からすべての公立学校において任命し、学校の組織体制の整備、担当者の研修を実施する。

ウ 地域の課題解決に向けた創造的復興教育

(7) 地域課題探究活動の推進

アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を図り、「総合的な探究の時間」等において、地域が抱える課題等をテーマに課題解決型学習を県立高等学校で実施する。

(4) 地域との連携による県立高等学校の特色化

教科横断的な教育課程の編成、生徒会活動や部活動における地域との連携等、県立高等学校改革に合わせた学校の特色化を進め、魅力ある県立高等学校づくりを地域と連携しながら進める。

(5) 福島県地域学校協働本部によるマッチング

学校と地域が双方向で連携・協働するためのマッチング調整を行う「福島県地域学校協働本部」の仕組み

を新たに構築し、地域課題探究活動や地域学校協働活動の充実を図る。各地方振興局の協力を得ながら調整し、創造的復興教育を進める。

エ 地域で共に学び、共に生きる特別支援教育

(7) インクルーシブ教育システムの推進

障がいのある子ども一人一人のニーズに応じた指導の充実を図り、障がいのある子どもとない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システムを進める。

(4) 地域支援センターによる切れ目のない支援

2018年度から全ての県立特別支援学校に地域支援センターを設置して、障がいのある子どもに対する就学前から卒業後までの切れ目のない支援体制を構築し、学校種間、市町村や関係機関との連携を支援する。

(5) 地域との連携による自立と社会参加の促進

特別支援教育体制促進協議会の活性化や企業と連携した実習の充実、作業技能大会の開催等、障がいのある子どもたちの地域における自立と社会参加の促進を支援する。

(3) 構想を進める体制

・福島県地域学校活性化推進会議

構想の理念を共有し、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしながら構想を推進するため、教育委員会を始めとする地域の多様な関係機関の代表者が、構想の推進に向けた意見交換等を行うための組織。

・地域と学校の活性化推進会議

構想の進捗状況の確認や構想の推進のための意見交換等を行うための会議。

第2章 教育行政

第1節 教育委員会

1 教育委員会

令和元年12月27日付けで吉津健三氏が、高橋金一委員の後任として教育委員に任命された。

また、同日付けで教育長職務代理者に蜂須賀禮子委員が指名された。

職名	氏名	就任年月日	職業	備考
教育長	鈴木 淳一	平成31年 4月1日 (2期目)		福島市
委員 教育長職務代理者 (R1.12.27~)	蜂須賀 禮子	平成28年 10月19日 (2期目)	生花販売	大熊町
委員	浅川 なおみ	平成31年 4月1日 (2期目)	ピアノ教室主宰	白河市
委員	吉津 健三	令和元年 12月27日	弁護士	郡山市
委員	正木 好男	平成29年 12月24日	会社顧問	いわき市
委員	岩本 光正	平成28年 10月19日	会社取締役	会津美里町
委員 教育長職務代理者 (H29.12.24~R1.12.26)	高橋 金一	平成27年 12月27日 (2期目) ※令和元年12月26日まで	弁護士	郡山市

2 審議事項

4月定例会(H31.4.19)

- 審議事項
 - (1) 福島県立図書館利用規則の一部を改正する規則について
 - (2) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
 - (3) 福島県立博物館運営協議会委員の任免について
 - (4) 福島県社会教育委員の任免について
 - (5) 教職員の懲戒処分について
 - (6) 令和2年度福島県公立学校教員採用予定者数について
 - (7) 教育長臨時代理による処理の承認について
- 報告事項
 - (1) 平成31年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
 - (2) 平成31年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜の結果について

- (3) 訓告処分等について
- (4) 訴訟取下げについて

5月定例会(R1.5.17)

- 審議事項
 - (1) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
 - (2) 教職員の懲戒処分について
 - (3) 教職員の懲戒処分について
- 報告事項
 - (1) 令和2年度使用教科用図書の採択等に関する答申について
 - (2) 訓告処分等について

6月定例会(R1.6.14)

- 審議事項
 - (1) 教育長臨時代理により処理の承認について
 - (2) 令和2年度使用教科用図書調査研究資料について
 - (3) 教職員の懲戒処分について
- 報告事項
 - (1) 訓告処分等について

7月定例会(R1.7.19)

- 審議事項
 - (1) 教職員の懲戒処分について
 - (2) 教職員の懲戒処分について
 - (3) 教育長臨時代理による処理の承認について
- 報告事項
 - (1) 訓告処分等について

8月定例会(R1.8.21)

- 審議事項
 - (1) 平成30年度福島県教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について
 - (2) 令和2年度使用県立中学校の教科用図書の採択について
 - (3) 令和2年度使用県立特別支援学校小学部・中学部の教科用図書の採択について
 - (4) 令和元年度福島県指定文化財の指定に係る諮問について
 - (5) 令和元年度福島県指定重要文化財指定の解除に係る諮問について
 - (6) 教職員の懲戒処分について
- 報告事項
 - (1) 訓告処分等について

9月定例会(R1.9.6)

○ 審議事項

- (1) 福島県指定重要文化財の指定について
- (2) 福島県指定重要文化財の指定の解除について
- (3) 令和2年度福島県立中学校入学者選抜について
- (4) 令和2年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜について
- (5) 令和元年度教育・文化関係表彰について
- (6) 令和2年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び令和2年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について
- (7) 令和元年度9月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (8) 福島県市町村立学校職員の任期付職員の採用等に関する条例案について
- (9) 福島県市町村立学校職員の会計年度任用職員の給与及び勤務時間等に関する条例案について
- (10) 工事請負契約案について
- (11) 工事請負契約の一部変更案について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

10月定例会(R1.10.18)

○ 審議事項

- (1) 福島県教育財産管理規則の一部を改正する規則について
- (2) 令和2年度福島県立学校生徒募集定員について
- (3) 教職員の懲戒処分について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 福島県立図書館協議会委員の任命について
- (6) 令和元年度教育・文化関係表彰について
- (7) 令和2年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について
- (8) 令和2年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について
- (9) 退職手当の支給制限について
- (10) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

11月定例会(R1.11.15)

○ 審議事項

- (1) 教科用図書採択地区を設定した件の一部改正について
- (2) 令和元年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について
- (3) 令和元年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞の受賞者について
- (4) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 令和元年度教育・文化関係表彰について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

12月定例会(R1.12.6)

○ 審議事項

- (1) 教職員の懲戒処分について
- (2) 教職員の懲戒処分について
- (3) 教職員の懲戒処分について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 令和元年度12月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (6) 福島県立特別支援学校条例の一部を改正する条例案について
- (7) 福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例案について
- (8) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
- (9) 教育職員の免許状に関する規則の一部を改正する規則について
- (10) 福島県市町村立学校職員の標準的な職及び標準職務遂行能力を定める規則の一部を改正する規則について
- (11) 福島県教育委員会における学校運営協議会の設置等に関する規則について
- (12) 退職手当の支給制限について
- (13) 退職手当の支給制限について
- (14) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

○ 協議事項

- (1) 県立高等学校改革における令和3年度統合校の校名案について

1月定例会(R2.1.17)

○ 審議事項

- (1) 福島県立特別支援学校学則の一部を改正する規則について
- (2) 令和元年度教育・文化関係表彰について
- (3) 令和2年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について
- (4) 令和2年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について
- (5) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

- (1) 令和2年度人事異動（教員系）について
- (2) 訓告処分等について

○ 協議事項

- (1) 中高一貫教育後期実施計画（案）について

2月定例会(R2.2.7)

○ 審議事項

- (1) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について

- (2) 福島県指定文化財の指定について
- (3) 令和2年度当初予算案（教育委員会関係部分）について
- (4) 福島県立博物館条例の一部を改正する条例案について
- (5) 福島県立高等学校条例の一部を改正する条例案について
- (6) 工事請負契約の一部変更案について
- 報告事項
 - (1) 訓告処分等について
- 協議事項
 - (1) 福島県子ども読書活動推進計画（第四次）（案）について
 - (2) 令和2年度人事異動（教員系）について

臨時会 (R2. 2. 27)

- 審議事項
 - (1) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
 - (2) 福島県市町村立学校職員の会計年度任用職員の給与及び勤務時間等に関する規則について
 - (3) 福島県子ども読書活動推進計画（第四次）について
 - (4) 中高一貫教育後期実施計画について
 - (5) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (6) 令和2年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長（教員系）の人事について
 - (7) 令和2年度市町村公立学校長の人事について
 - (8) 令和2年度県立学校長の人事について
- 報告事項
 - (1) 令和2年度教育庁及び教育機関の主要職員（教員系）の人事について
 - (2) 令和2年度市町村公立学校副校長及び教頭の人事について
 - (3) 令和2年度県立学校副校長及び教頭の人事について
 - (4) 訴訟判決について
 - (5) 令和3年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について

3月定例会 (R2. 3. 23)

- 審議事項
 - (1) 頑張る学校応援プランについて
 - (2) 第6次福島県総合教育計画令和2年度アクションプランについて
 - (3) 第7次福島県総合教育計画の策定方針について
 - (4) 福島県文化財保存活用大綱について
 - (5) 福島県教育庁組織規則の一部を改正する規則について
 - (6) 福島県立美術館組織規則及び福島県立博物館組織規則の一部を改正する規則について
 - (7) 福島県立美術館条例施行規則の一部を改正する規則について
 - (8) 福島県立博物館条例施行規則の一部を改正する規則について

- (9) 福島県市町村立学校職員の人事評価に関する規則の一部を改正する規則について
- (10) 福島県教育委員会における学校運営協議会の設置等に関する規則の一部を改正する規則について
- (11) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
- (12) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (13) 教科用図書選定審議会委員の任命について
- (14) 教職員の分限処分について
- (15) 令和2年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長の人事について
- (16) 令和2年度市町村公立学校長の人事について
- (17) 令和2年度県立学校長の人事について
- (18) 令和元年度教育・文化関係表彰について
- (19) 教育長臨時代理による処理の承認について
- 報告事項
 - (1) 教職員多忙化解消アクションプランについて
 - (2) 令和2年度教育庁及び教育機関の職員の人事について
 - (3) 令和2年度市町村公立学校教職員の人事について
 - (4) 令和2年度県立学校教職員の人事について
 - (5) 訓告処分等について

第2節 教育庁組織

政策監	永田	嗣昭
教育次長（業務）	加藤	知道
県立高校改革監	白石	孝之
教育庁参事（人事・企画）	上槿	治男

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長	高瀬 智美
	庁主幹兼副課長	工藤 宇裕
	庁企画主幹兼副課長	田母神 賢一
財務課	課長	青木 浩司
	主幹兼副課長	佐藤 純二
施設財産室	室長	蓬田 慎一
	主幹	佐藤 信夫
職員課	課長	奥寺 洋暁
	主幹兼副課長	中野 茂
	主幹	菅野 与彦
福利課	課長	長根 由里子
	主幹兼副課長	高橋 篤
社会教育課	課長	鈴木 基之
	主幹兼副課長	新井 里美
	主幹	仁科 英俊
文化財課	課長	鈴木 俊明
義務教育課	課長	福地 裕之
	主幹兼副課長	浅倉 孝
	主幹	長谷川 浩文
	主幹	横山 修
高校教育課	課長	鈴木 芳人
	主幹兼副課長	武藤 正久
	主幹	高野 敦史
	主幹	箱崎 兼一
県立高校改革室	室長	柳沼 英樹
特別支援教育課	課長	西村 則昌
	主幹兼副課長	赤坂 剛
	主幹	酒井 浩樹
健康教育課	課長	佐藤 文男
	主幹兼副課長	國分 亮子
	主幹	佐藤 隆宏

教育事務所

教育事務所	所長・次長名	課長名
県北	所長 阿部 央	総務社会教育(兼) 佐藤裕一郎 学校教育(兼) 丹治 光夫
	次長(総) 佐藤裕一郎	
	次長(業) 丹治 光夫	
県中	所長 石幡 良子	総務社会教育(兼) 柳沼 正一 学校教育(兼) 芳賀 俊幸
	次長(総) 柳沼 正一	
	次長(業) 芳賀 俊幸	
県南	所長 板橋 竜男	総務社会教育(兼) 馬目 常寿 学校教育(兼) 鈴木 雅人
	次長(総) 馬目 常寿	
	次長(業) 鈴木 雅人	
会津	所長 近藤 静雄	総務社会教育(兼) 浦野 昭浩 学校教育(兼) 高橋 伸明
	次長(総) 浦野 昭浩	
	次長(業) 高橋 伸明	
南会津	所長 石本 浩一	総務社会教育(兼) 高橋 正敏 学校教育(兼) 井上久仁夫
	次長(総) 高橋 正敏	
	次長(業) 井上久仁夫	
相双	所長 佐藤 由弘	総務社会教育(兼) 島 裕之 学校教育(兼) 塙 広治
	次長(総) 島 裕之	
	次長(業) 塙 広治	
いわき	所長 林 和樹	総務社会教育(兼) 山口 聖一 学校教育(兼) 塚本 英樹
	次長(総) 山口 聖一	
	次長(業) 塚本 英樹	

所管教育機関等

教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	渡辺 惣吾	次長 菅野 昭人 総務管理部長(兼) 菅野 昭人 研究・研修部長 味原 正美
		主幹兼事務長 立花 敏孝 企画事業部長 熊谷 賀久
		副館長 島田 淳
		副館長 鶴見 宏幸
福島県立図書館	杉浦 孝幸	副館長 星 貴文
		主幹兼次長 宍戸 佐壽
福島県立美術館	早川 博明	副館長 鶴見 宏幸
福島県立博物館	赤坂 憲雄	副館長 星 貴文
福島県会津自然の家	渡部 光毅	主幹兼次長 宍戸 佐壽

第3節 企画調整

1 教職員現職教育計画の策定

(1) 福島県公立学校教職員現職教育計画

教職員現職教育担当者会議を開催し、平成31年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について、策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

(2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第1回	元.6.6	西庁舎12階 仮設会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○平成31年度教職員現職教育計画作成日程について ○平成31年度教職員現職教育計画策定に向けた全体及び各課・所の検討事項について ○平成31年度教職員現職教育計画作成方針を踏まえ、関係課・所において、予算化等を見通した研修の改善及び新設、変更、廃止の案の検討について
第2回	元.9.3	西庁舎12階 仮設会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回会議の確認事項について ○各課・所における予算化等を見通した具体的計画案について ○平成31年度教職員現職教育計画修正案作成の関係課・所への依頼について

(3) 構成員

教育総務課

企画主幹兼副課長、主任主査

社会教育課

主幹、主任社会教育主事、社会教育主事兼指導主事

義務教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

健康教育課

主幹、主任指導主事、主任栄養技師、指導主事

特別支援教育課

主幹兼副課長、主任指導主事、管理主事、指導主事

高校教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

教育センター

研究・研修部長、主任指導主事、指導主事

特別支援教育センター

企画事業部長、主任指導主事

2 調整事務

(1) 教育庁内企画・調整事務

- ア 総合教育計画に関する連絡調整
- イ 県教委重点施策に関する連絡調整
- ウ 県教委点検・評価に関する連絡調整
- エ 県重点事業に関する連絡調整
- オ 県重点施策評価に関する連絡調整
- カ 政府予算対策に関する連絡調整
- キ 双葉地区教育構想推進事業に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

ア 総務部

行財政改革推進本部、総合教育会議、風評・風化プロジェクトチーム、内部統制推進本部会議

イ 危機管理部

安全で安心な県づくり推進庁内連絡会議、国土強靱化地域計画推進連絡会議

ウ 企画調整部

県総合計画・復興計画関係、施策評価関係、県重点事業関係、政府予算対策活動関係、過疎・中山間地域経営戦略本部会議、電子社会推進本部会議、政策調整会議、新生ふくしま復興推進本部会議、地産地消推進会議、地域創生・人口減少対策本部会議、原子力損害対策協議会、復興対策推進プロジェクトチーム、東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部会議、東京2020オリンピック聖火リレーふくしま実行委員会

エ 生活環境部

ユニバーサルデザイン推進本部会議、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成庁内推進会議、景観形成推進庁内連絡会議、特定外来生物対応庁内連絡会議、野生鳥獣被害対策庁内連絡会議、男女共同参画推進本部会議、環境・エネルギー施策推進庁内連絡会議、ふくしま地球温暖化対策推進本部会議、除染・廃棄物対策推進会議

オ 保健福祉部

子育て支援推進本部会議、高齢社会対策推進本部会議
青少年健全育成推進本部

カ 商工労働部

企業誘致・立地企業振興対策本部会議、商業まちづくり推進調整会議

キ 農林水産部

ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動、ふくしま植樹祭実行委員会

ク 土木部

県内建設業振興に係る庁内連絡会議

ケ 警察本部

福島県被害者等支援連絡協議会

第4節 広報・広聴

1 教育委員会だより

(1) 編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

(2) 内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育委員名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ

イ 部数 4,000部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

(5) 発行時期

4月に発行

2 教育年報

(1) 編集方針

平成30年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2) 内容

平成30年度の本県教育行政の実績

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 274ページ

イ 部数 150部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

3 福島県の教育

(1) 編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配布し、本県教育に対する理解を図る。

(2) 内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 8ページ カラー

イ 部数 950部

(4) 配布対象

教育機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

4 ふくしま教育ニュース

(1) 編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。7月・11月の年2回発行した。

(2) 内容

ア 第52号(7月発行)

チャレンジ!子どもがふみだす体験活動応援事業

ふたば未来学園中学校開校

福島県地域学校活性化推進構想(特集)

ふくしまっ子ごはんコンテスト

中学生・高校生の科学・技術研究論文「野口英世賞」募集

中学生・高校生の国際理解・国際交流論文「朝河貫一賞」募集

福島県文化財センター白河館(まほろん)企画展の案内

ふくしま子どもLINE相談

相談窓口の案内

イ 第53号(11月発行)

農業系高等学校GAP教育の推進

聴覚支援学校福島校 新校舎完成

福島県算数・数学ジュニアオリンピック

科学の甲子園ジュニア福島県大会

特別支援学校作業技能大会

オリンピック・パラリンピック教育推進事業

「県庁にみんなの声を届けよう!」プロジェクト

新たな県立高等学校入試制度

統合型校務支援システムの導入

相談窓口の案内

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ カラー

イ 部数 第52号 235,000部

第53号 232,000部

(4) 配布対象

県内公立学校の全保護者、県外に避難している児童生徒の保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
教育総務課	福島県の教育	本県教育の実情及び教育行政の要点を図式化して表示	1	A 4	8	950	教育機関への来訪者、教育関係機関等
	教育委員会だより	県教育長あいさつ、教育施策及び予算、県教育委員名簿、県教育庁新陣容、組織及び電話番号	1	A 4	4	4,000	県内公立学校、私学団体連合会、教育関係機関等
	教育年報	前年度の県教育行政の実績	1	A 4	274	150	市町村教委、教育関係機関等
	ふくしま教育ニュース	県教育委員会の教育行政施策、実績、事業のお知らせ等	2	A 4	4	第 52 号 235,000 第 53 号 232,000	県内公立学校の全保護者・教職員、教育関係機関等
福利課	ふくしま福利だより	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A 4	16 12	各 20,500	全教職員（5月、7月） （11月、2月）
社会教育課	社会教育	社会教育に関する情報、活動状況の取りまとめ	1	A 4	13	—	Webサイトに掲載
県立高校教育改革室	リーフレット(地域とともに、地域ならではの魅力ある県立高校を目指して)	「県立高校コミュニティスクール推進事業」事業報告	1	A 4	8	1500	関係市町村、関係市町村教委、県内県立学校、教育関係機関等
教育センター	要 覧	教育センターについての沿革、設置の趣旨、組織、予算、事業内容を掲載	1	A 4	20	160	教育関係機関等
	所報ふくしま「窓」	教育関係者の提言や県内教員の教育研究等についての紹介及び教育センターからの案内	2	A 4	8	—	Webサイトに掲載
	研 究 紀 要	研究の成果をとりまとめて刊行し、本県学校教育の向上に資する。	1	A 4	75	1,000	学校、教育関係機関等
	長 期 研 究 員 個人研究報告書	長期研究員の個人研究の成果をとりまとめた報告書	1	A 4	42	150	教育関係機関等
特別支援教育センター	リーフレット	事業内容・研修講座名等	1	A 5	4	100	来所者 Webサイトに掲載
	所報特別支援教育	センターの取組や国内外の教育動向等	1	A 4	28	200	関係機関
	要 覧	沿革、事業体系、事業概要、施設・設備	1	A 4	16	50	関係機関
	研 究 紀 要	調査研究・教育研究及び長期研究員の個人研究の成果報告	1	A 4	60	120	関係機関 Webサイトに掲載

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
図書館	館 報 あ づ ま	図書館業務の広報	1	A 4	6	500	図書館・関係機関
	福島県立図書館要覧	県立図書館の概況	1	A 4	22	—	Web サイトに掲載
	福島県郷土資料情報報	郷土文献の研究情報誌	1	A 4	20	100	図書館・関係機関 Web サイトに掲載
美術館	県立美術館年報	前年度の事業実績	1	A 4	70	600	関係機関
	ミュージアムカレンダー	年間事業紹介	1	B 5		32,000	関係機関、来館者等
	美術館ニュース ART INFORMATION	企画展・普及事業等の案内	6	A 4 三折		各 11,000	関係機関、来館者等
博物館	県立博物館年報	前年度の事業実績	1	A 4	98	400	関係機関
	月行事予定表	月行事予定	6	A 4	1	各 14,000	関係機関
	博物館だより	行事予定、企画展案内、講演要旨等	4	A 4	8	各 4,000	学校、関係機関
	企画展ポスター・リーフレット	企画展 3 回分・次年度企画展 1 回分	4	ポスターB2 リーフレットA4		12,500 286,000	学校、関係機関 関係機関、来館者等
	年間催し物案内	主催行事などの紹介	1	220×400 観音折り		45,000	関係機関、来館者等
自然の家	企画事業案内(郡山)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	1	—	Web サイトに掲載
	会津自然の家だより(会津)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	1	—	Web サイトに掲載
	利用案内(いわき)	施設概要、利用方法等	2	A 4	32	1,500	関係機関
	しおね(いわき)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	8	2,000	関係機関
	リーフレット(いわき)	施設概要、全体図等	2	A 3	2	1,500	関係機関
白文化財センター館	年 報	沿革、事業の概要、入館者統計、予算等	1	A 4	34	500	関係機関
	まほろん通信	イベントの内容、体験学習	4	A 4	4	各 4,000	関係機関、利用者等
	研究紀要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A 4	114	500	関係機関

6 記者発表及び資料提供(投げ込み)件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者発表	-	1	-	1	-	1	1	1	1	-	1	1	8
資料提供	26	21	18	34	23	21	43	35	37	43	27	37	365

7 教育フォーラム

(1) タイトル

令和元年度教育フォーラム「福島イノベーション・コースト構想の実現に貢献する人材育成」成果報告会

(2) 主催

福島県、福島県教育委員会、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構

(3) 目的

県民各層との対話を通して、多様化している県民の意向を積極的かつ多角的に把握し、県民と一体となった開かれた教育を推進するために実施した。

今年度は、浜通り地域等の対象校と広域連携事業対象校の令和元年度の取組の成果を県内各地域の高校生が、他者との交流や協議、体験的な学びをとおして共有し、社会の仕組みを変える先端技術や独創的なアイデアをそれぞれの置かれている立場で自ら創造しようとする態度を育成した。また、パネルディスカッションにおいて、異なる教育プログラムにおいて取り組んできた各分野の代表生徒が意見交換をすることにより、それぞれの成果を共有し、新たな気付きの場とするとともに、今後の活動のさらなる充実を図るための一助とし、言語活動を通して、新しい社会を生き抜くための資質や能力の向上を目指した。

さらに、復興に向けて力強く歩み続ける本県の高校生の姿を広く発信した。

(4) コンセプト

ア 学びの場

先進的な研究を進めている技術者の講話を聴き、社会の仕組みを変える新しい技術に思いをはせる場

イ 交流の場

自校の取組と比較しながら対象各校の発表を聴き、取組内容について情報やアイデアを他者と共有する場

ウ 体験の場

参加企業等の担当者からの研究テーマの説明や自社製品の技術紹介と体験利用をとおして、一線で活躍する技術者のものづくりへの情熱を感じる場

(5) 開催日時

令和2年2月23日（日）10:00～15:30

(6) 会場

日本大学工学部 70号館1階

(7) 内容

ア 開会式

イ【第1部】基調講演

(ア) テーマ

「君たちに伝えたいスタンフォード大学で学んだこと」

(イ) 講師

西村 俊彦（スタンフォード大学 創薬・創医療機器開発機構所長）

ウ【第2部】ポスターセッションによる対象校生徒の活動報告会（高等学校15校）

Aグループ 磐城高校、原町高校、勿来工業高校、磐城農業高校、いわき海星高校、小高産業技術高校、岩瀬農業高校、本宮高校

Bグループ 相馬高校、平工業高校、川俣高校、相馬農業高校、ふたば未来学園高校、会津工業高校、塙工業高校

エ【第3部】体験活動 ※参加企業等による先端技術紹介（協力企業等8社）

マクタアメニティー株式会社、株式会社アルサ、株式会社菊池製作所、ミツフジ株式会社、櫛葉遠隔技術開発センター、日本大学工学部（環境分野）、日経BP（イノベーション情報発信）、福島イノベーション・コースト構想推進機構（福島イノベ構想紹介）

オ パネルディスカッション

(ア) テーマ

「福島イノベーション・コースト構想の実現に向けて」

(イ) コーディネーター

高瀬 智美（教育庁教育総務課長）

(ウ) パネリスト 高校生4名

磐城高等学校

（実践事業対象校〔トッパーリーダー育成事業〕）

相馬農業高等学校

（実践事業対象校〔農・水産業人材育成事業〕）

平工業高等学校

（実践事業対象校〔工業人材育成事業〕）

小高産業技術高等学校

（先行して取り組んでいる高校）の代表者各1名

カ 振り返りとまとめ、閉会式

教育委員感想、教育長講評を含む。

(8) 出席者

ア 来賓

齋喜 徳史（文部科学省初等中等教育局教育課程課課長補佐）

鍛冶原 誠（経済産業省大臣官房福島復興推進グループ福島新産業・雇用創出推進室室長補佐）

田中 耕太郎（復興庁福島復興局次長）

小沢 喜仁（福島大学共生システム理工学類教授）

齊藤 仁志（国立研究開発法人科学技術振興機構〔JST〕）

イ 福島イノベーション・コースト構想推進機構

伊藤 泰夫（専務理事兼事務局長）

岸 孝志（コーポレート部門 部門長）

山内 正之（教育・人材育成部長）

安齋 吾朗（産業人材育成支援課長）

飯田 喜之（人材育成支援課長）

ウ 福島県教育委員会

蜂須賀 禮子（県教育委員会委員）

正木 好男（県教育委員会委員）

岩本 光正（県教育委員会委員）

吉津 健三（県教育委員会委員）

鈴木 淳一（県教育委員会教育長）
永田 嗣昭（政策監）
加藤 知道（教育次長）
白石 孝之（県立高校改革監）
上檜 治男（教育庁参事）
高瀬 智美（教育総務課長）
鈴木 芳人（高校教育課長）
柳沼 英樹（県立高校改革室長）

エ 参加者数 約250名

8 「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日(11月1日)及びふくしま教育週間(11月1日～7日)を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組が実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけた。さらに、福島県教育委員会ウェブサイトを実施計画を掲載し、広く県民に参加を呼びかけた。

9 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト

子どもたちの郷土愛を育み、将来の復興の担い手としての意識を喚起することを目的として実施した。子どもたちが「ふくしまのよりよい未来をつくるために～子どもたちの提言～」をまとめ、知事や教育長等の前で発表する機会を設定することにより、県政に子どもが参画する機会とした。さらに、テーマを『オリンピック・パラリンピックとふくしま』とし、国際理解の促進やスポーツの価値・ふくしまの魅力への理解を深めるとともに、オリパラの機運醸成を図った。

(1) 日時 令和元年8月1日(木) 10:20～16:00

(2) 参加者 小学5・6年生22名、引率者17名

(3) 内容

- ア パラリンピック競技(ボッチャ)体験
講師 村上 普子(福島県ボッチャ協会)
- イ 講話
(ア) テーマ
「スポーツと障がい者の社会参加 共に生きる社会をめざして」
(イ) 講師
増子 恵美(〔公財〕福島県障がい者スポーツ協会書記)
- ウ グループワーク
テーマ「オリンピック・パラリンピックとふくしま」
グループごとのテーマ(4班編制)
「オリパラとふくしまの『スポーツ』・『おもてなし』
・『バリアフリー』・『未来』」
- エ 発表・意見交換(知事及び教育委員へ)
- オ 修了式

第5節 調査統計

令和元年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1 学校統計要覧

令和元年5月1日現在で調査した「学校基本調査」(指定統計13号)の調査結果及び県独自に実施している進路状況等に関する調査結果に基づき、学校数、児童生徒数、教職員等の基本的事項や県内の中学生・高校生の進路状況等を収録した「学校統計要覧」を作成し、県教委ホームページで公開した。

2 地方教育費調査(一般統計)

この調査は、平成30会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連及び教育行政における県及び市町村(教育事務組合を含む。)から支出された経費並びに授業料等の収入の実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

3 学校教員統計調査(基幹統計)

この調査は、学校の教員構成並びに教員の個人属性、職務態様及び異動状況等を明らかにすることを目的として文部科学省が実施したものである。

4 進路状況等に関する調査

この調査は、中学校・高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

第6節 教職員の給与

令和元年度の教職員の給与改定については、令和元年10月2日の県人事委員会給与勧告に基づき、給料月額及び諸手当について、令和元年12月県議会及び令和2年2月県議会において、給与条例等の一部改正が提案され、議決・公布された。その概要は、次のとおりである。

1 給料関係

(1) 給料月額(平成31年4月1日適用)

全ての給料表において、30歳台半ばまでの職員が在職する号給について、給料月額が引き上げられた。

(2) 給料の調整額(平成31年4月1日適用)

給料月額の改定に伴い、一部の調整基本額が改められた。

(3) 昇格時号給対応表(平成31年4月1日適用)

給料表の改定に伴い、昇格時号給対応表の一部が改められた。

(4) 降格時号給対応表(平成31年4月1日適用)

給料表の改定に伴い、降格時号給対応表の一部が改められた。

2 諸手当関係

(1) 給料の特別調整額（令和2年4月1日適用）

美術館等に係る支給対象の職及び区分について、次のとおり改められた。

給料の特別調整額を受ける職員の職	給料の特別調整額の区分
美術館館長、博物館館長	2種
美術館副館長、博物館副館長	3種
美術館事務長、博物館事務長	5種

(2) 扶養手当（令和2年4月1日適用）

配偶者及び父母等の手当額が次のとおり改められた。

区分	手当額		
	行政職給料表 7級以下相当	行政職給料表 8級相当	行政職給料表 9級以上相当
配偶者	6,500円	3,500円	支給しない
父母等	各6,500円	各3,500円	支給しない
子	各10,000円		
特定期間にある子の加算額	各5,000円		

(3) 住居手当（令和2年4月1日適用）

最高支給限度額が27,000円から28,000円に改められた。

(4) 通勤手当（令和2年4月1日適用）

全額支給限度額が63,000円から64,000円に改められた。

(5) へき地手当等（令和2年4月1日適用）

市町村立学校の統廃合等に伴い、へき地学校等の級別区分が改められた。

(6) 宿日直手当（平成31年4月1日適用）

「本来の勤務に従事しないで行う庁舎、校舎、設備、備品、書類等の保全、外部との連絡、文書の收受、庁舎又は校舎の監視等を目的とする勤務」について、手当額が5,300円から5,400円に（5時間未満の宿日直勤務については、2,650円から2,700円に）改められた。

(7) 期末・勤勉手当（令和元年12月1日適用）

支給割合が次のとおり改められた。

◎一般職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.275ヶ月	1.275ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.925ヶ月	0.925ヶ月	1.85ヶ月	4.40ヶ月
改正後 (元年度)	期末手当	1.275ヶ月	1.275ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.925ヶ月	0.975ヶ月	1.90ヶ月	4.45ヶ月
(2年度)	期末手当	1.275ヶ月	1.275ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.95ヶ月	0.95ヶ月	1.90ヶ月	4.45ヶ月

◎特定幹部職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.075ヶ月	1.075ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	1.125ヶ月	1.125ヶ月	2.25ヶ月	4.40ヶ月
改正後 (元年度)	期末手当	1.075ヶ月	1.075ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	1.125ヶ月	1.175ヶ月	2.30ヶ月	4.45ヶ月
(2年度)	期末手当	1.075ヶ月	1.075ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	1.15ヶ月	1.15ヶ月	2.30ヶ月	4.45ヶ月

第7節 附属機関等

1 福島県社会教育委員の会議

根拠法令

社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに福島県社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期に関する条例（昭和24年福島県条例第56条）

目的

社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行ったりし、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 福島県社会教育委員

任期 平成30年6月20日～令和2年6月19日

区 分	氏 名	役 職 名	備 考
学校教育関係者	高橋 澄子	小学校長会（新地町立新地小学校長）	
	土屋 好二	中学校長会（白河市立白河南中学校長）	
	吉津三千彦	高等学校長会（福島県立福島南高等学校長）	
社会教育関係団体の関係者	黒田知恵子	福島県公民館連絡協議会会長	
	中島 功	福島県市町村社会教育委員連絡協議会顧問	
	齋藤 裕子	福島県PTA連合会母親代表理事	
	石川 美知	福島県婦人団体連合会評議員	
	山岸 敦子	ガールスカウト福島県連盟長	
	齋藤雄一郎	福島県商工会連合会	副議長
	清水 国明	NPO法人明日飛子ども自立の里理事長	
家庭教育関係者	星 尚子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事	
学識関係者	木暮 照正	福島大学地域創造支援センター教授	議長
	前川 直哉	福島大学総合教育研究センター特任准教授	
	本多 環	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授	
公 募	佐藤 房枝	農業	
	大友 靖子	主婦	

(2) 定例会の開催

ア 第1回定例会

(ア) 日時 令和元年7月16日(火)

(イ) 場所 教育委員室

(ウ) 内容

a 報告事項

令和元年度社会教育に関する主要施策・事業の概要について

b 審議事項

本県における社会教育推進のあり方について

イ 第2回定例会

(ア) 日時 令和2年2月4日(火)

(イ) 場所 第1特別委員会室

(ウ) 内容

a 報告事項

令和元年度社会教育関係事業報告について
令和2年度社会教育関係主要施策・事業(案)について

b 審議事項

「地域全体で子どもを育てる協働体制の実現に向けて」～「提言」から2年間の取り組みを振り返る～

2 福島県文化財保護審議会**(1) 福島県文化財保護審議会委員**

任期 平成31年4月1日～令和3年3月31日

氏 名	所 属 等	担 当 分 野	備 考
阿部 俊夫	元郡山女子大学短期大学部准教授・地方史研究協議会	古文書・歴史資料	
荒木 志伸	山形大学基盤教育院准教授・東北史学会・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
伊藤 喜良	福島大学名誉教授・日本経済大学非常勤講師・歴史学研究会・東北史学会・日本史研究会	古文書(中世)・書跡・典籍	会 長
丹野 香須美	東北福祉大学兼任講師・いわき市文化財保護審議会委員・広野町文化財保護審議会委員・日本民俗学会・日本社会科教育学会・福島県民俗学会	有・無形民俗文化財	
狩野 勝重	元日本大学教授・工学博士・日本建築学会・伝統建築文化推進協議会・文化財景観保全調査室(個人事務所)	建造物・伝統的建造物群	
佐藤 琴	山形大学学術研究院准教授・美術史学会・国際浮世絵学会	絵画	

氏名	所属等	担当分野	備考
永広 昌之	東北大学総合学術博物館・東北大学名誉教授・日本地質学会・日本古生物学会・地学団体研究会・日本博物科学会	天然記念物（地質鉱物・古生物）	
鈴木 俊行	公益財団法人福島県都市公園・緑化協会福島空港公園事務所長・樹木医学会・日本造園学会・日本桜学会	天然記念物（植物）	副会長
高橋 あけみ	仙台市博物館副館長・美術史学会・漆工史学会・茶の湯文化学会	工芸品・染織	
竹原 明秀	岩手大学教授・日本生態学会・植生学会・日本植物学会	天然記念物（植生）	
辻 秀人	東北学院大学教授・日本考古学協会・福島県考古学会・全日本博物館学会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
塘 忠顕	福島大学教授・日本動物学会・日本昆虫学会・日本発生生物学会	天然記念物（動物）	
藤井 英二郎	千葉大学名誉教授・日本庭園学会・日本造園学会	史跡・名勝（庭園）	
守谷 早苗	福島市史編纂室（嘱託員）・東北史学会・国史談話会	歴史資料	
若林 繁	元東京家政大学教授・美術史学会	彫刻	

(2) 会議

ア 第1回審議会

- (ア) 期日 令和元年8月30日(金)
- (イ) 場所 福島県本庁舎2階 第2特別委員会室
- (ウ) 内容
 - a 福島県指定文化財候補等の審議
 - b 福島県指定文化財等の指定解除

イ 第2回審議会

- (ア) 期日 令和2年1月23日(木)
- (イ) 場所 福島県本庁舎2階 第2特別委員会室
- (ウ) 内容
 - a 福島県指定文化財候補等の審議
 - b 新たな県指定文化財の候補について

第8節 市町村教育委員会

1 概要

本県の市町村教育委員会数は、令和元年5月1日現在、13市46町村1組合の計60である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

2 組織

令和元年5月1日現在、県内各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

教育委員会名	委員長・職務代理者	教育長
県北(8)		
福島市	佐藤 玲子	本間 稔
伊達郡川俣町	高橋 友憲	佐久間裕晴
伊達市	高野 保夫	菅野 善昌
伊達郡桑折町	柴田 宣広	会田 智康
伊達郡国見町	高橋 幸子	岡崎 忠昭
二本松市	佐藤 英之	丹野 学
安達郡大玉村	伊藤 忠和	佐藤 吉郎
本宮市	谷 明子	青田 誠
県中(12)		
郡山市	阿部 垂巳	小野 義明
須賀川市	阿部 昭光	森合 義衛
岩瀬郡鏡石町	力丸 次雄	渡部 修一

岩瀬郡天栄村	小針 克彦	久保 直紀
石川郡石川町	草野 文明	小玉 陽彦
石川郡玉川村	近内 弘道	鈴木 文雄
石川郡平田村	久保木日出子	有賀 真道
石川郡浅川町	結城 久典	真田 秀男
石川郡古殿町	阿久津華子	矢吹 伸一
田村市	増田 英子	飯村 新市
田村郡三春町	武地 優子	高橋 正美
田村郡小野町	榊原 貞治	西牧 裕司
県南(9)		
白河市	金子 英昭	芳賀 祐司
西白河郡西郷村	勝又千賀子	鈴木 且雪
西白河郡中島村	水野谷剛夫	面川 三雄
西白河郡矢吹町	水戸 勘十	栗林 正樹
西白河郡泉崎村	山田 睦子	(欠 員)

教育委員会名	委員長・職務代理者	教 育 長
東白川郡棚倉町	松本 一夫	松本 市郎
東白川郡埴町	岩井 義道	秦 公男
東白川郡矢祭町	益子 敬	(欠 員)
東白川郡鮫川村	阿久津光市	奥貫 洋
会津(13)		
会津若松市	一ノ瀬美枝	寺木 誠伸
耶麻郡磐梯町	物江 秀典	田中 靖則
耶麻郡猪苗代町	福地 優子	宇南山忠明
喜多方市	遠藤 一幸	大場 健哉
耶麻郡北塩原村	斎藤 弘幸	鈴木 力雄
耶麻郡西会津町	平野マチ子	江添 信城
河沼郡会津坂下町	白井美由希	鈴木 茂雄
河沼郡湯川村	伊藤 幸喜	五十嵐長孝
河沼郡柳津町	鈴木 礼	神田 順一
大沼郡会津美里町	小関れい子	新田 銀一
大沼郡三島町	阿部 和彦	佐藤 孝信
大沼郡金山町	山口 京子	滝沢 敬樹
大沼郡昭和村	齊藤加津代	安藤 哲朗
南会津(5)		
南会津郡南会津町	渡部 謙一	星 英雄
南会津郡下郷町	白石 光史	星 敏恵
南会津郡檜枝岐村	星 茂俊	平野 信之
南会津郡只見町	角田 行雄	渡部 早苗
南会津郡地方広域市町村圏組合	星 敏恵	星 英雄
相双(12)		
相馬郡新地町	高崎 義典	佐々木孝司
相馬市	宗形 明子	堀川 利夫
南相馬市	大石 力彌	大和田博行
相馬郡飯館村	佐藤 眞弘	遠藤 哲
双葉郡浪江町	今野 秀則	畠山熙一郎
双葉郡葛尾村	松本 敬一	小野田敏之
双葉郡双葉町	山本真理子	館下 明夫
双葉郡大熊町	嶋貫 光喜	木村 政文
双葉郡富岡町	関本 征司	石井 賢一
双葉郡川内村	秋元 優子	秋元 正
双葉郡檜葉町	宇佐神正道	青木 洋
双葉郡広野町	根本 修行	松本 正人
いわき(1)		
いわき市	馬目 順一	吉田 尚

3 令和元年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

(1) 平成31年度福島県市町村教育委員会教育長会議

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成31年4月11日(木)
- ウ 会場 本庁舎5階 正庁
- エ 出席者 市町村教育委員会教育長 59名
- オ 内容
平成31年度教育庁各課(室)・所の重点施策の説明

(2) 令和元年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

- ア 主催 福島県市町村教育委員会連絡協議会
福島県教育委員会
- イ 期日 令和元年11月20日(水)
- ウ 会場 本庁舎5階 正庁
- エ 参加者
平成30年11月20日以降に就任された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員26名
- オ 内容
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に期待するもの」
 - ・講師 福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に求められる構えと職責」
 - ・講師 元福島県市町村教育委員会連絡協議会副会長 藤田 克彦
 - 講義
 - ・演題 「教育委員会の組織と運営について」
 - ・講師 福島県教育庁職員課管理主事 吉田 圭輔

第9節 職員団体との話合い

令和元年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話合いのうち、主なものは次のとおりである。

1 福島県教職員組合

(1) 平成31年4月24日

- ア 再任用職員の待遇改善等について
- イ 学校事務の共同連携と主任主査の拡大について
- ウ 会計年度任用職員の導入等について
- エ 教員の人員確保について
- オ 教職員の多忙化解消について
- カ ハラスメント対策について
- キ フッ化物洗口について
- ク ふくしま学力調査について

(2) 令和元年 11 月 6 日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 公務貢献について
- ウ 教員の人員確保について
- エ 学校事務の共同連携について
- オ 再任用職員の処遇改善について
- カ スクールサポートスタッフの配置拡大について
- キ 学校事務職員の研修について
- ク 教職員の多忙化解消について
- ケ 休暇制度について

(3) 令和元年 11 月 21 日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 公務貢献について
- ウ 災害時等の緊急連絡に係る費用弁償について
- エ 会計年度任用職員の導入等について
- オ ハラスメント対策について
- カ 教職員の多忙化解消について
- キ 休暇制度について
- ク 事務職員の研修について
- ケ 勤務時間の客観的な把握について
- コ ふくしま学力調査について

2 福島県高等学校教職員組合

(1) 平成 31 年 4 月 25 日

- ア 県立高等学校改革計画について
- イ 養護教諭、学校司書等の配置について
- ウ 通級指導について
- エ 人事評価制度について
- オ 諸手当について
- カ 実習助手単独の引率等について
- キ 教職員の多忙化解消について

(2) 令和元年 11 月 7 日

- ア 教職員の多忙化解消について
- イ 養護教諭、学校司書等の配置について
- ウ 部活動指導員等の外部人材の配置拡大について
- エ 施設・設備等の整備について
- オ G A P 認証について
- カ 人事評価制度について
- キ 諸手当について

(3) 令和元年 11 月 21 日

- ア 県立高等学校改革計画について
- イ G A P 認証について
- ウ 教育環境の充実について
- エ 休暇制度について
- オ 再任用職員の任用及び処遇改善について
- カ 教職員の多忙化解消について

3 福島県立高等学校教職員組合

(1) 平成 31 年 4 月 25 日

- ア 宿日直手当について
- イ 会計年度任用職員の導入等について
- ウ ハラスメント対策について
- エ 人事評価制度について
- オ 情報環境の整備について
- カ 教職員の多忙化解消について
- キ 人事異動について

(2) 令和元年 11 月 7 日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 変形労働時間制について
- ウ 宿日直手当について
- エ 部活動指導員について
- オ 会計年度任用職員の導入等について
- カ 人事異動について
- キ 勤務時間の客観的な把握について
- ケ 講師希望者の提出書類について
- コ 教職員の多忙化解消について

(3) 令和元年 11 月 25 日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 人事異動について
- ウ 県立高等学校改革計画について
- エ 教職員の多忙化解消について
- オ 勤務時間の管理について
- カ 週休日の業務について

4 福島県学校事務労働組合

(1) 平成 31 年 4 月 24 日

- ア 学校事務の共同連携と主任主査の拡大について
- イ 公務貢献について
- ウ 在職者調整の救済措置について
- エ 事務強化加配等について
- オ 再任用職員の任用等について
- カ 学校事務職員の採用制度について
- キ 会計年度任用職員の導入等について

(2) 令和元年 11 月 6 日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 学校事務の共同連携と主任主査の拡大について
- ウ 公務貢献について
- エ 再任用職員の任用等について
- オ 任期付職員の導入について
- カ 土曜授業について

(3) 令和元年 11 月 25 日

- ア 人事委員会勧告等について
- イ 学校事務の共同連携と主任主査の拡大について
- ウ 任期付職員の導入について
- エ 再任用職員の任用等について
- オ 事務強化加配等について職員の配置について
- カ 旅費の支給について

第 10 節 審査請求事件及び訴訟事件

1 審査請求事件

令和 2 年 3 月 31 日現在、審査請求事件として審理中のものは 2 件、令和元年度中に裁決したものは、2 件でありその概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
公文書開示一部開示決定取消請求事件	平 29. 10. 31	平 29. 8. 27 付け公文書一部開示決定処分についてその処分取消し及び変更を請求	当該公文書開示請求人	令元. 12. 5 裁決 (一部認容)
退職手当支給制限処分取消請求事件	平 29. 12. 19	平 29. 10. 20 付け退職手当支給制限処分についてその取消しを請求	元公立学校 教員	審理中
公文書開示一部開示決定取消請求事件	平 30. 12. 7	平 30. 9. 5 付け自己情報開示決定処分についてその処分取消し、全部開示を請求	当該公文書開示請求人	令 2. 3. 17 裁決 (一部認容)
退職手当支給制限処分取消請求事件	令 2. 2. 26	令 12. 6 付け退職手当支給制限処分についてその取消しを請求	元公立学校 教員	審理中

2 訴訟事件

令和 2 年 3 月 31 日現在、訴訟事件として係属中のものは 2 件、令和元年度中に判決等があったものは 3 件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
安全な場所で教育を受ける権利の確認等請求事件	平 26. 8. 29 平 27. 1. 14 平 28. 5. 10	安全な場所で教育を受けることができる権利の確認等	県内住民 多数	係属中
損害賠償請求事件	平 29. 6. 6 平 30. 11. 26	義務教育無償とする施策を策定・実施していないという不作為を違法事由として損害賠償を請求	県内住民	平 31. 4. 16 控訴 取下
損害金請求事件	平 30. 9. 21	原告に指導改善研修を実施した事は、裁量権を逸脱・濫用しており、原告に精神的損害を与えたとして損害金を請求	公立学校 教員	令 2. 3. 24 判決 (請求棄却)
懲戒免職処分及び退職手当支給制限処分取消請求事件	令元. 8. 14	平 29. 10. 20 付け懲戒免職処分及び退職手当支給制限処分についてその取消しを請求	公立学校 教員	係争中
授業処分取消請求事件	令元. 11. 22	1 年生時の教育課程に定めのない数学 II・B の授業を行うのは、学習要領に反し、違法であるとして授業実施の取消しを請求	県内住民	令 2. 2. 18 判決 (請求却下)

第 11 節 公益法人等の指導等並びに公益信託の状況

1 公益法人等

令和 2 年 3 月 31 日現在、県教育委員会の所管に属する公益法人等は 50 法人である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、収支予算書等の提出を求めた。

法人ごとの内訳は下表のとおり。

法人種別	所管する法人数	令和元年度に公益法人又は一般法人に移行した法人数
公益財団法人	26	0
公益社団法人	2	0
一般財団法人	18	0
一般社団法人	3	0
特例民法法人	1	-
計	50	0

2 公益信託

令和 2 年 3 月 31 日現在、県教育委員会の所管に属する公益信託は 3 件である。

なお、令和元年度新たに引き受けを許可した公益信託はない。

第 12 節 表彰及び叙勲

令和元年度教育・文化関係表彰式は、11 月 1 日(金)とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)、令和 2 年 2 月 5 日(水)杉妻会館において、それぞれ厳粛のうちにも盛大に行われた。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は 10 月 10 日(木)に文部科学省講堂において、また、教育者表彰式は 1 月 28 日(火)、日本消防会館において、それぞれ行われた。

1 教育・文化関係表彰

(1) 地方教育行政功労者(5 名)

(前)二本松市教育委員会教育長	小泉 裕明
(前)本宮市教育委員会教育長	原瀬久美子
棚倉町教育委員会教育長	松本 市郎
(前)昭和村教育委員会教育長	本名 幸平
(前)大熊町教育委員会委員長	嶋貴 光喜

(2) 学校教育功労者(15 名)

伊達市立保原小学校長	佐々木義通
郡山市立郡山第四中学校長	星 克一
須賀川市立第一中学校長	長場 壮夫
田村市立常葉中学校長	御代田進一
白河市立白河第二小学校長	佐久間芳雄
白河市立みさか小学校長	武藤 誠
喜多方市立第一小学校長	佐川 正人
会津若松市立第三中学校長	歌川 哲由
会津若松市立第四中学校長	菊地 裕二
福島県立福島商業高等学校長	小林 喜則
福島県立福島工業高等学校長	松本 明倫
福島県立郡山東高等学校長	瀬谷真理子
福島県立磐城高等学校長	阿部 武彦
福島県立視覚支援学校長	須田 康仁
福島県立あぶくま支援学校長	上妻 弘

(3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者(2 名)	
西郷村社会教育委員副委員長	橋場八代子
(前)北会津地区社会教育委員連絡協議会会長	森 武久
イ 功績顕著な団体・施設(3 団体・4 施設)	
(社会教育団体)	
郡山市立栞山神小学校父母と教師の会	
郡山市立芳山小学校父母と先生の会	
白河市立東北中学校 P T A	
(社会教育施設)	
福島市飯坂学習センター	
郡山市立行徳地域公民館	
泉崎村中央公民館	
会津若松市湊公民館	

(4) 文化財保護関係

ア 文化財保護功労者(2 名)	
(元)三春町文化財保護審議会議長	佐久間信次
(元)矢吹町文化財保護審議会議長	藤田 正雄

(5) 学校体育・学校保健関係

ア 学校保健功労者(4 名)	
二本松市立二本松南小学校学校歯科医	安田 明弘
いわき市立玉川中学校学校薬剤師	関 洋美
福島県立福島高等学校学校薬剤師	加藤 英文
福島県立福島東高等学校学校医	佐藤 武寿

(6) へき地教育関係

ア へき地教育功労者(1 名)	
河沼郡柳津町立会津柳津学園中学校長	高橋 弘悦
イ 功績顕著な団体(2 団体)	
会津若松市立湊中学校	
南会津郡南会津町立伊南小学校	

(7) 特別支援教育関係

ア 特別支援教育功労者(1名)

公益財団法人星総合病院医師 鶴岡 美果

(8) 永年勤続関係

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校長	38	13	5		56
教頭	29	17	12		58
教員等	253	148	178		579
計	320	178	195	17	710

(9) 特別功績者

ア 児童・生徒(団体)の部(7団体)

- 福島市立野田小学校マーチングバンドクラブ
- 白河市立白河第一小学校特設器楽クラブ
- 郡山市立郡山第五中学校合唱部
- 福島県立ふたば未来学園中学校男子バドミントン部
- 福島県立ふたば未来学園中学校女子バドミントン部
- 福島県立郡山高等学校合唱部
- 福島県立ふたば未来学園高等学校女子バドミントン部

イ 優秀教職員の部(25名)

桑折町立半田醸芳小学校	教	諭	中島美和子
二本松市立二本松南小学校	教	諭	蛭田 功子
郡山市立明健小学校	教	諭	鈴木 泰宏
須賀川市立第一小学校	教	諭	鈴木あや子
石川町立石川小学校	教	諭	佐藤 英紀
田村市立滝根小学校	教	諭	藤井 千絵
白河市立みさか小学校	教	諭	荒井 智
白河市立小野田小学校	教	諭	角田 真弓
矢祭町立矢祭小学校	教	諭	戸井田 瞳
喜多方市立第一小学校	教	諭	伊藤 大
喜多方市立松山小学校	教	諭	岩本美和子
相馬市立中村第二小学校	教	諭	武口 友幸
いわき市立小名浜第一学校	教	諭	青木 祐造
いわき市立小名浜東小学校	教	諭	一ノ瀬由美
福島市立福島第四中学校	養護教諭		小針 知絵
桑折町立醸芳中学校	教	諭	星 雅人
郡山市立小原田中学校	教	諭	堰上 浩明
須賀川市立第一中学校	教	諭	長谷川 淳
磐梯町立磐梯中学校	教	諭	石井千加子
福島県立福島南高等学校	教	諭	水野 慎也
福島県立郡山商業高等学校	教	諭	横田 日夏
福島県立郡山高等学校	教	諭	佐藤 朋子
福島県立会津学鳳高等学校	教	諭	丸山 弘樹
福島県立会津農林高等学校	教	諭	矢澤 郁代
福島県立四倉高等学校	教	諭	三瓶 容子

ウ 優秀教職員(団体)の部(2団体)

- 福島市立福島第三小学校教職員
- 福島県立平支援学校高等部教職員

2 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功労者表彰(6名)

福島県教育委員会委員	高橋 金一
古殿町教育委員会委員	鈴木 茂
(前)鏡石町教育委員会教育長	高原孝一郎
(前)川俣町教育委員会委員	渡辺 信二
矢吹町教育委員会委員	藤井 義男
(前)檜枝岐村教育委員会教育長	平野 信之

(2) 教育者表彰(3名)

喜多方市立第一小学校長	佐川 正人
福島県立磐城高等学校長	阿部 武彦
会津若松市立第三中学校長	歌川 哲由

3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲

(1) 平成31年春の叙勲

ア 瑞宝小綬章

西間木 薫(教育功労)	元福島県立盲学校長)
遠藤 宏之(教育功労)	元福島県立相馬高等学校長)

イ 瑞宝双光章

佐藤 正敏(教育功労)	元白河市立みさか小学校長)
宮前 貢(教育功労)	元郡山市立金透小学校長)
齋藤 秀一(教育功労)	元会津若松市立城北小学校長)
鈴木 進一(教育功労)	元原町市立原町第三小学校長)
大坂 恭一(教育功労)	元会津坂下町立坂下小学校長)
齋藤 修一(教育功労)	元南会津町立田島小学校長)

(2) 令和元年秋の叙勲

ア 瑞宝小綬章

花井 宣明(教育功労)	元福島県立葵高等学校長)
新井田 大(教育功労)	元福島県立福島高等学校長)

イ 瑞宝双光章

遠藤 育夫(教育功労)	元郡山市立金透小学校長)
杉浦 伸吉(教育功労)	元南相馬市立原町第一中学校長)
佐藤 憲(教育功労)	元会津若松市立鶴城小学校長)
伊藤 涉(教育功労)	元白河市立白河中央中学校長)
三輪 幹治(教育功労)	元田村市立船引小学校長)
西 信一(教育功労)	元南相馬市立原町第一小学校長)

(3) 高齢者叙勲(平成31年4月1日~令和2年3月1日発令)

ア 瑞宝小綬章(教育功労)

伊藤 豊松	(元福島県立会津女子高等学校長)
橋本 政一	(元福島県立会津養護学校長)
小山 恒雄	(元福島県立富岡高等学校長)
千葉 光治	(元福島県立西会津高等学校長)
大河原博美	(元福島県立長沼高等学校長)
小室 昭	(元福島県立須賀川養護学校長)
橋 浩二郎	(元福島県立川俣高等学校長)

イ 瑞宝双光章(教育功労)

志賀 英隆	(元原町市立原町第一小学校長)
小川 盛夫	(元会津高田町立第二中学校長)
菅野 茂	(元双葉町立双葉北小学校長)
酒井 忠男	(元平田村立蓬田小学校長)

増子 淳 (元滝根町立広瀬小学校校長)
野口 久雄 (元郡山市立永盛小学校校長)
高木 仁 (元いわき市立大浦小学校校長)
鎌田 益實 (元浪江町立荊野小学校校長)
大河原正二 (元広野町立広野小学校校長)
石井 健雄 (元福島市立庭塚小学校校長)
堀金 保男 (元只見町立只見中学校校長)
鈴木 知 (元いわき市立中央台北中学校校長)
松本 省三 (元喜多方市立松山小学校校長)
加藤 哲夫 (元福島市立大森小学校校長)
金子 實 (元河東町立河東第一小学校校長)
星 孝男 (元河東町立河東第三小学校校長)
石井 宏 (元富岡町立富岡第二中学校校長)
須藤 泰将 (元いわき市立長倉小学校校長)
菅原 弘 (元国見町立県北中学校校長)
高橋 郁雄 (元いわき市立湯本第二小学校校長)
箭内 幸男 (元須賀川市立柏城小学校校長)
佐藤 政己 (元いわき市立平第二小学校校長)
涌井 幸雄 (元原町市立石神第二小学校校長)
角 悟朗 (元三春町船引町学校組合立要田小学校校長)
渡邊 秋男 (元郡山市立日和田小学校校長)
斎藤 利雄 (元須賀川市立大東小学校校長)
佐藤 老松 (元相馬市立中村第一小学校校長)
草野 武文 (元いわき市立赤井小学校校長)
高木 清 (元いわき市立湯本第一小学校校長)
星 英男 (元只見町立明和小学校校長)
水井 俊雄 (元鹿島町立上真野小学校校長)
長谷川和夫 (元会津若松市立第六中学校校長)
根本 晋一 (元いわき市立錦中学校校長)
浅野 榮 (元国見町立小坂小学校校長)
高橋 眞次 (元いわき市立草野中学校校長)
高橋 彦士 (元いわき市立小川小学校校長)
星 義夫 (元会津若松市立第三中学校校長)
横山 成雄 (元福島市立野田小学校校長)
棚木 和夫 (元福島市立信陵中学校校長)
鈴木 亀郎 (元いわき市立鹿島小学校校長)
佐藤 光代 (元郡山市立安積第三小学校校長)
近藤 昌好 (元西郷村立熊倉小学校校長)
高荒 敏雄 (元霊山町立小国小学校校長)
猪越 孝義 (元須賀川市立西袋第一小学校校長)
菅野 家作 (元二本松市立二本松北小学校校長)
大内 好藏 (元いわき市立好間第四小学校校長)
大竹 秀雄 (元岩代町立小浜小学校校長)
渡辺 福英 (元相馬市立中村第二中学校校長)
荒川 登 (元小高町立小高小学校校長)
金田 充夫 (元喜多方市立岩月小学校校長)

(4) 死亡叙位・叙勲

《令和元年度》

ア 従五位・瑞宝小綬章

景山 清 (元福島県立小名浜高等学校校長)

平山 宏 (元福島県立保原高等学校校長)

金谷 兼明 (元福島県立石川高等学校校長)

イ 従五位・瑞宝双光章

小川兼太郎 (元浪江町立浪江小学校校長)

板垣 正彦 (元福島市立福島養護学校校長)

ウ 従五位

中丸 良彦 (元福島市立福島養護学校校長)

藤岡興八郎 (元福島県立勿来高等学校校長)

大内 昭市 (元二本松市立杉田小学校校長)

新保 光昭 (元会津坂下町立金上小学校校長)

渡邊 政男 (元福島県立須賀川養護学校校長)

石河 強 (元福島県立磐城女子高等学校校長)

村田 吉三 (元福島市立福島第二中学校校長)

赤城 良一 (元福島県立勿来工業高等学校校長)

大杉 光夫 (元保原町立上保原小学校校長)

渡邊 豊一 (元田島町立荒海小学校校長)

エ 正六位・瑞宝双光章

鈴木 清身 (元原町市立原町第一小学校校長)

芳賀 俊雄 (元いわき市立草野中学校校長)

半澤 正一 (元福島県立大笹生支援学校校長)

児山 敏夫 (元本宮町立本宮小学校校長)

渡邊惣一郎 (元船引町立移中学校校長)

戸田 英一 (元二本松市立二本松第一中学校校長)

吉田 作 (元浪江町立東中学校校長)

伊藤 正博 (元いわき市立上遠野中学校校長)

田中 淳 (元会津若松市立松長小学校校長)

齋藤 健一 (元福島市立蓬萊東小学校校長)

鈴木 敬男 (元猪苗代町立猪苗代小学校校長)

馬場 理作 (元田島町立針生小学校校長)

安齋 健一 (元本宮町立本宮第二中学校校長)

菅野 時男 (元福島市立野田中学校校長)

野尻 昇助 (元いわき市立小名浜東小学校校長)

猪野 衛雄 (元福島市立福島第四中学校校長)

オ 正六位

宇田 俊雄 (元猪苗代町立千里小学校校長)

佐藤 幸一 (元新鶴村立新鶴小学校校長)

室井 和秀 (元田島町立田島第二小学校校長)

上野 秀夫 (元新鶴村立新鶴小学校校長)

寺川 智 (元会津若松市立第一中学校校長)

佐藤 正躬 (元いわき市立小名浜第一小学校校長)

近内多喜夫 (元塙町立塙小学校校長)

渡邊 浩 (元富岡町立富岡第二小学校校長)

鈴木 博 (元いわき市立宮小学校校長)

草野 文弥 (元いわき市立勿来第一小学校校長)

菅家 利彦 (元いわき市立久之浜第一小学校校長)

吉川 貞司 (元郡山市立小原田中学校校長)

長嶺 敏 (元会津若松市立第一中学校校長)

久保田 誠 (元相馬市立中村第一小学校校長)

齋藤 孝三 (元いわき市立宮小学校校長)

金子 實 (元河東町立河東第一小学校校長)

松田 正直 (元福島市立大森小学校長)
 渡邊 五郎 (元福島市立第二小学校長)
 菅原 文也 (元いわき市立平第三中学校長)
 神 契道 (元西郷村立米小学校長)
 鈴木 悦郎 (元福島県立福島商業高等学校長)
 國分 久榮 (元猪苗代町立千里小学校長)
 鈴木 茂 (元いわき市立好間第一小学校長)
 小山 恒雄 (元福島県立富岡高等学校長)
 橋本 政一 (元福島県立会津養護学校長)
 野口 久雄 (元郡山市立永盛小学校長)
 遠藤 時江 (元郡山市立安子島小学校長)

カ 従六位・瑞宝双光章
 三津間安宏 (元福島市立清水中学校長)
 荒明 誠喜 (元喜多方市立第一中学校長)
 堂山 紀夫 (元大越町立下大越小学校長)

上遠野盛雄 (元船引町立船引中学校長)
 福田 喜和 (元白河市立小田川小学校長)
 安齋 將栄 (元岩代町立小浜小学校長)
 小原 吉雄 (元福島市立下川崎小学校長)
 本田 孝 (元福島市立三河台小学校長)
 高木 義男 (元須賀川市立西袋第一小学校長)

キ 従六位
 菊地 豊 (元猪苗代町立東中学校長)
 高橋 十河 (元二本松市立二本松南小学校長)
 青山 清男 (元会津若松市立行仁小学校長)
 首藤 務 (元福島市立月輪小学校長)
 鷲 茂夫 (元いわき市立内郷第二中学校長)
 今泉 護 (元郡山市立桃見台小学校長)
 佐藤 政己 (元いわき市立平第二小学校長)

第 13 節 奨学育英

1 福島県奨学資金

(1) 貸与金額

区 分	貸 与 月 額	
高等学校	国公立	自宅 18,000 円
		自宅外 23,000 円
	私 立	自宅 30,000 円
		自宅外 35,000 円
高等専門学校	18,000 円	
大 学	国公立	35,000 円
	私 立	40,000 円
入学一時金 (H25～)	(一括貸与) 500,000 円	

(2) 令和元年度の貸与状況

ア 募集期間

(ア) 在学採用

平成 31 年 4 月入学以降～令和元年 6 月 30 日

(イ) 震災特例採用

令和元年 5 月 1 日～7 月 31 日

イ 奨学生決定

(ア) 在学採用

令和元年 8 月 5 日 (高等学校)

令和元年 8 月 5 日 (大学・高等専門学校)

(イ) 震災特例採用

令和元年 9 月 6 日

ウ 貸与状況

区 分	継続貸与	新規貸与		計
		応募者	貸与者	
高等学校 (うち震災特例)	304 人 (160 人)	173 人 (110 人)	169 人 (110 人)	473 人 (270 人)
大 学 高等専門学校	264 人	92 人	69 人	333 人
大学等 入学一時金	—	39 人	34 人	34 人
計	568 人	304 人	272 人	840 人

2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程 修学資金貸与制度

(1) 貸与月額

定時制課程

1～4 学年 14,000 円

通信制課程

1～4 学年 14,000 円

(2) 令和元年度の貸与状況

学 年 別	定時制	通信制	計
1 年 生	0 人	0 人	0 人
2 年 生	1 人	0 人	1 人
3 年 生	1 人	1 人	2 人
4 年 生	1 人	0 人	1 人
計	3 人	1 人	4 人

第 3 章 教育財政

第 1 節 令和元年度決算

1 歳入

(1) 一般会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
分担金及び負担金		0	0.0
	負担金	0	0.0
使用料及び手数料		4,667,961	9.4
	使用料	4,546,158	9.1
	手数料	121,803	0.3
国庫支出金		37,790,449	75.9
	国庫負担金	28,762,906	57.7
	国庫補助金	8,892,413	17.9
	委託金	135,130	0.3
財産収入		230,704	0.5
	財産運用収入	34,575	0.1
	財産売払収入	196,129	0.4
寄附金		38,565	0.1
	寄附金	38,565	0.1
繰入金		1,331,657	2.6
	特別会計繰入金	0	0.0
	基金繰入金	1,331,657	2.6
諸収入		514,260	1.0
	預金利子	0	0.0
	貸付金元利収入	18,153	0.0
	受託事業収入	221,126	0.5
	収益事業収入	61,900	0.1
	雑入	213,081	0.4
県債		5,223,800	10.5
	県債	5,223,800	10.5
計		49,797,396	100.0

(2) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
国庫支出金		0	0.0
	国庫補助金	0	0.0
繰入金		113,169	23.2
	一般会計繰入金	107,949	22.1
	基金繰入金	5,220	1.1
繰越金		31,323	6.5
	繰越金	31,323	6.5
諸収入		342,919	70.3
	預金利子	9	0.0
	貸付金元利収入	341,363	70.0
	雑収入	1,547	0.3
財産収入		232	0.0
	財産運用収入	232	0.0
計		487,643	100.0

2 歳出

(1) 県予算に占める教育費

(単位：千円)

区分	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
県予算	1,460,327,537	100.0	1,674,258,717	100.0	1,332,592,210	100.0
教育費	225,926,365	15.5	230,694,686	13.8	222,799,850	16.7
教育委員会所管分	192,974,629	13.2	197,422,446	11.8	186,809,883	14.0
知事部局所管分	32,951,736	2.3	33,272,240	2.0	35,989,967	2.7
教育委員会所管分総務費	0	0.0	772	0.0	772	0.0
教育委員会所管分災害復旧費	30,809	0.0	411,919	0.0	304,078	0.0

(最終予算額及び決算額には繰越分を含む)

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

(単位：千円)

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総務費	0	0.0	772	0.0	772	0.0
総務管理費	0	0.0	772	0.0	772	0.0
諸費	0	0.0	772	0.0	772	0.0
教育費	192,974,629	100.0	197,422,446	99.8	186,809,111	100.0
教育総務費	25,951,484	13.4	28,012,328	14.2	24,534,478	13.1
教育委員会費	9,934	0.0	9,614	0.0	9,518	0.0
事務局費	4,462,423	2.3	4,370,115	2.2	4,340,813	2.3
財務管理費	1,612,387	0.8	3,233,439	1.6	1,333,842	0.7
義務教育指導費	800,978	0.4	761,678	0.4	725,534	0.4
教職員福利厚生費	17,361,510	9.0	16,835,734	8.5	16,803,380	9.0
育英費	908,934	0.5	671,524	0.3	569,878	0.3

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
恩給及び退職年金費	67,386	0.0	57,691	0.0	56,557	0.0
教育センター費	717,712	0.4	2,062,313	1.0	685,307	0.4
特別支援教育センター費	10,220	0.0	10,220	0.1	9,649	0.0
小学校費	60,134,676	31.2	59,263,148	30.0	59,093,151	31.6
教職員費	60,134,676	31.2	59,263,148	30.0	59,093,151	31.6
中学校費	39,133,205	20.3	38,468,218	19.4	38,325,398	20.5
教職員費	39,133,205	20.3	38,468,218	19.4	38,325,398	20.5
高等学校費	46,012,486	23.8	49,353,827	24.9	44,612,907	23.8
教職員費	34,902,768	18.1	35,339,585	17.9	35,255,944	18.8
高等学校指導費	1,059,753	0.5	986,949	0.5	806,580	0.4
高等学校管理費	8,920,293	4.6	8,841,903	4.5	7,479,273	4.0
施設等整備費	604,980	0.3	580,694	0.2	578,398	0.3
農業高等学校実習費	193,422	0.1	192,943	0.1	188,771	0.1
水産高等学校実習費	205,588	0.1	184,850	0.1	178,762	0.1
28～31ふたば未来学園中学・高校整備費	125,682	0.1	3,226,903	1.6	125,179	0.1
特別支援学校費	18,530,729	9.6	19,440,788	9.8	17,634,527	9.4
特別支援学校費	1,619,177	0.8	1,711,349	0.9	1,424,776	0.8
教職員費	13,641,190	7.1	13,713,311	6.9	13,664,988	7.3
28～32聴覚支援学校福島校整備費	723,676	0.4	845,099	0.4	494,648	0.2
29～32相馬支援学校整備費	2,200,500	1.1	2,690,634	1.4	1,722,411	0.9
29～32聴覚支援学校寄宿舍整備費	346,186	0.2	480,395	0.2	327,704	0.2
社会教育費	2,544,987	1.4	2,254,625	1.2	2,044,374	1.1
社会教育総務費	670,747	0.3	434,353	0.2	382,656	0.2
図書館費	129,742	0.1	129,742	0.1	113,089	0.1
自然の家費	327,789	0.2	320,647	0.2	316,490	0.2
文化振興費	1,000	0.0	3,000	0.0	2,676	0.0
文化財保護費	506,486	0.3	450,071	0.2	371,835	0.2
美術館費	372,779	0.2	386,998	0.2	349,510	0.2
博物館費	232,086	0.1	225,456	0.1	213,717	0.1
文化財センター費	304,358	0.2	304,358	0.2	294,401	0.1
保健体育費	667,062	0.3	629,512	0.3	564,276	0.3
保健体育総務費	265,374	0.1	260,925	0.1	254,102	0.1
学校保健費	268,129	0.1	260,358	0.1	211,383	0.1
体育振興費	133,559	0.1	108,229	0.1	98,791	0.1
災害復旧費	30,809	0.0	411,919	0.2	304,078	0.2
文教施設災害復旧費	30,809	0.0	411,919	0.2	304,078	0.2
公立文教施設災害復旧費	30,809	0.0	411,919	0.2	304,078	0.2
計	193,005,438	100.0	197,834,365	100.0	187,113,961	100.0

(3) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

区分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	524,439	100.0	460,824	100.0	450,551	100.0
奨学資金貸付事業費	524,439	100.0	460,824	100.0	450,551	100.0
貸付金	509,447	97.2	446,055	96.8	436,758	96.9
償還金	200	0.0	200	0.0	0	0.0
事務費	14,791	1.8	14,568	3.2	13,793	3.1
一般会計繰出金	1	0.0	1	0.0	0	0
計	524,439	100.0	460,824	100.0	450,551	100.0

第2節 学校教育施設

1 県立学校

(1) 学校建設の概要

令和元年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が73.9%、鉄骨その他造が24.4%と非木造建物が98.3%を占めており、木造建物が1.7%となった。

別表 県立学校建物の現況 (R1.5.1) [確定値]

区分		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
校舎	R	5,583	100.0	647,891	85.4	83,213	92.5	736,687	86.2
	S	0	0.0	95,841	12.6	4,454	4.9	100,295	11.8
	W	0	0.0	14,860	2.0	2,351	2.6	17,211	2.0
	計	5,583	100.0	758,592	100.0	90,018	100.0	854,193	100.0
体育館	R	1,297	100.0	24,122	13.7	4,919	44.8	30,338	16.1
	S	0	0.0	151,218	85.8	6,059	55.2	157,277	83.4
	W	0	0.0	937	0.5	0	0.0	937	0.5
	計	1,297	100.0	176,277	100.0	10,978	100.0	188,552	100.0
寄宿舍	R	0	0.0	11,304	98.6	4,664	96.7	15,968	98.1
	S	0	0.0	164	1.4	101	2.1	265	1.6
	W	0	0.0	0	0.0	57	1.2	57	0.3
	計	0	0.0	11,468	100.0	4,822	100.0	16,290	100.0
計	R	6,880	100.0	683,317	72.2	92,796	87.7	782,993	73.9
	S	0	0.0	247,223	26.1	10,614	10.0	257,837	24.4
	W	0	0.0	15,797	1.7	2,408	2.3	18,205	1.7
	計	6,880	100.0	946,337	100.0	105,818	100.0	1,059,035	100.0

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

双葉、浪江、浪江津島校、富岡、双葉翔陽、相馬農業飯館校、富岡支援

※構成比率は小数点第2位以下四捨五入

※特別支援学校には視覚・聴覚支援学校面積を含む

(2) 令和元年度事業実績

ア 高等学校施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
大規模改造事業	13	梁川、安積、郡山北工業、清陵情報、白河実業、修明、葵、会津学鳳、喜多方東、平工業、いわき海星、相馬、郡山萌世	千円 641,186	千円 0	千円 591,754	千円 49,432
ふたば未来学園中学校・高等学校整備事業	2	ふたば未来学園中学校、高等学校	千円 2,505,904	千円 1,692,186	千円 813,718	千円 0
合 計	15		3,147,090	1,692,186	1,405,472	49,432

イ 特別支援学校施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
特別支援学校整備事業	5	聴覚支援、聴覚支援福島校、たむら支援相馬支援、伊達支援（仮称）	千円 2,742,397	千円 1,069,016	千円 1,669,381	千円 4,000

2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

(1) 構造物保有面積

令和元年5月1日現在 [確定値]

区 分	小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園		
	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	
校 舎	R	1,424,096	97	877,454	96	2,301,550	96	2,528	70	30,305	29
	S	27,597	2	21,463	2	49,060	2	1,090	30	44,487	42
	W	19,501	1	15,410	2	34,911	2	0	0	31,110	29
	計	1,471,194	100	914,327	100	2,385,521	100.0	3,618	100	105,902	100
屋 内 運 動 場	R	157,804	44	139,538	54	297,342	48	391	94	0	0
	S	199,082	55	114,869	45	313,951	51	26	6	0	0
	W	3,237	1	1,762	1	4,999	1	0	0	0	0
	計	360,123	100	256,169	100	616,292	100	417	100	0	0
寄 宿 舎	R	65	100	1,821	79	1,886	80	0	0	0	0
	S	0	0	312	14	312	13	0	0	0	0
	W	0	0	172	7	172	7	0	0	0	0
	計	65	100	2,305	100	2,370	100	0	0	0	0
計	R	1,581,965	86	1,018,813	87	2,600,778	87	2,919	72	30,305	29
	S	226,679	13	136,644	12	363,323	12	1,116	28	44,487	42
	W	22,738	1	17,344	1	40,082	1	0	0	31,110	29
	計	1,831,382	100	1,172,081	100	3,004,183	100	4,035	100	105,902	100

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

大熊町、双葉町

※構成比率は小数点以下四捨五入

※各町村立学校の面積等においては、施設台帳管理システムにて入力された内容を参照した。

※義務教育学校については、前期課程専用部分は小学校に、後期課程専用部分は中学校に、共用部分はそれぞれに按分して計上した。

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分実績額）

令和元年度

区分	単年度		国庫債務負担行為	
	学校数	負担金及び交付金(千円)	学校数	負担金及び交付金(千円)
校舎の 新增築	1	51,951	—	—
統合	—	—	1	109,327
不適格建物の 改築	1	24,259	—	—
大規模改造	34	236,579	—	—
地震補強	13	243,446	—	—
危険改築	2	125,694	—	—
公立幼稚園 の新增築	2	70,583	—	—
防災機能強化	6	95,259	—	—
ブロック塀 改修、冷房 新設	249	1,086,655	—	—
計	(延べ校数) 308	1,934,426	(延べ校数) 1	109,327

※対象学校種別：幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校等

第3節 産業教育設備整備事業

1 産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図った。令和元年度における実施状況は次のとおりである。

設備

(1) 県単独事業

老朽設備の整備 221,329 千円

第4節 理科教育振興法補助事業

令和元年度の設備現有状況は次のとおりである。

1 理科設備

学校規模別設備現有状況

令和2年3月31日現在

区分 規模別	学校数	基準金額	現有金額	現有率
高校Ⅰ	88	9,165,288,000	1,106,912,472	12.1
高校Ⅱ	0	0	0	—
小計	88	9,165,288,000	1,106,912,472	12.1
視覚支援学校	1	170,615,000	5,389,060	3.2
聴覚支援学校	4	149,698,000	9,453,224	6.3
特別支援学校	18	1,033,071,000	36,655,088	3.5
小計	23	1,353,384,000	51,497,372	3.8

2 算数・数学特別設備

学校規模別設備現有状況

令和2年3月31日現在

区分 規模別	学校数	基準金額	現有金額	現有率
高校Ⅰ	88	184,888,000	71,187,745	38.5
高校Ⅱ	0	0	0	—
小計	88	184,888,000	71,187,745	38.5
視覚支援学校	1	3,180,000	42,400	1.3
聴覚支援学校	4	5,951,000	616,445	10.4
特別支援学校	18	40,217,000	4,605,870	11.5
小計	23	49,348,000	5,264,715	10.7

※規模別の高校Ⅰは学級数合計が27学級以下、

高校Ⅱは学級数合計が28学級以上の学校が対象となり、現在は28学級以上の学校は無い。

第5節 情報処理設備整備事業

令和元年度における事業実施状況は次のとおりである。

1 県単独事業

(1) 教育用コンピュータの整備

県立高校 83校（リース・保守） 351,920千円
特別支援学校 21校（購入） 47,048千円

第6節 体育施設

1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

令和元年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

(1) 水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	水面積(m ²)	上屋面積(m ²)	交付金額(千円)
会津若松市	行仁小学校（I期工事）	130	—	7,846
西会津町	西会津小学校	250	—	14,552

2 社会体育施設整備費補助

令和元年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

(1) 地域スポーツセンター

設置者名	施設名	面積(m ²)	交付金額(千円)
該当なし			

(2) 地域武道センター

設置者名	施設名	面積(m ²)	交付金額(千円)
該当なし			

(3) 社会体育施設耐震化

設置者名	施設名	面積(m ²)	交付金額(千円)
該当なし			

第4章 教育の情報化

第1節 基盤整備

県立学校、図書館、美術館及び博物館等の教育関係機関が専用イントラネット及び電子メール等のインターネットサービスを利用できるよう、平成11年度から「うつくしま教育ネットワーク」、平成28年度から「ふくしま教育クラウドサービス」を運用し利便性の維持・向上を図っている。

令和元年度は、平成30年度に運用を開始した県立教育機関向けのネットワーク「FACE（Fukushima Advanced Cloud network for Education）」のセキュリティを強化し、校務系ネットワークと校務外部系ネットワークの分離を実装した。

Webシステムについては、情報発信の強化と作業の効率化を図るため、福島県のWebシステム及びNetCommons3を活用したCMS（コンテンツ・マネジメント・システム）により運用し、県立学校を含む教育庁機関及び希望する市町村教育機関のWebサイトによる情報公開を支援した。

うつくしま教育ネットワークの主なサービス

- ・県立学校・教育施設へのインターネット接続環境の提供
- ・不適切情報のフィルタリング

児童・生徒に触れさせたくない情報をネットワーク拠点で一元的に管理し、教育にふさわしい情報の提供を行う。

- ・セキュリティリスクへの多層防御、ファイル無害化処理の提供
- ・セキュアなファイルストレージの提供

ふくしま教育クラウドサービスの主なサービス

- ・ホームページの利用環境

学校や教育関係機関等がウェブサイトを設置できるスペースを提供し、取組や研究成果などを広く共有する場を提供する。

- ・電子メールサービス

電子メールアカウントを、教職員、学校、教育関係機関等に発行する。

- ・グループウェア環境（メーリングリスト、掲示板（グループ）機能、施設予約、ファイルストレージ等）

県立学校の教職員が校務に使用するパソコンについては、平成21年度までに、県立学校に対して教員1人1台に相当するパソコンの配備を行ったが、令和元年度はWindows7のサポート期限到来に備え、1,608台の更新・配備を行った。

過去10年間の県立学校校務用パソコンの整備状況

年度	教職員PC配備実績
H22	0台
H23	316台 ※1
H24	1,395台 ※2
H25	814台 ※2
H26	0台

年度	教職員PC配備実績
H27	0台
H28	228台 ※3
H29	2,517台 ※4
H30	1,767台 ※4
R1	1,608台 ※4

※1 東日本大震災に伴うサテライト拠点校等への緊急配備

※2 WindowsXPのサポート終了に伴う更新等

※3 Windows Vistaサポート終了に伴う更新等

※4 Windows7サポート終了に伴う更新

学校の基盤整備状況（小・中・高・特別支援学校）

項目	福島県	全国平均
教育用PC1台当たりの児童生徒数	3.9人	4.9人
校務用PCの整備率	119.6%	122.7%
普通教室のLAN整備率	89.6%	91.2%
普通教室の大型提示装置整備率	33.0%	59.2%
インターネット接続率（100Mbps以上）	87.2%	77.8%
統合型校務支援システムの整備率	16.2%	64.3%

文部科学省調べ（令和元年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（R2.3現在）（速報値））

第2節 人材の育成・活用

すべての教員がコンピュータを操作でき、コンピュータを用いて指導できることを目指して、研修の充実を図っている。

人材の育成状況

項目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	83.8%	86.7%
授業にICTを活用して指導する能力	63.7%	69.8%
児童・生徒のICT活用を指導する能力	69.0%	71.3%
情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力	80.5%	81.8%

文部科学省調べ（令和元年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（R2.3現在）（速報値））

第5章 義務教育

第1節 概要

今年度は、県内の小・中学校児童生徒の学力の向上を図るため、「『ふくしま活用力育成シート』実践事業」、「『学びのスタンダード』推進事業」、「一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業」及び「理数教育優秀教員活用事業」を実施した。また、県内の児童生徒の数学的な考え方や科学的な思考力を高めるため、福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業、「科学の甲子園」福島県大会事業を実施した。さらに、少人数教育充実のために、30人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。

生徒指導関係では、「ピュアハートサポートプロジェクト」の一環として、教育センターに学校教育相談員を配置し、電話相談等を実施した。また、小学校24校、中学校133校に文部科学省事業によるスクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。また、大震災後、児童生徒がPTSD等にならないように文部科学省事業による緊急スクールカウンセラーを小学校112校、中学校81校に派遣し、心のケアに当たった。

さらに、教育相談研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

第2節 学校管理

1 児童生徒数・学級数と教職員定数

(1) 小学校

年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
本校	497	489	479	472	468	458	452	444	436	428
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	8	6	5	5	5	5	5	5	7	7
計	505	495	484	477	473	463	457	449	443	435
前差	△14	△10	△11	△7	△4	△10	△6	△8	△6	△8

(2) 令和元年度の学級数別学校数(小学校)※休校が4校(分校2校含む)、臨時休業が4校(5/1時点)あり、0学級になる。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	91	168	104	45	14	422
分室	—	—	—	—	—	—
分校	5	—	—	—	—	5
計	96	168	104	45	15	427
構成比	23	39	24	11	3	100

(3) 中学校 ※平成19年度から県立中学校を含む。

年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
本校	237	237	236	232	229	224	223	221	219	219
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	—	—	—	—	—	—	—	—	2	2
計	237	237	236	232	229	224	223	221	221	221
前差	0	0	△1	△4	△3	△5	△1	△2	0	0

(4) 令和元年度の学級数別学校数(中学校) ※臨時休業が3校(5/1時点)あり、0学級になる。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	74	73	53	13	3	216
分 室	—	—	—	—	—	—
分 校	2	—	—	—	—	2
計	76	73	53	13	3	218
構成比	35	34	24	6	1	100

(5) 義務教育学校 ※令和元年度は義務教育学校が1校新設された。

年 度	30	R元
本 校	1	2
計	1	2
前 差	1	1

(6) 令和元年度の学級数別学校数(義務教育学校)

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	—	1	1	—	—	1
計	—	1	1	—	—	1
構成比	0	50	50	0	0	100

(7) 公立幼稚園の設置状況

年 度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
園 数	206	204	201	193	191	184	166	154	149	133
園児数	10,749	9,136	8,646	8,320	8,005	7,590	6,603	6,205	6,197	6,010

(8) 小学校児童数・学級数の推移

小学校の児童数は昭和34年度が最高で、その後は減少を続けてきた。昭和52年度を境に児童数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和60年度を境に児童数が再び減少傾向にあり、学級数も学級編制基準の改善にもかかわらず少しずつ減少している。

年 度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
単 式	4,795	4,465	4,301	4,197	4,103	4,019	3,883	3,814	3,716	3615
複 式	197	180	204	203	215	209	225	201	199	207
特別支援	336	332	350	377	403	440	492	537	595	636

年 度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
児 童	116,177	107,043	102,095	99,339	96,776	94,686	92,449	90,657	88,781	86,521
学 級	5,328	4,977	4,855	4,777	4,721	4,668	4,600	4,552	4,510	4,458

(9) 中学校生徒数・学級数の推移

中学校の生徒数は昭和 37 年度が最高となり、その後は減少を続けてきた。昭和 56 年度を境に生徒数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和 63 年度より再び減少傾向にある。

年 度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
単 式	2,180	2,089	2,079	2,050	1,997	1,953	1,861	1,792	1,729	1,670
複 式	10	8	8	8	8	8	12	11	12	14
特別支援	191	187	203	218	233	248	254	267	295	308

年 度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元
生 徒	60,746	58,212	56,922	56,262	54,929	53,608	52,194	50,306	48,473	46,992
学 級	2,381	2,284	2,290	2,276	2,238	2,209	2,127	2,070	2,036	1,992

(10) 義務教育学校児童生徒数・学級数の推移

年 度	30	R元	年 度	30	R元
単 式	13	20	児童・生徒	280	432
複 式	0	0	学 級	17	25
特別支援	4	5			

(11) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

年 度		23	24	25	26	27	28	29	30	R元	R2
小 学 校	教 員	7,235	7,131	7,028	6,979	6,944	6,850	6,812	6,752	6,707	6,634
	事 務 職 員	487	474	466	468	467	458	455	443	433	415
	充 指 導 主 事	22	23	23	25	26	27	29	29	28	29
	補 充 教 職 員	329	312	293	332	321	309	257	260	251	236
	県単独負担教員	211	182	171	170	141	155	153	162	153	167
	学校栄養職員	138	128	124	125	123	121	121	122	118	119
中 学 校	教 員	4,326	4,361	4,399	4,324	4,337	4,241	4,240	4127	4,075	4,040
	事 務 職 員	229	228	227	228	229	244	241	230	219	208
	充 指 導 主 事	42	40	40	38	35	40	40	39	40	39
	補 充 教 職 員	169	160	150	143	167	167	163	132	124	117
	県単独負担教員	166	188	161	160	151	143	144	134	136	118
	学校栄養職員	66	67	65	67	69	70	74	72	67	66
市 立 特 別 支 援 学 校	教 員	36	40	46	41	39	32	30	30	60	64
	事 務 職 員	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4
	補 充 教 職 員	12	13	13	13	7	6	6	7	7	6
	県単独負担教員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校栄養職員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

2 教職員人事・任用

平成30年度人事異動方針

教育に対する県民の期待と要望に応え、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するとともに、東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故からの復興に向けた取組を進め、本県教育の一層の充実と向上発展を目指すためには、適正な人事配置により各学校の教職員組織及び教育庁職員組織を活性化し、教職員の志気の高揚を図らなければならない。

本委員会は、この実現のため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

I 基本方針

- 1 全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果及び行政効果の向上を図る。
- 2 教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る。
- 3 厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図る。
- 4 教育に対する県民の信頼と期待に応えるため、人事の公平性・公正性・透明性の確保に一層努める。
- 5 東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴う様々な課題に適切に対応するための教員配置等を継続し、復興に向けた取組を進める。

II 重点

- 1 市町村立学校関係
 - (1) 教育の充実を図るため、有能適格な教職員の採用に努めるとともに有為な人材を登用する。
 - (2) 教職員組織の充実と均衡を図るため、計画的な異動を推進する。
 - (3) 特別支援教育及びへき地教育の充実を図るため、適任者を配置するとともに適正な異動を行う。
 - (4) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性に鑑み、適任者を厳選し、適所に配置する。
- 2 平成31年度公立小・中学校人事(平成31年3月末公表)
 - (1) 異動件数
異動件数3194件(前年度3,030件)で164件の増加となった。
 - (2) 採用について
本年度は379名(小学校教諭235名、中学校教諭90名、養護教諭31名、事務職員21名、栄養職員2名)を新規に採用した。
 - (3) 異動について
各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。

また、東日本大震災後の児童・生徒の学力向上や心のケアに配慮するとともに、警戒区域等において臨時休業中の学校の再開を視野に入れた教職員配置に努め、相対地区で臨時休業中の学校の教職員については、被災した児童生徒を受け入れている学校に兼務加配として配置した。

(4) 昇任について

ア 管理職への昇任は校長116名(小学校80名、中学校36名、前年度比24名増)、教頭154名(小学校101名、中学校53名、特別支援学校0名、前年度比34名増)、計270名で、前年度より58名増加した。

イ 平成30年度より新たに副校長及び主幹教諭の登用を開始し、副校長は小学校1名、中学校1名、義務教育学校1名の計3名を、主幹教諭は小学校7名、中学校8名(県立中1名を含む)、義務教育学校1名の計16名を登用した。

ウ 女性教員の管理職登用に意を用いた。小学校長7名、中学校長1名、小学校教頭16名、中学校教頭4名に加え、主幹教諭3名を登用した。

エ 教頭の昇任は受考者381名に対し、154名で昇任率は40.4%となっている。

(5) 退職について

ア 令和元年度末の退職者数は582名で前年度に比べ60名の減である。

イ 退職者の内訳は定年退職者432名、勸奨による退職者97名、普通退職者45名となっている。

ウ 退職者中、校長は117名(小学校76名、中学校41名)、教頭は30名となっている。

3 教育職員免許状の授与状況

令和元年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で1,694件あり前年度より91件減となっている。

普通免許状は、前年度より129件減で1,534件、臨時免許状は33件増で160件、特別免許状の授与はなかった。

普通免許状のうち令和元年度大学卒業者の占める割合は、約76%で、1,172件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	28件
同 一種免許状	128件
同 二種免許状	34件
中学校教諭専修免許状	44件
同 一種免許状	231件
同 二種免許状	21件
高等学校教諭専修免許状	41件
同 一種免許状	322件
幼稚園教諭専修免許状	3件
同 一種免許状	59件
同 二種免許状	446件

特別支援学校教諭専修免許状	3件
同 一種免許状	42件
同 二種免許状	104件
養護教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	3件
同 二種免許状	4件
栄養教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	14件
同 二種免許状	7件
特別支援学校自立活動教諭一種免許状	0件
小学校助教諭免許状	107件
中学校助教諭免許状	17件
高等学校助教諭免許状	25件
幼稚園助教諭免許状	3件
特別支援学校助教諭免許	6件
特別支援学校自立教科助教諭免許状	0件
養護助教諭免許状	2件

4 学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中学校の設置・廃止

	廃止(令和2.3.31)	設置(令和2.4.1)
小学校	福島市立土湯小学校 伊達市立小手小学校 郡山市立田母神小学校 郡山市立栃山神小学校 小野町立小野新町小学校 小野町立飯豊小学校 小野町立夏井第一小学校 小野町立浮金小学校 飯舘村立草野小学校 飯舘村立飯樋小学校 飯舘村立白石小学校 いわき市立大野第一小学校 郡山市立御館小学校下枝分校	小野町立小野小学校
中学校	郡山市立二瀬中学校 玉川村立泉中学校 玉川村立須釜中学校 飯舘村立飯舘中学校	玉川村立玉川中学校
義務教育学校		飯舘村立いいいたて希望の里学園

5 学校防火

学校火災は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

- ・ 学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
- ・ 木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
- ・ 児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

令和元年度の学校火災は、市町村立小・中・特別支援学校において2件発生し、前年度より1件減少した。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していく必要がある。

令和元年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1) 令和元年度公立小・中・特別支援学校防火診断項目

- ア 防火体制について
- イ 警備員、代行員の勤務状況について
- ウ 火気関係設備及び取り扱い状況について
- エ 電気設備について
- オ 消防用設備及びその管理について
- カ その他

- ・ 諸表簿の管理状況
- ・ 毒劇物・危険物等薬品の保管状況

(2) 学校防火診断の実施と活用

ア 各学校における防火診断に係る報告を集約し、実施状況や課題を確認した。

イ 学校事故防止対策研究協議会において、防火診断の結果や実際の学校火災事例等をもとに、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・特別支援学校に指導した。

※ 平成21年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

6 へき地対策

(1) へき地学校の状況

ア へき地学校

教育事務所	級地	4級		3級		2級		1級		準1級		特地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
小学校	県北					1		1						13		15	0
	県中					2		3	1	1	1	0	1	22	1	28	4
	県南							1						9		10	0
	会津					3		4		1				6		14	0
	南会津					7		1						6		14	0
	相双					6		0		0				4		10	0
	いわき					2		2		1				8	1	13	1
	計	0	0	0	0	21	0	12	1	3	1	0	1	68	2	104	5
中学校	県北					1								6		8	0
	県中					2		2		1		1		9		15	0
	県南							1						4		5	0
	会津					1		4		1				6		12	0
	南会津					4								3		7	0
	相双					4		0						1		5	0
	いわき					2		2		1				4		9	0
	計	0	0	0	0	14	0	10	0	3	0	1	0	33	0	61	0
総計					35	0	21	1	6	1	1	1	101	2	165	5	
					0	0	35	0	22	7	2		103		170		

イ 特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数(休校中も含む)

級地	小学校												中学校												合計											
	学校数			児童数			学級数			教職員数			学校数			生徒数			学級数			教職員数			学校数			児童生徒数			学級数			教職員数		
	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2級	21	0	21	537	0	537	78	0	78	226	0	226	14	0	14	348	0	348	34	0	34	190	0	190	31	0	31	885	0	885	869	112	981			
1級	12	1	13	964	14	978	74	2	76	208	4	212	9	0	9	446	0	446	38	0	38	139	0	139	21	1	22	1410	14	1424	1601	112	1713			
準1	3	1	4	155	11	166	13	0	13	41	0	41	3	0	3	232	0	232	14	0	14	53	0	53	6	1	7	387	11	398	274	27	301			
特地	0	1	1	0	11	11	0	2	2	11	0	11	4	4	8	1	0	1	23	0	23	3	0	3	19	0	19	1	1	2	23	11	34	95	3	98
教育事務所指定	68	2	70	4911	10	4921	405	2	407	997	4	1001	34	0	34	3295	0	3295	191	0	191	639	0	639	102	2	104	8206	10	8216	8773	596	9369			
合計	104	5	109	6567	46	6613	570	6	576	1472	12	1484	61	0	61	4344	0	4344	280	0	280	1040	0	1040	165	5	170	10911	46	10957	850	6	856	2512	12	2524

(2) へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、また、複式学級も多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

ア へき地教育の人事行政

「平成29年度人事異動方針」第1の2において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第6次福島県総合教育計画に沿

った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本として掲げ、これを受けて平成29年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項第2の2の(1)において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」とし、へき地と各地域との計画的な異動の推進を図った。

(7) へき地異動の地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

- A地域 市の中心部で比較的交通の便のよい地区及び桑折町、国見町、鏡石町、石川町、浅川町、三春町、小野町、棚倉町、埜町、会津坂下町、会津英里町、浪江町、富岡町の中心部の学校
- B地域 A及びC地域以外の学校
- C地域 へき地の学校(人事委員会・教育事務所指定の学校)

(イ) 異動基準

- a へき地学校勤務については次の基準による。
- へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。
 - へき地学校勤務については、別表1による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表2による。
 - すでに、へき地学校勤務満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、2年以上とする。

別表1 (教員のへき地校勤務年数)

級別	教育事務所指定のへき地	人事委員会指定へき地			
		特地・準1級地	1級地	2級地	3級地
勤続年数	4年以上	3年以上		2年以上	

別表2 (教員のへき地校勤務年数)

会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地勤務年数(新採は含まない)	へき地級地別	
	教育事務所指定	特地、準1級地、1級地以上
	3年以上	2年以上

- b 他管内へき地等への計画的異動
- 小学校・中学校等に勤務する教員のうち、学習指導等を実績のある優秀な教員を選考して、他管内へき地等の学校に計画的に異動させ、その教育実践を通して、県内全域の教育の振興・充実を図ることとした。異動先での勤務期間は3年以上である。また、異動先での勤務期間を良好な成績で勤務した者については、教頭昇任選考筆頭試験の一部(指導関係)を免除する施策もあわせて実施した。

- イ へき地学校教職員の経済的優遇策
- 人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。
- へき地手当等の支給
- 勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のとおり支給される。

級地	手当額	支給割合
4級地	(給料の月額+教職調整額+扶養手当)×支給割合	20/100
3級地		16/100
2級地		12/100
1級地		8/100
準1級地		4/100

(注) 給料の月額=給料月額+給料の調整額

- へき地手当に準ずる手当
- へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等(人事委員会指定)へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。
 - ・異動日から5年間
(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×4%
 - ・5年を経過した後の1年間
(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×2%
- ウ へき地学校教職員の配置に対する特別措置
- へき地教育振興法第4条の2項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへき地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

- ア へき地学校の教職員配置の改善を図ること。
- へき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にへき地に配置していく必要がある。
- また、へき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実について努力する必要がある。
- イ 都市・平地とへき地との人事異動を推進すること。
- へき地学校勤務未了者を解消するため、これまで計画的に平地、へき地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

平成22年3月に策定した本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第6次福島県総合教育計画」(平成25年3月改定)では、「“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念に、

- ① 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
- ② 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
- ③ 豊かな教育環境の形成

の3つの基本目標のもと、平成30年度の成果を踏まえるとともに、引き続き、震災後の本県学校教育分野の復興に適切に対応するため、事業を展開してきた。

特に、「知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成」「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」「豊かな教育環境の形成」を、重視する3つの観点として、学校教育の推進を図ってきた。

(2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、各市町村教育委員会指導主事等(下表)によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数 (学校教育課長を含む)	11	12	10	13	7	11	8	72
市町村教育委員会 指導主事等数	27	46	10	12	2	14	18	129

(3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、資質・能力の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教育課程の改善・充実、学習指導と生徒指導の充実に努めた。

ア 教育内容・方法の改善充実に努めた。

(ア) 「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。

(イ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研修に努めた。

- 指導担当者研究協議会
- 主任指導主事等会議
- 学力向上担当指導主事会議
- 生徒指導担当指導主事会議
- ふくしま指導担当者会議
- ふくしま教育創造コンソーシアム

(ウ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。

- 対象者 各校長・教頭及び教務主任等のうちから各校1名参加

(エ) 福島県小・中学校教育研究会を共催し、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。

(オ) 各種研究学校(地区)を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。

- 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等
 - ・ 道徳教育総合支援事業 ほか
- 県教育委員会による研究指定校
 - ・ ふくしま「学びのスタンダード」推進事業 ほか

イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。

- (ア) 小学校、中学校初任者研修の実施
- (イ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施
- (ウ) 中央研修講座への派遣
- (エ) 長期研修生(内地留学)の派遣
- (オ) 教育研究団体に対する援助と指導
- (カ) 教職員研究論文の募集

ウ 免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

- (ア) 中学校免許外教科担任教員研修会

エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

- (ア) 幼稚園等新規採用教員研修
- (イ) 幼稚園経験者研修Ⅱ
- (ウ) 幼稚園教育理解推進事業中央協議会
- (エ) 幼稚園教育課程研究協議会
- (オ) 幼児教育実技研修会

オ 生徒指導の充実に努めた。

- (ア) 運営協議会を開催し、生徒指導の充実に努めた。

- 不登校・いじめ等対策推進運営協議会(2回)

(イ) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実・改善に努めた。

- 不登校・いじめ等対策域別研修会
(県内7地区開催)

(ウ) ピュアハートサポートプロジェクトを実施した。

- いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。

- 教育相談体制の充実

- ・ スクールカウンセラー等活用事業
- ・ 緊急時カウンセラー派遣事業
- ・ 学校教育相談員(教育センターに配置)
- ・ スクールカウンセラー派遣事業(震災対応)
- ・ スクールソーシャルワーカー派遣事業
- ・ ふくしま24時間子どもSOS
- ・ サポートティーチャー派遣事業
- ・ ふくしま子どもLINE相談

- 道徳教育の充実

- ・ 道徳教育総合支援事業
- ・ 道徳教育推進校による実践研究(7地区)

- 教育相談専門研修及び関係機関との連携強化

カ 社会の変化に対応した教育の充実に努めた。

(ア) 情報化社会への対応

- 学校におけるコンピュータ等の整備(市町村教委)

(イ) 国際化への対応

- 語学指導等を行う外国青年招致事業の実施
- 151名の外国JET青年の受入れ(107名を市町村教育委員会が配置)

(4) 県立中学校入学者選抜

ア 基本方針

「令和2年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校（以下「中学校」という。）入学者選抜は、志願者の意欲・能力・適性等を総合的にみる選抜（以下「一般選抜」という。）によって行う。ただし、ふたば未来学園中学校においては、スポーツ選抜を行うことができる。選抜に当たっては、適性検査等の結果及び小学校の校長から提出される調査書を資料として総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

(ア) 一般選抜

a 一般選抜は、各中学校の特色に配慮しつつ、各中学校の教育を受けるに足る意欲・能力・適性等を総合的に判断する選抜とし、すべての中学校で実施する。一般選抜には、その募集定員の中に各校の特色に応じて地域枠を設けることができる。なお、地域枠の選抜方法の内容は、一般選抜と同じとする。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 適性検査1

問題発見・解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校における教育において身に付けた総合的な力をみる。

(b) 適性検査2

与えられた課題について考えたことや感じたことなどを文章等で表現する力をみる。

(c) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(d) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況をみる。

(e) その他

志願者の目的意識や地域への思い等について確認するため、志願理由書を用いることを可能とする。

(イ) スポーツ選抜

a スポーツ選抜は、運動能力や、中学校が行おうとする教育への意欲や態度、適性等を総合的にみて判断する選抜とし、ふたば未来学園中学校において実施する。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 実技検査

中学校が求める生徒像に応じて内容を定めて実施し、運動能力をみる。

(b) 作文

与えられた課題について考えたことや感じたことなどを定められた文字数でまとめ、表現する力をみる。

(c) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(d) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況をみる。

(e) 志願理由書

志願者の目的意識や小学校での各種大会の成績等をみる。

(ウ) 入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。

a 一般選抜は、まず、適性検査1及び適性検査2の成績の合計並びに調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とし、次にその他の者については、適性検査1及び適性検査2の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

ただし、学校の特色に応じて、上記によらず適性検査1及び適性検査2の成績、調査書の記載事項並びに志願理由書及び面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定することを可能とする。

b スポーツ選抜は、志願理由書、実技検査及び作文の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

(エ) 選抜結果については、志願者に通知するものとする。

(オ) 入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月7日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
7月11日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
8月29日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出
9月30日 入学者選抜実施要綱説明会(県北・県中・県南地区)実施
10月2日 入学者選抜実施要綱説明会(相双・いわき地区)実施
10月3日 入学者選抜実施要綱説明会(会津・南会津地区)実施
10月18日 令和2年度入学者募集定員決定
12月4日～12月10日 出願書類受付
1月11日 一般選抜及びスポーツ選抜
1月17日 選抜結果通知書の発送
1月20日～1月24日 入学確約書提出
1月27日～1月31日 欠員補充

2 現職教育

(1) 教職員等中央研修

ア 趣旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ 主催 独立行政法人教職員支援機構

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 独立行政法人教職員支援機構

オ 期間及び参加者

◇校長研修

6月10日(月)～6月14日(金)

浪江町立浪江小学校	木村 裕之
郡山市立田母神小学校	鈴木 哲明
福島県教育センター	高木 徹

6月24日(月)～6月28日(金)

会津若松市立河東学園中学校	遠藤 修一
郡山市立二瀬中学校	芳賀 実

◇副校長・教頭等研修

7月29日(月)～8月8日(木)

矢吹町立矢吹中学校	安部 孝
-----------	------

11月5日(火)～11月15日(金)

福島市立野田中学校	木島 克典
-----------	-------

2月3日(月)～2月14日(金)

古殿町立古殿小学校	石塚 弘徳
福島県教育センター	永井 崇

◇中堅教員研修

7月22日(月)～8月2日(金)

二本松市立大平小学校	野地 吾勝
白河市立みさか小学校	石井 隆之
会津若松市立城西小学校	目黒 洋光
福島市立大森小学校	嶋 忍
郡山市立熱海小学校	七見 和宏

8月13日(火)～8月23日(金)

本宮市立本宮第二中学校	高橋 卓史
下郷町立下郷中学校	宮島 康之
郡山市立小原田中学校	堰上 浩明

11月18日(月)～11月29日(金)

三春町立沢石小学校	影山さゆり
-----------	-------

◇次世代リーダー育成研修

8月5日(月)～8月9日(金)

川俣町立福田小学校	奥山 涼
鏡石町立鏡石中学校	小林 史尚
柳津町立西山小学校	谷中 誠
相馬市立中村第一中学校	山内 政俊

(2) 各種研修会

ア 福島県公立学校長研修会地区別研修会(公立小・中・特別支援学校長、県立学校長)

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数【参加731名】

○ 県北	6月21日(金)	【伊達市ふるさと会館】	149名
○ 県中	7月9日(火)	【郡山市労働福祉会館】	189名
○ 県南	7月29日(月)	【白河合同庁舎】	63名
○ 会津	6月26日(水)	【湯川村公民館】	110名
○ 南会津	6月19日(水)	【南会津町御蔵入交流館】	31名
○ 相双	6月19日(水)	【万葉ふれあいセンター】	61名
○ いわき	6月18日(火)	【いわき合同庁舎】	122名

イ 市町村立小・中・特別支援学校新任校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

4月22日(月)～4月23日(火) 小学校 71名

5月9日(木)～5月10日(金) 中学校 30名

(エ) 講師 義務教育課長 福地裕之 他

ウ 市町村立小・中・特別支援学校新任副校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

4月22日(月) 3名(小学校2名、中学校1名)

(エ) 講師 義務教育課長 福地裕之 他

エ 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

5月7日(火)～5月8日(水) 小学校 95名

5月16日(木)～5月17日(金) 中学校 41名

(エ) 講師 義務教育課主幹 長谷川浩文 他

オ 新任主幹教諭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

5月20日(月) 16名

(エ) 講師 義務教育課主幹 長谷川浩文

カ 校長のためのマネジメント講座

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

6月10日(月)～6月11日(火) 67名

(エ) 講師 義務教育課管理主事 土屋智明 他

キ 教頭のためのマネジメント講座

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

- 9月19日(木)～9月20日(金) 77名
- (エ) 講師 義務教育課長 福地裕之 他
- ク 公立小・中学校経験者研修(I、II)
- (ア) 経験者研修I
- 主催 福島県教育委員会
 - 期間・会場
 - (小) 6月19日(水)～6月21日(金)
 - (中) 1班: 9月24日(火)～9月26日(木)
 - 2班: 10月2日(水)～10月4日(金)
 - 参加人数 小学校61名 中学校45名
 - 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授教育センター指導主事等
- (イ) 経験者研修II
- 主催 福島県教育委員会
 - 期間・会場
 - (小) 6月19日(水)～6月21日(金)
 - (中) 9月11日(水)～9月13日(金)
 - 参加人数 小学校53名 中学校34名
 - 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授教育センター指導主事等

- ケ 公立小・中学校初任者研修
- (ア) 校内における研修 150時間以上
各学校で年間を通じて計画し、実施する。
- (イ) 校外における研修 22日間

- a 地区別研修A
(7日間、各教育事務所の計画による)
- ・ 一般研修 1日間
 - ・ 授業研修 2日間
 - ・ へき地校研修 1日間
 - ・ カウンセリング研修 2日間
 - ・ 特別支援学校研修 1日間
- b 地区別研修B
(9日間、各市町村教育委員会の計画による)
- ・ 一般研修 1日間
 - ・ 研究発表集会等研修 5日間
 - ・ 社会奉仕体験活動研修 2日間
 - ・ 他校種園参観研修 1日間
- c 宿泊研修
- ・ 磐梯青少年交流の家 3日間
 - ・ 教育センター 3日間

- (ウ) 参加者数
- a 小学校 178名
 - b 中学校 70名
- コ 公立小・中・特別支援学校事務職員研修
- (ア) 新規採用職員研修
- ・ 対象 令和元年度新規採用者
 - ・ 日数 前期5日間、後期5日間
 - ・ 参加人数 21名(小学校14名、中学校6名、特別支援学校1名)
 - ・ 会場 ふくしま自治研修センター

- (イ) 基礎力アップ研修
- ・ 対象 採用後5年目
 - ・ 日数 3日間
 - ・ 参加人数 8名
- (ウ) 応用力アップ研修
- ・ 対象 採用後9年目
 - ・ 日数 3日間
 - ・ 参加人数 3名
- (エ) 実行力アップ研修
- ・ 対象 採用後13年目
 - ・ 日数 3日間
 - ・ 参加人数 5名
- (オ) 新任係長研修会
- ・ 対象 新任の主任主査
 - ・ 日数 3日間
 - ・ 参加人数 6名

- サ 事務職員研修(小・中学校)
- 主催 独立行政法人教職員支援機構
 - 期間 小学校: 6月10日(月)～6月14日(金)
 - 中学校: 6月24日(月)～6月28日(金)
 - 参加人数 3名(小学校2名、義務教育学校1名)
 - 会場 独立行政法人教職員支援機構 つくば本部

(3) 教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

- ア 上越教育大学
- (ア) 平成30年4月1日～令和2年3月31日
- 会津若松市立小金井小学校教諭 金子 瞳
 - 会津若松市立第一中学校教諭 佐瀬 千恵
- (イ) 平成31年4月1日～令和3年3月31日
- 猪苗代町立猪苗代中学校教諭 金田 孝介
 - 檜枝岐村立檜枝岐中学校教諭 吉村 憲治
- イ 福島大学
- (ア) 平成30年4月1日～令和2年3月31日
- 福島市立北信中学校教諭 宍戸 仁美
 - 福島市立福島第一小学校教諭 加倉井英紀
 - 郡山市立熱海小学校教諭 丹治 剛俊
 - 三春町立中妻小学校教諭 橋本 哲朗
 - 北塩原村立第一中学校教諭 木村 真
 - 葛尾村立葛尾中学校教諭 菅野 賢介
 - 南相馬市立石神中学校教諭 福尾 淳
 - いわき市立川部小学校教諭 武田 涼子
- (イ) 平成31年4月1日～令和3年3月31日
- 福島市立福島第四中学校教諭 菅野美由里
 - 天栄村立牧本小学校教諭 菊地 幸恵
 - 白河市立白河第二小学校教諭 中畑 純
 - 白河市立白河第一小学校教諭 東城 恵
 - 会津若松市立一箕小学校教諭 渡部 美沙
 - 会津若松市立一箕小学校教諭 長峰 健
 - いわき市立桶売中学校教諭 吉田 良平

(4) 令和元年度産業・情報技術等指導者養成研修(中学校)

教 科	技術・家庭
氏 名	左雨 貴子
職 名	指導主事
所 属	県中教育事務所
研 修 先	国立大学法人横浜国立大学
研修期間	7月30日～8月2日

(5) 教育研究奨励

- ア 名称 福島県教職員研究論文
- イ 主催 福島県教育委員会
- ウ 応募資格 福島県公立幼稚園・小・中・高・特別支援学校等教職員等
- エ 審査委員
福島大学学校臨床支援センター長 宗形 潤子
川俣町教育委員会学校教育指導主事 高橋 正之
福島県公立学校退職校長会副会長 金澤 武男
- オ 応募数 39点
- カ 入賞者
(ア) 特選

氏 名・学校名	所 属
教諭 佐藤 悠	福島市立大笹生小学校
郡山市立金透小学校	団 体
教諭 前林 伸也	中島村立滑津小学校
喜多方市立第二中学校	団 体

(イ) 入選

氏 名・学校名	所 属
(代表) 教諭 八代真理子	福島県立聴覚支援学校
田村市立都路小学校	団 体
棚倉町立棚倉小学校	団 体
只見町立朝日小学校	団 体
只見町立只見小学校	団 体
教諭 田野辺浩一	新地町立新地小学校
いわき市立高野小学校	団 体

(ウ) 奨励賞

氏 名・学校名	所 属
教諭 最上 俊彦	本宮市立本宮第二中学校
喜多方市立塩川小学校	団 体
教頭 日下雄一郎	南相馬市立高平小学校

3 教育課程

(1) 令和元年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

〈令和元年度福島県小学校教育課程研究協議会〉

- ア 主催 福島県教育委員会

- イ 実施期間
県北域内 9月11日(水)
県中域内 9月18日(水) 小中合同
県南域内 9月5日(木)
会津域内 9月5日(木)
南会津域内 9月12日(木) 小中合同
相双域内 9月20日(金)
いわき域内 9月9日(月)

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

- エ 参加者数 455名

〈令和元年度福島県中学校教育課程研究協議会〉

- ア 主催 福島県教育委員会

- イ 実施期間
県北域内 9月3日(火)
県中域内 9月18日(水) 小中合同
県南域内 9月3日(火)
会津域内 9月12日(木)
南会津域内 9月12日(木) 小中合同
相双域内 9月5日(木)
いわき域内 9月13日(金)

ウ 実施教科等

総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

- エ 参加者数 314名

4 学力向上等

(1) 学力向上推進支援事業

- ア ふくしま活用力育成シート実践事業
- イ 学力調査研究事業

(2) ふくしま「学びのスタンダード」推進事業

(3) 未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業

- ア 理数教育優秀教員活用事業
- イ ふくしまスーパーサイエンススクール事業
- ウ 理数コンテスト事業
- エ 先端技術体験事業

(4) 少人数教育推進事業

学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、ティーム・ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制等の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人一人に行き届き、きめ細かな指導や評価ができる体制を作る。

- 30人程度学級
- 30人学級編制(小1、小2、中1)

5 放射線教育

(地域と共に創る放射線・防災教育推進事業)

身の回りで起こる災害や放射線等に関する問題、取組等に向けながら、未来を拓く地域社会の一員として、安全・安心な社会づくりに貢献しようとする態度を身に付けるための支援として、下記の事業等を実施した。

(1) 実践協力校

本宮市立白岩小学校
三春町立三春小学校
湯川村立箕川小学校
南相馬市立太田小学校

(2) 地区別研究協議会

ア 主催 福島県教育委員会
イ 期日
県北域内 8月6日(火)
県中域内 9月10日(火)
県南域内 8月29日(木)
会津域内 9月13日(金)
南会津域内 11月26日(火)
相双域内 10月24日(木)
いわき域内 8月20日(火)

ウ 参加者数 599名

(3) 運営協議会

ア 主催 福島県教育委員会
イ 期間 4月～1月(3回)
ウ 参加対象者 本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者、放射線教育・防災教育推進委員
エ 内容 各種放射線教育・防災教育研究協議会の企画・立案、実践事例集の作成及び事業の総括

(4) 「ふくしま放射線教育・防災教育実践実践事例」の作成と義務教育課ホームページへの掲載

ア 掲載者 福島県教育委員会
イ 掲載 令和2年3月

6 防災教育

(地域と共に創る放射線・防災教育推進事業)

地域の自然環境、災害や防災について正しい知識を身に付け、災害発生時における危険を理解し、状況に応じた確かな判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができたり、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができたりする態度及び能力を児童生徒に育成するため、下記の事業等を実施した。

(1) 実践協力校

ア 小学校
鮫川村立鮫川小学校
南会津町荒海小学校
いわき市立久之浜第一小学校
イ 中学校
南会津町荒海中学校

(2) 地区別研究協議会

ア 主催 福島県教育委員会
イ 期日 県北域内 8月6日(火)
県中域内 9月10日(火)
県南域内 8月29日(木)
会津域内 9月13日(金)
南会津域内 11月26日(火)
相双域内 10月24日(木)
いわき域内 8月20日(火)

ウ 参加者数 599名

(3) 運営協議会

ア 主催 福島県教育委員会
イ 期間 4月～1月(3回)
ウ 参加対象者 本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者、放射線教育・防災教育推進委員
エ 内容 各種放射線教育・防災教育研究協議会の企画・立案、実践事例集の作成及び事業の総括

(4) 「ふくしま放射線教育・防災教育実践実践事例」の作成と義務教育課ホームページへの掲載

ア 掲載者 福島県教育委員会
イ 掲載 令和2年3月

(5) 「防災個人カード」の作成と配付

ア 発行者 福島県教育委員会
イ 発行 令和元年6月
ウ 部数 30,000部

7 道徳教育

(1) 道徳教育

ア 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修

(ア) 主催 中央指導者研修
独立行政法人教職員支援機構
ブロック別指導者研修
独立行政法人教職員支援機構、
秋田教育委員会
(イ) 会場 中央：独立行政法人教職員支援機構
ブロック：パーティーギャラリーイヤタカ
(秋田市)

(ウ) 期日
中央指導者研修 令和元年年5月13日～17日
令和2年1月20日～1月24日
ブロック別指導者研修 令和元年8月19日～8月21日
(中央指導者研修)

氏名	勤務先	職名
甲高 乾	いわき教育事務所	指導主事
佐藤 倫子	福島市教育委員会	指導主事
大塚 欣之	郡山市教育委員会	指導主事
千葉健太郎	いわき市教育委員会	指導主事

氏名	勤務先	職名
白石 修子	田村市立大越小学校	校長
蓮沼 純	郡山市立日和田中学校	教諭
草野 絵里	郡山市立桑野小学校	教諭
織田島賢嗣	楡葉町立楡葉中学校	教頭

〈ブロック別指導者研修〉

氏名	勤務先	職名
吉田 英俊	猪苗代町立長瀬小学校	校長
大塚 雄一	泉崎村立泉崎中学校	教頭
伊藤 武徳	南会津教育事務所	指導主事
小杉 誠	県立安達高等学校	教諭
飯塚 真穂	いわき市立中央台南中学校	教諭
山内 崇司	福島市立福島第二中学校	教諭

イ 小学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む授業の充実」

(イ) 主催

福島県小学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

各地区ごとに設定

ウ 中学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「人間としての生き方についての考えを深める道徳の学びはどうすればよいか」
～自己を見つめ、ものごとを多面的・多角的に考えるための学習活動の工夫～

(イ) 主催

福島県中学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

各地区ごとに設定

(2) 道徳教育総合支援事業

ア 趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教育の充実を図る。

イ 福島県道徳教育推進協議会

年2回開催（6月5日、2月13日）

ウ 道徳教育地区別推進協議会

各事務所ごとに設定、1回開催

エ 道徳教育推進校

小学校3校、中学校3校、高等学校1校

オ 「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会

各事務所ごとに設定、1回開催

カ 道徳教育リーフレット等の作成

「道徳のとびら」（保護者、地域住民及び教職員向け）、
「道徳のかけ橋」「道徳の礎」（教職員向け）

(3) 人権教育

ア 人権教育研究開発事業

○ 趣旨

人権意識を培うための学校教育の在り方について幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。

○ 推進地域

会津坂下町（会津坂下町教育委員会）幼・小・中学校（2園3校）

○ 研究テーマ

互いのよさを認め、尊重し合う子どもの育成
～自分も他の人も大切にし、安心して過ごせる園・学校をめざして

○ 研究期間

平成30・31年度

イ 人権教育指導者養成研修

○ 主催 独立行政法人教職員支援機構

○ 期日 令和元年7月16日～19日

○ 会場 独立行政法人教職員支援機構

○ 参加者 会津坂下町立坂下東小学校 教諭 佐藤 健旬
会津坂下町立坂下中学校 教諭 内海 淳

(4) 「モラル・エッセイ」コンテスト

ア 趣旨

モラルやマナー、いのち、家族、人との絆など、心温まるちょっといいお話、今伝えたいメッセージ等を募集し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの道徳的実践力を養うとともに、県民一丸となって「生きる力」を身に付ける機会とする。

イ 応募期間

令和元年7月1日～8月30日

ウ 応募数

中学校 1244点

高等学校 14点

一般 22点

エ 受賞者

【中学校】

最優秀賞 県立会津学鳳中学校 2年 加藤 碧唯

優秀賞 伊達市立桃陵中学校 1年 柳沼佳奈実

二本松市立二本松第三中学校 3年 守谷 花音

【高等学校】

最優秀賞 県立安達高等学校 2年 根本 有夢

優秀賞 県立安達高等学校 2年 高橋 星加

県立相馬農業高等学校 3年 青田 美桜

【一般】

最優秀賞 郡山市在住 村松 龍

優秀賞 耶麻郡猪苗代町在住 渡部 文子

南会津郡南会津町在住 渡部 百枝

8 特別活動

(1) 県小学校教育研究会特別活動部会

ア 主催 県小学校教育研究会

イ 研究主題

様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方

ウ 県研究協議会

○ 期日 令和元年10月11日(金)

○ 会場 万葉ふれあいセンター

(2) 県中学校教育研究会特別活動部会

ア 主催 県中学校教育研究会

イ 研究主題

学校の創意工夫を生かし、深い学びを通してよりよい人間関係を築こうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。

ウ 県研究協議会

○ 期日 令和元年10月9日(水)

○ 会場 白河市立大信中学校

9 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

ア 生徒指導研究推進協議会

国立教育政策研究所主催

○ 期日 令和元年6月14日

○ 会場 文部科学省講堂

○ 参加者 県教育庁義務教育課

主任指導主事 西牧 泰彦

郡山市教育委員会

指導主事 児玉 剛明

いわき市教育委員会

指導主事 丹野 英雄

イ 生徒指導指導者養成研修

○ 期日 令和元年7月1日～7月5日

○ 会場 独立行政法人教職員支援機構

○ 参加者 田村市立船引南小学校

教諭 鈴木 豪展

郡山市立郡山第七中学校

教諭 影山 暁

ウ 教育相談指導者養成研修

○ 期日 令和元年6月4日～6月7日

○ 会場 独立行政法人教職員支援機構

○ 参加者 郡山市立郡山第六中学校

教諭 伊藤 慧

いわき市総合教育センター

指導主事 泉 翔子

(2) 進路指導・キャリア教育

ア キャリア教育指導者養成研修(第2回)

(ア) 主催 独立行政法人教職員支援機構、富山県教育委員会

(イ) 会場 パレブラン高志会館

(ウ) 期間 令和元年8月26日(月)～8月30日(金)

(エ) 参加者

桑折町立醸芳小学校 教頭 羽染 聡

郡山市立明健小学校 教諭 鈴木 泰宏

須賀川市立第二中学校 教諭 榎原 純子

福島県立白河高等学校 教諭 飛澤 恒

いわき市総合教育センター指導主事 鈴木 賢一

10 幼稚園教育

令和元年度公立幼稚園数は、133園であった。学級数は372学級であったが、東日本大震災及びその後の原子力発電所事故の影響による幼児数の減少も影響し、少人数保育になっているところが多い。県全体の公立幼稚園平均学級園児数は、16.2人である。

幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育委員会、福島県国公立幼稚園・こども園協議会及び公益社団法人福島県私立幼稚園連合会等の協力を得て、次の事業を実施した。

(1) 幼稚園教育課程研究協議会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日

県北域内 9月25日(水)

県中域内 9月12日(木)

県南域内 9月26日(木)

会津・南会津域内 10月2日(水)

相双域内 10月9日(水)

いわき域内 8月23日(金)

ウ 内容

○ 幼稚園教育要領の理解に関する講義

○ 園の体力向上に関する講義

○ グループ別協議

エ 参加者数 248名(7地区合計)

(2) 幼児教育実技研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 令和元年7月29日(月)～7月31日(水)

ウ 会場 福島大学附属小学校

エ 受講者 のべ354名(3日間合計)

(3) 福島県幼稚園等新規採用教員研修

ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会

イ 会場 教育センターが定めた場所、勤務園、参観を希望する幼稚園、保育所、小学校

ウ 日数 園外研修(教育センター) 2泊3日

〃 (各教育事務所) 3日間

〃 (幼稚園、保育園、小学校参観) 3日間

〃 (勤務園) 10日間

エ 参加者 研修対象者 公立62名 私立91名 計153名

オ 内容 講義……幼稚園教育の現状と課題、幼児の発達と人間関係

演習……音楽をバックに楽しむ、保育と遊び相談面接の基礎

協議……乳幼児理解、保育と記録、障がいの
ある子どもたちとのかかわり
実技……からだを使って遊ぼう
参観……先進的研究実践園、小学校、保育所
実習……保育実習

(4) 幼稚園経験者研修Ⅱ

- ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会
イ 期日 年間
ウ 日数・内容・会場
- 園外研修…5日以上
 - ・ 共通研修………1日(各教育事務所)
 - ・ 保育専門研修…1泊2日(教育センター)
 - ・ 社会体験研修…1日(社会体験を行う各施設等)
 - ・ 選択研修 ……1日以上(幼児教育実技研修会等)
 - 園内研修…7日以上
 - ・ 保育力の向上に関する研修
 - ・ 教育課題の解決に向けた実践に関する研修
 - ・ パイオニア研修
- エ 参加者 研修対象者 公立15名 私立0名 計15名

(5) 幼児教育指導者養成研修

- ア 期日 令和元年10月29日(火)～11月1日(金)
イ 会場 独立行政法人教員研修センター
ウ 参加者 義務教育課 指導主事 中丸美穂

1 1 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校97校で、23.2%、中学校60校で27.7%を占め、小・中学校総数に対して24.7%の割合となっている。
このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

(1) 複式学級担当教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
イ 期日 令和元年5月28日(火)～5月29日(水)
ウ 会場 福島県教育センター
エ 講師 小学校教諭他
オ 参加者数 23名

(2) 中学校免許外教科担当教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
イ 期日 令和元年5月13日(月)～5月15日(水)
令和元年5月22日(水)～5月24日(金)
ウ 会場 福島県教育センター
エ 講師 中学校教諭他
オ 参加者数 85名

(3) 全国へき地教育研究大会

- 第68回全国へき地教育研究大会長野大会
ア 主催 文部科学省、全国へき地教育研究連盟
長野県教育委員会 他
イ 期日 令和元年10月10日(木)～10月11日(金)

- ウ 会場 全体会 サントミュージゼ 大ホール
分散会 県内2会場
分科会 県内10会場

エ 研究主題

○ 大会主題

「ふるさとに夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」～へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

オ 派遣者氏名

氏名	職	勤務先
及川 美咲	教諭	北塩原村立裏磐梯小学校
岩崎 里枝	教諭	相馬市立磯部中学校

(4) 福島県へき地・小規模学校教育研究会

平成22年度末に福島県へき地・小規模学校教育研究会が解散している。

1 2 環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さを理解させるように努めている。

(1) 「尾瀬サミット」小・中学生3県交流事業「尾瀬子どもサミット」

- ア 主催 福島県教育委員会
群馬県・群馬県教育委員会
新潟県教育委員会
イ 期日 令和元年7月30日(火)～8月2日(金)
ウ 会場 群馬県利根郡片品村「至仏山荘」
エ 参加者数 福島県 県内小・中学生18名
群馬県 県内小・中学生20名
新潟県 県内小・中学生20名
オ 活動内容 尾瀬レクチャー・フィールド活動・意見交換会
カ 知事報告会 令和元年8月2日(金) 杉妻会館

1 3 教科用図書

(1) 令和2年度使用教科用図書の採択

公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、小学校用教科用図書、道徳を除く中学校用教科用図書、学校教育法附則第9条図書を採択した。

ア 教科用図書選定審議会

- (ア) 委員 16名
(イ) 任期 平成31年4月1日～令和元年8月31日
(ウ) 開催期日 第1回 平成31年4月22日
第2回 令和元年5月23日
(エ) 会場 第1回 杉妻会館
第2回 杉妻会館

イ 教科書展示会

令和元年6月14日から14日間、県内21の会場で開催した。会場及び来会者は次の表のとおりである。

教科書センター (展示会場)	採択地区名	展示教科書 (該当に○印)			展示会場設置場所 (該当に○印)			来会者 総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター(福島市立図書館)	福島地区	○			○			245
伊達教科書センター(伊達市立図書館)	川俣・伊達・安達地区		○		○			102
二本松教科書センター(二本松市文化センター)	〃		○		○			84
郡山教科書センター(郡山市中央図書館)	郡山地区	○			○			240
須賀川教科書センター(文化の森てんえい)	岩瀬地区		○			○		30
〃 (須賀川市中央図書館)	〃		○		○			143
石川教科書センター(石川中学校)	石川地区		○		○			91
三春教科書センター(田村市図書館)	田村地区		○		○			93
〃 (三春小学校)	〃		○		○			40
〃 (小野町 文化の館)	〃		○		○			17
西白河教科書センター(白河市立図書館)	西白河・東白川地区	○			○			239
東白川教科書センター(棚倉町立図書館)	〃	○			○			98
会津若松教科書センター(会津若松市歴史資料センター)	会津地区	○			○			31
喜多方教科書センター(喜多方第一小学校)	〃	○			○			19
会津坂下教科書センター(坂下南小学校)	〃	○			○			24
南会津教科書センター(南会津町役場)	〃		○		○			25
南会津教科書センター(南会津中学校)	〃		○			○		12
相馬教科書センター(南相馬市立中央図書館)	相馬地区	○			○			243
双葉教科書センター(富岡町文化交流センター)	双葉地区		○		○			45
いわき教科書センター(中央台南小学校)	いわき地区		○		○			85
県立図書館			○				○	
合 計	(展示会場21箇所) (採択地区11地区)	8	13		18	2	1	1906

ウ 令和2年度使用小学校教科書採択一覧 (採択1年目)

採択地区	種目	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	保健	英語	道徳
福島		東書	東書	東書	帝国	東書	啓林館	東書	教芸	日文	開隆堂	東書	東書	学研
川俣・伊達・安達		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書	東書	学研
郡山		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	開隆堂	学研	東書	学研
田村		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	光村	光文
岩瀬		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	東書
石川		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	光村	光文
西白河・東白川		光村	光村	東書	帝国	東書	教出	東書	教出	開隆堂	東書	東書	東書	光文
会津		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	学研
相馬		光村	光村	東書	帝国	教出	東書	東書	教芸	日文	東書	東書	東書	光文
双葉		光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書	東書	光文
いわき		光村	東書	教出	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書	東書	東書

エ 令和2年度使用中学校教科書採択一覧（採択1年目）

採択地区	種目	国語	書写	社会 (地理的 分野)	社会 (歴史的 分野)	社会 (公民的 分野)	地図	数学	理科	音楽 (一般)	音楽 (器楽 合奏)	美術	保健 体育	技術 ・家庭 (技術)	技術 ・家庭 (家庭)	英語	道徳
福島		光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	光村
川俣・伊達・安達		光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	光村
郡山		光村	光村	帝国	帝国	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書	東書
田村		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教芸	日文	東書	東書	開隆堂	東書	東書
岩瀬		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
石川		光村	光村	東書	帝国	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書	東書
西白河・東白川		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	開隆堂	東書	日文
会津		光村	光村	東書	東書	帝国	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	日文
相馬		光村	光村	帝国	東書	帝国	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
双葉		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書	東書
いわき		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	教出

(2) 教科用図書無償給与

平成30年度も義務教育諸学校的全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。また、平成31年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適正かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期 日	会 場	参集範囲
平成31年2月12日	福島県教育センター	県 北
平成31年2月5日	郡山合同庁舎	県 中
平成31年2月4日	白河合同庁舎	県 南
平成31年2月7日	ユースピアゆがわ	会 津
平成31年2月8日	南会津合同庁舎	南会津
平成31年2月1日	相双保健福祉事務所	相 双
平成31年2月13日	いわき合同庁舎	いわき

14 教育研究団体

(1) 福島県国公立幼稚園・こども園協議会

ア 研究主題（令和元年度）

協議 主題2	幼児理解に基づいた評価の在り方について
協議 主題4	障害のある幼児などへの指導や、障害のある幼児時児童生徒との「交流及び共同学習」の推進について
協議 主題6	幼稚園における教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動について

イ 組織及び財政の状況

- 会 長 白石 昌子（福島大学附属幼稚園長）
- 会員数 758名
- 令和元年度予算額 2,299,450円
- 上記のうち補助金 なし

ウ 主な事業

- 福島県国公立幼稚園・こども園協議会第1回委員
(ア) 期日・会場
平成31年4月24日(水) 福島市もちづり学習センター
- 研究主題研修会
(ア) 期日・会場
令和元6月5日(水) 福島市吾妻学習センター
- (イ) 講師 福島県教育庁義務教育課指導主事
- 地区別ブロック研究会

参集地区	期 日	会 場
県北	10月17日(木)	東和文化センター 他
県中	10月30日(木)	船引南小体育館 他
県南	10月16日(水)	矢吹町立中央幼稚園
会津・南会津	10月18日(金)	喜多方プラザ 他
相双	10月25日(金)	相馬市立飯豊幼稚園
いわき	10月24日(木)	汐見が丘幼稚園 他

※県北ブロック、相双ブロックについては、台風影響により中止

(2) 福島県小学校教育研究会

ア 基本主題（令和元年度～令和3年度）

- (ア) 「児童自らあらゆる他者と豊かにかかわり、未来社会の創り手として必要な力をはぐくむ授業の充実」

イ 各研究部研究主題

研究部	研究主題
国 語	言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める指導はどうあればよいか。
社 会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科の授業はどうあればよいか。

研究部	研究主題
算 数	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、算数を学ぶ楽しさやよさを実感し、生活や学習に主体的にかかわる子どもの育成
理 科	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成する授業の充実
生活・総合	人々・社会・自然に進んでかかわり、自らの考えを生かして学び合い、深い学びを実感できる子どもの育成
音 楽	多様な音楽活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽に親しむ子どもの育成
図画工作	児童一人一人が造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を發揮して、表現や鑑賞の活動を行い、つくり出す喜びを味わうことのできる図画工作科の指導
家 庭	家族の一員として日常生活の課題を解決する力を養い、家族や地域とかかわりながら、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度をはぐくむ授業の充実
体 育	体育や保健の見方・考え方を働かせる学びを通して、心と体の高まりを実感できる子どもの育成
道 徳	自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度をはぐくむ授業の充実
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方

ウ 組織及び財政の状況

(ア) 会長 渡邊 和宏 (郡山市立小原田小学校)

(イ) 会員数 5,447名

(ウ) 令和元年度決算額 4,781,838円

エ 主な事業

○ 研究協議会

(ア) 主催 福島県小学校教育研究会

(イ) 共催 福島県教育委員会・開催地区関係市町村教育委員会

(ウ) 期日・会場

a 地区研究協議会 各地区
各地区の計画による

b 県研究協議会 10月8日(火)～10月30日(水)
県内11会場
(台風19号のため、国語科、生活・総合は中止)

(エ) 指導助言者 指導主事等

(3) 福島県中学校教育研究会

ア 研究主題

(7) 基本主題

「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」

イ 各部研究主題

研究部	令和元年度の研究主題・研究副主題
国 語	言葉による見方・考え方を働かせ、社会生活に生きて働く言葉の力を身に付けさせるための指導はどうすればよいか。 R元 「書くこと」の領域における指導の工夫
社 会	主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育成する社会科の指導はどうすればよいか。 R元 社会的事象について、根拠を基に説明する力を育てる授業の工夫
数 学	数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R元 思考力・判断力・表現力等を育成する指導の工夫
理 科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 R元 自然の事物・現象についての理解を深め、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる学習活動の工夫
音 楽	感性を働かせ、様々な音楽と豊かに関わる資質・能力を育むための指導はどうすればよいか。 R元 音楽的な見方・考え方を基にした協働的な学習指導の工夫
美 術	造形活動を通し、多様な価値観や豊かな創造力を育むことで、自己実現の喜びを味わわせる美術教育はどうすればよいか。 R元 多様な価値観の醸成を支援する指導の工夫
保健体育	生涯を通じて心身の健康を保持増進するとともに、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか。 R元 運動課題の合理的な解決に向けて、考えたことを他者に伝える力を育む指導の工夫 (体育分野)
技術・家庭	技術や生活の営みに係る見方・考え方を働かせ生活や社会の中から主体的に問題を見出し、解決する力を育成するための指導はどうすればよいか。 R元 主体的・対話的活動を通じて、課題解決にせまる展開の工夫
英 語	目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか。 R元 4技能5領域を統合的に活用する指導の工夫

研究部	令和元年度の研究主題・研究副主題
道徳	人間としての生き方についての考えを深める 道徳の学びはどうすればよいか。 R元 自己を見つめ、ものごとを多面的・多角的に考えるための学習活動の工夫
特別活動	学校の創意工夫を生かし、深い学びを通してよりよい人間関係を築こうとする生徒を育む指導はどうすればよいか。 R元 生徒会の一員として、よりよい集団づくりに参画するための工夫

ウ 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 島貫 条司 (福島市立岳陽中学校)
- (イ) 会員数 3,025 名
- (ウ) 令和元年度の決算額 7,325,741 円

エ 主な事業

- 研究協議会
- (ア) 主催 福島県中学校教育研究会
- (イ) 共催 福島県教育委員会
- (ウ) 期日・会場
 - a 支部研究協議会 各支部
 - b 県研究協議会 10月9日(水)
県内12会場
- (エ) 指導助言者 指導主事等

(4) 福島県小学校長会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 佐々木 義通 (伊達市立保原小学校)
- (イ) 会員数 416 名
- (ウ) 令和元年度の決算額 15,426,208 円

イ 主な事業

- (ア) 第48回福島県小学校長会研究協議会いわき大会
- (イ) 開催期日 令和元年7月22日(月)
- (ウ) 会場 ホテル ハワイアンズ
- (エ) 参加者 431 名

(5) 福島県中学校長会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 佐藤 晃 (福島市立福島第四中学校)
- (イ) 会員数 218 名
- (ウ) 令和元年度の決算額 8,780,033 円

イ 主な事業

- 平成31年度小・中合同開会式、第69回福島県中学校長会総会
- (ア) 開催期日 4月17日(水)
- (イ) 会場 福島県教育会館
- 第47回福島県中学校長会研究協議会
- (ア) 開催期日 各支会の計画による
- (イ) 会場 各支会15会場

(6) 福島県公立小・中学校教頭会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 三品 勝彦 (福島市立信夫中学校)
- (イ) 会員数 643 名
- (ウ) 令和元年度の決算額 12,085,024 円

イ 主な事業

- 令和元年度福島県公立小・中学校教頭会総会及び研修会
- (ア) 開催期日 5月13日(月)
- (イ) 会場 福島県教育会館

(7) 福島県学校図書館協議会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 湯田千賀子 (郡山市立桜小学校)
- (イ) 加盟校 645校
- 令和元年度の決算額 990,707 円

イ 主な事業

- (ア) 第39回東北地区学校図書館研究大会・山形大会
- (イ) 研究主題 「豊かな心を育み、深い学びを支える学校図書館の創造」
- (ウ) 開催期日 令和元年11月7日(木)～8日(金)
- (エ) 会場 山形県酒田市立十坂小学校
山形県酒田市立東部中学校
- (オ) 参加人数 9 名

(8) 福島県公立小中学校事務研究会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 加勢 法子
- (イ) 会員数 564 名
- (ウ) 令和元年度の予算額 4,534,543 円

イ 主な事業

- 学校事務研修会
- 全体研修
- 元福島県公立小中学校事務研究会会長 三瓶 京子
- 「福島県公立小中学校事務研究会40年のあゆみ」
- 研修Ⅰ(講話)
- 福島県教育庁義務教育課 主任指導主事 阿部 洋己
- 「福島県の教育課題とそれを踏まえた本県の教育施策」
- 研修Ⅱ(講演)
- 明星大学教育学部教育学科 常勤講師 神林 寿幸
- 「働き方改革時代における学校事務職員の役割と期待」
- ・開催期日 令和元年5月22日(水)
- ・会場 郡山ユラックス熱海
- ・参加人数 役員・代議員152名、総会参加者148名、研修会参加者239名

第4節 国際化・科学技術の進展等への対応

1 中学生・高校生の科学・技術研究論文

野口英世賞募集

(1) 募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖 野口」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

令和元年9月2日(月)～9月10日(火)

(3) 応募数

中学校 36点(6校)

高等学校 16点(11校)

(4) 審査会

令和元年10月17日(木) 自治会館 801会議室
(審査員長)

福島大学教授 小沢喜仁
(審査員)

福島大学准教授 高安徹

福島大学准教授 兼子伸吾

郡山女子大学准教授 影山志保

県中学校教育研究会理科部長 石綿厚

桜の聖母学院中学校・高等学校長 高城友治

県高等学校教育研究会理科部会長 井関和明

(5) 受賞者

【中学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
最優秀賞	村岡 慧	会津若松市立第一中学校	マイクロプラスチック汚染の研究
入選	木口 幸音	福島大学附属中学校	ハチミツの「抗菌性」と「保湿性」の考察
	飯田 賢	いわき市立平第一中学校	身近なもので納豆作り 2

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
入選	福島市立立子山中学校	私たちの住む立子山の放射線量 ～東日本大震災から8年後の今～

【高等学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
優秀賞	松木 大知	福島県立葵高等学校	会津メダカから見る遺伝的攪乱の研究 ～ご当地メダカを守れ～

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
優秀賞	福島県立会津高等学校 物理部摩擦班	動摩擦力の起因についての考察
入選	福島県立福島東高等学校 科学部	光条件の変化がネズミモチの陽葉と陰葉の気孔開度に与える影響について
	福島県立郡山商業高等学校 科学部	発光バクテリアの研究
	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探求部	ダンゴムシの腸内共生細菌の研究 ～木材成分分解菌について～

2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

朝河貫一賞募集

(1) 募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校（義務教育学校後期課程を含む。）・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

令和元年9月2日（月）～9月10日（火）

(3) 応募数

中学校 27点（14校）

高等学校 38点（7校）

(4) 審査会

令和元年10月10日（木） 自治会館 301会議室

（審査員長）

郡山女子大学非常勤講師 ジョン・ティルマント

（審査員）

福島学院大学認定こども園

カウンセラー 玄 永 牧 子

福島大学准教授

真歩仁 しょうん

福島民報社論説委員会委員長

安 田 信 二

福島民友新聞社編集局次長

佐 藤 掌

福島県中学校長会広報部会長

古 川 豊

福島県高等学校長協会県北支部長・

普通部会長 吉 村 淳

(5) 受賞者

【中学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	鴻巣 桜子	白河市立白河第二中学校	2	豊かな日本の見えない問題
優秀賞	佐藤 瑠吏	猪苗代町立東中学校	2	Make together
	金成 博之	いわき市立湯本第一中学校	2	二つの国で感じたこと
	佐久間 瑠乃	本宮市立白沢中学校	3	日本にできること
	渡邊 和泉	二本松市立二本松第一中学校	2	文化の違いを超えて
	小熊 法恵	会津若松市立一箕中学校	2	炭酸水と私
入選	河原 彩乃	本宮市立本宮第二中学校	3	英国訪問から学んだこと
	浦山 暁太郎	二本松市立小浜中学校	2	相互理解

【高等学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	山川 蒼奈	福島県立福島南高等学校	1	伝えること、つなげること
優秀賞	錫谷 智	福島県立福島高等学校	1	Think Ahead
	國井 花	福島県立あさか開成高等学校	1	私たちのエネルギー利用の在り方
	吉田 陽菜多	福島県立あさか開成高等学校	1	性の多様性
	横田 大河	福島県立葵高等学校	2	「グローバル」人材を目指して
	戸川 華恵	福島県立福島南高等学校	1	For the Future ～見えない壁～
入選	藤川 芽衣	福島県立安積高等学校	1	直接会話力の大切さ
	八重崎 南菜	福島県立田村高等学校	1	私たちに出来ることは

第6章 高等学校教育

第1節 概要

今年度は、高等学校において、アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて生徒の学力向上を図り、将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成し、教員研修及び生徒指導等に取組んだ。

(1) 「アクティブ・ラーニングによる学力向上推進事業」

ア スペシャリスト育成ミッション支援事業

- 対象校 20校
- 各校の取組内容
 - ・ 生徒の基礎学力を高める取組
 - (ア) 学ぶ意欲を向上させ主体的に学習に取り組む態度を育む講演会やガイダンス
 - (イ) 指導力向上のための校内研修の活性化
 - ・ 3年間の計画的な進学指導体制の充実を図る取組
学力向上連絡協議会の開催
 - ・ 生徒・保護者・教員・地域をつなぐ取組
 - (ア) 地域人材を活用した職業研究講話
 - (イ) 地域貢献活動
 - (ウ) 進路便りや年間指導計画表の作成・配布
 - ・ 社会人としての在り方についての理解を深める取組
 - (ア) 社会人としての在り方についての講演会
 - (イ) 職場見学会（選択）
 - (ウ) デュアルシステム等の実施（選択）

イ 大学進学ミッション支援事業

- 対象校 18校
- 各校の取組内容
 - ・ 思考力・判断力・表現力等の養成講座
 - ・ 教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導
 - ・ 生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施
 - ・ 社会人としての在り方についての理解を深める講話
 - ・ 大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習
 - ・ 大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）
 - ・ 卒業生（大学生等）による講話
 - ・ 保護者を交えた進学勉強会
 - ・ 進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布
- 研究会等の開催
 - ・ 学力向上のための教科指導力向上研究会
アクティブ・ラーニングの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究
 - ・ 学力向上連絡協議会
アクティブ・ラーニングの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための協議

ウ オールふくしまリーダー育成プロジェクト

- 対象 県立高等学校1・2年生
- 実施内容
 - (ア) 1年生対象 2泊3日の以下の内容の学習合宿を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
 - ・ 教員による入試問題研究講座（国語・数学・英語）
 - ・ 予備校講師等による難関大合格に向けたハイレベル講座（国語・数学・英語）
 - ・ 生徒によるグループ協議とプレゼンテーション等
 - ・ 社会人等による講演会等

- ・大学生との交流会、パネルディスカッション等
- (イ) 2年生対象：2日間の地区別学習セミナーを県内4会場で開催（延べ8日間開催）
 - ・教員による入試問題研究講座（国語・数学・英語）
 - ・大学教授・予備校講師等による講座
 - ・生徒によるグループ協議等
- (2) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。
- (3) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハートサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

第2節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

区分		年度										元
		22	23	24	25	26	27	28	29	30		
全日制	本校	83	83	83	83	83	84	84	79	79	79	
	分校	5	5	5	5	5	5	5	3	2	2	
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(注)募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

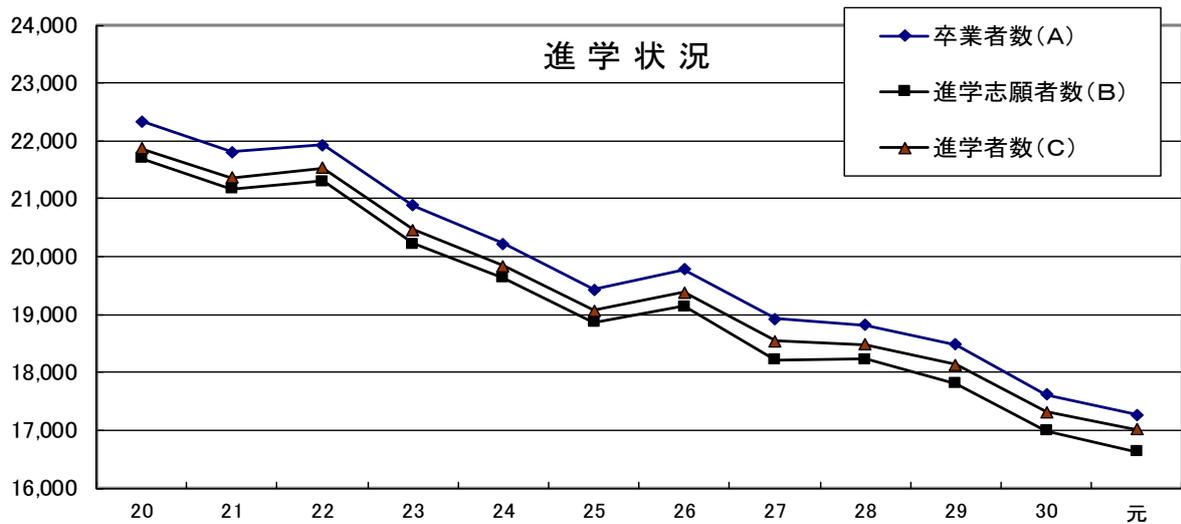
区分	年度											
	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元
卒業生(A)	22,333	21,807	21,930	20,887	20,220	19,427	19,782	18,929	18,824	18,482	17,622	17,276
進学希望者数(B)	21,704	21,176	21,305	20,219	19,659	18,873	19,150	18,215	18,232	17,817	16,990	16,638
進学者数(C)	21,873	21,371	21,529	20,467	19,835	19,072	19,388	18,548	18,487	18,130	17,314	17,019
進学志願率(B/A)	97.2%	97.1%	97.2%	96.8%	97.2%	97.1%	96.8%	96.2%	96.9%	96.4%	96.4%	96.3%
進学率(C/A)	97.9%	98.0%	98.2%	98.0%	98.1%	98.2%	98.0%	98.0%	98.2%	98.1%	98.3%	98.5%
入学率(C/B)	100.8%	100.9%	101.1%	101.2%	100.9%	101.1%	101.2%	101.8%	101.4%	101.8%	101.9%	102.3%

(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業者数は前年度より346名減少し、進学率は前年度より0.2ポイント上昇、入学率は0.4ポイント上昇した。令和元年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制	15,885名(93.3%)
高等学校定時制	272名(1.6%)
高等学校通信制	481名(2.8%)
高等学校別科	0名(0.0%)
高等専門学校	216名(1.3%)
特別支援学校高等部	165名(1.0%)

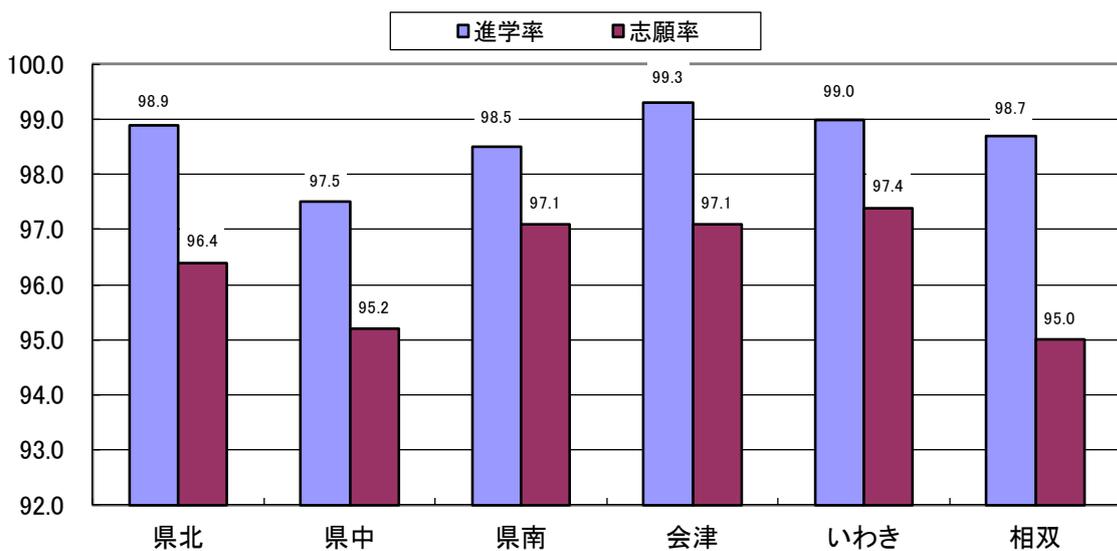
ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移



○高校進学率 (%)

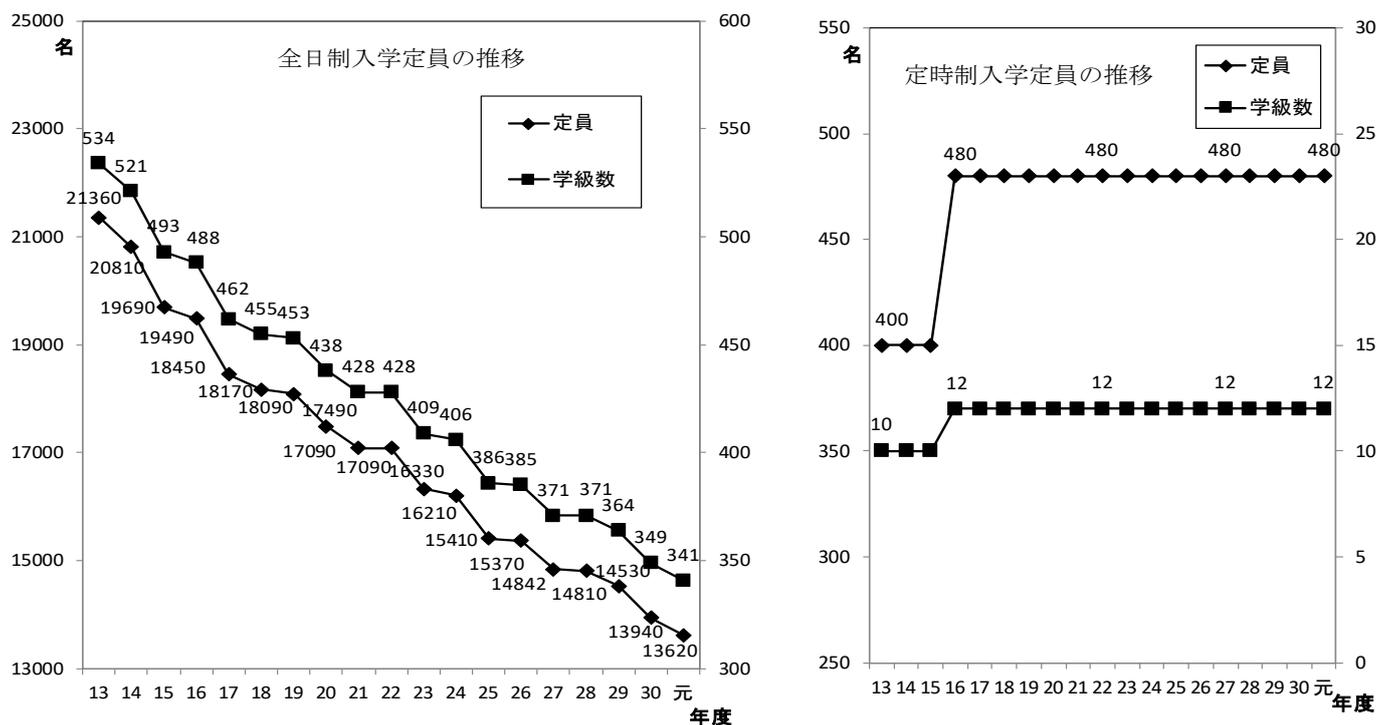
年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元
全国	97.0	96.9	97.0	97.3	97.5	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7	98.8	98.8	98.8
本県	96.3	96.0	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2	98.1	98.3	98.5

イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B定員	B/A (%)	C志願者数	C/A (%)	C/B (%)	D入学者数	D/C (%)
22	21,930	17,090	77.9	18,996	86.6	111	16,599	87.4
23	20,887	16,330	78.2	17,725	84.9	109	15,460	87.2
24	20,220	16,210	80.2	16,961	83.9	105	15,090	89.0
25	19,427	15,410	79.3	16,231	83.5	105	14,307	88.1
26	19,782	15,370	77.7	16,589	83.9	108	14,421	86.9
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	106	13,961	88.8
28	18,824	14,810	78.7	15,598	82.9	105	13,945	89.4
29	18,482	14,530	78.6	15,213	82.3	105	13,478	88.6
30	17,622	13,940	79.1	14,439	81.9	104	12,839	88.9
元	17,276	13,620	78.8	13,855	80.2	102	12,426	89.7

(5) 県立高等学校生徒数（令和元.5.1現在）

学科の区分		課程	全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
				学年制	単位制	計			
普通科	男		8,781	120	294	414		9,195	528
	女		9,928	89	289	378		10,306	517
	計		18,709	209	583	792		19,501	1,045
農業に関する学科	男		1,348					1,348	
	女		1,423					1,423	
	計		2,771					2,771	
工業に関する学科	男		5,207	52		52		5,259	
	女		579	4		4		583	
	計		5,786	56		56		5,842	
商業に関する学科	男		1,527					1,527	
	女		2,789					2,789	
	計		4,316					4,316	
家庭に関する学科	男		17					17	
	女		41					41	
	計		58					58	
水産に関する学科	男		320				41	361	
	女		75				1	76	
	計		395				42	437	
理数に関する学科	男		202					202	
	女		180					180	
	計		382					382	
文理に関する学科	男		323					323	
	女		563					563	
	計		886					886	
国際文化に関する学科	男		23					23	
	女		101					101	
	計		124					124	
国際・スポーツに関する学科	男		0					0	
	女		0					0	
	計		0					0	
国際科学に関する学科	男		125					125	
	女		474					474	
	計		599					599	
英語に関する学科	男		37					37	
	女		79					79	
	計		116					116	
体育に関する学科	男		94					94	
	女		21					21	
	計		115					115	
美術に関する学科	男		14					14	
	女		104					104	
	計		118					118	
総合学科	男		1,480					1,480	
	女		2,220					2,220	
	計		3,700					3,700	
合計	男		19,498	172	294	466	41	20,005	528
	女		18,577	93	289	382	1	18,960	517
	計		38,075	265	583	848	42	38,965	1,045

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	年度 学校	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元
		入学者	安積第二高校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
あさか開成高校	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
郡山萌世高校	262		278	290	216	197	152	133	124	99	87	71	86
計	262		278	290	216	197	152	133	124	99	87	71	86

区分	年度 学校	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
		卒業者	安積第二高校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
あさか開成高校	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
郡山萌世高校	200		218	228	260	223	231	192	155	158	122	121	120
計	200		218	228	260	223	231	192	155	158	122	121	120

(7) 県立高等学校教職員定数の推移

区分	種別	高 等 学 校																					
		課程	全 日 制 ・ 定 時 制										通 信 制										
	職種		年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元
教員	校長		85	85	85	85	85	86	86	81	81	81											
	教諭等		3617	3523	3446	3351	3312	3223	3218	3167	3116	3047	37	37	37	36	36	36	36	34	33	28	
	養護教員		113	110	110	109	106	106	105	102	100	98											
	補充教員		148	148	144	157	153	153	145	137	131	127											
	充指導主事		34	24	23	23	23	23	23	23	23	22											
	寄宿舎指導員		5	5	5	3	3	5	6	7	8	10											
	実習助手		330	330	329	326	326	323	322	320	314	314											
	計		4332	4225	4142	4054	4008	3919	3905	3837	3773	3699	37	37	37	36	36	36	36	34	33	28	
	事務職員		262	257	256	251	249	245	247	240	232	228	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4	
その他の職員	技能員																						
	学校司書		62	58	57	55	53	53	53	53	52	52											
	用務員		54	53	52	49	48	45	41	40	39	42											
	ボイラー技師		14	11	10	11	10	7	6	6	5	6											
	栄養士		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4											
	調理給食員		4	5	4	4	3	3	3	3	3	3											
	計		138	131	127	123	118	112	107	106	103	107											
練習船	技能職員		9	9	9	9	9	9	9	9	9												
	その他の職員		13	13	13	13	13	13	13	13	13												
	計		22	22	22	22	22	22	22	22	22												
	合 計		4754	4635	4547	4450	4397	4298	4281	4205	4130	4056	43	43	43	42	42	42	42	40	39	32	

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成 30 年度の高等学校教職員定数（補充教員は含まない）は、前年度比 70 人減の 4,038 人となった。このうち、教諭等は、前年度比 52 人減の 3,149 人である。

また、特別支援学校については、前年度比 35 人増の 1,658 人となった。このうち教諭等は前年度比 34 人増の 1,416 人となった。

ア 新採用(教諭)について

令和元年度は 42 名(国語 4 名・地理歴史 9 名・数学 1 名・理科 2 名・保健体育 3 名・音楽 2 名・美術 2 名・書道 1 名・英語 2 名・家庭 2 名・農業 5 名・工業 6 名・商業 2 名・水産 1 名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

令和元年度に実施した令和 2 年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数 40 名程度に対して、高等学校志願者は前年度比 119 名減の 478 名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は 45 名(前年度比 1 名増)となり、大学院猶予者 3 名を除く 42 名(前年度同数)が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から 9 名、教育庁関係から現場復帰による 10 名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に 3 年以上勤務する者等を含めて 456 名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成 30 年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

- (ア) 過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。
- (イ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。
- (ウ) 優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数(3 年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。
- (エ) 同一校には、原則として、最低 3 年は勤務するものとする。

(オ) 2 親等以内の者(姻族を含む。)は、原則として、同一校勤務を避ける。

(カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

II 異動基準

ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

(ア) 採用後引き続き同一校に 3 年以上勤務した者(以下「初任者」という。)

(イ) 異動 2 校目において 3 年以上勤務した者(以下「若年者」という。)

ただし、(ア)、(イ)いずれの場合も、原則として 3 年以上 5 年以内で異動させるものとする。

(「若年者」については平成 21 年度以降の採用者から適用する。)

(ウ) 同一校に 8 年以上勤務した者

(以下「永年者」という。)

ただし、中通り地域の 4 校(湖南・埴工業・修明・修明鮫川)、会津地域の 4 校(川口・田島・南会津・只見)及び浜通り地域の 2 校(浪江津島・相馬農業飯館)に 3 年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの 3 地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定める I・II 群に分類し、以下により異動を促進する。

(ア) 原則として、採用後 20 年以内に 3 地域の学校に勤務するものとする。

(イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、II 群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則として I 群の学校に勤務するものとする。

ただし、II 群普通系から II 群専門系への異動、II 群専門系勤務者のうち直近の勤務が I 群校の者の II 群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においては II 群普通系内の異動も可とする。

(ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ 平成 20 年度以前の採用者について

平成 30 年度までは次の基準(以下「旧基準」という。)を準用し、下記の(イ) a を満たす者は、上記イ(ア)の規定を満たすものとする。

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

a 初任者

b 永年者

(イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、地区ごとに所在する学校の地理的特殊性等を考慮して、別表②に定めるA・B・C3群に分類し、以下により異動を促進する。

a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。

(a) 採用後15年以内に2地区以上の学校に勤務する。

(b) A・B2群の学校に勤務する。ただし、A群については、採用後15年以内とする。

b 県南地区の4校(湖南・塙工業・修明・修明鮫川)、会津地区の4校(川口・田島・南会津・只見)及び相双地区の3校(浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館)は、それぞれ1地区とみなす。

c 本宮は平成16年度より県北地区とし、平成16年度以降の転入・在籍者から適用する。

d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。

e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。

(a) A群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。

(b) B群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。

(c) C群については同一市内間の異動は行わない。

f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県の視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に3年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として2に準ずるが、採用後20年以内に2地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として3年から8年とする。

b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として2年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

群		I	II	
地域・地区				
中通り	県北	福島工業(定) 福島北 川俣 梁川 保原 保原(定) 安達 二本松工業 安達東 本宮 福島中央	普通系	福島 橘 福島西 福島東 福島南
			専門系	福島商業 福島明成 福島工業
	県中	安積(御館) 湖南 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 長沼 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 郡山萌世	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成
			専門系	郡山商業 郡山北工業
	県南	光南 塙工業 修明 修明(鮫川) 白河二	普通系	白河 白河旭
			専門系	白河実業
会津		喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 猪苗代 耶麻農業 西会津 大沼 川口 坂下 会津農林 田島 南会津 只見 会津二	普通系	会津 葵 会津学鳳
		会津学鳳中学校	専門系	若松商業 会津工業
浜通り	いわき	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 遠野 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘
			専門系	平工業 平商業
	相双	浪江 浪江(津島) 富岡 双葉翔陽 ふたば未来学園 相馬農業 相馬農業(飯館) 小高産業技術 新地	普通系	双葉 相馬 原町
			専門系	相馬東

~~~~~は、平成29年4月1日から休校になった学校。

\_\_\_\_\_は、令和2年4月1日から休校になった学校。

別表② 地区・群別学校分類表

| 群<br>地区 | A                                            | B                                       | C                                                  | 特別支援学校<br>(A群校扱い)                                                                    |
|---------|----------------------------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 県北      | 福島工業(定) 川俣<br>梁川 保原(定)<br>安達東 福島中央           | 福島商業 福島明成<br>福島北 保原 安達<br>二本松工業 本宮      | 福島 橘 福島工業<br>福島西 福島東<br>福島南                        | 視覚支援(盲)<br>聴覚支援福島(聾福島)<br>大笹生支援(大笹生養護)<br>須賀川支援医大(須賀川養護医大)                           |
| 県南      | 安積(御館) 長沼<br>石川 船引<br>小野 小野(平田)<br>郡山萌世 白河第二 | 須賀川 須賀川桐陽<br>清陵情報 岩瀬農業<br>光南 白河実業<br>田村 | 安積 安積黎明<br>郡山東 郡山商業<br>郡山北工業 郡山<br>あさか開成<br>白河 白河旭 | 聴覚支援(聾)<br>郡山支援(郡山養護)<br>あぶくま支援(あぶくま養護)<br>須賀川支援(須賀川養護)<br>須賀川支援郡山(須賀川養護郡山)<br>たむら支援 |
|         | 湖南 塙工業 修明<br>修明(鮫川)                          |                                         |                                                    | 西郷支援(西郷養護)<br>石川支援(石川養護)<br>石川支援たまかわ(石川養護分校)                                         |
| 会津      | 猪苗代 耶麻農業<br>西会津 会津第二                         | 喜多方 喜多方東<br>喜多方桐桜<br>大沼 坂下<br>会津農林      | 会津 葵<br>会津学鳳<br>若松商業<br>会津工業                       | 聴覚支援会津(聾会津)<br>会津支援(会津養護)<br>会津支援竹田(会津養護竹田)<br>猪苗代支援(猪苗代養護)                          |
|         | 川口 田島<br>南会津 只見                              |                                         |                                                    |                                                                                      |
|         | 会津学鳳中学校                                      |                                         |                                                    |                                                                                      |
| いわき     | いわき海星 磐城農業<br>勿来 勿来工業 遠野<br>いわき翠の杜           | いわき総合<br>いわき光洋 湯本<br>小名浜 好間 四倉          | 磐城 磐城桜が丘<br>平工業 平商業                                | 聴覚支援平(聾平)<br>平支援(平養護)<br>いわき支援(いわき養護)<br>いわき支援くぼた(いわき養護くぼた)                          |
| 相双      | 双葉翔陽 新地                                      | 双葉 浪江 富岡<br>相馬農業<br>小高産業技術              | 相馬 相馬東<br>原町                                       | 富岡支援(富岡養護)<br>相馬支援(相馬養護)                                                             |
|         | 浪江(津島)<br>相馬農業(飯館)                           |                                         |                                                    |                                                                                      |

.....は、平成29年4月1日から休校になった学校。

.....は、令和2年4月1日から休校になった学校。

別表③

| 高校名   | 群 | 適用年度 | 高校名   | 群 | 適用年度 | 高校名   | 群 | 適用年度 |
|-------|---|------|-------|---|------|-------|---|------|
| 小野    | A | 昭和52 | 白河実業  | B | 昭和61 | 棚倉    | A | 平成10 |
| 福島明成  | B | 昭和56 | 川俣    | A | 平成2  | 東白川農商 | A | 〃    |
| 福島北   | B | 〃    | 福島商業  | B | 〃    | あさか開成 | C | 平成11 |
| いわき海星 | A | 〃    | 梁川    | A | 平成8  | 光南    | B | 〃    |
| 磐城農業  | A | 〃    | 船引    | A | 〃    | 石川    | A | 〃    |
| 勿来工業  | A | 〃    | いわき光洋 | C | 〃    | いわき光洋 | B | 平成16 |
| 双葉翔陽  | A | 〃    | 勿来    | A | 〃    |       |   |      |
| 猪苗代   | A | 昭和58 | 相馬農業  | B | 〃    |       |   |      |

**(3) 教頭複数制実施校(令和元年度実績)**

|        |       |       |         |
|--------|-------|-------|---------|
| 福島     | 橘     | 福島商業  | 福島明成    |
| 福島工業   | 福島西   | 福島東   | 保原      |
| 安積     | 安積黎明  | 郡山東   | 郡山北工    |
| 郡山     | 須賀川   | 清陵情報  | 岩瀬農業    |
| 光南     | 白河    | 白河実業  | 修明      |
| 田村     | 会津    | 葵     | 会津学鳳    |
| 会津工業   | 喜多方桐桜 | 磐城    | 磐城桜が丘   |
| 平工業    | いわき総合 | 湯本    | ふたば未来学園 |
| 小高産業技術 | 郡山萌世  |       |         |
| 視覚支援   | 聴覚支援  | 大笹生支援 | 郡山支援    |
| あぶくま支援 | 須賀川支援 | 西郷支援  | 石川支援    |
| たむら支援  | 会津支援  | 平支援   | いわき支援   |
| 富岡支援   |       |       |         |

**3 学校の設置及び統廃合****- 公立高等学校の設置・廃止等(令和2年度) -****(1) 学校の新設・廃止等**

- ア 統合に伴う学校廃止  
なし
- イ 統合に伴う学校新設  
なし
- ウ ふたば未来学園高等学校開校に伴い、避難区域にある高等学校の生徒募集休止による休校 全日制6校  
双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、富岡高等学校、双葉翔陽高等学校、相馬農業高等学校飯館校

**(2) 学級増**

なし

**(3) 学級減**

全日制6校6学級

| 課程  | 学校名  | 内 容      |
|-----|------|----------|
| 全日制 | 福島東  | 普通科1学級   |
|     | 安達   | 普通科1学級   |
|     | 安積   | 普通科1学級   |
|     | 清陵情報 | 情報電子科1学級 |
|     | 田村   | 普通科1学級   |
|     | 只見   | 普通科1学級   |

**(4) 募集停止**

全日制4校4学級

| 課程  | 学校名  | 内 容        |
|-----|------|------------|
| 全日制 | 川俣   | 機械科1学級     |
|     | 安積御館 | 普通科1学級     |
|     | 修明鮫川 | 普通科1学級     |
|     | 猪苗代  | 観光ビジネス科1学級 |

**(5) 35人学級編制**

全日制1校2学級

| 課程  | 学校名 | 内 容    |
|-----|-----|--------|
| 全日制 | 南会津 | 普通科2学級 |

**(6) 課程廃止**

なし

**(7) 学科転換・学科改編・学科新設**

なし

**(8) 学科名変更**

なし

**(9) 校名変更**

なし

**(10) 連携型中高一貫教育校**

| 課程  | 学校名     | 連携中学校                                       |
|-----|---------|---------------------------------------------|
| 全日制 | 埴工業     | 埴                                           |
|     | 田島      | 田島、荒海                                       |
|     | ふたば未来学園 | 浪江、浪江東、津島、なみえ創成、葛尾、双葉、大熊、富岡第一、富岡第二、川内、檜葉、広野 |
|     | 相馬東     | 中村第一、中村第二、向陽、磯部                             |

**(11) 併設型中高一貫教育校**

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)  
ふたば未来学園高等学校(ふたば未来学園中学校)

**(12) 定時制・通信制**

変更なし

**(13) 専攻科**

変更なし

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

#### (2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭及び養護教諭39名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

#### (3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 福島県高等学校教育課程講習会において、新高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行った。

イ 学力向上を図る。

「アクティブ・ラーニングによる学力向上推進事業」として、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施した。さらに、対象校の進路指導担当者を出席者とする学力向上連絡協議会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

#### (4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。

(オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

#### ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

#### エ 使命感の高揚

(ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。

(イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。

(ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

### (5) 教育環境の整備充実

#### ア 学習環境の整備充実

(ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。

(イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。

(ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

#### イ 学校事故防止の徹底

(ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。

(イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。

(ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

### (6) 県立高等学校入学者選抜

#### ア 基本方針

令和2年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

##### (ア) 特色選抜

特色選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、特色選抜の性格をより明確にするため、各高等学校の「志願してほしい生徒像」については、より具体的な記載を可能とする。

a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、学力検査の成績及び特色選抜に係る面接（以下「特色面接」という。）の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）、実技等（以下「特色検査」という。）の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b 特色選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多元的に評価するための資料の一つとして特色面

接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果を積極的に活用するものとする。

c 特色選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

d 合否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

##### (イ) 一般選抜

一般選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに一般選抜に係る面接（以下「一般面接」という。）を実施する高等学校においては一般面接の結果を併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

b 一般選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

c 一般面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

##### (ウ) 後期選抜

後期選抜は、前期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（併設型中高一貫教育校における高等学校においては、当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校から当該高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、前期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、前期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b 前期選抜に係る学力検査の成績は、後期選抜の資料

とはしないものとする。

- c 後期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

なお、併設型中高一貫教育校における中学校から当該中学校に係る併設型中高一貫教育校における高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

(エ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため、連携型選抜を実施する。

- a 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、特色選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとし、併設型中高一貫教育校における高等学校においては、これらの割合について、別に公告する募集定員から当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校の第3学年に在学する者（11月1日現在）の数を除いた数に対する割合とする。

なお、合否の判定に当たっては、志願者の動向や各学校・学科の実態に応じて、弾力的に対応することができる。

- b 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校の特色選抜へ出願することはできない。

- c 受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- d 志願者全員に学力検査を課す。学力検査を実施する教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、学力検査の問題作成や配点については、前期選抜と同様とする。

- e 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書の審査結果、学力検査の成績及び連携型選抜に係る面接（以下「連携型面接」という。）の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、各連携型高等学校が連携している教育課程に基づいた内容に応じた選抜方法に加え、学校の特色や学科の特性等に関

する内容に応じた選抜方法（以下これらを「連携型検査」という。）を選択して実施した場合には、それらの結果を併せて資料として選抜を行うことができるものとする。

- f 合否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、連携型面接の結果及び連携型検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

- g 連携型選抜の志願者は、出願した高等学校において一般選抜にも出願できるものとするが、その場合、各連携型高等学校は、連携型選抜、一般選抜の順位に合否判定を行う。

- h 連携型選抜に出願する者は、特色選抜との併願はできない。

イ 入学者選抜関係日程

6月7日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

7月11日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月29日 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月29日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月4日～10月11日

県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の7地区で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月18日 令和2年度入学者募集定員決定

(7) 前期選抜関係日程

2月6日～2月12日 出願書類受付

2月13日～2月17日 出願先変更

2月18日～2月19日 調査書提出

3月4日 学力検査

3月4日～3月6日 面接等

3月11日 追検査等

3月16日 合格者発表

(イ) 後期選抜関係日程

3月17日～3月18日 出願書類受付

3月19日 出願先変更

3月24日 面接等

3月25日 合格者発表

(ウ) 連携型選抜関係日程

2月6日～2月12日 出願書類受付

2月13日～2月17日 出願先変更

2月18日～2月19日 調査書提出

3月4日 学力検査

3月4日～3月6日 面接等

3月11日 追検査等

3月16日 合格者発表

(エ) 通信制の課程選抜日程

2月6日～3月27日 出願書類受付

4月3日 合格者発表(個人宛通知)

ウ ふたば未来学園高等学校の入学選抜

平成27年度入学選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。令和2年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ア) 出願時にJFAアカデミー福島又は双葉地区未来創造型リーダー育成構想(新双葉地区教育構想)ピクトリープログラムに参加している者

(イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

双葉郡浪江町立浪江中学校

双葉郡浪江町立浪江東中学校

双葉郡浪江町立津島中学校

双葉郡浪江町立なみえ創成中学校

双葉郡葛尾村立葛尾中学校

双葉郡双葉町立双葉中学校

双葉郡大熊町立大熊中学校

双葉郡富岡町立富岡第一中学校

双葉郡富岡町立富岡第二中学校

双葉郡川内村立川内中学校

双葉郡檜葉町立檜葉中学校

双葉郡広野町立広野中学校

(ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内の小学校に在籍していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を令和2年3月に卒業見込又は修了見込の者

エ 志願者数・合格者数

◇各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

(ア) 特色選抜

《全日制》

| 学科   | 入学定員   | 特色選抜定員 | 志願者数  | 志願倍率 | 合格者数  |
|------|--------|--------|-------|------|-------|
| 普通科等 | 7,230  | 1,363  | 1,139 | 0.84 | 918   |
| 農業   | 1,040  | 232    | 146   | 0.63 | 126   |
| 水産   | 160    | 64     | 25    | 0.39 | 18    |
| 工業   | 2,000  | 495    | 346   | 0.70 | 307   |
| 商業   | 1,440  | 463    | 437   | 0.94 | 381   |
| 家庭   | 40     | 14     | 1     | 0.07 | 0     |
| 総合   | 1,320  | 381    | 371   | 0.97 | 288   |
| 計    | 13,230 | 3,012  | 2,465 | 0.82 | 2,038 |

《定時制》

| 学科 | 入学定員 | 特色選抜定員 | 志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 |
|----|------|--------|------|------|------|
| 普通 | 440  | 92     | 23   | 0.25 | 7    |
| 工業 | 40   | 8      | 2    | 0.25 | 1    |
| 計  | 480  | 100    | 25   | 0.25 | 8    |

## (イ) 連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（連携型選抜）

| 学科 | 入学定員 | 連携型選抜<br>定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格内定者数 |
|----|------|-------------|------|----------|--------|
| 普通 | 80   | 32          | 27   | 0.84     | 26     |
| 工業 | 80   | 32          | 13   | 0.41     | 13     |
| 総合 | 320  | 124         | 155  | 1.25     | 123    |
| 計  | 480  | 188         | 195  | 1.04     | 162    |

## (ウ) 前期選抜、連携型選抜

## 《全日制》

| 学科   | 入学定員   | 志願者数   | 志願<br>倍率 | 合格者数   |
|------|--------|--------|----------|--------|
| 普通科等 | 7,230  | 7,204  | 1.00     | 6,383  |
| 農業   | 1,040  | 850    | 0.82     | 822    |
| 水産   | 160    | 145    | 0.91     | 135    |
| 工業   | 2,000  | 1,862  | 0.93     | 1,751  |
| 商業   | 1,440  | 1,386  | 0.96     | 1,286  |
| 家庭   | 40     | 12     | 0.30     | 11     |
| 総合   | 1,320  | 1,022  | 0.77     | 1,080  |
| 計    | 13,230 | 12,481 | 0.95     | 11,468 |

## 《定時制》

| 学科 | 入学定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格者数 |
|----|------|------|----------|------|
| 普通 | 440  | 225  | 0.51     | 187  |
| 工業 | 40   | 12   | 0.30     | 12   |
| 計  | 480  | 237  | 0.49     | 199  |

## (エ) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

| 学校名   | 学科名  | 定員  | 志願者数 | 合格者数 |
|-------|------|-----|------|------|
| 福島北   | 総合   | 若干名 | 0    | 0    |
| 福島南   | 国際文化 | 若干名 | 1    | 1    |
| あさか開成 | 国際科学 | 若干名 | 1    | 1    |
| 光南    | 総合   | 若干名 | 0    | 0    |
| 会津学鳳  | 総合   | 若干名 | 0    | 0    |
| 湯本    | 普通   | 若干名 | 0    | 0    |
| 相馬東   | 総合   | 若干名 | 1    | 1    |

## (オ) 後期選抜

## 《全日制》

| 学科   | 入学定員  | 志願者数 | 合格者数 |
|------|-------|------|------|
| 普通科等 | 847   | 168  | 148  |
| 農 業  | 218   | 28   | 23   |
| 水 産  | 25    | 8    | 4    |
| 工 業  | 249   | 23   | 21   |
| 商 業  | 154   | 19   | 16   |
| 家 庭  | 29    | 1    | 1    |
| 総 合  | 149   | 16   | 13   |
| 計    | 1,671 | 263  | 226  |

## 《定時制》

| 学科  | 入学定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|-----|------|------|------|
| 普 通 | 253  | 37   | 24   |
| 工 業 | 28   | 2    | 0    |
| 計   | 281  | 39   | 24   |

## ◇後期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

## 《全日制》

| 学科   | 入学定員   | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前期選抜<br>連携型選抜<br>合格者数 | 後 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 合格者数   |
|------|--------|--------------|---------------|-----------------------|--------------------|--------|
| 普通科等 | 7,230  | 918          | 26            | 6,383                 | 148                | 6,531  |
| 農 業  | 1,040  | 126          |               | 822                   | 23                 | 845    |
| 水 産  | 160    | 18           |               | 135                   | 4                  | 139    |
| 工 業  | 2,000  | 307          | 13            | 1,751                 | 21                 | 1,772  |
| 商 業  | 1,440  | 381          |               | 1,286                 | 16                 | 1,302  |
| 家 庭  | 40     | 0            |               | 11                    | 1                  | 12     |
| 総 合  | 1,320  | 288          | 123           | 1,080                 | 13                 | 1,093  |
| 計    | 13,230 | 2,038        | 162           | 11,468                | 226                | 11,694 |

《定時制》

| 学科 | 入学定員 | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前期選抜<br>合格者数 | 後期選抜<br>合格者数 | 合格者数 |
|----|------|--------------|---------------|--------------|--------------|------|
| 普通 | 440  | 7            |               | 187          | 24           | 211  |
| 工業 | 40   | 1            |               | 12           | 0            | 12   |
| 計  | 480  | 8            |               | 199          | 24           | 223  |

## 2 現職教育

### (1) 各種研修並びに講習会

| 名称                          | 期日         | 期間    | 会場                                                                                        | 参加者                  |
|-----------------------------|------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 新任校長研修会                     | 5.9～5.10   | 2日    | 教育センター                                                                                    | 新任県立高等学校長7名          |
| 新任教頭研修会                     | 5.16～5.17  | 2日    | 教育センター                                                                                    | 新任県立高等学校教頭16名        |
| 経験者研修Ⅲ（中堅教員研修）              | 10.30～11.1 | 3日    | 教育センター                                                                                    | 県立学校中堅教員51名          |
| 初任者研修（基本研修）                 | 4.4～4.5    | 2日    | 教育センター                                                                                    | 高等学校初任者研修<br>対象教員45名 |
| 〃（一次研修）                     | 4.17～4.19  | 3日    | 教育センター                                                                                    |                      |
| 〃（二次研修）                     | 2.12～2.14  | 3日    | 教育センター                                                                                    |                      |
| 〃（教科別研修）                    | 9.3～9.5    | 3日    | ・数学（四倉）<br>・理科（いわき光洋）<br>・保健体育（いわき総合）<br>・音楽（磐城農業、好間）<br>・書道（郡山商業、郡山東）<br>・英語（新地）         |                      |
|                             | 9.17～9.19  | 3日    | ・国語（原町）<br>・地歴公民（葵）<br>・美術（光南）<br>・家庭（ふたば未来学園）<br>・農業水産（福島明成）<br>・工業（小高産業技術）<br>・商業（福島商業） |                      |
| 〃（地区別研修）                    | 4月～11月     | 11日   | 各地区施設<br>学校等                                                                              | 高等学校初任者研修<br>修了教員37名 |
| 〃（所属における研修）                 | 4月～3月      | 150時間 | 各所属校                                                                                      |                      |
| 2年次教員フォローアップ研修<br>（教科等指導研修） | 7.8        | 1日    | 教育センター                                                                                    |                      |
| 〃（企業体験研修）                   | 長期休業期間中    | 2日    | 各企業等                                                                                      |                      |
| 〃（所属校における研修）                | 4月～3月      | 30時間  | 各所属校                                                                                      |                      |

| 名 称          | 期 日                                  | 期 間                      | 会 場                                | 参 加 者                    |
|--------------|--------------------------------------|--------------------------|------------------------------------|--------------------------|
| 経験者研修Ⅰ（校外研修） | 1 班<br>9.24～9.26<br>2 班<br>10.2～10.4 | 3 日                      | 教育センター                             | 県立学校教職経験<br>5年を経過した者 69名 |
| 〃（所属校における研修） | 5月～12月                               | 5 日                      | 各所属校                               |                          |
| 経験者研修Ⅱ（共通研修） | 4.12                                 | 1 日                      | 教育センター                             | 県立学校教職経験                 |
| 〃（生徒指導研修）    | 7.2                                  | 1 日                      | 教育センター                             | 10年を経過した者 79名            |
| 〃（教科指導研修Ⅰ）   | 7.3                                  | 1 日                      |                                    |                          |
| 〃（教科指導研修Ⅱ）   | 2.6～2.7                              | 2 日                      |                                    |                          |
| 〃（社会体験研修Ⅰ）   | 4月～1月                                | 2 日                      | 各所、施設等                             |                          |
| 〃（所属校における研修） | 4月～1月                                | 15 日以上                   | 各所属校                               |                          |
| 〃（選択研修）      | 4月～1月                                | 3 日以上                    | 各所、施設等                             |                          |
| 新任教務主任研修会    | 8.2<br>8.6<br>8.9<br>8.19            | 1 日<br>1 日<br>1 日<br>1 日 | 磐城農業高校<br>会津学鳳高校<br>会津学鳳高校<br>白河高校 | 新任教務主任 14名               |

## (2) 教員体験研修（2か月）

実施せず

## (3) 教職員等中央研修

ア 趣旨

学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、教頭、中堅教員を育成する。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 独立行政法人教員研修センター

オ 期間及び参加者

◇校長研修（10月7日～10月11日）

県立本宮高等学校長 黒川 佳子

◇副校長・教頭等研修（9月24日～10月4日）

県立磐城高等学校教頭 齋藤 悟史

◇中堅教員研修（11月18日～11月29日）

県立いわき総合高等学校教諭 横田 潤

県立白河実業高等学校教諭 齋藤 亮

◇次世代リーダー育成研修

（8月5日～8月9日）

県立磐城桜が丘高等学校教諭 菅野 剛

県立小名浜高等学校教諭 青木 仁志

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 独立行政法人教員研修センター

オ 期間及び参加者

（9月2日～9月6日）

県立ふたば未来学園高等学校教頭 高橋 敏幸

## 3 教育課程

### (1) 高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会

ア 目的

高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題、新学習指導要領の趣旨の説明、協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。

イ 主催 文部科学省

ウ 共催 国立教育政策研究所

エ 期日

7月8日（月）～7月12日（金）、

7月16日（火）～7月17日（水）

オ 開催地 東京都

カ 参加者

| 部 会     | 氏 名   | 所 属         |
|---------|-------|-------------|
| 総 則     | 亀田 光弘 | 高 校 教 育 課   |
| 国 語     | 梅野 克也 | 高 校 教 育 課   |
| 地 理 歴 史 | 大和田好倫 | 高 校 教 育 課   |
| 公 民     | 武田 重信 | 教 育 セ ン タ ー |
| 数 学     | 佐藤 周  | 高 校 教 育 課   |

## (4) 学校組織マネジメント指導者養成研修

ア 趣旨

学校組織マネジメントの理論を身に付け、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

| 部 会       | 氏 名   | 所 属           |
|-----------|-------|---------------|
| 理 科       | 高野 英樹 | 高 校 教 育 課     |
| 保 健 体 育   | 佐藤 真一 | 福 島 西 高 等 学 校 |
| 音 楽       | 鈴木 敦  | 高 校 教 育 課     |
| 美 術 ・ 工 芸 | 橋本 淳也 | 教 育 セ ン タ ー   |
| 書 道       | 佐藤 真紀 | 白 河 高 等 学 校   |
| 外 国 語     | 四家 真澄 | 高 校 教 育 課     |
| 家 庭       | 鈴木砂代子 | 高 校 教 育 課     |
| 情 報       | 滝沢日佐人 | 高 校 教 育 課     |
| 理 数       | 高野 英樹 | 高 校 教 育 課     |
| 総合的な探究の時間 | 坂本 圭介 | 県 中 教 育 事 務 所 |
| 特 別 活 動   | 緑川 誠  | 県 南 教 育 事 務 所 |

## (2) 福島県高等学校教育課程講習会

### ア 目的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行う。

### イ 主催

文部科学省及び福島県教育委員会

### ウ 期日・会場・参加者数

| 地 区    | 期 日  | 会 場       | 参加者数  |
|--------|------|-----------|-------|
| 県 北    | 8月5日 | 福島南高等学校   | 296   |
| 県中・県南  | 8月6日 | 光南高等学校    | 404   |
| い わ き  | 8月7日 | いわき光洋高等学校 | 190   |
| 相 双    | 8月8日 | 相馬高等学校    | 52    |
| 会津・南会津 | 8月9日 | 会津学鳳高等学校  | 166   |
| 合 計    |      |           | 1,108 |

### エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

| 部 会       | 参加者数 | 部 会       | 参加者数  |
|-----------|------|-----------|-------|
| 総 則       | 103  | 書 道       | 3     |
| 国 語       | 117  | 外 国 語     | 135   |
| 地 理 歴 史   | 76   | 家 庭       | 38    |
| 公 民       | 17   | 情 報       | 5     |
| 数 学       | 129  | 農 業       | 34    |
| 理 科       | 104  | 工 業       | 101   |
| 保 健 体 育   | 112  | 商 業       | 97    |
| 音 楽       | 15   | 水 産       | 8     |
| 美 術 ・ 工 芸 | 10   | 看 護 ・ 福 祉 | 4     |
| 合 計       |      |           | 1,108 |

## (3) 情報教育の充実

### ア 情報教育研修

(ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

### イ 情報処理関係学科の設置状況

|    |        |                  |
|----|--------|------------------|
| 農業 | 生産情報   | 福島明成             |
| 工業 | 情報技術   | 郡山北工業、会津工業、平工業   |
|    | 情報電子   | 福島工業、清陵情報        |
|    | 情報システム | 二本松工業            |
|    | 情報工学   | 平工業              |
| 商業 | 情報処理   | 郡山商業、清陵情報        |
|    | 情報会計   | 福島南、本宮、清陵情報      |
|    | 情報ビジネス | 福島商業、白河実業、若松商業修明 |
|    | オフィス情報 | 須賀川              |
|    | 情報システム | 喜多方桐桜、平商業        |
|    | 産業革新   | 小高産業技術           |
| 水産 | 情報通信   | いわき海星            |

## (4) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 33名

イ 配 置 ○県内23の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内8つの高校に各1名、県立中学校に各1名配置、専任教における指導

## 4 学力向上対策等

### (1) 令和元年度文部科学省指定各種研究校

| 研究種別                 | 学校名  | 指定年度   | 研究主題                                                                                                                     |
|----------------------|------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スーパーサイエンスハイスクール（SSH） | 会津学鳳 | H28～R2 | 大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会で活躍できる科学技術系人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して育成するプログラムの研究開発。                       |
|                      | 福島   | H29～R3 | 高い専門性と地域のリーダーとしての資質を併せ持つ世界で活躍する科学技術人材の育成を目的とし、この達成のために創造的思考力、表現力・発信力、国際力、専門力、物事を完遂する力といった5つの資質・能力の育成を目標とする。              |
|                      | 安積   | R1～R5  | 自ら進んで課題に向き合い、新しい社会を創出し、地域から世界を牽引できる科学技術系リーダーを育成するために、主体的・協働的な探究型学習を推進する教育プログラムを開発し、それを支え、発展させる新しい地域教育・共創モデルを確立するための研究開発。 |

### (2) アクティブ・ラーニングによる学力向上推進事業

#### ア スペシャリスト育成ミッション支援事業

アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて、生徒の進路実現に必要な学力向上や指導力の向上及び地域とのつながりを重視したプログラム等を実施し、社会人としての自覚や基礎学力の育成を図った。各学校における指導内容や指導法について連携を図り、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

#### ○ 対象校：県立高等学校20校

福島商業、福島明成、須賀川、清陵情報、岩瀬農業、光南、白河旭、白河実業、塙工業、石川、船引、若松商業、猪苗代、川口、南会津、湯本、小名浜、いわき海星、相馬農業、新地

#### イ 大学進学ミッション支援事業

アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて、生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図った。さらには、教員の教科指導力や進学指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

#### ○ 対象校：県立高等学校18校

福島、橘、福島西、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、須賀川桐陽、白河、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、磐城桜が丘、相馬、原町

#### ウ オールふくしまリーダー育成プロジェクト

教員や予備校講師によるレベルの高い授業を実施し学力の向上を図るとともに、進路講演会や大学の先輩との交流、参加者同士の協議等を通して進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築いた。

#### ○ 対象：難関大学進学への意識、意欲の高い県立高等学校1年生及び2年生、それぞれ150名程度。

#### ○ 日時：1年生・2泊3日

令和2年3月25日～27日 [中止]

2年生・地区別（4地区）2日間

県北・相双地区（会場校：福島高等学校）

令和元年12月26日（木）、27日（金）

県中・県南地区（会場校：安積高等学校）

令和元年12月25日（水）、26日（木）

会津・南会津地区（会場校：会津高等学校）

令和元年7月29日（月）、30日（火）

いわき地区（会場校：磐城高等学校）

令和2年1月6日（月）、7日（火）

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）

イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助

ウ 関係諸機関、諸団体との連携

エ 生徒指導関係の情報と資料の収集

オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

### (2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（87校）にスクールカウンセラーを配置した。

## 6 学校行事

### (1) 卒業式

#### ア 県立高等学校卒業生数

| 課程  | 性別    |       | 計      |
|-----|-------|-------|--------|
|     | 男     | 女     |        |
| 全日制 | 6,579 | 6,318 | 12,897 |
| 定時制 | 124   | 102   | 226    |
| 通信制 | 55    | 64    | 119    |
| 計   | 6,758 | 6,484 | 13,242 |

イ 卒業式実施期日

| 種別<br>日付 | 全日制 | 定時制 | 通信制 | 計  |
|----------|-----|-----|-----|----|
| 3月1日     | 81  | 5   | 0   | 86 |
| 3月2日     | 1   | 2   | 0   | 3  |
| 3月8日     | 0   | 0   | 1   | 1  |
| 計        | 82  | 7   | 1   | 90 |

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校 3月1日 安積黎明高等学校  
あさか開成高等学校  
県議会議長臨席校 コロナ対策のため臨席せず  
県議会副議長臨席校 コロナ対策のため臨席せず  
県教育長臨席校 3月1日 福島商業高等学校  
相馬農業高校飯館校

(2) 修学旅行(県立高等学校) ( )は前年度

ア 参加生徒総数 12,463人(13,072人)  
イ 参加率 95.2%(98.2%)  
ウ 行先

| 行先       | 校数      |
|----------|---------|
| 北海道      | 1 (0)   |
| 関東       | 1 (0)   |
| 奈良・京都    | 49 (48) |
| 中国・近畿    | 14 (20) |
| 九州       | 2 (1)   |
| 沖縄       | 12 (12) |
| 四国・中国・近畿 | 3 (1)   |
| 四国・近畿    | 0 (1)   |
| 四国       | 0 (0)   |
| 海外       | 4 (2)   |

エ 航空機利用 37校(34校)

北海道方面 1校(0校)  
大阪方面 18校(17校)  
九州方面 2校(0校)  
沖縄方面 12校(12校)  
広島 0校(2校)  
愛媛 0校(1校)  
海外 4校(2校)

オ 泊日数

1泊2日 0校(0校)  
2泊3日 5校(2校)  
3泊4日 70校(72校)  
4泊5日 11校(11校)

カ 必要経費

生徒一人当たりの最高額 135,000円(143,122円)  
最低額 67,945円(79,961円)  
平均額 103,474円(102,354円)

キ 引率責任者

校長 38校(41校)  
副校長 1校(0校)  
教頭 47校(44校)

## 7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

令和元年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア 令和元年度産業・情報技術等指導者養成研修

| 教科 | 氏名     | 職名 | 学校名       | 研修先               | 研修期間        |
|----|--------|----|-----------|-------------------|-------------|
| 農業 | 藤原 忍   | 教諭 | 修明高等学校    | クリエート浜松他          | 7月29日～8月2日  |
| 工業 | 菊池 研吾  | 教諭 | 会津工業高等学校  | 金沢工業大学扇が丘キャンパス    | 8月19日～8月23日 |
| 商業 | 佐藤美由紀  | 教諭 | 猪苗代高等学校   | 千葉商科大学            | 7月29日～8月2日  |
| 水産 | 雨谷 始彦  | 教諭 | いわき海星高等学校 | 東京海洋大学越中島キャンパス他   | 7月30日～8月2日  |
| 家庭 | 瀬谷 佳代子 | 教諭 | 船引高等学校    | 全国高等学校長協会家庭部会事務局他 | 8月5日～8月8日   |
| 情報 | 酒井 政明  | 教諭 | 清陵情報高等学校  | 千葉商科大学            | 7月29日～8月2日  |

イ 令和元年度産業教育実習助手研修

| 教科 | 氏名   | 職名   | 学校名        | 研修先         | 研修期間        |
|----|------|------|------------|-------------|-------------|
| 工業 | 羽田直揮 | 実習助手 | 小高産業技術高等学校 | 足利大学大前キャンパス | 8月19日～8月23日 |
| 工業 | 池田政人 | 実習講師 | 平工業高等学校    | 足利大学大前キャンパス | 8月19日～8月23日 |

ウ 令和元年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

| 教科 | 氏名   | 職名 | 学校名      | 研修先                 | 研修期間        |
|----|------|----|----------|---------------------|-------------|
| 農業 | 浦山拓也 | 教諭 | 磐城農業高等学校 | 国立オリンピック記念青少年総合センター | 8月7日～8月9日   |
| 家庭 | 折笠浩美 | 教諭 | 磐城農業高等学校 | 国立オリンピック記念青少年総合センター | 7月25日～7月26日 |

## 8 学校訪問

### (1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

### (2) 訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から数校を選定する。

### (3) 訪問学校一覧

|           |         |
|-----------|---------|
| 福島高等学校    | 数学      |
| 福島工業高等学校  | 工業      |
| 福島西高等学校   | 英語      |
| 福島東高等学校   | 理科      |
| 安積黎明高等学校  | 数学      |
| 郡山東高等学校   | 国語      |
| 郡山商業高等学校  | 商業、学校保健 |
| あさか開成高等学校 | 理科      |
| 須賀川高等学校   | 保健体育    |
| 清陵情報高等学校  | 芸術（音楽）  |
| 岩瀬農業高等学校  | 農業、理科   |
| 光南高等学校    | 家庭      |
| 塙工業高等学校   | 公民      |
| 修明高等学校    | 国語      |
| 船引高等学校    | 芸術（美術）  |
| 会津高等学校    | 数学、国語   |
| 会津工業高等学校  | 工業      |
| 喜多方桐桜高等学校 | 工業、学校保健 |
| 猪苗代高等学校   | 商業      |
| 川口高等学校    | 保健体育    |
| 田島高等学校    | 地理歴史    |
| 只見高等学校    | 英語      |
| 磐城高等学校    | 英語、理科   |

|             |             |
|-------------|-------------|
| いわき海星高等学校   | 地理歴史、水産     |
| 勿来工業高等学校    | 工業          |
| ふたば未来学園高等学校 | 情報          |
| 相馬高等学校      | 公民          |
| 相馬農業高等学校    | 農業          |
| 新地高等学校      | 保健体育        |
| いわき翠の杜高等学校  | 定通（国語）、保健体育 |

## 9 県立学校学校教育指導委員

| 教科名  | 氏名    | 職名 | 学校名         |
|------|-------|----|-------------|
| 国語   | 中島 知子 | 教諭 | 清陵情報高等学校    |
|      | 高橋 敏哉 | 教諭 | 葵高等学校       |
|      | 鈴木 貴子 | 教諭 | 磐城農業高等学校    |
| 地理歴史 | 阿部健太郎 | 教諭 | 喜多方東高等学校    |
|      | 林 裕文  | 教諭 | ふたば未来学園高等学校 |
| 公民   | 香西二郎  | 教諭 | 橘高等学校       |
|      | 菊地 祐介 | 教諭 | 白河実業高等学校    |
| 数学   | 松倉 桂子 | 教諭 | 修明高等学校      |
|      | 長谷川 匠 | 教諭 | 猪苗代高等学校     |
|      | 佐藤 伸也 | 教諭 | 福島東高等学校     |
| 理科   | 遠藤 喜光 | 教諭 | 安積黎明高等学校    |
|      | 田柳 美澄 | 教諭 | 郡山高等学校      |
|      | 菅家 奈未 | 教諭 | 会津学鳳高等学校    |
|      | 橘 圭子  | 教諭 | 小高産業技術高等学校  |
| 保健体育 | 渡部 健次 | 教諭 | 小野高等学校      |
|      | 佐藤 喜平 | 教諭 | 会津学鳳高等学校    |
|      | 渡邊 亮  | 教諭 | 湯本高等学校      |
|      | 成田 祐介 | 教諭 | 相馬東高等学校     |

| 教科名    | 氏名         | 職名   | 学校名       |
|--------|------------|------|-----------|
| 芸術(美術) | 中原 勝       | 教諭   | 福島高等学校    |
|        | (音楽) 宍戸 真市 | 教諭   | 若松商業高等学校  |
|        | (書道) 佐藤 真紀 | 教諭   | 白河高等学校    |
| 外国語    | クームズ茂子     | 教諭   | 福島東高等学校   |
|        | 安部美代子      | 教諭   | 葵高等学校     |
|        | 竹中 睦       | 教諭   | 磐城桜が丘高等学校 |
| 家庭     | 永井富美子      | 教諭   | 喜多方高等学校   |
|        | 遠藤 美英      | 教諭   | 安達高等学校    |
| 情報     | 佐々木茂明      | 教諭   | 安積高等学校御館校 |
| 農業・水産  | 郷 貫        | 教諭   | 修明高等学校    |
|        | 沖沢 秀一      | 教諭   | 磐城農業高等学校  |
|        | 長南 哲也      | 教諭   | 安達東高等学校   |
| 工業     | 先崎 隆幸      | 教諭   | 塙工業高等学校   |
|        | 馬場 正紀      | 教諭   | 郡山北工業高等学校 |
|        | 石田 和之      | 教諭   | 平工業高等学校   |
|        | 鈴木 康生      | 教諭   | 喜多方桐桜高等学校 |
| 商業     | 阿久津芳久      | 教諭   | 福島商業高等学校  |
|        | 中島 裕       | 教諭   | 郡山商業高等学校  |
| 定通     | 松本 史歩      | 教諭   | 郡山萌世高等学校  |
| 学校保健   | 佐々木則子      | 養護教諭 | 白河実業高等学校  |
|        | 後藤ひとみ      | 養護教諭 | 本宮高等学校    |

(39名)

## 10 教科用図書

### (1) 教科書採択事務説明会

令和元年度は実施せず。

## 11 教育研究団体

### (1) 福島県高等学校長協会

組織

令和元年度福島県高等学校長協会役員名簿

| 役職名  | 氏名          |
|------|-------------|
| 会長   | 阿部 武彦 (磐城)  |
| 副会長  | 竹田 真二 (福島)  |
| 副会長  | 小島 稔 (安積)   |
| 副会長  | 廣瀬 敬彦 (会津)  |
| 副会長  | 山崎 雅弘 (原町)  |
| 監査   | 瓜生 康弘 (福西)  |
| 監査   | 吉津 三千彦 (福南) |
| 事務局長 | 吉田 強栄 (福東)  |

| 支部  |            |            |
|-----|------------|------------|
| 支部  | 支部長        | 副支部長       |
| 県北  | 竹田 真二 (福島) | 吉村 淳 (橘)   |
|     |            | 松本 明倫 (福工) |
| 県南  | 小島 稔 (安積)  | 菅野 哲哉 (黎明) |
|     |            | 田中 誠 (白河)  |
| 会津  | 廣瀬 敬彦 (会津) | 鈴木 睦治 (葵)  |
|     |            | 遠藤 利晴 (喜方) |
| いわき | 阿部 武彦 (磐城) | 比佐 功 (桜丘)  |
|     |            | 神田 豊 (平支)  |
| 相双  | 山崎 雅弘 (原町) | 菊田 勇雄 (相馬) |
|     |            | 丹野 純一 (ふ未) |

### 理事会

|     | 氏名         |            |
|-----|------------|------------|
| 理事会 | 竹田 真二 (福島) | 吉村 淳 (橘)   |
|     | 小島 稔 (安積)  | 小林 喜則 (福商) |
|     | 廣瀬 敬彦 (会津) | 大和田範雄 (明成) |
|     | 阿部 武彦 (磐城) | 松本 明倫 (福工) |
|     | 山崎 雅弘 (原町) | 阿部 秀樹 (萌世) |
|     | 吉田 強栄 (福東) | 須田 康仁 (視支) |
|     |            | 遠藤 均 (田村)  |
|     |            |            |

### 専門委員会 (◎印 委員長 ○印 副委員長)

| 専門委員会   | 氏名          |             |
|---------|-------------|-------------|
| 管理運営委員会 | ◎平澤 洋介 (小浜) | ○森下陽一郎 (須川) |
|         | 吉津三千彦 (福南)  | 阿部 学 (遠野)   |
|         | 菊池 直之 (白旭)  | 丹野 純一 (ふ未)  |
|         | 佐々木理夫 (猪代)  | 須田 康仁 (視支)  |
|         | 齋藤 靖 (大沼)   | 齋藤 恵子 (た支)  |
|         | 阿部 武彦 (磐城)  |             |
| 教育課題委員会 | ◎齋藤 文子 (石川) | ○安田 修久 (会農) |
|         | 吉田 強栄 (福東)  | 関根 健雄 (四倉)  |
|         | 郷 清隆 (修明)   | 丹野 好恵 (大支)  |
|         | 猪狩 良一 (石支)  | 五ノ井平吉 (川口)  |
|         | 神田 豊 (平支)   | 西牧 辰典 (富支)  |
| 生徒指導委員会 | ◎中野 幹夫 (相農) | ○芳賀 菊博 (勿工) |
|         | 鈴木 義祐 (福北)  | 金田洋一郎 (松工)  |
|         | 夏目利江子 (好間)  | 遠藤 均 (田村)   |
|         | 小針 幸雄 (小野)  | 上妻 弘 (あ支)   |
|         | 高橋 文彦 (塙工)  | 伊藤 俊幸 (会支)  |
|         | 橋本 忠広 (南会)  | 山崎 雅弘 (原町)  |
|         | 櫻井 克彦 (耶農)  |             |

| 専門委員会                      | 氏 名           |             |
|----------------------------|---------------|-------------|
| 教 育<br>課 程<br>委 員 会        | ◎佐竹 正徳 (只見)   | ○渡邊 学 (い総)  |
|                            | 竹田 真二 (福島)    | 大和田範雄 (明成)  |
|                            | 松本 明倫 (福工)    | 松本 善法 (い海)  |
|                            | 郡司 完 (光南)     | 高橋 豊治 (磐農)  |
|                            | 渋川 卓也 (喜東)    | 高島 秀一 (新地)  |
|                            | 吉成 広昭 (田島)    | 曾川 孝規 (西支)  |
| 高 校<br>入 試<br>検 討<br>委 員 会 | ◎佐藤 秀美 (い光)   | ○矢森 健一 (あ開) |
|                            | 高澤 正男 (梁川)    | 吉井 秀樹 (西会)  |
|                            | 佐藤 弘樹 (保原)    | 松尾 幸生 (坂下)  |
|                            | 猪俣 豊 (船引)     | 吉田 浩美 (い翠)  |
|                            | 星 栄一 (長沼)     | 渡邊 正仁 (相東)  |
|                            | 廣瀬 敬彦 (会津)    | 阿部 秀樹 (萌世)  |
| 大 学<br>入 試<br>対 策<br>委 員 会 | ◎瀬谷真理子 (郡東)   | ○瓜生 康弘 (福西) |
|                            | 吉村 淳 (橘)      | 遠藤 利晴 (喜方)  |
|                            | 鈴木 睦治 (葵)     | 小島 稔 (安積)   |
|                            | 湯田 重哉 (学鳳)    | 菅野 哲哉 (黎明)  |
|                            | 比佐 功 (桜丘)     | 二瓶 晃一 (湯本)  |
|                            | 白石 文夫 (郡山)    | 菊田 勇雄 (相馬)  |
|                            | 井関 和明 (桐陽)    | 郷家 俊哉 (郡支)  |
|                            | 田中 誠 (白河)     |             |
| 就 職<br>指 導<br>対 策<br>委 員 会 | ◎馬場 裕史 (郡商)   | ○澁谷 栄一 (郡北) |
|                            | 小林 喜則 (福商)    | 高梨 哲夫 (会工)  |
|                            | 山内 義美 (川俣)    | 松浦 冬樹 (平商)  |
|                            | 黒川 佳子 (本宮)    | 鈴木 康隆 (平工)  |
|                            | 鈴木 稔 (小産)     | 小檜山宗浩 (聴支)  |
|                            | 二瓶 賢一 (清陵)    | 佐藤 清悦 (い支)  |
| 人 権<br>教 育<br>委 員 会        | ◎木村 敏明 (勿来)   | ○鈴木 龍也 (相支) |
|                            | 中野 隆幸 (安達)    | 伊藤 重幸 (安東)  |
|                            | 橋本 淳一 (須支)    | 渡辺 譲治 (岩農)  |
|                            | 菅野美恵子 (猪支)    | 富樫 実 (白実)   |
|                            | 秦 尚志 (湖南)     |             |
| 部会長                        |               |             |
| 部 会                        | 氏 名           |             |
| 普通部会                       | 吉村 淳 (橘)      |             |
| 商業部会                       | 小林 喜則 (福島商業)  |             |
| 農業部会                       | 大和田範雄 (福島明成)  |             |
| 工業部会                       | 松本 明倫 (福島工業)  |             |
| 水産部会                       | 松本 善法 (いわき海星) |             |

| 部 会    | 氏 名          |
|--------|--------------|
| 家庭部会   | 瀬谷真理子 (郡山東)  |
| 定通部会   | 阿部 秀樹 (郡山萌世) |
| 特別支援部会 | 須田 康仁 (視覚支援) |
| 理数部会   | 菊田 勇雄 (相馬)   |
| 英語国際部会 | 吉津三千彦 (福島南)  |
| 体育部会   | 遠藤 均 (田村)    |
| 総合学科部会 | 郡司 完 (光南)    |

| 全国校長会 |              |
|-------|--------------|
| 部 会   | 氏 名          |
| 理 事   | 阿部 武彦 (磐城)   |
| 理 事   | 竹田 真二 (福島)   |
| 理 事   | 小島 稔 (安積)    |
| 管理運営  | 平澤 洋介 (小名浜)  |
| 教育課題  | 齋藤 文子 (石川)   |
| 生徒指導  | 中野 幹夫 (相馬農業) |
| 教育課程  | 佐竹 正徳 (只見)   |
| 大学入試  | 瀬谷真理子 (郡山東)  |
| 就職対策  | 馬場 裕史 (郡山商業) |
| 人権教育  | 木村 敏明 (勿来)   |

## (2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(ア) 本部

令和元年度福島県高等学校教育研究会

| 役職名 | 氏 名    | 所属校・職名        |
|-----|--------|---------------|
| 会 長 | 吉田 強栄  | 福島県立福島東高等学校校長 |
| 副会長 | 小島 稔   | 〃 安積高等学校校長    |
| 副会長 | 井関 和明  | 〃 須賀川桐陽高等学校校長 |
| 監 査 | 竹田 真二  | 〃 福島高等学校校長    |
| 監 査 | 吉津 三千彦 | 〃 福島南高等学校     |
| 委 員 | 鈴木 義祐  | 〃 福島北高等学校校長   |
| 委 員 | 田中 誠   | 〃 白河高等学校校長    |
| 委 員 | 大和田 範雄 | 〃 福島明成学校校長    |
| 委 員 | 松本 明倫  | 〃 福島工業高等学校校長  |
| 委 員 | 小林 喜則  | 〃 福島商業高等学校校長  |
| 委 員 | 高梨 哲夫  | 〃 会津第二高等学校校長  |
| 委 員 | 中野 隆幸  | 〃 安達高等学校校長    |
| 委 員 | 伊藤 重幸  | 〃 安達東高等学校校長   |
| 委 員 | 菅野 哲哉  | 〃 安積黎明高等学校校長  |
| 幹 事 | 森 和茂   | 〃 福島東高等学校教頭   |
| 幹 事 | 名嶋 明宏  | 〃 福島東高等学校教頭   |

## (イ) 部会

| 部会名  | 部会長氏名  | 所属校・職名     | 会員数 |
|------|--------|------------|-----|
| 養護教諭 | 小島 稔   | 安積高等学校長    | 15  |
| 保健体育 | 鈴木 義祐  | 福島北高等学校長   | 454 |
| 理 科  | 井関 和明  | 須賀川桐陽高等学校長 | 428 |
| 音 楽  | 田中 誠   | 白河高等学校長    | 79  |
| 農 業  | 大和田 範雄 | 福島明成高等学校長  | 232 |
| 工 業  | 松本 明倫  | 福島工業高等学校長  | 406 |
| 商 業  | 小林 喜則  | 福島商業高等学校長  | 322 |

| 部会名  | 部会長氏名 | 所属校・職名    | 会員数 |
|------|-------|-----------|-----|
| 定 通  | 高梨 哲夫 | 会津第二高等学校長 | 153 |
| 英 語  | 中野 隆幸 | 安達高等学校長   | 460 |
| 数 学  | 竹田 真二 | 福島高等学校長   | 469 |
| 家 庭  | 伊藤 重幸 | 安達東高等学校長  | 128 |
| 美術工芸 | 菅野 哲哉 | 安積黎明高等学校長 | 65  |

○令和元年度予算 126,050 円

## 第4節 文化活動の振興

## 1 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

令和元年12月15日(日)、南相馬市民文化会館「ゆめはっと」において第38回福島県高等学校総合文化祭～ふくしまをつなぐ2019～活動優秀校公演が行われ、事務局校である原町高等学校を中心とした実行委員会の協力により、成功裏のうちに終了した。

## (1) 芸術文化活動発表機会の充実

ア 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。(補助対象事業費計：7,880千円、補助金額計：1,000千円)

## (ア) 令和元年度福島県高等学校文化連盟

役員

| 役職名      | 氏名    | 職   | 所属校      |
|----------|-------|-----|----------|
| 会 長      | 菅野 哲哉 | 校 長 | 安積黎明高等学校 |
| 副会長(私 立) | 森 涼   | 校 長 | 学法石川高等学校 |
| 副会長(県 北) | 吉田 強栄 | 校 長 | 福島東高等学校  |
| 副会長(県 南) | 二瓶 賢一 | 校 長 | 清陵情報高等学校 |
| 副会長(会 津) | 遠藤 利晴 | 校 長 | 喜多方高等学校  |
| 副会長(いわき) | 阿部 学  | 校 長 | 遠野高等学校   |
| 副会長(相 双) | 山崎 雅弘 | 校 長 | 原町高等学校   |
| 理 事 長    | 三條 敦  | 教 諭 | 安積黎明高等学校 |
| 副理事長     | 根本 靖彦 | 教 諭 | 安積黎明高等学校 |
| 事務局長     | 難波 幸生 | 教 諭 | 安積黎明高等学校 |

| 役職名 | 氏名    | 職   | 所属校      |
|-----|-------|-----|----------|
| 監 事 | 馬場 裕史 | 校 長 | 郡山商業高等学校 |
| 監 事 | 飯豊 利子 | 教 諭 | 郡山高等学校   |
| 幹 事 | 朝倉裕一朗 | 教 諭 | 原町高等学校   |
| 幹 事 | 高橋 温仁 | 教 諭 | 喜多方高等学校  |
| 幹 事 | 岩田 隼  | 教 諭 | 小野高等学校   |
| 幹 事 | 梅野 史代 | 教 諭 | 白河高等学校   |
| 幹 事 | 藤川 潤子 | 教 諭 | 安積黎明高等学校 |
| 顧 問 | 鈴木 芳人 | 課 長 | 高校教育課    |

専門部会長・専門部委員長

| 専 門 部 | 部会長   | 職   | 所属校   | 部委員長  | 職   | 所属校   |
|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|
| 演 劇   | 吉津三千彦 | 校 長 | 福島南   | 岡田 篤  | 教 諭 | 福島東稜  |
| 高音連   | 鈴木 和明 | 教 頭 | 安積御館  | 大竹 隆  | 教 諭 | 会 津   |
| 合 唱   | 菅野 哲哉 | 校 長 | 安積黎明  | 星 英一  | 教 諭 | 安積黎明  |
| 吹奏楽   | 渡邊 正仁 | 校 長 | 相馬東   | 今野 貴文 | 教 諭 | 相馬東   |
| 器楽管弦楽 | 馬場 裕史 | 校 長 | 郡山商業  | 瓶子美穂子 | 教 諭 | 郡山商業  |
| 日本音楽  | 比佐 功  | 校 長 | 磐城桜が丘 | 高橋真由美 | 教 諭 | 磐城桜が丘 |

| 専 門 部       | 部会長   | 職   | 所属校    | 部委員長  | 職   | 所属校    |
|-------------|-------|-----|--------|-------|-----|--------|
| 吟詠剣詩舞       | 唐木 義則 | 校 長 | 昌 平    | 大橋 未緒 | 教 頭 | 昌 平    |
| 郷土芸能        | 中野 幹夫 | 校 長 | 相馬農業   | 村田 和丈 | 教 諭 | 磐城農業   |
| マーチングB・バトンT | 白石 文夫 | 校 長 | 郡 山    | 工藤 幸恵 | 教 諭 | 郡 山    |
| 美術・工芸       | 菅野 哲哉 | 校 長 | 安積黎明   | 眞柴 毅  | 教 諭 | 福島東    |
| 書 道         | 阿部 秀樹 | 校 長 | 郡山萌世   | 小野 俊彦 | 教 諭 | 郡山萌世   |
| 写 真         | 佐藤 秀美 | 校 長 | いわき光洋  | 安島 浩  | 教 諭 | いわき光洋  |
| 放 送         | 佐藤 秀美 | 校 長 | いわき光洋  | 中野加奈子 | 教 諭 | いわき光洋  |
| 囲 碁         | 吉村 淳  | 校 長 | 橘      | 鈴木 仁孝 | 教 諭 | 田 島    |
| 将 棋         | 竹田 真二 | 校 長 | 福 島    | 松村 茂郎 | 教 諭 | 福 島    |
| 弁 論         | 廣瀬 敬彦 | 校 長 | 会 津    | 猪俣小百合 | 教 諭 | 会 津    |
| 小倉百人一首かるた   | 菅野 哲哉 | 校 長 | 安積黎明   | 橋本 安広 | 教 諭 | 田 村    |
| 新 聞         | 澁谷 栄一 | 校 長 | 郡山北工業  | 吉田 義仁 | 教 諭 | 郡山北工業  |
| 文 芸         | 橋本 忠広 | 校 長 | 南会津    | 佐藤 道郎 | 教 諭 | 橘      |
| 自然科学        | 井関 和明 | 校 長 | 須賀川桐陽  | 西塔 佳正 | 教 諭 | 湯 本    |
| 農 業         | 大和田範雄 | 校 長 | 福島明成   | 急式 正裕 | 教 諭 | 福島明成   |
| 工 業         | 澁谷 栄一 | 校 長 | 郡山北工業  | 村田 光夫 | 教 諭 | 郡山北工業  |
| 商 業         | 小林 喜則 | 校 長 | 福島商業   | 三浦 純  | 教 諭 | 福島商業   |
| 家 庭         | 高橋 豊治 | 校 長 | 磐城農業   | 渡邊 美紀 | 教 諭 | 磐城農業   |
| 定 通         | 吉田 浩美 | 校 長 | いわき翠の杜 | 永山 幸子 | 教 諭 | いわき翠の杜 |
| 特別支援学校      | 鈴木 龍也 | 校 長 | 相馬支援   | 亀谷真佐子 | 教 諭 | 相馬支援   |
| J R C       | 湯田 重哉 | 校 長 | 会津学鳳   | 鈴木 俊子 | 教 諭 | 会津学鳳   |

イ 第38回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、令和元年5月から令和元年12月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第43回全国高等学校総合文化祭への参加

令和元年7月27日から8月1日まで、佐賀県で開催された文化祭に参加するため、193名を派遣した。

[参加部門等及び参加生徒数]

演劇42名、合唱27名、日本音楽6名、吟詠剣詩舞11名、郷土芸能19名、美術・工芸6名、書道5名、写真8名、放送18名、囲碁5名、将棋7名、弁論2名、小倉百人一首8名、新聞8名、文芸5名、自然科学14名、ボランティア2名

エ 令和元年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(ア) 団体

| 専 門 部  | 大 会 名               | 成 績                                       | 学 校 名          |
|--------|---------------------|-------------------------------------------|----------------|
| 合 唱    | 第72回全日本合唱コンクール全国大会  | 金賞 (全国1位) (文部科学大臣賞)<br>金賞 (全国2位) (岡山県知事賞) | 郡 山<br>会 津     |
|        | NHK 全国学校音楽コンクール     | 銀賞 (全国2位)<br>銅賞 (全国3位)                    | 郡 山<br>会 津     |
| 吹奏楽    | 第67回全日本吹奏楽コンクール全国大会 | 銀賞                                        | 磐 城            |
| 器楽・管弦楽 | 日本学校合奏コンクール2019全国大会 | 金賞<br>銀賞                                  | 郡 山 商 業<br>福 島 |

| 専 門 部                 | 大 会 名                             | 成 績                                                                                                                        | 学 校 名                                      |
|-----------------------|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| マーチングバンド・<br>パトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会2019             | JAZZ 部門 Small 編成 (第2位)<br>ミリタリー部門 (第3位)<br>POM 部門 Small 編成 (第2位)<br>プロップ部門 (第1位)                                           | 郡 山<br>郡 山<br>学法石川<br>郡山商業                 |
|                       | 第11回全国高等学校ダンスドリル冬季大会              | KICK 部門 (第1位)<br>JAZZ 部門 Small 編成 (第2位)<br>POM 部門 Large 編成 (第1位)<br>リリカル部門 (第2位)<br>KICK 部門 (第1位)<br>POM 部門 Small 編成 (第1位) | 郡 山<br>郡 山<br>郡山商業<br>郡山商業<br>郡山商業<br>学法石川 |
| 商 業                   | 第66回全国高等学校珠算・電卓競技大会               | 電卓の部 (第3位)                                                                                                                 | 郡山商業                                       |
|                       | 全国簿記電卓競技大会                        | 電卓団体競技 (第3位)<br>簿記団体競技 (第3位)                                                                                               | 郡山商業<br>若松商業                               |
| 演 劇                   | 第43回全国高等学校総合文化祭<br>第65回全国高等学校演劇大会 | 優秀賞 (第2位)                                                                                                                  | ふたば未来<br>学 園                               |
| 美術・工芸                 | 日学・黒板アート甲子園2019                   | 最優秀賞 (第1位)                                                                                                                 | 会津学鳳                                       |
| 文 芸                   | 第34回全国高等学校文芸コンクール文芸部誌部門           | 優秀賞 (一ツ橋文芸教育振興会賞)                                                                                                          | 磐 城                                        |

(イ) 個人

| 専 門 部 | 大 会 名                                     | 成 績        | 学 校 名   | 氏 名             |
|-------|-------------------------------------------|------------|---------|-----------------|
| 商 業   | 第66回全国高等学校珠算・電卓競技大会<br>(電卓の部)             | 優勝         | 郡山商業    | 佐藤 優花           |
|       | 第66回全国高等学校珠算・電卓競技大会<br>(珠算の部)             | 優勝         | 郡山商業    | 鈴木 琴美           |
| 写 真   | 第43回全国高等学校総合文化祭2019<br>さが総文 写真部門          | 奨励賞        | 安 積     | 渡邊 康広           |
| 書 道   | 第43回全国高等学校総合文化祭2019<br>さが総文 書道部門          | 奨励賞        | 会津学鳳    | 佐藤 麻衣           |
|       | 第43回全国高等学校総合文化祭2019<br>さが総文 書道部門          | 特別賞        | 福 島 西   | 穴戸 聖奈           |
|       | 第43回全国高等学校総合文化祭2019<br>さが総文 書道部門          | 特別賞        | 白 河     | 佐藤 朱音           |
| 自然科学  | 第43回全国高等学校総合文化祭2019<br>さが総文 自然科学部門 ポスター発表 | 奨励賞        | 福 島     | 澁谷 佳輝<br>佐々木 隼暉 |
| 文 芸   | 第34回全国高等学校文芸コンクール<br>小説部門                 | 優秀賞        | 磐 城     | 松野 未悠           |
| 特別支援  | 第88回全国盲学校弁論大会                             | 優勝         | 視 覚 支 援 | 常 松 桜           |
| 放 送   | 第43回全国高等学校総合文化祭放送部門                       | アナウンス部門優秀賞 | 磐 城     | 佐藤 一貴           |

令和元年度福島県高等学校文化連盟表彰

(ア) 優秀団体

| No. | 団体名       | 所属校名    | 専門部                   | 全国大会での成績                                                                                                                                                                       |
|-----|-----------|---------|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | チアダンス部    | 郡山      | マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2019<br>主催：ミスダンスドリルインターナショナルジャパン<br>JAZZ 部門 small 編成 2 位、ミリタリー部門 3 位<br>第 11 回全国高等学校ダンスドリル冬季大会<br>主催：ミスダンスドリルインターナショナルジャパン<br>KICK 部門優勝 JAZZ 部門 small 編成 2 位 |
| 2   | チアリーディング部 | 郡山商業    | マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2019<br>主催：ミスダンスドリルインターナショナルジャパン<br>PROP 部門優勝<br>第 11 回全国高等学校ダンスドリル冬季大会<br>主催：ミスダンスドリルインターナショナルジャパン<br>Pom 部門 Large 編成優勝、リリカル部門 2 位、KICK 部門 2 位              |
| 3   | チアリーディング部 | 学法石川    | マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2019<br>主催：ミスダンスドリルインターナショナルジャパン<br>Pom 部門 small 編成 2 位<br>第 11 回全国高等学校ダンスドリル冬季大会<br>主催：ミスダンスドリルインターナショナルジャパン<br>Pom 部門 small 編成優勝                           |
| 4   | 演劇部       | ふたば未来学園 | 演劇                    | 第 43 回全国高等学校総合文化祭 第 65 回全国高等学校演劇大会<br>主催：文化庁、全国高等学校文化連盟<br>優秀賞（第 2 位）                                                                                                          |
| 5   | 珠算部       | 郡山商業    | 商業                    | 令和元年度第 66 回全国高等学校珠算・電卓競技大会<br>主催：全国商業高等学校長協会、全国商業高等学校協会<br>電卓の部 第 3 位<br>令和元年度全国簿記電卓競技大会<br>主催：公益社団法人全国経理教育協会<br>電卓団体競技 第 3 位                                                  |
| 6   | 簿記研究部     | 若松商業    | 商業                    | 令和元年度全国簿記電卓競技大会<br>主催：公益社団法人全国経理教育協会<br>簿記団体競技 第 3 位                                                                                                                           |
| 7   | 合唱部       | 郡山      | 合唱                    | 第 7 2 回全日本合唱コンクール全国大会<br>主催：全日本合唱連盟<br>金賞、文部科学大臣賞（全国 1 位相当）<br>NHK 全国学校音楽コンクール<br>主催：NHK<br>銀賞（全国 2 位相当）                                                                       |
| 8   | 合唱部       | 会津      | 合唱                    | 第 7 2 回全日本合唱コンクール全国大会<br>主催：全日本合唱連盟<br>金賞、岡山県知事賞（全国 2 位相当）<br>NHK 全国学校音楽コンクール<br>主催：NHK<br>銅賞（全国 3 位相当）                                                                        |
| 9   | 美術部       | 会津学鳳    | 美術・工芸                 | 日学・黒板アート甲子園®2019<br>主催：日学株式会社<br>最優秀賞（第 1 位）                                                                                                                                   |

| No. | 団体名 | 所属校名 | 専門部 | 全国大会での成績                                               |
|-----|-----|------|-----|--------------------------------------------------------|
| 10  | 文学部 | 磐城   | 文芸  | 第34回全国高等学校文芸コンクール<br>主催：全国高等学校文化連盟<br>優秀賞（一ツ橋文芸教育振興会賞） |

(イ) 優秀個人

| No. | 氏名    | 所属校名 | 専門部  | 全国大会での成績                                                                 |
|-----|-------|------|------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 佐藤 一貴 | 磐城   | 放送   | 第43回全国高等学校総合文化祭放送部門<br>主催：全国高等学校文化連盟<br>アナウンス部門 優秀賞（全国1位相当）              |
| 2   | 佐藤 優花 | 郡山商業 | 商業   | 第66回全国高等学校珠算・電卓競技大会（電卓の部）<br>主催：全国商業高等学校長協会 全国商業高等学校協会<br>電卓の部 伝票残競技 優勝  |
| 3   | 鈴木 琴美 | 郡山商業 | 商業   | 第66回全国高等学校珠算・電卓競技大会（伝票算競技）<br>主催：全国商業高等学校長協会 全国商業高等学校協会<br>珠算の部 伝票残競技 優勝 |
| 4   | 常松 桜  | 視覚支援 | 特別支援 | 第88回全国盲学校弁論大会<br>主催：全国盲学校長会、毎日新聞社点字毎日、毎日新聞東京・大阪・<br>西部社会事業団<br>優勝        |
| 5   | 松野 未悠 | 磐城   | 文芸   | 第34回全国高等学校文芸コンクール<br>主催：全国高等学校文化連盟<br>小説部門 優秀賞（第2位相当）                    |

(ウ) 優秀指導者 令和元年度は該当者なし



## 第7章 特別支援教育

### 第1節 概要

県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。本答申を具体的な施策に反映させるため、第6次福島県総合教育計画（改訂版）においては、「地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」、「特別支援学校の在り方の検討（再掲）」の6項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

また、「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、高等部設置県立特別支援学校全校による特別支援学校作業技能大会を開催した。各校の進路に関する学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の自立や社会参加につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労総合支援事業）」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

「未来へつなぐ子育て・教育充実事業」では、市町村教育委員会と連携協力の下、医療、保健、福祉、労働との関係機関と連携を図りながら、県内全ての特別な支援を必要とする幼児児童生徒が地域において一貫した支援を受けることができる相談支援体制の整備を進めた。特別支援学校教員に対する研修の充実を図り専門性の向上を図るとともに、特別支援学校のセンター的機能による、幼稚園、小・中・高等学校への相談支援や研修支援を充実させ、地域における指導支援の充実を図った。さらに、教育事務所を中心として特別支援教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を果たすとともに、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じ、支援体制整備に向けた取組を行った。

「特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を開催し、本県における医療的ケアの在り方について協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（13校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

### 第2節 学校管理

#### 1 児童生徒数と教職員定数

##### (1) 児童生徒数の推移

| 種別              | 部/年度 | 22    | 23    | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 小学部  | 9     | 7     | 6     | 6     | 4     | 3     | 5     | 5     | 3     | 1     |
|                 | 中学部  | 7     | 6     | 7     | 8     | 6     | 5     | 3     | 4     | 5     | 8     |
|                 | 高等部  | 32    | 33    | 35    | 30    | 25    | 24    | 22    | 19    | 17    | 12    |
|                 | 計    | 48    | 46    | 48    | 44    | 35    | 32    | 30    | 28    | 25    | 21    |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 幼稚部  | 17    | 14    | 16    | 11    | 17    | 12    | 10    | 14    | 17    | 17    |
|                 | 小学部  | 44    | 42    | 46    | 54    | 45    | 44    | 44    | 38    | 32    | 23    |
|                 | 中学部  | 20    | 21    | 17    | 18    | 22    | 25    | 26    | 28    | 26    | 29    |
|                 | 高等部  | 24    | 25    | 29    | 24    | 24    | 22    | 23    | 28    | 28    | 28    |
| 計               | 105  | 102   | 108   | 107   | 108   | 103   | 103   | 103   | 108   | 103   | 97    |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 小学部  | 493   | 498   | 504   | 501   | 517   | 529   | 543   | 551   | 600   | 567   |
|                 | 中学部  | 376   | 345   | 334   | 362   | 373   | 371   | 370   | 376   | 384   | 348   |
|                 | 高等部  | 746   | 763   | 824   | 757   | 749   | 751   | 803   | 819   | 812   | 742   |
|                 | 計    | 1,615 | 1,606 | 1,662 | 1,620 | 1,639 | 1,651 | 1,716 | 1,746 | 1,796 | 1,657 |

| 種別              | 部/年度 | 22    | 23    | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 小学部  | 119   | 120   | 124   | 128   | 142   | 139   | 136   | 130   | 126   | 127   |
|                 | 中学部  | 71    | 58    | 71    | 68    | 69    | 70    | 66    | 71    | 70    | 71    |
|                 | 高等部  | 78    | 83    | 75    | 76    | 72    | 79    | 82    | 82    | 73    | 62    |
|                 | 計    | 268   | 261   | 270   | 272   | 283   | 288   | 284   | 283   | 269   | 260   |
| 病弱<br>特別支援学校    | 小学部  | 37    | 40    | 34    | 29    | 35    | 27    | 33    | 30    | 29    | 26    |
|                 | 中学部  | 36    | 46    | 46    | 36    | 25    | 32    | 23    | 40    | 35    | 42    |
|                 | 高等部  | 45    | 44    | 46    | 40    | 32    | 37    | 35    | 36    | 46    | 52    |
|                 | 計    | 118   | 130   | 126   | 105   | 92    | 96    | 91    | 106   | 110   | 120   |
| 合 計             |      | 2,154 | 2,145 | 2,214 | 2,148 | 2,157 | 2,170 | 2,224 | 2,271 | 2,303 | 2,155 |

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

## (2) 令和元年度児童生徒数

(R 元. 5. 1 学校基本調査、訪問学級を含む)

| 種別              | 性別 | 幼稚園 | 小学部 |     |    |     |    |    |     | 中学部 |     |     |     | 高等部 |     |     |     | 合計 | 総計 |       |
|-----------------|----|-----|-----|-----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|-------|
|                 |    |     |     |     |    |     |    |    |     |     |     |     |     | 本科  |     |     | 専攻科 |    |    | 合計    |
|                 |    |     | 1   | 2   | 3  | 4   | 5  | 6  | 計   | 1   | 2   | 3   | 計   | 1   | 2   | 3   |     |    |    |       |
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 男  |     | 0   | 0   | 0  | 1   | 0  | 0  | 1   | 2   | 1   | 0   | 3   | 0   | 3   | 0   | 3   | 3  | 6  | 10    |
|                 | 女  |     | 0   | 0   | 0  | 0   | 0  | 0  | 0   | 2   | 2   | 1   | 5   | 1   | 1   | 2   | 4   | 2  | 6  | 11    |
|                 | 計  |     | 0   | 0   | 0  | 1   | 0  | 0  | 1   | 4   | 3   | 1   | 8   | 1   | 4   | 2   | 7   | 5  | 12 | 21    |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 男  | 9   | 4   | 0   | 1  | 4   | 3  | 2  | 14  | 5   | 2   | 10  | 17  | 3   | 6   | 7   | 16  |    |    | 56    |
|                 | 女  | 8   | 0   | 0   | 3  | 3   | 2  | 1  | 9   | 4   | 5   | 3   | 12  | 2   | 4   | 6   | 12  |    |    | 41    |
|                 | 計  | 17  | 4   | 0   | 4  | 7   | 5  | 3  | 23  | 9   | 7   | 13  | 29  | 5   | 10  | 13  | 28  |    |    | 97    |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 男  |     | 78  | 87  | 72 | 73  | 70 | 66 | 446 | 76  | 83  | 89  | 248 | 189 | 160 | 173 | 522 |    |    | 1,216 |
|                 | 女  |     | 36  | 31  | 26 | 29  | 23 | 32 | 177 | 56  | 38  | 47  | 141 | 90  | 108 | 100 | 298 |    |    | 616   |
|                 | 計  |     | 114 | 118 | 98 | 102 | 93 | 98 | 725 | 132 | 121 | 136 | 389 | 279 | 268 | 273 | 820 |    |    | 1,832 |
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 男  |     | 8   | 9   | 9  | 12  | 16 | 18 | 72  | 11  | 12  | 13  | 36  | 10  | 15  | 11  | 36  |    |    | 144   |
|                 | 女  |     | 11  | 7   | 9  | 8   | 9  | 11 | 55  | 15  | 11  | 9   | 35  | 8   | 7   | 11  | 26  |    |    | 116   |
|                 | 計  |     | 19  | 16  | 18 | 20  | 25 | 29 | 127 | 26  | 23  | 22  | 71  | 18  | 22  | 22  | 62  |    |    | 260   |
| 病弱<br>特別支援学校    | 男  |     | 3   | 1   | 2  | 4   | 2  | 3  | 15  | 4   | 7   | 12  | 23  | 11  | 13  | 6   | 30  |    |    | 68    |
|                 | 女  |     | 1   | 3   | 2  | 1   | 3  | 1  | 11  | 3   | 5   | 11  | 19  | 4   | 13  | 5   | 22  |    |    | 52    |
|                 | 計  |     | 4   | 4   | 4  | 5   | 5  | 4  | 26  | 7   | 12  | 23  | 42  | 15  | 26  | 11  | 52  |    |    | 120   |

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

## (3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

| 種別 | 年度    | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     | 特別支援学校 |     |     |     |     |     |       |       |       |       |       |
|----|-------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
|    |       | 22            | 23  | 24  | 25  | 26  | 27  | 28  | 29  | 30  | 元      | 22  | 23  | 24  | 25  | 26  | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     |
| 教員 | 校長    | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2      | 12  | 12  | 12  | 12  | 12  | 12    | 12    | 13    | 13    | 13    |
|    | 教頭・教諭 | 123           | 121 | 117 | 119 | 115 | 131 | 129 | 133 | 131 | 124    | 948 | 994 | 965 | 963 | 967 | 1,145 | 1,157 | 1,209 | 1,242 | 1,250 |
|    | 養護教諭  | 4             | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4      | 24  | 25  | 24  | 24  | 23  | 24    | 24    | 26    | 26    | 26    |
|    | 兼任主事  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |        |     |     |     |     |     |       |       |       |       |       |
|    | 補充教員  | 10            | 5   | 10  | 11  | 16  | 14  | 8   | 13  | 12  | 10     | 147 | 132 | 162 | 159 | 160 | 160   | 150   | 170   | 189   | 173   |

| 種別     | 年度     | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     |       | 特別支援学校 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|--------|--------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        |        | 22            | 23  | 24  | 25  | 26  | 27  | 28  | 29  | 30  | 元     | 22     | 23    | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     |
| 教員     | 講師     |               |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 寄宿舎指導員 | 24            | 24  | 26  | 25  | 25  | 25  | 27  | 28  | 28  | 28    | 31     | 34    | 33    | 33    | 32    | 34    | 32    | 31    | 30    | 28    |
|        | 実習助手   | 8             | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8     | 24     | 24    | 24    | 24    | 24    | 25    | 27    | 27    | 27    | 27    |
|        | 計      | 171           | 164 | 167 | 169 | 170 | 184 | 178 | 188 | 185 | 176   | 1,186  | 1,221 | 1,220 | 1,215 | 1,218 | 1,399 | 1,400 | 1,476 | 1,527 | 1,517 |
| 事務職員   | 10     | 11            | 11  | 12  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 48    | 48     | 49    | 53    | 51    | 50    | 51    | 53    | 53    | 54    |       |
| その他の職員 | 技能労務員  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 学校司書   |               |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 用務員    | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2     | 6      | 6     | 6     | 6     | 6     | 7     | 6     | 6     | 5     |       |
|        | ボイラー技師 | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 1   | 1   | 1   | 1     | 2      | 2     | 2     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     |
|        | 栄養職員   | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2     | 7      | 7     | 9     | 8     | 9     | 9     | 9     | 10    | 10    | 10    |
|        | 調理給食員  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 技能訓練士  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | マッサージ師 |               |     |     |     |     |     |     |     |     |       |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 運転手    |               |     |     |     |     |     |     |     |     |       | 1      | 1     |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 計      | 6             | 6   | 6   | 6   | 6   | 6   | 5   | 5   | 5   | 5     | 16     | 16    | 17    | 15    | 16    | 16    | 17    | 17    | 17    | 16    |
| 合計     | 187    | 181           | 184 | 187 | 187 | 201 | 194 | 204 | 201 | 192 | 1,250 | 1,285  | 1,286 | 1,283 | 1,285 | 1,465 | 1,468 | 1,546 | 1,597 | 1,587 |       |

| 種別     | 年度     | 計     |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        |        | 22    | 23    | 24    | 25    | 26    | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     |
| 教員     | 校長     | 14    | 14    | 14    | 14    | 14    | 14    | 14    | 15    | 15    | 15    |
|        | 教頭・教諭  | 1,071 | 1,115 | 1,082 | 1,082 | 1,082 | 1,276 | 1,286 | 1,342 | 1,373 | 1,374 |
|        | 養護教諭   | 28    | 29    | 28    | 28    | 27    | 28    | 28    | 30    | 30    | 30    |
|        | 兼任主事   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 補充教員   | 157   | 137   | 172   | 170   | 176   | 174   | 158   | 183   | 201   | 183   |
|        | 講師     |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 寄宿舎指導員 | 55    | 58    | 59    | 58    | 57    | 59    | 59    | 59    | 58    | 56    |
|        | 実習助手   | 32    | 32    | 32    | 32    | 32    | 32    | 32    | 33    | 35    | 35    |
| 計      | 1,357  | 1,385 | 1,387 | 1,384 | 1,388 | 1,583 | 1,578 | 1,664 | 1,712 | 1,693 |       |
| 事務職員   | 58     | 59    | 60    | 65    | 62    | 61    | 62    | 64    | 64    | 65    |       |
| その他の職員 | 技能労務員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 学校司書   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 用務員    | 8     | 8     | 8     | 8     | 8     | 8     | 9     | 8     | 8     | 7     |
|        | ボイラー技師 | 4     | 4     | 4     | 3     | 3     | 3     | 2     | 2     | 2     | 2     |
|        | 栄養職員   | 9     | 9     | 11    | 10    | 11    | 11    | 11    | 12    | 12    | 12    |
|        | 調理給食員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 技能訓練士  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | マッサージ師 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|        | 運転手    | 1     | 1     | 1     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 計      | 22     | 22    | 23    | 21    | 22    | 22    | 22    | 22    | 22    | 21    |       |
| 合計     | 1,437  | 1,466 | 1,470 | 1,470 | 1,472 | 1,666 | 1,662 | 1,750 | 1,798 | 1,779 |       |

## 2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

### (1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

| 障がい種別   | 種別<br>校名      | 幼稚部      |     | 小学部 |     | 中学部 |     | 高等部 |     |     |     | 計   |       |
|---------|---------------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
|         |               | 学級数      | 幼児数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 生徒数 | 本科  |     | 専攻科 |     | 学級数 | 児童生徒数 |
|         |               |          |     |     |     |     |     | 学級数 | 生徒数 | 学級数 | 生徒数 |     |       |
| 視覚      | 県立視覚支援学校      |          |     | 1   | 1   | 4   | 8   | 5   | 7   | 3   | 5   | 13  | 21    |
|         | 小計            |          |     | 1   | 1   | 4   | 8   | 5   | 7   | 3   | 5   | 13  | 21    |
| 聴覚      | 県立聴覚支援学校      | 4        | 8   | 6   | 13  | 8   | 29  | 9   | 28  |     |     | 27  | 78    |
|         | 県立聴覚支援学校福島校   | 2        | 6   | 3   | 4   |     |     |     |     |     |     | 5   | 10    |
|         | 県立聴覚支援学校会津校   | 1        | 1   | 2   | 2   |     |     |     |     |     |     | 3   | 3     |
|         | 県立聴覚支援学校平校    | 1        | 2   | 3   | 4   |     |     |     |     |     |     | 4   | 6     |
|         | 小計            | 8        | 17  | 14  | 23  | 8   | 29  | 9   | 28  |     |     | 39  | 97    |
| 知的障がい   | 県立大笹生支援学校     |          |     | 32  | 99  | 17  | 52  | 17  | 100 |     |     | 66  | 251   |
|         | 県立あぶくま支援学校    |          |     | 32  | 102 | 16  | 56  | 36  | 189 |     |     | 84  | 347   |
|         | 県立西郷支援学校      |          |     | 14  | 42  | 12  | 36  | 12  | 59  |     |     | 38  | 137   |
|         | 県立石川支援学校      |          |     | 14  | 37  | 6   | 18  | 14  | 67  |     |     | 34  | 122   |
|         | 県立石川支援学校たまかわ校 |          |     | 14  | 38  | 6   | 17  |     |     |     |     | 20  | 55    |
|         | 県立たむら支援学校     |          |     | 13  | 35  | 4   | 10  | 7   | 28  |     |     | 24  | 73    |
|         | 県立会津支援学校      |          |     | 27  | 78  | 17  | 60  | 19  | 86  |     |     | 63  | 224   |
|         | 県立猪苗代支援学校     |          |     | 6   | 12  | 3   | 9   | 5   | 22  |     |     | 14  | 43    |
|         | 県立いわき支援学校     |          |     | 24  | 73  | 15  | 54  | 18  | 86  |     |     | 57  | 213   |
|         | 県立いわき支援学校くばた校 |          |     |     |     |     |     | 7   | 31  |     |     | 7   | 31    |
|         | 県立富岡支援学校      |          |     | 13  | 30  | 3   | 9   | 6   | 22  |     |     | 22  | 61    |
|         | 県立相馬支援学校      |          |     | 7   | 21  | 6   | 27  | 9   | 52  |     |     | 22  | 100   |
|         | 福島市立福島養護学校    |          |     | 9   | 40  | 7   | 25  | 9   | 57  |     |     | 25  | 122   |
|         | 小計            |          |     | 205 | 607 | 112 | 373 | 159 | 799 |     |     | 476 | 1,779 |
|         | 肢体不自由         | 県立郡山支援学校 |     |     | 28  | 77  | 17  | 48  | 16  | 42  |     |     | 61    |
| 県立平支援学校 |               |          |     | 21  | 50  | 10  | 23  | 9   | 20  |     |     | 40  | 93    |
| 小計      |               |          |     | 49  | 127 | 27  | 71  | 25  | 62  |     |     | 101 | 260   |
| 病弱      | 県立須賀川支援学校     |          |     | 6   | 14  | 9   | 26  | 17  | 52  |     |     | 32  | 92    |
|         | 県立須賀川支援学校医大校  |          |     | 4   | 7   | 3   | 3   |     |     |     |     | 7   | 10    |
|         | 県立須賀川支援学校郡山校  |          |     | 3   | 2   | 5   | 7   |     |     |     |     | 8   | 9     |
|         | 県立会津支援学校竹田校   |          |     | 2   | 3   | 2   | 6   |     |     |     |     | 4   | 9     |
|         | 小計            |          |     | 15  | 26  | 19  | 42  | 17  | 52  |     |     | 51  | 120   |
| 合計      |               | 8        | 17  | 284 | 784 | 170 | 523 | 215 | 948 | 3   | 5   | 680 | 2,277 |

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

| 管内  | 学校別   |    | 小学校 |      |    |             |           |      |                | 中学校 |    |     |    |             |           |     | 計    |                |
|-----|-------|----|-----|------|----|-------------|-----------|------|----------------|-----|----|-----|----|-------------|-----------|-----|------|----------------|
|     | 種別    | 内容 | 弱視  | 難聴   | 知的 | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語   | 自閉症<br>・<br>情緒 | 小計  | 弱視 | 難聴  | 知的 | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語  |      | 自閉症<br>・<br>情緒 |
| 県北  | 学校数   | 0  | 1   | 64   | 1  | 1           | 0         | 55   | 122            | 0   | 3  | 34  | 1  | 1           | 0         | 31  | 70   | 192            |
|     | 学級数   | 0  | 1   | 81   | 1  | 1           | 0         | 74   | 158            | 0   | 3  | 41  | 1  | 1           | 0         | 34  | 80   | 238            |
|     | 児童生徒数 | 0  | 1   | 376  | 2  | 4           | 0         | 367  | 750            | 0   | 4  | 183 | 2  | 1           | 0         | 155 | 345  | 1095           |
| 県中  | 学校数   | 0  | 2   | 75   | 0  | 0           | 0         | 64   | 141            | 0   | 2  | 38  | 0  | 0           | 0         | 40  | 80   | 221            |
|     | 学級数   | 0  | 2   | 93   | 0  | 0           | 0         | 87   | 182            | 0   | 2  | 44  | 0  | 0           | 0         | 44  | 90   | 272            |
|     | 児童生徒数 | 0  | 2   | 437  | 0  | 0           | 0         | 428  | 867            | 0   | 2  | 185 | 0  | 0           | 0         | 151 | 338  | 1205           |
| 県南  | 学校数   | 1  | 4   | 28   | 0  | 2           | 0         | 22   | 57             | 0   | 0  | 15  | 0  | 0           | 0         | 12  | 27   | 84             |
|     | 学級数   | 1  | 4   | 30   | 0  | 2           | 0         | 24   | 61             | 0   | 0  | 18  | 0  | 0           | 0         | 13  | 31   | 92             |
|     | 児童生徒数 | 1  | 4   | 115  | 0  | 2           | 0         | 86   | 208            | 0   | 0  | 62  | 0  | 0           | 0         | 42  | 104  | 312            |
| 会津  | 学校数   | 0  | 0   | 38   | 2  | 2           | 0         | 35   | 77             | 0   | 0  | 24  | 0  | 0           | 0         | 19  | 43   | 120            |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 41   | 2  | 2           | 0         | 38   | 83             | 0   | 0  | 24  | 0  | 0           | 0         | 19  | 43   | 126            |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 168  | 2  | 4           | 0         | 136  | 310            | 0   | 0  | 61  | 0  | 0           | 0         | 33  | 94   | 404            |
| 南会津 | 学校数   | 1  | 0   | 8    | 1  | 0           | 0         | 6    | 16             | 0   | 0  | 4   | 0  | 0           | 0         | 2   | 6    | 22             |
|     | 学級数   | 1  | 0   | 8    | 1  | 0           | 0         | 6    | 16             | 0   | 0  | 4   | 0  | 0           | 0         | 2   | 6    | 22             |
|     | 児童生徒数 | 1  | 0   | 14   | 1  | 0           | 0         | 21   | 37             | 0   | 0  | 8   | 0  | 0           | 0         | 4   | 12   | 49             |
| 相双  | 学校数   | 0  | 0   | 25   | 0  | 1           | 0         | 18   | 44             | 0   | 1  | 13  | 1  | 0           | 0         | 10  | 25   | 69             |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 29   | 0  | 1           | 0         | 18   | 48             | 0   | 1  | 13  | 1  | 0           | 0         | 10  | 25   | 73             |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 109  | 0  | 1           | 0         | 55   | 165            | 0   | 2  | 47  | 1  | 0           | 0         | 30  | 80   | 245            |
| いわき | 学校数   | 1  | 1   | 43   | 1  | 0           | 0         | 31   | 77             | 0   | 0  | 22  | 0  | 0           | 0         | 13  | 35   | 112            |
|     | 学級数   | 1  | 1   | 51   | 1  | 0           | 0         | 37   | 91             | 0   | 0  | 23  | 0  | 0           | 0         | 13  | 36   | 127            |
|     | 児童生徒数 | 1  | 2   | 253  | 1  | 0           | 0         | 164  | 421            | 0   | 0  | 112 | 0  | 0           | 0         | 53  | 165  | 586            |
| 計   | 学校数   | 3  | 8   | 281  | 5  | 6           | 0         | 231  | 534            | 0   | 6  | 150 | 2  | 1           | 0         | 127 | 286  | 820            |
|     | 学級数   | 3  | 8   | 333  | 5  | 6           | 0         | 284  | 639            | 0   | 6  | 167 | 2  | 1           | 0         | 135 | 311  | 950            |
|     | 児童生徒数 | 3  | 9   | 1472 | 6  | 11          | 0         | 1257 | 2758           | 0   | 8  | 658 | 3  | 1           | 0         | 468 | 1138 | 3896           |

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）※巡回型については、本務校1（学校数1、学級数1）で計上

| 管内  | 学校別   |    | 小学校 |     |           |     |           |     |      | 中学校 |    |    |           |     |           |    | 計   |      |
|-----|-------|----|-----|-----|-----------|-----|-----------|-----|------|-----|----|----|-----------|-----|-----------|----|-----|------|
|     | 種別    | 内容 | 弱視  | 難聴  | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | LD  | ADHD | 小計  | 弱視 | 難聴 | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | LD |     | ADHD |
| 県北  | 学校数   | 0  | 0   | 4   | 3         | 1   | 3         | 5   | 16   | 0   | 0  | 0  | 1         | 0   | 2         | 1  | 4   | 20   |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 11  | 7         | 1   | 7         | 7   | 33   | 0   | 0  | 0  | 1         | 0   | 2         | 1  | 4   | 37   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 151 | 123       | 12  | 110       | 109 | 505  | 0   | 0  | 0  | 20        | 0   | 24        | 33 | 77  | 582  |
| 県中  | 学校数   | 0  | 1   | 2   | 8         | 1   | 0         | 8   | 20   | 0   | 0  | 1  | 1         | 0   | 0         | 2  | 4   | 24   |
|     | 学級数   | 0  | 1   | 3   | 8         | 1   | 0         | 8   | 21   | 0   | 0  | 1  | 1         | 0   | 0         | 2  | 4   | 25   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 3   | 59  | 100       | 3   | 0         | 93  | 258  | 0   | 0  | 7  | 9         | 0   | 0         | 29 | 45  | 303  |
| 県南  | 学校数   | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 4   | 4    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0   | 4    |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 4   | 4    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0   | 4    |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 29  | 29   | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0   | 29   |
| 会津  | 学校数   | 0  | 0   | 1   | 1         | 0   | 3         | 2   | 7    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 1         | 2  | 3   | 10   |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 1   | 1         | 0   | 4         | 3   | 9    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 1         | 2  | 3   | 12   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 18  | 5         | 0   | 37        | 36  | 96   | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 19        | 18 | 37  | 133  |
| 南会津 | 学校数   | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 3   | 3    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0   | 3    |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 3   | 3    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0   | 3    |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 0   | 0         | 0   | 0         | 33  | 33   | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 0  | 0   | 33   |
| 相双  | 学校数   | 0  | 0   | 2   | 0         | 0   | 0         | 3   | 5    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 1  | 1   | 6    |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 6   | 0         | 0   | 0         | 3   | 9    | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 1  | 1   | 10   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 99  | 0         | 0   | 0         | 55  | 154  | 0   | 0  | 0  | 0         | 0   | 0         | 8  | 8   | 162  |
| いわき | 学校数   | 0  | 0   | 2   | 1         | 1   | 1         | 2   | 7    | 0   | 0  | 0  | 1         | 0   | 0         | 0  | 1   | 8    |
|     | 学級数   | 0  | 0   | 5   | 1         | 1   | 1         | 2   | 10   | 0   | 0  | 0  | 1         | 0   | 0         | 0  | 1   | 11   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 0   | 70  | 23        | 13  | 22        | 22  | 150  | 0   | 0  | 0  | 4         | 0   | 0         | 0  | 4   | 154  |
| 計   | 学校数   | 0  | 1   | 11  | 13        | 3   | 7         | 21  | 56   | 0   | 0  | 1  | 3         | 0   | 3         | 6  | 13  | 69   |
|     | 学級数   | 0  | 1   | 26  | 17        | 3   | 12        | 22  | 81   | 0   | 0  | 1  | 3         | 0   | 3         | 6  | 13  | 94   |
|     | 児童生徒数 | 0  | 3   | 397 | 251       | 28  | 169       | 377 | 1225 | 0   | 0  | 7  | 33        | 0   | 43        | 88 | 171 | 1396 |

**(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数**

| 年 度       | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元  |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 対象児童生徒数   | 77 | 75 | 89 | 69 | 90 | 80 | 69 | 58 | 55 | 54 | 49 | 50 | 43 | 42 | 39 | 43 | 38 | 33 | 34 | 36 | 36 | 32 | 30 | 29 |
| 担 当 教 員 数 | 33 | 36 | 41 | 36 | 45 | 36 | 41 | 33 | 33 | 35 | 27 | 27 | 27 | 27 | 30 | 29 | 24 | 19 | 27 | 32 | 18 | 18 | 18 | 18 |

**(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移**

| 年 度     | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元 |
|---------|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 猶 予 者 数 | 0 | 0 | 0  | 0  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 免 除 者 数 | 7 | 5 | 3  | 3  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |

**3 教職員人事・任用**

**(1) 人事異動の概要**

令和元年度の県立特別支援学校教職員の定数（補充教員は含まない）は、前年比 1 人減の 1,596 人となった。このうち、教諭等は、前年比 1 人増の 1,374 人である。

**ア 新採用について**

令和 2 年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、平成 31 年度に比べ、前年比 29 人減の 234 人（小中学校教員採用試験との併願者を含む）であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は 72 人（大学院進学名簿登載猶予者を含む）であり、69 人が教諭として採用された。

**イ 交流について**

平成 31 年度人事異動は、例年通り 4 月 1 日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に 3 年以上勤務する者等を含め 165 人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は 15 人で、高等学校との交流（転入）は 9 人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

**(2) 平成 31 年度県立特別支援学校教員異動・交流基準**

**ア 一般基準**

(ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡をはかるように努める。

(イ) 同一校には原則として最低 3 年は勤務するものとする。

(ウ) 2 親等以内の者（姻族を含む）は原則として同一校勤務をさける。

**イ 平成 20 年度以前の採用者についての基準（以下「旧基準」）という。**

**(ア) 勤続年数による基準**

次の基準に該当する者は、原則として異動の対象とする。

○ 採用後引き続き同一校に 3 年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

○ 同一校に 8 年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

**(イ) 地区、障がいによる基準**

教員の均衡化を図るため、県内を県北、県南、会津、いわき、相双の 5 地区に分け、地区及び障がいに、所在する学校を別表 1 に定める I・II 群に分類し、以下により異動を促進する。

○ 昭和 52 年度以降、特別支援学校教員採用者は、原則として、15 年以内に 2 地区および 2 障がい以上の学校に勤務するものとする。

○ 上記の 2 障がいの経験については、原則として、別表 1 注によるものとする。

**ウ 平成 21 年度以降の採用者についての基準（以下「新基準」という。）**

**(ア) 勤続年数により基準**

次に該当する者は、異動の対象とする。

○ 初任者

○ 異動 2 校目において 3 年以上勤務したもの（以下「若年者」という。）

○ 永年者

**(イ) 地域による基準**

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表 2 のとおり中通り、会津、浜通りの 3 地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後 20 年以内に 3 地域の学校に勤務するものとする。

**エ 平成 24 年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。**

ただし、平成 20 年度以前の旧基準採用者については、平成 30 年度まではイ(イ)別表 1 を準用し、イ)○印を満たす者は、ウ(イ)の規定を満たす者とみなす。

**オ 交流**

特別支援学校及び小学校、中学校、高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校及び市町村公立小・中学校、県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については原則として 3 年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として 3 年から 8 年とする。

別表1 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校

| 群分類       | I 群                                                   | II 群                   |                        |                        |                                |
|-----------|-------------------------------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------------|
| 障がい<br>地区 | 知的障がい<br>教育を主と<br>する学校                                | 視覚障がい<br>教育を主と<br>する学校 | 聴覚障がい<br>教育を主と<br>する学校 | 肢体不自<br>由教育を主と<br>する学校 | 病弱教育<br>を主とする<br>学校            |
| 県北        | 大笹生支援                                                 | 視覚支援                   | 聴覚支援<br>(福島)           |                        | 須賀川<br>支援<br>(医大)              |
| 県南        | あぶくま<br>支援<br>石川支援<br>石川支援<br>(たまかわ)<br>たむら支援<br>西郷支援 |                        | 聴覚支援                   | 郡山支援                   | 須賀川<br>支援<br>須賀川<br>支援<br>(郡山) |
| 会津        | 会津支援<br>猪苗代支援                                         |                        | 聴覚支援<br>(会津)           |                        | 会津支援<br>(竹田)                   |
| いわき       | いわき支援<br>いわき支援<br>(くぼた)                               |                        | 聴覚支援<br>(平)            | 平支援                    |                                |
| 相双        | 富岡支援<br>相馬支援                                          |                        |                        |                        |                                |

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみ経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者、又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではなく、これまで2地区及び2障がいの勤務経験を有していない者、及び平成8年度以降平成20年度までの採用教員については、(1)、(2)の勤務経験を必要とする。

別表2 県立特別支援学校地域別学校

| 地域  | 地区  | 学校                          |                        |
|-----|-----|-----------------------------|------------------------|
| 中通り | 県北  | 視覚支援<br>聴覚支援(福島)            | 大笹生支援<br>須賀川支援(医大)     |
|     | 県中  | 聴覚支援<br>あぶくま支援<br>須賀川支援(郡山) | 郡山支援<br>須賀川支援<br>たむら支援 |
|     | 県南  | 西郷支援<br>石川支援(たまかわ)          | 石川支援                   |
| 会津  | 会津  | 会津支援<br>聴覚支援(会津)            | 会津支援(竹田)<br>猪苗代支援      |
| 浜通り | いわき | 平支援<br>聴覚支援(平)              | いわき支援<br>いわき支援(くぼた)    |
|     | 相双  | 富岡支援                        | 相馬支援                   |

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

学校教育審議会答申(平成21年9月)の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第6次総合教育計画(改訂版)で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第6次総合教育計画(改訂版)では、次の基本的な方針のもとに、大きく6つの具体的な取組を示し、その充実に努めた。

#### ○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

#### ○ 具体的な取組

- ・ 地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進
- ・ 小・中学校における特別支援教育の充実
- ・ 高等学校における特別支援教育の充実
- ・ 特別支援学校におけるセンター的機能の充実
- ・ 教員の特別支援教育に関する指導力の向上
- ・ 特別支援学校の在り方の検討(再掲)

#### (2) 指導組織

課長、主幹兼副課長1名、主幹1名、主任管理主事1名、管理主事4名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

#### (3) 学校教育指導の重点

特別支援学校においては、特に以下の点に重点をおいて指導に努めた。

##### ① 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実

児童生徒一人一人の実態と教育的ニーズの的確な把握に努め、家庭や医療、福祉、労働等の関係機関と連携した「個別的教育支援計画」の作成と活用について、教育支援協議会や体制促進協議会等の各種会議で周知に努めた。

- ② 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善  
新学習指導要領を踏まえた各教科等の指導を通して、  
資質・能力がの3つの柱の育成がバランスよく実現できる  
ように、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し  
ながら、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視  
点を取り入れた授業の実施や改善を行った。
- ③ 言語環境の整備と言語活動の充実  
移動図書館車での巡回貸し出しや読書への動機付けと  
して図書ボランティア等による「おはなし会」を実施し、  
幼児児童生徒に本に親しむ機会を設け、読書の楽しみを  
感じてもらう活動を実施した。また高等部生徒を中心に  
各種弁論大会等への参加など、教科学習と関連づけなが  
ら言語活動に充実取り組んだ。
- ④ 自立活動の充実  
児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を改  
善・克服し、自立し社会参加する資質を養うために、個々  
の児童生徒の的確な実態把握に基づき、自立活動の内容  
項目を踏まえた指導目標と指導内容を設定して「個別の  
指導計画」を作成している。個々の課題や指導目標を担  
当者間で共有し、計画的・組織的な自立活動の指導を行  
った。
- ⑤ 職業教育の充実  
「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、全  
ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校  
作業技能大会」を開催した。また、「次世代のふくしまを  
担う人材育成事業（特別支援学校における就労推進事  
業）」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指  
し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者に  
よる進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関  
する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携し  
た支援体制の構築を図った。
- ⑥ 生徒指導の充実  
幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員  
の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に  
努めるとともに、家庭や関係機関との連携に努めた。また、  
県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を5月と11月の2回開催し、本県の生徒事故の現状  
や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充  
実に努めた。
- ⑦ 交流及び共同学習の推進  
近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共  
同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流を通  
し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、  
障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重す  
る心を育むことに努めた。
- ⑧ 特別支援学校のセンター的機能の発揮  
各地区の特別支援学校地域支援センターのセンター的  
機能を活かし、県内10箇所で研修会を実施し、適切な  
支援を行うことができるよう専門性の向上を図るととも  
に、地域の学校等との連携体制の構築に努めた。

#### (4) 教員の資質と指導力の向上

ア 「切れ目のない支援体制整備事業」事業担当者会議の  
開催

事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等  
の報告及び課題についての協議を行った。また、各教育  
事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指  
導の重点等についても研究協議を行い、各教育事務所域  
内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進  
を図った。

イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校  
教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指  
導委員の資質の向上を図った。

ウ 特別支援学校初任者研修、二年次教員フォローアップ  
研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研修  
を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内にお  
けるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修にお  
いて、教科（領域）指導研修や社会体験研修等を行った。

エ 特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に  
対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導  
力の向上を図るため、教員6名を国立特別支援教育総合  
研究所の専門研修へ派遣した。

#### (5) 就学相談の推進

学校教育法施行令の一部改正による就学先決定の仕組み  
等の周知を図るため、市町村教育委員会就学事務担当者と  
公立中学校管理職を対象に教育支援協議会を県内7か所で  
開催した。また、市町村の就学先決定における相談の充実  
については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期から  
の一貫した支援の充実に努めた。

#### (6) 特別支援教育の推進

ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業

「令和元年度特別支援学校における医療的ケア実施事  
業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療  
的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケ  
アの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療  
的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は  
除く）が、在籍している学校（13校）に看護師を配置した。  
さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地  
域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立の  
ための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの  
実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

聴覚支援学校、聴覚支援学校福島校、大笹生支援学校、  
郡山支援学校、あぶくま支援学校、須賀川支援学校、  
西郷支援学校、石川支援学校、会津支援学校、  
会津支援学校竹田校、平支援学校、いわき支援学校、  
相馬支援学校

【令和元年度医療的ケア実施運営協議会委員】

| 氏名     | 委嘱時の職名              |
|--------|---------------------|
| ◎森田 浩之 | 県総合療育センター・副所長       |
| ○生井 良幸 | 太田西ノ内病院・小児科部長       |
| 古橋 知子  | 福島医科大学看護学部・准教授      |
| 斎藤 昭弘  | 保健福祉部障がい福祉課・専門員     |
| 清水川健児  | 子ども未来局児童家庭課・主任主査    |
| 杉山 裕恵  | 県特別支援教育センター・所長      |
| 鈴木 仁   | 白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー |
| 小山田幸江  | 聴覚支援学校・教頭           |
| 小川 令子  | 聴覚支援学校福島校・教頭        |
| 大竹奈保子  | 大笹生支援学校・教頭          |
| 加藤 賢一  | 郡山支援学校・教頭           |
| 喜多見久美  | あぶくま支援学校・教頭         |
| 鈴木 貴之  | 須賀川支援学校・教頭          |
| 小野 美花  | 西郷支援学校・教頭           |
| 菅野かおり  | 石川支援学校・教頭           |
| 田中久美子  | 会津支援学校・教頭           |
| 大和田 浩  | 会津支援学校竹田分校・分校長      |
| 齋藤 顕   | 平支援学校・教頭            |
| 加藤 一之  | いわき支援学校・教頭          |
| 持舘 康成  | 相馬支援学校・教頭           |
| 井手しのぶ  | 平支援学校・看護師           |
| 遠藤しのぶ  | 郡山支援学校・看護師          |

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

○ 令和元年7月10日

【会議における検討事項】

○ 医療的ケアが必要な児童生徒の緊急時の対応マニュアル等の作成と迅速な対応ができる連絡体制について

○ 医療的ケアマニュアル（暫定版）について

【看護師研修会の開催】

○ 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を郡山支援学校において実施した。

イ 「切れ目のない支援体制整備事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内7地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年2回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や各園・学校等における特別支援教育の充実のための具体的方策について協議するとともに、相談体制の整備や相談支援ファイルの活用促進に取り組んだ。

ウ 地域支援体制の充実

県立特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を発揮し、小・中学校等や市町村教育委員会のニーズに応じた相談や研修等の支援を実施した。

相談・研修件数は3,240件であった。

また、県内の各教育事務所が地域支援のコーディネーターとなり、相談支援チームを編制し、市町村や小・中学校等への支援の在り方や具体的な方策について協議するとともに、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に向けた支援を実施した。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい等のある生徒の支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、令和元年度は県立高等学校18校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立中学校管理職を対象に学校教育法施行令の一部改正に伴い、「教育支援協議会」において、就学先決定の流れや特別な支援を必要とする生徒の支援等について説明をし、障がい児の一貫した支援に努めた。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

2 現職教育

(1) 教員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教員の資質向上に努めた。

| 名称               | 期日                                 | 期間 | 会場          | 人数  | 対象         |
|------------------|------------------------------------|----|-------------|-----|------------|
| 特別支援学校教育課程運営改善講座 | 8月21日                              | 1日 | 県特別支援教育センター | 42  | 特別支援学校教員   |
| 特別支援学級等新任担当教員研修会 | 4月16日<br>又は17日<br>10～11月<br>各地区2日間 | 3日 | 環境創造センター    | 130 | 特別支援学級担当教員 |
| 通級指導教室担当教員研修会    | 7月17日                              | 1日 | 環境創造センター    | 80  | 通級指導教室担当教員 |
| 特別支援学校経験者研修Ⅰ     | 6月19日<br>～<br>6月21日                | 3日 | 県特別支援教育センター | 41  | 特別支援学校教員   |
| 特別支援学校経験者研修Ⅱ     | 6月25日<br>～<br>6月27日                | 3日 | 県特別支援教育センター | 37  | 特別支援学校教員   |

特別支援学校初任者研修

| 名称        | 期 日         | 期間      | 会 場         |            |
|-----------|-------------|---------|-------------|------------|
| 宿泊研修      | 一次研修        | 8月6日～8日 | 3日          | 磐梯青少年交流の家  |
|           | 二次研修        | 2月5日～7日 | 3日          | いわき海浜自然の家  |
| 一般研修      | 4月10日～11日   | 2日      | 県特別支援教育センター |            |
| カウンセリング研修 | 6月12日～13日   | 2日      | 県特別支援教育センター |            |
| 地区別研修     | 講習会研修会等参加研修 | 各校で実施   | 1日          | 各地区内の該当学校等 |
|           | 他校参観研修      | 各校で実施   | 5日          | 各地区内の該当学校等 |
|           | 企業等体験研修     | 各校で実施   | 4日          | 各地区内の該当学校等 |
| 教育課程別研修   | 9月11日       | 1日      | 初任者配置校      |            |
| 学部別研修     | 11月13日      | 1日      | 初任者配置校      |            |
|           | 年間150時間以上   |         | 各所属校        |            |

(2) 特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修 2か月）

| 氏 名   | 職名 | 学校名     | コース等          | 期 間          |
|-------|----|---------|---------------|--------------|
| 佐久間寛子 | 教諭 | 視覚支援学校  | 視覚障害教育専修      | 9月2日～11月8日   |
| 遠田 弥生 | 教諭 | 聴覚支援学校  | 聴覚障害教育専修      | 9月2日～11月8日   |
| 遠藤孝太郎 | 教諭 | 平支援学校   | 肢体不自由教育専修     | 9月2日～11月8日   |
| 谷川 智美 | 教諭 | たむら支援学校 | 知的障害教育専修      | 5月13日～7月12日  |
| 木村 野麦 | 教諭 | 大笹生支援学校 | 知的障害教育専修      | 5月13日～7月12日  |
| 鳴原 由恵 | 教諭 | 須賀川支援学校 | 発達障害・情緒障害教育専修 | 2年1月8日～3月13日 |

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校（義務教育学校を含む。）の特別支援教育コーディネーターに対し、インクルーシブ教育システムの理解を深め、校内支援体制や児童生徒への配慮や支援等についての役割を研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、インクルーシブ教育システムの理解を深め、校内支援体制や生徒への配慮や支援等についての役割を研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターに対し、センター的機能の在り方、国や県の教育施策、コンサルテーションの進め方等について研修し、特別支援教育コーディネーターの専門性の向上及び実践力の向上を図った。

| 地区 | 会 場         | 期 日   | 受講者数 |
|----|-------------|-------|------|
| 県内 | 県特別支援教育センター | 5月24日 | 25   |

3 教育課程

(特別支援学校教育課程運営改善講座)

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

| 地区 | 期 日   | 会 場         | 人数 | 参加対象         |
|----|-------|-------------|----|--------------|
| 県内 | 8月21日 | 県特別支援教育センター | 42 | 特別支援学校の教務主任等 |

## 4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング(登校学習)を実施した。

さらに、大笹生支援学校、郡山支援学校、石川支援学校、会津支援学校では、高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

| 校名         | 学級数 |     |     |     |     |     |     |     | 児童生徒数 |     |     |     |     |     |     |     | スクーリング児童生徒数 |     |     |    |
|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------------|-----|-----|----|
|            | 小学部 | 病院訪 | 中学部 | 病院訪 | 高等部 | 病院訪 | 学部計 | 病院訪 | 小学部   | 病院訪 | 中学部 | 病院訪 | 高等部 | 病院訪 | 学部計 | 病院訪 | 小学部         | 中学部 | 高等部 | 計  |
| 大笹生支援学校    | 2   |     | 1   |     | 1   |     | 4   | 0   | 5     |     | 1   |     | 1   |     | 7   | 0   | 3           | 1   |     | 4  |
| 郡山支援学校     | 1   |     | 0   |     | 1   |     | 2   | 0   | 3     |     | 0   |     | 3   |     | 6   | 0   | 3           |     | 3   | 6  |
| 須賀川支援学校郡山校 |     | 1   |     | 1   |     |     | 0   | 2   |       | 1   |     | 0   |     | 0   | 1   |     |             |     |     | 0  |
| 須賀川支援学校医大校 |     | 1   |     | 0   |     |     | 0   | 1   |       | 1   |     | 0   |     | 0   | 1   |     |             |     |     | 0  |
| 石川支援学校     | 0   |     | 0   |     | 1   |     | 1   | 0   | 0     |     | 0   |     | 1   |     | 1   | 0   |             |     | 1   | 1  |
| 会津支援学校     | 1   |     | 0   |     | 1   |     | 2   | 0   | 1     |     | 0   |     | 1   |     | 2   | 0   | 1           |     | 1   | 2  |
| 平支援学校      | 2   | 1   | 1   | 1   | 0   | 0   | 3   | 2   | 5     | 2   | 1   | 2   | 0   | 0   | 6   | 4   | 5           | 0   |     | 5  |
| 相馬支援学校     | 1   |     | 0   |     | 0   |     | 1   | 0   | 1     |     | 0   |     | 0   |     | 1   | 0   | 1           |     |     | 1  |
| 合計         | 7   | 3   | 2   | 2   | 4   | 0   | 13  | 5   | 15    | 4   | 2   | 2   | 6   | 0   | 23  | 6   | 13          | 1   | 5   | 19 |

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達の段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導支援に努めた。

### (2) 進路指導

ア 夢に向かってテクノチャレンジ事業

#### (ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

#### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校  
 福島大学附属特別支援学校  
 福島市立福島養護学校 計 18校

#### (ウ) 実施状況

##### a 特別支援学校作業技能大会の開催

- ・期日 8月2日(金)
- ・場所 ビッグパレットふくしま

##### b 実施部門

- ・作業技能検定部門
- ビルクリーニング、喫茶接遇サービス、パソコンデータ入力、店舗販売(品出し・パッケージ)

##### ・作業製品品評部門

作業製品の品評と作業学習の紹介等

##### ・デモンストレーション部門

視覚支援学校理療科のあん摩マッサージ等の技術披露

##### c 外部評価の活用

・各作業技能検定部門及び作業製品品評部門の評価表に関する助言

・作業技能検定部門と作業製品品評部門の審査

イ 次世代のふくしまを担う人材育成事業(特別支援学校における就労推進事業)

#### (ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、就職率と定着率の向上を図る。

#### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 16校  
 福島大学附属特別支援学校  
 福島市立福島養護学校 計 18校

#### (ウ) 実施状況

##### a 進路支援チーム会議の実施

- ・特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議
- ・障がい者就業・生活支援センターとの連携強化

- b 移行支援機能の充実
  - ・関係機関と連携した、早期からの移行支援会議の実施
  - ・在学中から卒業後までの長いスパンでの支援
- c 企業の求める人材育成
  - ・作業学習の内容や手法の見直し
  - ・ジョブコーチや企業等からの指導助言
  - ・「障がい者就職面接会」への参加
  - ・「特別支援学校早期訓練コース」の活用
- d 外部評価の活用
  - ・「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用
  - ・「障がい者技能競技大会」への参加

## 6 特別活動

### (1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

| 学部<br>障がい | 学部  |     |     |     | 合 計 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
|           | 幼稚部 | 小学部 | 中学部 | 高等部 |     |
| 視覚障がい     |     |     | 1   | 3   | 4   |
| 聴覚障がい     | 10  | 3   | 13  | 13  | 39  |
| 知的障がい     |     | 94  | 121 | 238 | 453 |
| 肢体不自由     |     | 27  | 22  | 22  | 71  |
| 病 弱       |     | 3   | 22  | 11  | 36  |
| 計         | 10  | 127 | 179 | 287 | 603 |

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

| 学部  | 開催日  |      |      |       |       |       |       |       |       |
|-----|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|     | 3月1日 | 3月2日 | 3月6日 | 3月11日 | 3月12日 | 3月13日 | 3月17日 | 3月18日 | 3月19日 |
| 幼稚部 |      |      |      |       |       | 1     | 1     | 1     | 1     |
| 小学部 |      |      |      | 1     | 2     | 3     | 4     | 6     |       |
| 中学部 |      |      |      | 1     | 2     | 4     | 4     | 6     | 1     |
| 高等部 | 1    | 5    | 1    | 1     | 1     |       | 1     | 4     | 1     |

### (2) 修学旅行

| 学部  | 行き先<br>日数 | 行き先 |    |    |    |     | 日 数 |      |      |      | 人<br>数 |
|-----|-----------|-----|----|----|----|-----|-----|------|------|------|--------|
|     |           | 県内  | 東北 | 関東 | 関西 | 北海道 | 日帰り | 一泊二日 | 二泊三日 | 三泊四日 |        |
| 小学部 |           | 3   | 9  | 5  |    |     | 11  | 6    |      |      | 141    |
| 中学部 |           |     |    | 14 |    |     | 1   | 2    | 11   |      | 172    |
| 高等部 |           |     |    | 6  | 10 | 1   |     | 2    | 12   | 3    | 264    |

## 7 学校訪問

### 県立特別支援学校

経験者研修Ⅰ、Ⅱの研究授業日に学校訪問を実施した。

| No. | 訪問日    | 学 校 名       |
|-----|--------|-------------|
| 1   | 9月30日  | 須賀川支援学校     |
| 2   | 9月30日  | 聴覚支援学校平校    |
| 3   | 10月17日 | 相馬支援学校      |
| 4   | 10月18日 | 石川支援学校      |
| 5   | 10月30日 | 西郷支援学校      |
| 6   | 11月 7日 | いわき支援学校くぼた校 |

## 8 県立学校学校教育指導委員

| 氏 名   | 職 名 | 所 属 校      |
|-------|-----|------------|
| 松永日誌志 | 教諭  | 視覚支援学校     |
| 武内喜美子 | 教諭  | 聴覚支援学校     |
| 木原 清和 | 教諭  | 郡山支援学校     |
| 永戸 千賀 | 教諭  | 須賀川支援学校郡山校 |
| 富田 篤  | 教諭  | 大笹生支援学校    |
| 中野 正貴 | 教諭  | 会津支援学校     |
| 横山 史子 | 教諭  | たむら支援学校    |
| 岡崎あゆみ | 教諭  | いわき支援学校    |

## 9 就学指導

### (1) 福島県特別支援教育推進会議

福島県特別支援教育推進会議委員

| 委 員   | 職 名                |
|-------|--------------------|
| 学識見識者 | 大学教授               |
| 関係機関  | 福祉関係代表             |
| 関係機関  | 県総合療育センター所長        |
| 関係機関  | 県保健福祉部障がい福祉課長      |
| 関係機関  | 県保健福祉部こども未来局児童家庭課長 |
| 関係機関  | 県商工労働部雇用労政課長       |
| 教育関係  | 小学校長会代表            |
| 教育関係  | 中学校長会代表            |
| 教育関係  | 高等学校長会代表           |
| 教育関係  | 特別支援学校長会代表         |
| 教育関係  | 県特別支援教育センター所長      |
| 教育関係  | 県教育庁特別支援教育課長       |

## (2) 教育支援協議会

### ア 期日及び会場

| 地区  | 期日    | 会場        | 参加者数 |
|-----|-------|-----------|------|
| 県北  | 6月6日  | パルセいいざか   | 108  |
| 県中  | 6月5日  | 文化の森てんえい  | 64   |
| 県南  | 5月31日 | 白河合同庁舎    | 45   |
| 会津  | 6月13日 | 湯川村公民館    | 71   |
| 南会津 | 5月30日 | 御蔵入交流館    | 18   |
| 相双  | 6月7日  | かしま交流センター | 50   |
| いわき | 5月28日 | いわき合同庁舎   | 68   |

### イ 参加者

- ・各市町村教育委員会指導主事等
- ・公立小学校管理職

### ウ 説明及び協議

#### (7) 説明

「特別な支援が必要な児童への支援のあり方について」

#### (イ) 説明及び協議

「自校における特別な支援が必要な児童への支援の取組について」

## 10 教科用図書

### (1) 教科用図書事務説明会

#### ア 開催日時・場所

令和元年6月6日・自治会館

#### イ 参加者

各教育事務所 各市町村教育委員会  
特別支援学校教科書担当者

### (2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期日及び会場

|             |                       |
|-------------|-----------------------|
| 6月7日        | 福島大学附属特別支援学校          |
| 6月10日～6月11日 | 大笹生支援学校               |
| 6月12日～6月13日 | 福島市立福島養護学校            |
| 6月17日～6月18日 | 会津支援学校                |
| 6月20日～6月21日 | 南会津町役場                |
| 6月25日～6月26日 | 石川支援学校                |
| 6月28日～7月2日  | あぶくま支援学校              |
| 7月4日～7月5日   | 相馬支援学校                |
| 7月9日～7月11日  | いわき支援学校               |
| 7月16日～7月19日 | 県特別支援教育センター<br>(一般公開) |

## 11 教育研究団体

### (1) 令和元年度福島県特別支援学校長会役員

| 役職名 | 氏名    | 所属校        |
|-----|-------|------------|
| 会長  | 須田 康仁 | 視覚支援学校     |
| 副会長 | 小檜山宗浩 | 聴覚支援学校     |
| 副会長 | 佐藤 成紀 | 福島市立福島養護学校 |

### (2) 令和元年度福島県特別支援学校教頭会役員

| 役職名 | 氏名    | 所属校        |
|-----|-------|------------|
| 会長  | 香取 重治 | 須賀川支援学校郡山校 |
| 副会長 | 阿部 和行 | 会津支援学校     |
| 副会長 | 大槻 孝昭 | 須賀川支援学校医大校 |

### (3) 福島県特別支援教育研究会

#### ア 組織

| 役職名 | 氏名    | 所属校        |
|-----|-------|------------|
| 会長  | 佐藤 成紀 | 福島市立福島養護学校 |
| 副会長 | 須田 康仁 | 視覚支援学校     |
| 副会長 | 酒井 勝弘 | 郡山市立橋小学校   |

#### イ 事業の概要

| 事業名 | 期日    | 会場          | 概要                |
|-----|-------|-------------|-------------------|
| 役員会 | 2月14日 | 県特別支援教育センター | R1事業報告、R2事業計画について |

### (4) 福島県特別支援教育振興会

#### ア 役員

| 役職名 | 氏名    | 所属              |
|-----|-------|-----------------|
| 会長  | 鈴木 敏夫 | 仁愛看護福祉専門学校長     |
| 副会長 | 櫻井 和朋 | 元県PTA連合会長       |
| 副会長 | 齊藤 義人 | 元福島商業高等学校長      |
| 理事  | 小野 寛  | 県北支部長           |
| 理事  | 道下 和幸 | 県中支部長           |
| 理事  | 小河原健一 | 県南支部長           |
| 理事  | 木村 秀  | 会津支部長           |
| 理事  | 只野 裕一 | 相双支部長           |
| 理事  | 大谷 明  | いわき支部長          |
| 監事  | 杉山 裕恵 | 県特別支援教育センター所長   |
| 監事  | 高屋 隆男 | 東北福祉大学准教授 元豊学校長 |
| 顧問  | 柳沼 穹壹 | 元あぶくま養護学校長      |

#### イ 事務局

##### (7) 本部事務担当

聴覚支援学校 校長 小檜山宗浩  
聴覚支援学校 教頭 大橋 隆史  
聴覚支援学校 教頭 小山田幸江  
聴覚支援学校 事務長 田澤 好一

##### (イ) 支部

| 支部 | 事務局校   | 支部  | 事務局校   |
|----|--------|-----|--------|
| 県北 | 視覚支援学校 | 会津  | 会津支援学校 |
| 県中 | 郡山支援学校 | 相双  | 相馬支援学校 |
| 県南 | 石川支援学校 | いわき | 平支援学校  |



## 第 8 章 体育・健康

### 第 1 節 概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、甚大な被害を受けたが、「健康」や「体力」の必要性・重要性について、再認識されたところであり、震災後の深刻な健康課題の解決に向けて、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトを策定した。これは、望ましい運動習慣や食習慣を形成するために、「自分手帳」を活用した生活改善、小学校体育専門アドバイザーの派遣、学校等における個別・集団指導への外部人材・専門家の派遣、ウェブサイトを活用した「ふくしまっ子なわとびコンテスト」の実施と体力向上表彰の実施、関係機関・団体によるチーム会議と外部評価を一体的に展開し、体力の向上及び肥満の解消を図るものである。

学校体育の充実については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実を図るため、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト及び武道等指導者派遣事業により、中学校の武道・ダンスの授業に専門的な技能を有する地域のスポーツ人材を指導者として派遣し、教員との連携による効果的な指導の実践に努めた。

さらに、部活動の適正化や教職員の働き方改革につながる取組を進めるため、中学校・高等学校に部活動指導員を配置した。

また、2020 年に向けて、ホストタウンを中心とした教育推進校において、オリンピック・パラリンピック教育推進事業を展開した。

健康教育の充実・普及については、平成 16 年度から実施している「うつくしまっ子すこやか事業」の中で、平成 19 年度より「学校すこやかプラン」を展開し、関係機関との連携や地域を巻き込んだ学校保健委員会の活性化を目指して取り組んでいる。さらに児童生徒の自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深め、関係機関と一体となって児童生徒の健康課題解決を目指している。また、食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

#### 1 学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動のより一層の充実を図るため「子どもの体力向上支援委員会」を開催し、具体的な方策について検証するとともに、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト支援委員会において作成した「ふくしまっ子児童期運動指針」に基づき、児童の運動習慣づくりに努めた。

また、小・中・高等学校体育担当者連絡協議会、部活動指導員

配置促進事業、武道等指導者派遣事業を実施し、運動に親しむ児童生徒の育成を図るとともに、体力・運動能力の向上に努めた。

さらに、県内すべての小学校に体育専門アドバイザーを派遣し、体育の授業の更なる充実を図った。

#### 2 学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく各種事業を推進している。「学校すこやかプラン」においては、多様化・複雑化する児童生徒の健康課題に対応するため、現代的な課題を含めた児童生徒の健康課題に対する理解と学校における対応の在り方について健康教育推進者研修会を実施した。令和元年度は、LGBT やがん教育等についての研修を実施し、健康教育推進の要となる養護教諭の資質向上を目指し、健康教育の充実を図った。

また、県の健康課題の一つである肥満の解消に対しては、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトの事業の一つとして、「肥満に関する健康相談・個別の保健指導担当者研修会」を開催し、「学校における肥満対応ガイドライン」の活用促進と指導者である養護教諭、栄養教諭等のスキルアップを目指した。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良学校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育にかかわる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組を行うとともに、児童生徒の主體的な活動が行われた学校を表彰した。

学校安全に関しては、学校防災マニュアルの見直しを図るとともに、福島県学校災害安全指導者養成研修会を実施した。また、令和元年は砂防課の要請に応じ、要配慮者利用施設の避難計画作成について各校に周知するなど、安全教育の推進・充実を図った。

#### 3 食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図った。また、平成 26 年度より東日本大震災後の新たな課題に対応するため、「ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業」を三部（保健福祉部、農林水産部、教育庁）連携事業として実施し、学校における食に関する指導体制の整備に努めた。その一環で行っている「ふくしまっ子ごはんコンテスト」では、応募総数が平成 30 年度の 1.1 倍である 18,338 点となり、家庭における食育への意識の向上につながった。

## 4 学校給食の充実

学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新規採用学校栄養職員研修（県立学校を含む）及び学校栄養職員経験者研修Ⅱを実施した。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成21年4月1日に施行された「学校給食衛生管理基準」（文部科学省告示第64号）の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導・助言のため、健康教育課担当者及び各教育事務所の指導主事で単独校調理場63校（健康教育課10校、各教育事務所53校）、健康教育課担当者で共同調理場7施設及び県立学校23校の学校給食施設訪問実施状況点検を実施した。

## 第2節 表彰

### 1 体育関係

#### (1) 公益財団法人日本学校体育研究連合会表彰

ア 最優秀校 該当なし

イ 優良校 福島市立福島第四中学校

ウ 功労者

| 職名  | 氏名    | 学校・所属名       |
|-----|-------|--------------|
| 校長  | 鈴木 卓  | 郡山市立行健中学校    |
| 校長  | 星田 弘美 | 須賀川市立西袋第一小学校 |
| 前校長 | 高畑健一郎 | 前喜多方市立第一中学校  |

#### (2) 福島県学校体育研究連合会表彰

ア 優秀校

| 学校名          | 校長名   |
|--------------|-------|
| いわき市立中央台北中学校 | 高濱 俊彦 |

イ 功労者

| 職名     | 氏名    | 学校名           |
|--------|-------|---------------|
| 校長     | 福士 久子 | 福島市立笹谷小学校     |
| 校長     | 平子 宗司 | いわき市立泉小学校     |
| 前校長    | 小池 重彰 | 前伊達市立月舘中学校    |
| 校長     | 荒井 孝祐 | 白河市立東中学校      |
| 校長     | 菊地 裕二 | 会津若松市立若松第四中学校 |
| 校長     | 阿久津光俊 | 会津若松市立若松第六中学校 |
| 校長     | 山崎 雅弘 | 福島県立原町高等学校    |
| 主任指導主事 | 酒井 祐一 | 福島県教育庁社会教育課   |
| 教諭     | 堀 信人  | 福島県立若松商業高等学校  |

## 2 学校保健・学校安全関係

### (1) 福島県教育委員会表彰

ア 学校保健功労者

| 氏名    | 役職名                |
|-------|--------------------|
| 安田 明弘 | 二本松市立二本松南小学校 学校歯科医 |
| 関 洋美  | いわき市立玉川中学校 学校薬剤師   |
| 佐藤 武寿 | 福島県立福島東高等学校 学校医    |
| 加藤 英文 | 福島県立福島高等学校 学校薬剤師   |

イ 特別功績者（児童・生徒・団体）の部

| 学校名                          | 校長名   |
|------------------------------|-------|
| 福島市立野田小学校<br>マーチングバンドクラブ     | 湯田 公夫 |
| 白河市立白河第一小学校<br>特設器楽クラブ       | 菊池 篤志 |
| 郡山市立郡山第五中学校 合唱部              | 村上 文生 |
| 福島県立ふたば未来学園中学校<br>男子バトミントン部  | 丹野 純一 |
| 福島県立ふたば未来学園中学校<br>女子バトミントン部  | 丹野 純一 |
| 福島県立郡山高等学校 合唱部               | 白石 文夫 |
| 福島県立ふたば未来学園高等学校<br>女子バトミントン部 | 丹野 純一 |

### (2) 文部科学大臣表彰

ア 学校保健・学校安全表彰

| 区分    | 氏名    | 勤務校          |
|-------|-------|--------------|
| 学校医   | 渡邊 康久 | 元喜多方市立第二小学校  |
| 学校医   | 山崎 正義 | 元いわき市立平第五小学校 |
| 学校歯科医 | 猪俣 涉  | 福島県立坂下高等学校   |
| 学校歯科医 | 遠藤 松夫 | いわき市立川前小学校   |
| 校長等   | 重巢 吉美 | 福島市立平野小学校    |

イ 学校保健・学校安全表彰（学校・団体）

該当なし

ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞

| 団体名              | 代表者名  |
|------------------|-------|
| 矢吹町立三神小学校子ども見守り隊 | 安田 正光 |

(3) 令和元年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コンク

ール表彰

<最優秀入賞者>

ア 図画の部

| 学 年    | 学 校 名          | 氏 名    |
|--------|----------------|--------|
| 幼 稚 園  | 希望ヶ丘こども園       | 伊東 穂香  |
| 小学校1年  | 会津若松ザベリオ学園小学校  | 佐々木あおい |
| 小学校2年  | 白河市立白河第四小学校    | 畠山ひなた  |
| 小学校3年  | 川俣町立福田小学校      | 大久保栄蓮  |
| 特別支援学校 | 福島県立須賀川支援学校郡山校 | 渋谷 麻渚  |

イ ポスターの部

◎小学校

| 学 年   | 学 校 名      | 氏 名   |
|-------|------------|-------|
| 小学校4年 | 西郷村立小田倉小学校 | 片野 真子 |
| 小学校5年 | 天栄村立広戸小学校  | 有馬 陽菜 |
| 小学校6年 | 白河市立関辺小学校  | 藤井 花音 |

◎中学校

| 学 年    | 学 校 名          | 氏 名   |
|--------|----------------|-------|
| 中学校1年  | 須賀川市立第一中学校     | 菅原 有真 |
| 中学校2年  | いわき市立中央台南中学校   | 鈴木 里緒 |
| 中学校3年  | 会津若松市立第一中学校    | 平 瑠梨  |
| 特別支援学校 | 福島県立須賀川支援学校郡山校 | 横山 志寿 |

ウ 書写の部

| 学 年    | 学 校 名         | 氏 名   |
|--------|---------------|-------|
| 小学校1年  | 白河市立表郷小学校     | 薄井 唯  |
| 小学校2年  | 南会津町立田島小学校    | 星 周佑  |
| 小学校3年  | いわき市立中央台南小学校  | 若松千花子 |
| 小学校4年  | 会津若松市立河東学園小学校 | 渡部 小夏 |
| 小学校5年  | いわき市立平第四小学校   | 豊島 愛梨 |
| 小学校6年  | 白河市立白河第二小学校   | 室井 楓伍 |
| 中学校全学年 | 南会津町立南会津中学校   | 五十嵐彩羽 |

エ 標語の部

| 学 年    | 学 校 名          | 氏 名   |
|--------|----------------|-------|
| 小・中学校  | 泉崎村立泉崎第一小学校    | 星 怜臣  |
| 特別支援学校 | 福島県立須賀川支援学校郡山校 | 米澤 悠瑞 |

(4) 令和元年度福島県学校歯科保健優良校表彰

ア 特別表彰

1校

| No. | 域 内 | 学 校 名    |
|-----|-----|----------|
| 1   | 県 南 | 西郷村立米小学校 |

イ 荣誉賞

1校

| No. | 域 内 | 学 校 名            |
|-----|-----|------------------|
| 1   | 県 北 | 福島県立視覚支援学校 (中学部) |

ウ 最優秀賞

1校

| No. | 域 内 | 学 校 名    |
|-----|-----|----------|
| 1   | 県 南 | 西郷村立米小学校 |

エ 優秀賞

24校

◎小学校 (11学級以下) 16校

| No. | 域 内 | 学 校 名       |
|-----|-----|-------------|
| 1   | 県 北 | 福島市立水保小学校   |
| 2   | 県 北 | 川俣町立福田小学校   |
| 3   | 県 中 | 須賀川市立白方小学校  |
| 4   | 県 中 | 三春町立中妻小学校   |
| 5   | 県 中 | 小野町立飯豊小学校   |
| 6   | 県 南 | 白河市立釜子小学校   |
| 7   | 県 南 | 西郷村立羽太小学校   |
| 8   | 県 南 | 鮫川村立鮫川小学校   |
| 9   | 会 津 | 会津若松市立大戸小学校 |
| 10  | 会 津 | 磐梯町立磐梯第二小学校 |
| 11  | 会 津 | 喜多方市立上三宮小学校 |
| 12  | 会 津 | 喜多方市立関柴小学校  |
| 13  | 会 津 | 湯川村立勝常小学校   |
| 14  | 南会津 | 只見町立只見小学校   |
| 15  | 相 双 | 相馬市立八幡小学校   |
| 16  | 相 双 | 大熊町立熊町小学校   |

◎小学校 (12学級以上) 3校

| No. | 域 内 | 学 校 名         |
|-----|-----|---------------|
| 17  | 会 津 | 会津若松市立河東学園小学校 |
| 18  | 会 津 | 喜多方市立第一小学校    |
| 19  | いわき | いわき市立中央台東小学校  |

◎中学校 (11学級以下) 3校

| No. | 域 内 | 学 校 名       |
|-----|-----|-------------|
| 20  | 県 中 | 田村市立常葉中学校   |
| 21  | 県 南 | 白河市立東中学校    |
| 22  | 南会津 | 檜枝岐村立檜枝岐中学校 |

◎特別支援学校

2校

| No. | 域 内 | 学 校 名            |
|-----|-----|------------------|
| 23  | 特 支 | 福島県立視覚支援学校 (小学部) |
| 24  | 特 支 | 福島県立視覚支援学校 (中学部) |

才 努力賞 3 2 校

◎小学校（1 1 学級以下） 2 0 校

| No. | 域 内 | 学 校 名        |
|-----|-----|--------------|
| 1   | 県 北 | 伊達市立柱沢小学校    |
| 2   | 県 北 | 伊達市立掛田小学校    |
| 3   | 県 中 | 郡山市立谷田川小学校   |
| 4   | 県 中 | 須賀川市立長沼東小学校  |
| 5   | 県 中 | 玉川村立須釜小学校    |
| 6   | 県 中 | 田村市立滝根小学校    |
| 7   | 県 中 | 田村市立大越小学校    |
| 8   | 県 中 | 三春町立中郷小学校    |
| 9   | 県 南 | 白河市立小田川小学校   |
| 10  | 県 南 | 中島村立吉子川小学校   |
| 11  | 会 津 | 磐梯町立磐梯第一小学校  |
| 12  | 会 津 | 喜多方市立松山小学校   |
| 13  | 会 津 | 喜多方市立熊倉小学校   |
| 14  | 会 津 | 喜多方市立高郷小学校   |
| 15  | 南会津 | 下郷町立旭田小学校    |
| 16  | 南会津 | 下郷町立江川小学校    |
| 17  | 南会津 | 下郷町立檜原小学校    |
| 18  | 南会津 | 檜枝岐村立檜枝岐小学校  |
| 19  | 南会津 | 只見町立明和小学校    |
| 20  | いわき | いわき市立好間第四小学校 |

◎小学校（1 2 学級以上） 5 校

| No. | 域 内 | 学 校 名        |
|-----|-----|--------------|
| 21  | 県 中 | 須賀川市立仁井田小学校  |
| 22  | 県 南 | 西郷村立小田倉小学校   |
| 23  | 相 双 | 相馬市立中村第一小学校  |
| 24  | いわき | いわき市立郷ヶ丘小学校  |
| 25  | いわき | いわき市立好間第一小学校 |

◎中学校（1 1 学級以下） 4 校

| No. | 域 内 | 学 校 名       |
|-----|-----|-------------|
| 26  | 県 中 | 須賀川市立長沼中学校  |
| 27  | 県 南 | 白河市立大信中学校   |
| 28  | 会 津 | 磐梯町立磐梯中学校   |
| 29  | 南会津 | 南会津町立南会津中学校 |

◎中学校（1 2 学級以上） なし

◎特別支援学校 2 校

| No. | 域 内 | 学 校 名            |
|-----|-----|------------------|
| 30  | 特 支 | 福島県立いわき支援学校（小学部） |
| 31  | 特 支 | 福島県立いわき支援学校（中学部） |

◎高等学校 1 校

| No. | 域 内 | 学 校 名      |
|-----|-----|------------|
| 32  | 会 津 | 福島県立坂下高等学校 |

力 優秀活動奨励賞 1 校

| No. | 域 内 | 学 校 名      |
|-----|-----|------------|
| 1   | 会 津 | 喜多方市立姥堂小学校 |

## (5) 福島県学校保健会表彰

ア 学校保健功労者（60名）

| No. | 職 名 | 氏 名   | 勤 務 校                                         |
|-----|-----|-------|-----------------------------------------------|
| 1   | 学校医 | 佐藤 雅弘 | 福島市立蓬莱小学校・下川崎小学校・福島第一中学校                      |
| 2   | 学校医 | 高取 隆  | 福島市立清明小学校・福島市立土湯小学校・西根中学校                     |
| 3   | 学校医 | 村上 正文 | 福島市立福島第一小学校・福島第二小学校・福島第二中学校                   |
| 4   | 学校医 | 大河内幸男 | 福島市立中野小学校・湯野小学校・東湯野小学校・大鳥中学校                  |
| 5   | 学校医 | 安斎 千鶴 | 福島市立鳥川小学校・森合小学校・松川小学校・福島第三小学校                 |
| 6   | 学校医 | 酒井 正典 | 福島市立御山小学校・湯野小学校・清水中学校・水保小学校・信陵中学校・清水小学校       |
| 7   | 学校医 | 土屋 牧雄 | 福島市立福島第三小学校・福島第二中学校・岡山小学校                     |
| 8   | 学校医 | 菅井 優子 | 福島市立大笹生小学校・北沢又小学校                             |
| 9   | 学校医 | 草野 英昭 | 福島市立福島第四小学校・福島第四中学校・三河台小学校・杉妻小学校・福島大学附属特別支援学校 |
| 10  | 学校医 | 佐藤 宏明 | 二本松市立油井小学校・油井幼稚園・川崎小学校・川崎幼稚園                  |
| 11  | 学校医 | 和田 敏末 | 二本松市立小浜中学校・小浜小学校・小浜幼稚園                        |
| 12  | 学校医 | 海野 政治 | 郡山市立喜久田小学校                                    |
| 13  | 学校医 | 笹内 清司 | 郡山市立行徳小学校                                     |
| 14  | 学校医 | 佐藤 惇  | 会津若松市立東山小学校・行仁小学校・神指小学校                       |
| 15  | 学校医 | 和田 良仁 | 棚倉町立棚倉中学校                                     |

| No. | 職名    | 氏名    | 勤務校                                                                                                          |
|-----|-------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 16  | 学校医   | 五十嵐秀一 | 会津若松市立神指小学校・一箕小学校・永和小学校・北会津中学校・第六中学校                                                                         |
| 17  | 学校医   | 石田 俊雄 | 会津若松市立北会津中学校・城西小学校・荒館小学校・川南小学校・第四中学校                                                                         |
| 18  | 学校医   | 荒川 謙二 | 会津若松市立第一中学校                                                                                                  |
| 19  | 学校医   | 伊藤 俊晴 | 会津若松市立門田小学校・小金井小学校・謹教小学校・城南小学校・大戸小学校・大戸中学校                                                                   |
| 20  | 学校医   | 伊藤 陽一 | 喜多方市立第一・第二・第三・松山・上三宮・関柴・熊倉・堂島・塩川・姥堂・駒形・熱塩・加納・高郷・豊川・慶徳・山都<br>計 17 小学校<br>喜多方市立第一・第二・第三・山都・高郷・塩川・会北<br>計 7 中学校 |
| 21  | 学校医   | 高橋 亮一 | 喜多方市立第一小学校・豊川小学校                                                                                             |
| 22  | 学校医   | 大竹 健一 | 喜多方市立熊倉小学校・第一中学校                                                                                             |
| 23  | 学校医   | 福田 正弘 | 喜多方市立第一・第二・第三・松山・上三宮・関柴・熊倉・堂島・塩川・姥堂・駒形・熱塩・加納・高郷・豊川・慶徳・山都<br>計 17 小学校<br>喜多方市立第一・第二・第三・山都・高郷・塩川・会北<br>計 7 中学校 |
| 24  | 学校医   | 木村 芳朗 | 矢祭町立矢祭小学校                                                                                                    |
| 25  | 学校医   | 猪狩 徳一 | いわき市立好間第一小学校                                                                                                 |
| 26  | 学校医   | 草野 善行 | いわき市立泉北小学校・いわき市立玉露保育所                                                                                        |
| 27  | 学校医   | 若松 育子 | いわき市立平第三小学校・いわき市立夏井保育所                                                                                       |
| 28  | 学校医   | 今野 守  | 須賀川市立第三小学校                                                                                                   |
| 29  | 学校医   | 武田 悦男 | 須賀川市立柏城小学校                                                                                                   |
| 30  | 学校医   | 玉井 康裕 | 浪江町立浪江小学校・津島小学校                                                                                              |
| 31  | 学校歯科医 | 羽生 賢次 | 福島県立原町高等学校                                                                                                   |
| 32  | 学校歯科医 | 大内 道男 | 福島県立須賀川桐陽高等学校                                                                                                |

| No. | 職名           | 氏名    | 勤務校                               |
|-----|--------------|-------|-----------------------------------|
| 33  | 学校歯科医        | 赤塚 公寿 | 只見町立只見小学校                         |
| 34  | 学校歯科医        | 五十嵐 章 | 喜多方市立第二小学校・熊倉小学校                  |
| 35  | 学校歯科医        | 佐藤 明  | 喜多方市立第二中学校・第二小学校・松山小学校            |
| 36  | 学校歯科医        | 村澤 健一 | 喜多方市立堂島小学校                        |
| 37  | 学校歯科医        | 福田 洋治 | 喜多方市立会北中学校                        |
| 38  | 学校歯科医        | 鳴瀬 伸  | 喜多方市立第一中学校                        |
| 39  | 学校歯科医        | 鈴木不二夫 | 喜多方市立第二中学校                        |
| 40  | 学校歯科医        | 佐藤 演由 | 西郷村立熊倉小学校                         |
| 41  | 学校歯科医        | 佐藤 洋一 | 矢祭町立矢祭小学校                         |
| 42  | 学校歯科医        | 太田 純一 | 須賀川市立白方小学校・須賀川市立白江小学校・須賀川市立岩瀬中学校  |
| 43  | 学校歯科医        | 澤村 秋彦 | 平田村立小平小学校・平田村立小平こども園・平田村立ひらた清風中学校 |
| 44  | 学校歯科医        | 福田 稔  | 伊達市立梁川小学校                         |
| 45  | 学校歯科医        | 府野 和夫 | 福島市立大久保小学校・青木小学校・飯野あおぞら保育所        |
| 46  | 学校歯科医        | 西山 和彦 | 本宮市立本宮まゆみ小学校                      |
| 47  | 学校歯科医        | 大道寺智幸 | 本宮市立本宮第一中学校                       |
| 48  | 学校歯科医        | 島貫 光泰 | 桑折町立醸芳中学校                         |
| 49  | 学校歯科医        | 伊藤 修一 | 二本松市立川崎小学校                        |
| 50  | 学校薬剤師        | 遠藤 眞也 | 喜多方市立松山小学校・第三小学校                  |
| 51  | 学校薬剤師        | 齋藤 正秀 | 喜多方市立山都・高郷・上三宮小学校・山都・高郷中学校        |
| 52  | 学校薬剤師        | 鎌田 明  | いわき市立高野小学校・湯本第一小学校・内郷第三中学校        |
| 53  | 学校薬剤師        | 會田美智男 | 田村市立滝根幼稚園・滝根小学校・滝根中学校             |
| 54  | 学校薬剤師        | 武藤 健  | 福島市立大久保小学校                        |
| 55  | 養護教諭         | 鈴木 秀耕 | 福島県ふたば未来学園高等学校                    |
| 56  | 養護教諭         | 鈴木多恵子 | 矢吹町立中畑小学校                         |
| 57  | 養護教諭         | 石川久美子 | 矢吹町立矢吹小学校                         |
| 58  | 養護教諭         | 野地多美恵 | 郡山市立御代田小学校                        |
| 59  | 養護教諭         | 平 朋子  | 福島市立平野中学校                         |
| 60  | 教諭<br>(保健主事) | 安斎 司  | 福島県立福島南高等学校                       |

イ 学校安全ボランティア活動奨励賞（2団体）

| No. | 団体名                | 代表者名  |
|-----|--------------------|-------|
| 1   | 郡山市立緑ヶ丘第一小学校緑っ子安全隊 | 藤原 静男 |
| 2   | 第四地区見守り隊           | 川崎 元裕 |

ウ 学校保健会感謝状（5名）

| No. | 職名       | 氏名    | 勤務校                             |
|-----|----------|-------|---------------------------------|
| 1   | (前)学校医   | 鈴木美佐子 | 福島立渡利小学校・土湯小学校・吾妻中学校・庭坂小学校      |
| 2   | (前)学校医   | 矢内 宏昌 | 郡山市立安積第一小学校・柴宮小学校・安積中学校・安積第二中学校 |
| 3   | (前)学校歯科医 | 外島 篤  | 郡山市立行健小学校                       |
| 4   | (前)学校薬剤師 | 山内 啓子 | 福島市立森合小学校                       |
| 5   | (前)学校薬剤師 | 山内 玲子 | 磐梯町立磐梯第一小学校・磐梯第二小学校・磐梯中学校       |

### 3 学校給食関係

#### (1) 文部科学大臣表彰

ア 学校給食優良学校等

| 学校・共同調理場名    | 校長・施設長 |
|--------------|--------|
| 会津若松学校給食センター | 目黒 一恵  |

イ 学校給食功労者

| 職名   | 氏名    | 所名        |
|------|-------|-----------|
| 栄養教諭 | 小泉 弘子 | 新地町立新地小学校 |

#### (2) 公益財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会会長表彰

ア 学校給食優良団体

| 団体名              | 校長・施設長名 |
|------------------|---------|
| 三春町立中郷小学校        | 佐藤 千昭   |
| 会津若松行仁小学校        | 酒井 宏    |
| いわき市立勿来学校給食共同調理場 | 安島 伸夫   |

イ 学校給食功労者

| 職名       | 氏名     | 所名             |
|----------|--------|----------------|
| 作業長兼技能主査 | 斎藤 好美  | 福島市北部学校給食センター  |
| 主任栄養技師   | 上遠野美保子 | 郡山市立西田学園共同調理場  |
| 栄養教諭     | 上遠野朋子  | 塙町立塙中学校        |
| 主任栄養技師   | 五十嵐朋子  | 会津若松市立永和小学校    |
| 主任栄養士    | 鈴木美智代  | 南相馬市教育委員会学校教育課 |

ウ 福島県教育委員会教育長賞（県産食材活用部門）

| 団体名       | 校長・施設長 |
|-----------|--------|
| 小野町給食センター | 佐藤 浩   |

## 第3節 学校体育

### 1 学校体育関係各種研修

#### (1) 小・中・高等学校体育担当者連絡協議会

|                                        |        |
|----------------------------------------|--------|
| 県北：平成31年4月23日（火）<br>とうほう・みんなの文化センター    | 153名参加 |
| 県中：令和元年5月21日（火）<br>郡山中央公民館             | 200名参加 |
| 県南：令和元年5月28日（火）<br>中島村生涯学習センター         | 68名参加  |
| 会津・南会津<br>：平成31年4月22日（月）<br>下郷ふれあいセンター | 94名参加  |
| 相双：平成31年4月25日（木）<br>万葉ふれあいセンター         | 55名参加  |
| いわき：令和元年5月29日（水）<br>いわき合同庁舎南分庁舎        | 122名参加 |

#### (2) 体育・保健体育指導力向上研修

|                                                  |        |
|--------------------------------------------------|--------|
| 県中央研修：令和元年6月24日（月）<br>あづま総合体育館                   | 48名参加  |
| 地区別研修                                            |        |
| 県北地区：令和元年8月20日（火）<br>NCVふくしまアリーナ                 | 90名参加  |
| 県中地区：令和元年8月20日（火）<br>宝来屋 郡山総合体育館<br>郡山しんきん開成山プール | 86名参加  |
| 県南地区：令和元年8月2日（金）<br>矢吹町立矢吹中学校                    | 62名参加  |
| 会津・南会津地区：令和元年8月22日（木）<br>あいづ総合体育館                | 146名参加 |
| 相双地区：令和元年8月2日（金）<br>南相馬市立小高・福浦・金房・鳩原小学校          | 69名参加  |
| いわき地区：令和元年8月20日（火）<br>いわき市立中央台北中学校               | 90名参加  |

#### (3) ダンス・表現指導者養成講習会

|                                  |
|----------------------------------|
| 日時：令和元年7月31日（水）                  |
| 会場：福島トヨタクラウンアリーナ<br>（福島市国体記念体育館） |
| 参加者：63名                          |

#### (4) 学校フォークダンス指導者養成講習会

|                                  |
|----------------------------------|
| 日時：令和元年11月14日（木）                 |
| 会場：福島トヨタクラウンアリーナ<br>（福島市国体記念体育館） |
| 参加者：26名                          |

## 2 福島県高等学校体育連盟

### (1) 令和元年度福島県高等学校体育連盟役員

|               |                                                                             |                             |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 顧問<br>(歴代会長)  | 折笠常弘(15代) 早川俊一(16代) 齋藤久(18代) 砂子田敦博(19代)                                     |                             |
|               | 杉原陸夫(20代) 高城俊春(21代) 齋藤和也(22代) 古市孝雄(23代)                                     |                             |
|               | 富田孝志(24代) 星本文(25代) 新井田大(26代) 富田昭夫(27代)                                      |                             |
|               | 本間稔(28代) 長岐博(29代) 廣瀬敬彦(30代)                                                 |                             |
|               | 佐藤文男(県教育庁健康教育課長) 尾形幸男(県体育協会専務理事)                                            |                             |
| 参与(歴代理事長)     | 高橋充雄(9代) 浅尾晃左(11代) 菅野一治(12代) 渡辺正昭(13代)                                      |                             |
|               | 赤沼健一(14代) 渡邊正仁(15代) 穂本哲哉(16代) 滝田勝彦(17代)                                     |                             |
| 会長            | 遠藤均(田村高校長)                                                                  |                             |
| 副会長<br>(地区会長) | 鈴木義祐(福島北高校長) 小針幸雄(小野高校長) 廣瀬敬彦(会津高校長)                                        |                             |
|               | 比佐功(磐城桜が丘高校長) 渡邊正仁(相馬東高校長)                                                  |                             |
| 理事長           | 飯塚悟(田村高教頭)                                                                  |                             |
| 事務局長          | 花田巖(田村)                                                                     |                             |
| 常任理事          | 宮田智史(健康教育課) 中村俊之(県体育協会) 鈴木晃夫(白河)                                            |                             |
|               | 高橋寛二(須賀川桐陽) 木村あさ子(郡山萌世(通信制))                                                |                             |
| 常任理事・理事       | 県北<br>☆◎三浦武彦(福島明成) ○渡部浩一(福島工業) 添川隆博(梁川)<br>武田正志(学法福島) △吉田翔梧(橘)              |                             |
|               | 県南<br>☆◎清水秀昭(郡山商業) ☆○安藤英貴(あさか開成) ☆二瓶良(帝京安積)<br>☆星貴司(光南) ☆蓬田亘(塙工業) △岡崎拓海(石川) |                             |
|               | 会津<br>☆◎室井真仁(会津) ○阿部哲也(会津工業) 渡部訓生(若松商業)<br>△渡部珠羅(田島)                        |                             |
|               | いわき<br>☆◎阿部秀幸(磐城桜が丘) ○糸井亮平(好間) 小川尚之(いわき総合)<br>△芳賀力(磐城桜が丘)                   |                             |
|               | 相双<br>☆◎佐原明良(ふたば未来学園) ○成田祐介(相馬東) 大波慶次(小高産業技術)<br>△菅野光桜(ふたば未来学園)             |                             |
|               | 監事                                                                          | 鈴木淳(郡山萌世(定時制)) 四家寛功(磐城)     |
|               | 会長指名理事                                                                      | 宮田智史(健康教育課) 中村俊之(県体育協会)     |
|               | 幹事                                                                          | 鈴木崇裕(郡山東) 渡邊哲也(郡山) 大堀直也(田村) |
|               | (公財)福体協理事                                                                   | 遠藤均(田村高校長)                  |
|               | 同評議員                                                                        | 花田巖(田村)                     |
| 東北高体連副会長      | 遠藤均(田村高校長)                                                                  |                             |
| 同常任理事         | 飯塚悟(田村高教頭)                                                                  |                             |
| 同理事           | 花田巖(田村)                                                                     |                             |

☆常任理事、◎地区理事長、○地区副理事長、△地区生徒理事

## (2) 第65回福島県高等学校体育大会日程・会場

※○…終日 □…半日

| 開催地区  | No.    | 種 目 名      | 日 程                                      |                 |               | 会 場                                                                       | 参加人数               |     |
|-------|--------|------------|------------------------------------------|-----------------|---------------|---------------------------------------------------------------------------|--------------------|-----|
|       |        |            | 6/1(土)                                   | 6/2(日)          | 6/3(月)        |                                                                           |                    |     |
| 県北    | 1      | バレーボール     | 5月25日(土)～27日(月)                          |                 |               | 福島市国体記念体育館 福島西高等学校 福島南高等学校 福島成蹊高等学校                                       | 1,188              |     |
|       | 2      | サッカー 男子    | 5月25日(土)～27日(月)                          |                 |               | 十六沼公園サッカー場                                                                | 600                |     |
|       |        |            | 5月25日(土)～27日(月)                          |                 |               | 会津総合運動公園                                                                  |                    |     |
|       |        |            | ○                                        | ○               |               | Jヴィレッジ                                                                    |                    |     |
|       | 3      | ソフトボール     | ○                                        | ○               | □             | 十六沼公園スポーツ広場 桑折町民運動場                                                       | 242                |     |
|       | 4      | 卓球         | ○                                        | ○               | □             | 福島市国体記念体育館                                                                | 563                |     |
|       | 5      | 体操         | 体操競技                                     | 5月23日(木)～24日(金) |               |                                                                           | 県営あづま総合体育館         | 75  |
|       | 6      | 体操         | 新体操                                      | 5月23日(木)～24日(金) |               |                                                                           | 県営あづま総合体育館         |     |
|       | 7      | 馬術         | 5月25日(土)～26日(日)                          |                 |               | JRA福島競馬場                                                                  | 55                 |     |
|       | 8      | 登山         | 5月30日(木)～6月1日(土)                         |                 |               | 安達太良山系口フォレストパークあだたら-安達太良山-沼尻-箕輪山-野地温泉)                                    | 183                |     |
|       | 9      | 自転車競技      | ロード                                      | 5月27日(月)        |               |                                                                           | エビスサーキット西コース(二本松市) | 47  |
|       |        |            | トラック                                     | 5月22日(水)～23日(木) |               |                                                                           | 泉崎国際サイクルスタジアム      |     |
| 10    | フェンシング | ○          | ○                                        |                 | 福島商業高等学校第二体育館 | 15                                                                        |                    |     |
| 11    | カヌー    |            | ○                                        |                 | 二本松市阿武隈漕艇場    | 9                                                                         |                    |     |
| 12    | ライフル射撃 |            | ○                                        |                 | 二本松市総合射撃場     | 18                                                                        |                    |     |
| 県南    | 13     | 陸上競技       | 5月24日(金)～27日(月)                          |                 |               | 開成山陸上競技場                                                                  | 1,446              |     |
|       | 14     | バスケットボール   | 6月8日(土)～6月10日(月)                         |                 |               | 須賀川アリーナ 須賀川市内高等学校                                                         | 1,024              |     |
|       | 15     | ハンドボール     | ○                                        | ○               | □             | 石川町総合体育館 学校法人石川高等学校体育館 光南高等学校体育館                                          | 672                |     |
|       | 16     | バドミントン     | 5月30日(木)～6月1日(土)                         |                 |               | 白河市国体記念体育館 白河中央体育館                                                        | 515                |     |
|       | 17     | 水泳         | 競泳                                       | 6月21日(金)～23日(日) |               |                                                                           | 郡山しんきん開成山プール       | 443 |
|       | 18     | 水泳         | 飛込                                       | 7月3日(水)         |               |                                                                           | 郡山カルチャーパーク飛込プール    | 1   |
|       | 19     | 剣道         | ○                                        | ○               | □             | 郡山総合体育館                                                                   | 648                |     |
|       | 20     | 弓道         | ○                                        | ○               | □             | 開成山弓道場                                                                    | 642                |     |
|       | 21     | ウエイトリフティング | ○                                        | ○               |               | 田村高等学校第二体育館                                                               | 33                 |     |
|       | 22     | ホッケー       | 未開催                                      |                 |               | 未開催                                                                       | —                  |     |
|       | 23     | スケート       | スピード                                     | 12月6日(金)        |               |                                                                           | 磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場 | 6   |
|       | 24     | スケート       | フィギュア                                    | 12月15日(日)       |               |                                                                           | 磐梯熱海アイスアリーナ        |     |
|       | 25     | アーチェリー     | ○                                        |                 |               | 三春町営グラウンド                                                                 | 14                 |     |
| 会津    | 26     | テニス        | ○                                        | ○               | □             | 会津総合運動公園テニスコート あいづドームテニスコート                                               | 332                |     |
|       | 27     | 相撲         | ○                                        | ○               |               | あいづ相撲場                                                                    | 20                 |     |
|       | 28     | 柔道         | ○                                        | ○               | □             | 鶴ヶ城体育館                                                                    | 251                |     |
|       | 29     | 空手道        | 5月31日(金)～6月2日(日)                         |                 |               | 会津工業高等学校体育館                                                               | 185                |     |
|       | 30     | ボート        | ○                                        | ○               |               | 福島県営荻野漕艇場                                                                 | 68                 |     |
|       | 31     | レスリング      | ○                                        | ○               |               | 田島高等学校格技場                                                                 | 37                 |     |
|       | 32     | スキー        | アルペン：2年1月15日(水)<br>クロカン：2年1月9日(木)～11日(土) |                 |               | アルペン：会津高原たかつえスキー場<br>クロカン：檜枝岐村七入クロスカントリーコース                               | 20                 |     |
|       | 33     | なぎなた       |                                          | ○               |               | 葵高等学校第一体育館                                                                | 30                 |     |
|       | 34     | 駅伝競走       | 10月24日(木)                                |                 |               | 猪苗代町駅伝コース 猪苗代町総合体育館 猪苗代町体験交流館                                             | 477                |     |
| いわき   | 35     | ラグビーフットボール | 10月26日(土)～27日(日)<br>11月3日(日)・11月9日(土)    |                 |               | 21世紀の森公園いわきグリーンフィールド・多目的広場                                                | 242                |     |
|       | 36     | ソフトテニス     | ○                                        | ○               | □             | 平テニスコート                                                                   | 729                |     |
|       | 37     | 軟式野球       | 未開催                                      |                 |               | 未開催                                                                       | —                  |     |
|       | 38     | ボクシング      | 5月24日(金)～26日(日)                          |                 |               | 磐城緑蔭中学校・高等学校ボクシング場                                                        | 11                 |     |
|       | 39     | ヨット        | ○                                        |                 |               | 小名浜港(釜の前)                                                                 | 4                  |     |
| 相双    | 40     | サッカー 女子    | 5月31日(金)～6月2日(日)                         |                 |               | 広野町サッカー場                                                                  | 82                 |     |
| 特殊専門部 |        | 定時制通信制     | 6月8日(土)                                  |                 |               | 郡山総合体育館 郡山西部体育館 郡山庭球場<br>郡山萌世高等学校アリーナ 福島中央高等学校グラウンド<br>ふるさとの森スポーツパーク軟式野球場 | 265                |     |

### 3 福島県中学校体育連盟

#### (1) 令和元年度福島県中学校体育連盟役員

| 役職名 | 氏名    | 所属名           | 地区名 |
|-----|-------|---------------|-----|
| 会長  | 菊池 裕二 | 若松四中          | 会津  |
| 副会長 | 斎藤 剛  | 信夫中           | 県北  |
|     | 長沼 政美 | 安積中           | 県中  |
|     | 高橋 顕  | 白河二中          | 県南  |
|     | 小椋 裕  | 若松一中          | 会津  |
|     | 吉田 信治 | 内郷一中          | いわき |
|     | 堀川 泰宏 | 小高中           | 相双  |
| 理事長 | 大和田 亮 | 福島三中          | 県北  |
| 理事  | 武井 慎  | 県教育庁健康教育課指導主事 |     |
|     | 安齋 敏彦 | 二本松一中         | 県北  |

| 役職名  | 氏名    | 所属名  | 地区名 |
|------|-------|------|-----|
| 理事   | 塚原 雅也 | 富田中  | 県中  |
|      | 小野 覚久 | 白河二中 | 県南  |
|      | 宗田 昌史 | 一箕中  | 会津  |
|      | 横須賀 潤 | 玉川中  | いわき |
|      | 藍原 広明 | 尚英中  | 相双  |
| 監事   | 仁平 光俊 | 湖南小中 | 県中  |
|      | 秋元 拓也 | 錦中   | いわき |
|      | 中田 敬介 | 富岡二中 | 相双  |
| 顧問   | 関内 健  | 前会長  | いわき |
| 事務局長 | 田中 信次 | 松陵中  | 県北  |

#### (2) 第62回福島県中学校体育大会

| 競技種目     | 競技会場                      | 期日                    | 参加人数              |
|----------|---------------------------|-----------------------|-------------------|
| 陸上競技     | とうほう・みんなのスタジアム            | 7月3日(水)～7月5日(金)       | 1,330             |
| 水泳       | 競泳                        | 郡山しんきん開成山プール          | 7月22日(月)～7月24日(水) |
|          | 飛び込み                      | 郡山カルチャーパークプール         | 7月3日(水)           |
| 軟式野球     | ヨーク開成山スタジアム               | 7月22日(月)～7月24日(水)     | 4,419             |
|          | 牡丹台野球場                    | 7月22日(月)～7月23日(火)     |                   |
|          | いわせグリーン球場                 | 7月22日(月)              |                   |
|          | 小野運動公園球場                  | 7月22日(月)              |                   |
| ソフトボール   | 十六沼公園スポーツ広場               | 7月23日(火)～7月24日(水)     |                   |
| バスケットボール | 須賀川アリーナ                   | 7月23日(火)～7月24日(水)     |                   |
|          | 郡山西部体育館                   | 7月23日(火)              |                   |
| バレーボール   | 白河市中央体育館                  | 7月23日(火)～7月24日(水)     |                   |
|          | 白河市立表郷中学校体育館              | 7月23日(火)              |                   |
|          | 西郷村立西郷第二中学校講堂             | 7月23日(火)              |                   |
| ソフトテニス   | 会津総合運動公園テニスコート            | 7月23日(火)～7月24日(水)     |                   |
| 卓球       | 二本松市城山総合体育館               | 7月22日(月)～7月24日(水)     |                   |
| バドミントン   | あいづ総合体育館                  | 7月23日(火)～7月24日(水)     |                   |
| サッカー     | いわきグリーンフィールド              | 7月22日(月)～7月24日(水)     |                   |
|          | いわきグリーンフィールド多目的広場         | 7月22日(月)～7月24日(水)     |                   |
|          | 新舞子フットボール場                | 7月22日(月)              |                   |
|          | いわきFCフィールド                | 7月22日(月)              |                   |
| ハンドボール   | 石川町総合体育館                  | 7月22日(月)～7月24日(水)     |                   |
| 柔道       | いわき南の森スポーツパーク南部アリーナ       | 7月23日(火)～7月24日(水)     |                   |
| 剣道       | 南相馬市スポーツセンター              | 7月23日(火)～7月24日(水)     |                   |
| 相撲       | あいづ相撲場                    | 7月23日(火)～7月24日(水)     |                   |
| 新体操 ※1   | 福島トヨタクラウンアリーナ(福島市国体記念体育館) | 7月23日(火)～7月25日(木)     |                   |
| 体操競技     | 福島トヨタクラウンアリーナ(福島市国体記念体育館) | 7月24日(水)              |                   |
| 駅伝競走     | いわき市21世紀の森公園              | 10月3日(木)～10月4日(金)     | 546               |
| スケート     | 磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場        | 12月6日(金) (高校と同日開催)    | 4                 |
| スキー ※2   | 尾瀬檜枝岐温泉スキー場               | 令和2年1月14日(火)～1月16日(木) | 115               |
|          | 尾瀬檜枝岐クロスカントリーコース          | 令和2年1月14日(火)～1月16日(木) |                   |

※1 23日の新体操男子は体操競技会場にて実施。

※2 スキー大会ジャンプ・コンバインド競技は雪不足のため中止。(山形県米沢市)

## 第4節 学校保健・学校安全

### 1 学校保健・学校安全研修会等

#### (1) 学校保健

| 事業名                     | 期 日                                               | 会 場                                       | 参加人数                |
|-------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------|
| 養護教諭<br>経 験 者<br>研 修 I  | 校内研修 (3日)<br>校外研修 (3日)<br>宿泊研修<br>9月11日<br>～9月13日 | 学校の計画による<br>教育センター<br>教育センター              | 21名                 |
| 養護教諭<br>経 験 者<br>研 修 II | 校内研修 (4日以上)<br>校外研修 (6日以上)<br>宿泊研修<br>7月30日～8月1日  | 学校の計画による<br>各教育事務所の<br>計画による<br>教育センター    | 10名                 |
| 養護教諭<br>専門研修<br>講 座     | 令和元年度は実<br>施なし (隔年実<br>施)                         |                                           |                     |
| 健康教育<br>推 進 者<br>研 修 会  | 9月6日<br>10月1日<br>10月10日                           | 白河合同庁舎<br>郡山市中央公民館<br>とうほう・みんな<br>の文化センター | 68名<br>196名<br>159名 |

#### (2) 学校安全

学校安全指導者養成研修会

相双地区：令和元年10月8日（火）

会 場：原町区福祉会館

参 加 者：73名

### 2 児童・生徒の健康管理費補助

#### (1) 要保護児童生徒援助費補助金(医療費)

学校安全保健法第25条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

ア 県立学校

| 対象児童生徒数（人） |        | 設置者が援助<br>した額（円） | 補 助 金<br>確 定 額（円） |
|------------|--------|------------------|-------------------|
| 区 分        | 特別支援学校 |                  |                   |
| 要保護        | 0      | 0                | 0                 |

イ 市町村立学校

| 対象児童生徒数（人） |     |     |        | 設置者が援助<br>した額（円） | 補助金<br>確定額（円） |
|------------|-----|-----|--------|------------------|---------------|
| 区 分        | 小学校 | 中学校 | 特別支援学校 |                  |               |
| 要保護        | 42  | 14  | 0      | 1,410,111        | 664,845       |

### 3 福島県学校保健会

#### (1) 会員

ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒

イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

#### (2) 財政

令和元年度予算額 4,245,493円

#### (3) 事業概要

ア 学校保健講習会の開催(県内20支部単位)

イ 健康づくり推進学校表彰・学校保健功労者表彰・学校安全ボランティア奨励賞・感謝状贈呈

ウ 各種研究大会、講習会等への派遣

エ 刊行物の発行

学校保健会報 第50号

### 4 独立行政法人日本スポーツ振興センター

#### (1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の令和元年度の加入幼児児童生徒数は41,908人で、前年度に比べ1,454人減少した。

#### (2) 災害共済給付状況

県立学校において、令和元年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では4,286件(平成30年度4,248件)、給付金額では52,031,322円である。

給付件数では41件増加、給付金額で25,381,719円減少した。

**(3) 令和元年度県立学校災害共済給付状況**

| 区 分      | 医 療 費                   |            | 障害見舞金    |        | 死亡見舞金    |            | 供 花 料    |        | 合 計              |            |
|----------|-------------------------|------------|----------|--------|----------|------------|----------|--------|------------------|------------|
|          | (発生件数)<br>給付件数          | 給 付 額      | 給付<br>件数 | 給 付 額  | 給付<br>件数 | 給 付 額      | 給付<br>件数 | 給 付 額  | (発生件数)<br>給付件数   | 給 付 額      |
| 幼稚園      | 件<br>(0)<br>0           | 円<br>0     | 件<br>0   | 円<br>0 | 件<br>0   | 円<br>0     | 件<br>0   | 円<br>0 | 件<br>(0)<br>0    | 円<br>0     |
| 小学校      | (10)<br>19              | 34,114     | 0        | 0      | 0        | 0          | 0        | 0      | (10)<br>19       | 34,114     |
| 中学校      | (24)<br>40              | 221,981    | 0        | 0      | 1        | 15,000,000 | 0        | 0      | (24)<br>41       | 15,221,981 |
| 高等<br>学校 | 全日制<br>(1,437)<br>4,154 | 36,454,953 | 0        | 0      | 0        | 0          | 0        | 0      | (1,437)<br>4,154 | 36,454,953 |
|          | 定時制<br>(28)<br>67       | 297,566    | 0        | 0      | 0        | 0          | 0        | 0      | (28)<br>67       | 297,566    |
|          | 通信制<br>(2)<br>5         | 22,708     | 0        | 0      | 0        | 0          | 0        | 0      | (2)<br>5         | 22,708     |
| 合 計      | (1,501)<br>4,285        | 37,031,322 | 0        | 0      | 1        | 15,000,000 | 0        | 0      | (1,501)<br>4,286 | 52,031,322 |

**(4) 学校安全支援業務**

ア 各種研修会等への講師派遣

**第5節 学校給食**

**1 学校給食に関する研修会**

| 名 称               | 開催月日                        | 会 場                | 参加人数 |
|-------------------|-----------------------------|--------------------|------|
| 新規採用学校<br>栄養職員研修  | 校内研修<br>各15日                | 所属校・<br>勤務共同調理場    | 2名   |
|                   | 校外研修<br>地区別研修A<br>4日        | 教育事務所の計<br>画による    |      |
|                   | 地区別研修B<br>3日                | 市町村教育委員<br>会の計画による |      |
|                   | 宿泊研修A 3日<br>5月27日～29日       | 教育センター             |      |
|                   | 宿泊研修B 3日<br>9月18日～20日       | 教育センター             |      |
| 学校栄養職員<br>経験者研修 I | 校内研修 2日                     | 所属校・<br>勤務共同調理場    | 7名   |
|                   | 校外研修 2日<br>(宿泊研修)<br>8月6～7日 | 教育センター             |      |
| 学校栄養職員<br>専門研修    | 宿泊研修 3日<br>9月2日～4日          | 教育センター             | 2名   |

**2 学校給食用パン品質調査**

学校給食用パン品質を良好して、学校給食の食事内容の充実向上に役立たせるため実施した。

| 教育事務所   | 調査件数 |
|---------|------|
| 県 北     | 4件   |
| 県 中     | 19件  |
| 県 南     | 6件   |
| 会 津     | 2件   |
| 南 会 津   | 1件   |
| 相 双     | 2件   |
| い わ き   | 6件   |
| 県 立 学 校 | 1件   |
| 合 計     | 41件  |

**3 食育等に関する研修会等**

**(1) 食習慣・肥満等の健康課題に対応する食育指導者研修会  
及び福島県学校給食担当者会議**

- 日 時：令和元年5月22日（水）
- 会 場：県環境創造センター
- 参加者：138名

**(2) ふくしまっ子の健康課題に対応する食環境を考える会**

県北：令和元年8月2日（金）  
 二本松市東和文化センター 188名参加  
 相双：令和元年8月20日（火）  
 万葉ふれあいセンター 83名参加  
 いわき：令和元年8月5日（月）  
 いわき合同庁舎 151名参加

**(3) 栄養教諭食育推進研修会**

○日 時：令和元年12月3日（火）  
 ○会 場：西郷村立西郷第一中学校  
 ○参加者：68名

**4 学校給食関係の国庫助成実績**

平成23年4月1日付け23文科施第3号文部科学大臣裁定「学校施設環境改善交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

令和元年度「学校施設環境改善交付金」（学校給食施設）

| 設置者名 | 交付額<br>(千円) | 学校または共同調理場名                | 事業名         | 児童生徒数<br>(人) | 構造<br>(区分)   | 対象面積<br>(㎡) |
|------|-------------|----------------------------|-------------|--------------|--------------|-------------|
| 福島県  | 15,115      | 相馬支援学校(Ⅱ期工事)               | 単独校調理場(新增築) | 130          | 鉄筋コンクリート造(R) | 89          |
| 福島市  | 1,243       | 福島市立福島養護学校<br>(小・中) (Ⅰ期工事) | 単独校調理場(新增築) | 119          | 鉄筋コンクリート造(R) | 9           |
|      | 750         |                            | 単独校調理場(改築)  |              |              | 8           |
| 須賀川市 | 11,097      | 阿武隈小学校(Ⅰ期工事)               | 単独校調理場(新增築) | 447          | 鉄筋コンクリート造(R) | 168         |
|      | 4,503       |                            | 単独校調理場(改築)  |              |              | 102         |
| 天栄村  | 20,006      | 天栄村学校給食センター<br>(Ⅰ期工事)      | 共同調理場(新增築)  | 374          | 鉄筋構造(S)      | 70          |
|      | 54,288      |                            | 共同調理場(改築)   |              |              | 308         |
| 石川町  | 4,180       | 石川中学校(Ⅱ期工事)                | 単独校調理場(新增築) | 360          | 鉄筋コンクリート造(R) | 26          |
|      | 8,454       | 石川中学校(Ⅱ期工事)                | 単独校調理場(改築)  |              |              | 81          |
| 計    | 119,636     |                            | 9件          |              |              |             |

## 第9章 社会教育

### 第1節 概要

#### 1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、本県における家庭と地域社会の現状より、社会全体として子育て家庭を支援する必要等について審議することにより、提言「地域全体で子どもたちを育てる協働体制の実現に向けて～地域総ぐるみによる家庭教育・学校教育の充実を通じて～」をまとめ、進捗状況を検証してきた。（第2章 第7節に記載）

#### 2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、双方向性の協働体制のもと、地域が学校を支援していく活動だけでなく、学校も地域に貢献する活動を展開する「地域学校協働活動事業」をはじめ、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援活動事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

#### 3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業と連携する等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

#### 4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等

の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「地域学校協働本部事業」を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、また、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への思いを、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七音で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

#### 5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

#### 6 子どもの読書活動推進

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、中高校生によるビブリオバトルを開催した。

さらに、これまでの成果と課題を踏まえ、第四次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定した。

#### 7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

#### 8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

##### (1) 事業1「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために『『ふくしまの心』を育む自然体験応援事業』を実施し、東日本大震災後の自然体験の不足や体力の低下等を補うため、充実した自然体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

##### (2) 事業2「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが福島の今を伝える活動を行う中で主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことなど、その想いを具現化できる機会を提供するため、「『ふくしまの未来』へつなぐ体験応援事業」を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

## 第2節 社会教育一般

### 1 社会教育推進体制の充実

#### (1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日 時 平成31年4月5日(金)

場 所 公立学校共済組合飯坂保養所

第2回 日 時 令和2年1月31日(金)

場 所 公立学校共済組合飯坂保養所

#### (2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

#### (3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

#### (4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

### 2 社会教育施設の整備充実

#### (1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

#### (2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

県立図書館が市町村立図書館を31自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、2高等教育機関も巡回しその連携体制の強化に努めた。

#### (3) 災害復旧国庫補助事業

激甚災害に指定された令和元年台風19号、20号及び21号で被災した公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、災害査定等の事務を行った。

また、東日本大震災で被災し、未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

### 3 社会教育関係職員の研修

#### (1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和元年5月15日(水)～16日(木)

イ 会場 福島県男女共生センター

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 1日目64名、2日目61名

オ 講師

教育庁社会教育課

社会教育主事兼指導主事 神田 忠恒

福島大学地域創造支援センター

副センター長・教授 木暮 照正

福島県公民館連絡協議会 会長 黒田 知恵子

いわき市教育委員会 常磐公民館

主査 赤津 智彦

教育庁社会教育課主幹

仁科 英俊

#### (2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和元年8月26日(月)～27日(火)

イ 会場 郡山市立中央公民館

ウ 参加対象 社会教育関係行政職員(公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員)、社会教育指導員等

エ 参加者数 1日目47名、2日目24名

オ 講師

尚綱学院大学 教授 松田 道雄

福島市杉妻学習センター 館長 鈴木 秀夫

郡山市立柴宮地域公民館 館長 橋本 隆

国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター

社会教育調査官 山田 智章

### 4 社会教育研究集会

#### (1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

#### (2) 主管 相馬地区社会教育委員連絡協議会

#### (3) 共催 双葉地区社会教育委員連絡協議会

#### (4) 後援 福島県教育委員会、相馬市・南相馬市・飯館村

・新地町・浪江町・葛尾村・双葉町・大熊町・

富岡町・川内村・檜葉町・広野町の各教育委員会

#### (5) 日程・内容

ア 期日 令和元年8月29日(木)～30日(金)

イ 会場 相馬市民会館大ホール ほか

ウ 参加対象 市町村社会教育委員、市町村社会教育行政担当者、社会教育関係施設職員、社会教育関係団体会員等

エ 参加者数 2日間延べ439名

オ 基調講演

講師 南相馬市博物館学芸員 二上 文彦  
演題 「相馬野間追の歴史と今」

カ 分科会

第1分科会「子育て・家庭教育支援について」  
第2分科会「地域と学校との連携・協働について」  
第3分科会「地域を担う人材発掘・人材育成について」  
第4分科会「社会教育委員の役割について」

## 5 社会教育指導員の設置

### (1) 設置数 (単位：人)

|          | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計   |
|----------|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 社会教育指導員数 | 45 | 17 | 11 | 57 | 15  | 12 | 6   | 163 |

### (2) 福島県市町村社会教育指導員研修会 (年2回)

ア 第1回

- (ア) 期日 令和元年5月8日(水)
- (イ) 場所 郡山市労働福祉会館
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員
- (エ) 参加者数 132名
- (オ) 講師 社会教育課主幹 仁科 英俊

イ 第2回

- (ア) 期日 令和元年9月27日(金)
- (イ) 場所 パルセいいざか
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者
- (エ) 参加人数 116名
- (オ) 講師 福島県立医科大学 主任教授 大平 哲也  
演題 「笑い与健康」

## 6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

## 7 社会教育研修会

### (1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方針を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

### (2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

### (3) 期日・会場

| 域内  | 期日     | 実施市町村等 | 参加者  |
|-----|--------|--------|------|
| 県北  | 2月20日  | 桑折町    | 30名  |
| 県中  | 7月12日  | 天栄村    | 10名  |
| 県南  | 5月21日  | 矢祭町    | 9名   |
|     | 5月30日  | 西郷村    | 27名  |
|     | 11月14日 | 白河市    | 30名  |
| 会津  | 9月6日   | 三島町    | 5名   |
|     | 11月6日  | 喜多方市   | 60名  |
| 会津  | 11月28日 | 北塩原村   | 12名  |
|     | 11月29日 | 会津若松市  | 10名  |
| 南会津 | 7月10日  | 只見町    | 13名  |
|     | 9月3日   | 南会津町   | 21名  |
| 相双  | 8月22日  | 相馬市    | 11名  |
|     | 9月4日   | 葛尾村    | 4名   |
| いわき | 6月5日   | いわき市   | 148名 |
|     | 2月4日   | いわき市   | 121名 |

合計 15か所 参加者 511名

## 8 福島県公民館研究集会

- (1) 期日 令和元年10月11日(金)
- (2) 会場 いわき市文化センター
- (3) 参加対象 公民館職員等
- (4) 講師 東洋システム株式会社  
代表取締役 庄司 秀樹

## 9 社会教育職員研修派遣

### (1) 東北大学社会教育主事講習

- ア 主催 東北大学教育学部
- イ 期日・会場  
令和元年6月21日(金)  
福島県男女共生センター  
令和元年7月1日(月)～8月7日(水)  
国立磐梯青少年交流の家  
東北大学教育学部
- ウ 受講者数 14名
- エ 修了者名

| 域内    | 氏名    | 勤務先         |
|-------|-------|-------------|
| 県北(3) | 伊藤 文博 | 福島市松川学習センター |
|       | 佐久間友貴 | 福島市飯坂学習センター |
|       | 尾形 陽介 | 大玉村立玉井小学校   |
| 県中(2) | 今井 悠仁 | 須賀川市立第三小学校  |
|       | 米本 順一 | 小野町立浮金小学校   |
| 県南(2) | 高田 顕  | 白河市立白河第一小学校 |
|       | 吉田 頼信 | 白河市立東北中学校   |
| 会津(1) | 穴澤 正人 | 喜多方市立会北中学校  |

| 域内     | 氏名    | 勤務先          |
|--------|-------|--------------|
| 南会津(2) | 長澤 秀弥 | 只見町立只見小学校    |
|        | 吉村 周平 | 下郷町教育委員会     |
| 相双(2)  | 猪狩 香奈 | 広野町立広野小学校    |
|        | 尾形 泰英 | 富岡町立富岡第一小学校  |
| いわき(1) | 秋山 薫  | いわき市立汐見が丘小学校 |
| 県立(1)  | 木原 清和 | 県立郡山支援学校     |

## (2) 国立教育政策研究所主催講習

### ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和元年7月19日(金)～8月23日(金)

b B講習 令和2年1月20日(月)～2月27日(木)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 1名

(エ) 修了者名

| 講習名 | 氏名   | 勤務先        |
|-----|------|------------|
| B講習 | 西田 治 | 県立相馬農業高等学校 |

### イ 専門講座等

| 講座名        | 期間             | 受講者数 |
|------------|----------------|------|
| 社会教育主事専門講座 | 11月5日(火)～8日(金) | 1    |

## 10 出版資料

| 資料名         | 部門   | 規格 | 頁数 | 広報手段  |
|-------------|------|----|----|-------|
| 社会教育 No.339 | 社会教育 | A4 | 13 | Web掲載 |

## 第3節 地域コミュニティの再生

### 1 地域学校協働活動事業

#### (1) 目的

県内8本部を先進的な取組のモデル学区に指定し、地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を置き、地域と学校が連携・協働のもと幅広い地域住民等が参画し、郷土学習や地域行事への参加等をとおして、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域づくりを推進する事業を展開する。

#### (2) 県事業

##### ア 評価・検証委員会の設置

###### 第1回

期日：令和元年7月16日(火)

会場：杉妻会館

###### 第2回

期日：令和元年10月9日(水)

会場：西郷村立羽太小学校

#### 第3回

期日：令和2年2月4日(火)

会場：杉妻会館

#### イ 地域連携担当教職員等連絡協議会の実施

##### 第1回

期日：令和元年5月27日(月) 39名参加

講義：尚綱学院大学 教授 松田 道雄

##### 第2回

期日：令和元年11月5日(火) 42名参加

講演：国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官(併)社会教育実践センター社会教育調査官 志々田 まなみ

##### 第3回

期日：令和2年2月21日(金) 44名参加

事例発表：「『キャリア教育』がこれからの時代に必要な力を育む～近津小学校の取組を通して～」 棚倉町立近津小学校 佐々木 功 丹治 康幸

#### ウ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

期日：令和2年1月28日(火) 316名参加

会場：郡山市ビッグパレットふくしま

実践発表：「地域学校協働活動事業の実践について」モデル8市町村(国見町、大玉村、天栄村、西郷村、西会津町、川内村、双葉町、檜葉町)

基調講演：「地域と共にある学校をつくる～地域連携担当教職員の使命と、地域と学校の連携・協働の推進～」

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部 防災・減災企画官 廣田 貢

シンポジウム：「地域と共にある学校をつくる」

コーディネーター

尚綱学院大学 教授 松田 道雄

パネリスト

国見町教育委員会教育長 岡崎 忠昭

本宮市立五百川小学校 安齋 宏之

いわき市常磐公民館 赤津 智彦

西会津町立西会津小学校 山口 弘

総評：尚綱学院大学 教授 松田 道雄

#### (3) 市町村事業

##### ア 評価・検証委員会の実施

##### イ 地域学校協働活動事業の実施 8町村

## 2 放課後子ども教室事業

#### (1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

## (2) 県事業

- ア 放課後子ども教室の実施  
県立特別支援学校（2教室）  
・福島県立聴覚支援学校  
・福島県立平支援学校

## (3) 市町村事業

- ア 運営委員会の実施  
イ 子ども教室の実施  
38市町村 127教室実施

## 3 学校支援活動事業

### (1) 目的

様々な体験・交流・学習活動等を通じて、子どもたちの社会性・創造性の豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子どもたちと大人の積極的な参加と交流による地域コミュニティの性化と地域社会全体の教育力向上を図る。

### (2) 市町村委託

20の市町村（桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、三春町、白河市、西郷村、棚倉町、会津若松市、北塩原村、柳津町、三島町、西会津町、富岡町、檜葉町）に30の地域学校協働本部が設置され実施した。

### (3) 市町村補助

なし

## 4 学校・家庭・地域連携サポート事業

### (1) 目的

地域学校協働本部事業にかかる研修会を実施し、地域連携担当教職員やコーディネーター等の養成と資質向上、それに携わるボランティア等の拡大及び学校の理解促進を図る。

### (2) 県事業

- ア 地域学校協働活動研修会 8回  
（地区別研修7回 全県研修1回）

#### 【全県研修】

期 日 令和元年6月3日(月)  
会 場 郡山市労働福祉会館  
参加者 129名  
内 容

#### 講 演

「これからの地域と学校に求められる連携・協働の在り方について」

国立教育政策研究所社会教育実践センター

専門調査員 白井 淳子

#### 事例発表 I

「つながり広がる地域学校協働本部事業」

西会津町地域学校協働本部

西会津町教育委員会学校教育課主査

小塚 美由紀

家庭教育コーディネーター

紫藤 真理子

#### 事例発表 II

「～子どもたちが健やかに育つ力を地域と共に～」

野木沢放課後子ども教室

放課後子ども教室コーディネーター

熊井 トシエ、遠沢 幸恵

石川町教育委員会生涯学習課係長 草野 智子

#### 事例発表 III

「『おのだなかよし教室』の活動

～なかよく・かしこく・元気よく～」

おのだなかよし教室 安全管理員 鈴木 きよ子

白河市役所地域振興課副主査 佐藤 恵理

#### 【県北地区】

期 日 令和元年10月25日(金)

会 場 吾妻学習センター

参加者 102名

内 容 講話・グループ協議

#### 【県中地区】

期 日 令和元年7月30日(火)

会 場 たまかわ文化体育館

参加者 39名

内 容 実践発表・講演・演習・情報交換

#### 【県南地区】

期 日 令和元年8月28日(水)

会 場 白河市 新白信ビル

参加者 51名

内 容 行政説明・事例発表・講義・グループ協議

#### 【会津地区】

第1回

期 日 令和元年9月30日(月)

会 場 会津若松市立大戸小学校

参加者 86名

内 容 実践発表・情報交換・講演・実技演習

第2回

期 日 令和元年12月18日(水)

会 場 道の駅あいづ 湯川・会津板下

参加者 31名

内 容 行政説明・講義・実践発表・研究協議

#### 【南会津地区】

期 日 令和元年8月19日(月)

会 場 南会津町御蔵入交流館

参加者 44名

内 容 実践発表・情報交換・講演・実技演習

#### 【相双地区】

期 日 令和元年12月17日(火)

会 場 福島県環境創造センター環境放射線センター

参加者 58名

内 容 実践発表・情報交換・演習

イ 地域連携担当教職員等研修会 地区別研修会7回

#### 【県北地区】

期 日 令和元年7月9日(火)

場 所 桑折町多目的スタジオ「イコーゼ！」  
参加者 86名  
内 容 講義・講演・グループ協議

【県中地区】

期 日 令和元年7月2日(火)  
場 所 郡山市労働福祉会館  
参加者 123名  
内 容 講義・講演・実践発表

【県南地区】

期 日 令和元年6月10日(月)  
場 所 白河合同庁舎  
参加者 68名  
内 容 講義・講演・実践発表・グループ協議

【会津地区】

期 日 令和元年7月1日(月)  
場 所 道の駅あいづ 湯川・会津坂下  
参加者 69名  
内 容 講義・講演・実践発表

【南会津地区】

期 日 令和元年6月17日(月)  
場 所 南会津町御蔵入交流館  
参加者 34名  
内 容 講義・講演・実践発表

【相双地区】

期 日 令和元年7月17日(水)  
場 所 福島県環境創造センター環境放射線センター  
参加者 67名  
内 容 講義・講演・実践発表

【いわき地区】

期 日 令和元年6月5日(水)  
場 所 いわき産業創造館  
参加者 163名  
内 容 講義・講演・事例体験・グループ協議

## 5 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

### (1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

### (2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集  
資料収集件数 13,124件
- イ 避難自治体支援  
移動図書館（あづま号）による資料貸出  
稼働18回 貸出2,906冊  
（開催場所 飯館村、檜葉町ほか 計28か所）

## 第4節 家庭教育

### 1 地域でつながる家庭教育応援事業

#### (1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

#### (2) 家庭教育応援プロジェクト

##### ア 福島県地域家庭教育推進協議会

第1回 令和元年5月22日(水) 杉妻会館  
第2回 令和2年2月7日(金) 杉妻会館

##### イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議

各教育事務所域内（7か所）  
各地区2回実施（6月～2月）

##### ウ 家庭教育応援企業推進活動

##### 連携企業数

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 県北地区  | 12社（184社）       |
| 県中地区  | 17社（241社）       |
| 県南地区  | 14社（71社）        |
| 会津地区  | 4社（146社）        |
| 南会津地区 | 6社（65社）         |
| 相双地区  | 0社（10社）         |
| いわき地区 | 19社（59社）        |
| 計     | 72社（776社）※（ ）累計 |

##### エ 親子の学び応援講座

##### 【県北地区】

- ・川俣町PTA連絡協議会 63名  
令和元年8月1日(木)  
「聞いてますか、子どもの気持ち。語っていますか、親の思い。」～「自己肯定感」と「生きる力」を育む～

- ・親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子
- ・伊達地区PTA連絡協議会 200名  
令和元年11月9日(土)  
「子どもの創造的想像力を育む親の役割～AIに負けない子育てを考える～」  
I P U・環太平洋大学教授  
お茶の水女子大学名誉教授 内田 伸子

##### 【県中地区】

- ・平田村立小平小学校PTA研修会 219名  
令和元年7月6日(土)  
「子どもたちを健康に導く運動プログラム“BALL GAME”体験会」  
福島ファイアーボンズ 榊原 裕司、徳島 慎之介  
国際ビジネス公務員大学校  
堀越 啓子、高階 裕美、学生ボランティア3名

- ・郡山市PTA連合会西ブロック研修会 126名  
令和元年8月18日(日)

「子どもが危ない！スマホ社会」

株式会社情報文化総合研究所

代表取締役 佐藤 佳弘

#### 【県南地区】

- ・東白川郡埴町立笹原小学校PTAほか 120名  
令和元年11月16日(土)

「メディアと心の健康」

福島県立矢吹病院 副院長 角田 智哉

- ・中島村連合PTA 200名  
令和元年12月14日(土)

「はやぶさから宇宙へ 僕だって未来へ挑戦できる。」

北海道大学理学研究員 自然史科学 教授

JAXA地球外物質研究グループ長 坂本 尚義

#### 【会津地区】

- ・金山町立金山中学校父母と教師の会ほか 56名  
令和元年7月8日(月)

「インターネット・スマホ 子供にどう使わせるか  
～ネット依存やLINEいじめ子供を守るには～」

会津大学短期学部産業情報学科 教授 中澤 真

- ・会津若松市立一箕中学校父母と教師の会ほか 391名  
令和元年7月17日(水)

「インターネット・スマホ 子供にどう使わせるか  
～ネット依存やSNSトラブルにならないために～」

会津大学短期学部産業情報学科 教授 中澤 真

- ・会津若松市立松長小学校PTAほか 256名  
令和元年12月5日(木)

「脱！スマホのトラブル～危険を避けて、上手に使え～」

株式会社情報文化総合研究所

代表取締役 佐藤 佳弘

- ・会津美里町立本郷子ども園PTAほか 80名  
令和2年1月25日(土)

「子どもメディア～親としての向き合い方～」

星総合病院

病院長補佐兼小児科部長 佐久間 弘子

#### 【南会津地区】

- ・田島保育園PTAほか 105名  
令和元年6月1日(土)

「進化するヨコミネ式～子どもの才能の伸ばし方～」

ヨコミネ株式会社 横峯 吉文

- ・南会津町立館岩小学校・館岩中学校PTA 30名  
令和元年6月28日(金)

「子どもの読書活動の充実のために」

只見町立只見小学校長 吉野 徹

- ・南会津町立田島小学校・田島中学校PTA 160名  
令和元年6月28日(金)

「ワークショップで考える『情報モラル』」

福島県生徒指導アドバイザー 目黒 朋子

- ・南会津町立館岩中学校・館岩小学校PTA 52名  
令和元年6月29日(土)

「メディアとのかかわり方を考える～スマホに生活を支配されないために～」

南会津教育事務所 指導主事 伊藤 武徳

- ・下郷町立旭田小学校・下郷中学校PTA 81名  
令和元年7月5日(金)

「親子でこれからのネット社会を生き抜くために」

南会津教育事務所 指導主事 伊藤 武徳

- ・南会津町立田島中学校区PTAほか 270名  
令和元年7月8日(月)

「夢を叶えるために～明日に向かって進む、20年前の卒業生からのメッセージ～」

土っこ田島farm 代表取締役社長 湯田 浩和

- ・只見町立明和小学校・只見中学校PTA 51名  
令和元年7月11日(木)

「家庭における保護者の子どもとの関わり方」

会津大学短期学部 幼児教育学科 木村 淳也

- ・暁の星幼稚園・田島小学校PTAほか 26名  
令和元年9月13日(金)

「幼児期の問題行動への対処(対応)の仕方について」

南会津教育事務所 指導主事 佐藤 智

- ・南会津町立荒海小・中学校PTA 41名  
令和元年9月20日(金)

「現代社会に生きる子どもの理解と子育て」

清和大学短期大学部 非常勤講師 佐久間 正弘

- ・南会津町立松沢小学校PTA 128名  
令和元年12月12日(木)

「発達障がい？いじめ？笑い？人間って、やっぱりすばらしい！」

新潟お笑い集団NAMARA

保育士お笑い芸人 金子 ポボ

- ・南会津町立南郷小学校PTA 61名  
令和2年2月21日(金)

「ネット社会の危険から子どもを守るために」

南会津教育事務所 指導主事 伊藤 武徳

#### 【相双地区】

- ・南相馬市立石神第二小学校PTAほか 496名  
令和元年6月28日(金)

「楽しい食事で作られる すこやかな心と体」

料理愛好家 わか(江川 和花)

- ・相馬市立飯豊小学校PTAほか 180名  
令和元年7月2日(火)

「楽しい食事で作られる すこやかな心と体」

料理愛好家 わか(江川 和花)

#### 【いわき地区】

- ・四倉・久ノ浜方部PTAほか 64名  
令和元年9月1日(日)

「子どもの命を守るために～地域や保護者にできることは何か～」

- 福島県浜児童相談所 所長 佐藤 早苗  
 ・いわき市立湯本第一中学校 P T A ほか 329名  
 令和元年9月12日(木)  
 「親子で一緒に考えよう！～脳を育てる本の読み方、スマホの使い方～」  
 東北大学加齢医学研究所 特別研究員 榎 浩平  
 ・いわき市立錦小学校・双葉町立双葉北小学校・双葉南小学校 P T A ほか 125名  
 令和元年12月7日(土)  
 「コーディネーション運動を親子で楽しもう！」  
 ジュニアスポーツ指導員 安齋 博勝

### (3) 家庭教育応援リーダー育成事業

#### ア 家庭教育支援者全県研修

令和元年7月28日(日)ビッグパレットふくしま 98名  
 講義

「家庭支援の在り方～保護者の養育力向上に役立つ支援のために～」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻  
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

#### 実演・演習

「『親育ち応援学習プログラム』を使ってみましょう！講師やインストラクターとして活動するときに『使える！』プログラムの実演・グループワークを皆さんで体験してみましよう！」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻  
 こども保育コース 講師 長谷川 美香  
 家庭教育インストラクター 大友 靖子

#### 選択研修

「発達障がい理解と保護者支援」

すかがわ子育てネットワーク TUNAGU

代表 富森 崇

「『支援力』の向上を目指して」

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター  
 こども支援部門 特任教授 本多 環

「ネット依存の理解と対応」

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター  
 主任心理療法士 三原 聡子

#### イ 家庭教育支援者地区別研修 7地区 362名

##### 【県北地区】

令和元年11月27日(水)県青少年会館 37名

#### 講義・演習

「今求められる支援とは～親子の自己肯定感を育む支援に向けて～」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻  
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

##### 【県中地区】

令和元年12月4日(水)郡山市労働福祉会館 33名

#### 講義・演習 I

「家庭教育支援について、みんなで考えよう」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻

こども保育コース 講師 長谷川 美香

#### 講義・演習 II

「子どもに愛が伝わっていますか～『聞く』『語る』、心豊かに生きる四つの条件～」

親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

##### 【県南地区】

令和元年12月2日(月)新白信ビル 52名

#### 講義 I

「ナラティブアプローチと明日飛子ども自立の里の支援」

NPO法人明日飛子ども自立の里

理事長 清水 国明

#### 講義 II

「インターネット・掲示板・SNSの現状と家庭におけるルールづくり」

白河市 IT 授業支援員 佐藤 裕

#### 講義 III

「家庭教育支援について、みんなで考えよう」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻  
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

##### 【会津地区】

令和元年11月13日(水)

道の駅あいづ湯川・会津坂下 52名

#### 講義・演習 I

「家庭教育支援について、みんなで考えよう」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻  
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

#### 講義・演習 II

「メディアとの上手な付き合い方～スマホのある時代の子育て～」

実践女子大学 人間社会学部人間社会学科

教授 駒谷 真美

##### 【南会津地区】

令和元年9月4日(水) 御蔵入交流館 61名

#### 講演

「子育てができる人は、仕事もできる！！」

株式会社ペンギンエデュケーション

代表取締役 横田 智史

令和元年11月4日(月) 御蔵入交流館 52名

#### 講義・演習

「家庭教育支援について、みんなで考えよう」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻  
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

#### 主張発表「テーマ：家族」

「お父さんの仕事につきたい」

下郷町立江川小学校 6年 渡部 永遠

「家族と共に」

南会津町立伊南小学校 6年 八須賀 真優

「家族の絆」

只見町立只見中学校 3年 山内 友斗

「怪我を乗り越えて」  
会津町立荒海中学校 3年 室井 勝輝  
講演・読み聞かせ  
「絵本でセラピー～子どもも大人も癒やす絵本との出逢い～」  
フリーアナウンサー 引田 さいこ

#### 【相双地区】

令和元年9月7日(土) 南相馬合同庁舎 16名  
行政説明「親育ち応援学習プログラム」  
相双教育事務所主任社会指導主事 佐藤 伸洋  
演習  
「福島県CAPグループによる『大人ワークショップ』」  
福島県CAPグループ あいづCAP  
田中 明子、芳賀 茂美、栗村 桂子  
講義・演習  
「家庭教育支援について、みんなで考えよう」  
桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻  
こども保育コース 講師 長谷川 美香

#### 【いわき地区】

令和元年10月11日(金) 中央台公民館 59名  
講演  
「家庭で地域で学校で～コミュニケーション上手になろう～」  
コーチングSERERE 大石 稜子  
講義・演習  
「家庭教育支援について、みんなで考えよう」  
桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻  
こども保育コース 講師 長谷川 美香

## 第5節 青少年教育

### 1 地域学校協働本部事業

#### (1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

#### (2) 内容

##### ア 県本部の設置

###### (ア) 構成

- ・本部長（政策監）
- ・副本部長（教育総務課長）
- ・事務局長（社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

###### (イ) 内容

- ・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等（以下「ボランティア」と

いう。）の登録促進に関すること

- ・ボランティアの活動を推進する研修に関すること
- ・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関すること
- ・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関すること

##### イ 地域本部の設置

###### (ア) 構成

- ・本部長（教育事務所長）
- ・副本部長（次長兼総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

###### (イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関すること
- ・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関すること
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関すること
- ・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関すること
- ・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整に関すること
- ・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関すること

##### ウ 市町村本部の設置

###### (ア) 構成

- ・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。
- ・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

###### (イ) 内容

- ・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関すること
- ・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関すること
- ・城内各学校との連携に関すること

##### エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

###### (ア) 構成

- ・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。
- ・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

###### (イ) 内容

- ・学校と地域が連携した取組の調整に関すること
- ・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関すること
- ・学校と地域が連携した取組の充実に関すること
- ・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関すること

##### オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理

学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び人材の登録を行う。

## 2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

### (1) 目的

家庭や地域における人と人とのかかわりの中で感じた思いや願いを十七音で表現することを通して、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

また、全国に避難している方からも作品を募集し「ふくしま」のことを考えるきっかけとする。

### (2) 内容

ア 応募期間 令和元年6月17日(月)～8月30日(金)

イ 応募総数 45,477 組

ウ 最終審査会 令和元年11月8日(金)

エ 審査員 和合 亮一(県立本宮高等学校教諭・詩人)  
佐々木 孝司(新地町教育委員会教育長)  
金澤 武男(県公立学校退職校長会副会長)

オ 表彰式 令和元年12月14日(土)  
ホテル福島グリーンパレス

カ 入賞数 絆部門・復興部門・ふくしま応援部門  
最優秀賞各5組、優秀賞各5組、  
佳作各10組

### (3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、県公式Twitterに掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、配布により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

## 第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

## 第7節 子どもの読書活動推進

### 1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

#### (1) 福島県子どもの読書活動推進会議

【第1回】令和元年7月18日(木)

杉妻会館3階「鈴蘭」

【第2回】令和2年1月30日(木)

杉妻会館3階「石楠花」

ア 目的

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

#### イ 子ども読書推進会議委員

| 氏名     | 職業等              | 区分                 |
|--------|------------------|--------------------|
| 高野 保夫  | 国立大学法人福島大学名誉教授   | 学識経験者              |
| 大石 みどり | 福島県高等学校PTA連合会副会長 | 社会教育関係者            |
| 湯田 千賀子 | 福島県学校図書館協議会会長    | 学校図書館関係者           |
| 籠田 まき子 | 小野町ふるさと文化の館副主幹   | 公立図書館等関係者          |
| 矢吹 貴美  | 家庭教育インストラクター     | 家庭教育関係者            |
| 藍原 恵美子 | NPO法人夢ネットワーク理事長  | 読書活動に係るボランティア団体関係者 |
| 桑原 真希  | 平田村立こども園保育教諭     | 保育所・幼稚園等の関係者       |

#### (2) 読書活動支援者育成事業

|         |                           |          |
|---------|---------------------------|----------|
| 【県北地区】  | 令和元年10月6日(日)<br>福島県立図書館   | 受講者 37名  |
| 【県中地区】  | 令和元年6月19日(水)<br>郡山市労働福祉会館 | 受講者 69名  |
| 【県南地区】  | 令和元年7月8日(月)<br>棚倉町立図書館    | 受講者 65名  |
| 【会津地区】  | 令和元年8月22日(木)<br>会津大学      | 受講者 92名  |
| 【南会津地区】 | 令和元年7月9日(火)<br>下郷ふれあいセンター | 受講者 60名  |
| 【相双地区】  | 令和元年7月25日(木)<br>環境放射線センター | 受講者 49名  |
| 【いわき地区】 | 令和元年7月5日(金)<br>いわき産業創造館   | 受講者 87名  |
| 【中通り地区】 | 令和元年9月7日(土)<br>福島県立図書館    | 受講者 73名  |
| 【浜通り地区】 | 令和元年10月5日(土)<br>いわき産業創造館  | 受講者 91名  |
| 【会津地区】  | 令和元年10月5日(土)<br>会津大学      | 受講者 100名 |

#### (3) 発達段階に応じた読書活動推進事業

##### 令和の夏読書の世界再発見ツアーinふくしま

期日：令和元年8月6日(火)

場所：福島県立図書館 受講者 119名

内容

乳幼児期における読書活動推進のために

講義・演習：「絵本で遊ぼう」

幼児教育専門家

藤田 浩子

小学校期における読書活動推進のために

講義・演習：「ブックトークをしてみませんか？」

JPIC 読書アドバイザー

児玉 ひろ美

中高校期における読書活動推進のために  
講義・演習：「ビブリオバトル まずは自分から楽しんでみよう！」

文教大学教育研究所長 平 正人

図書館紹介

「小野町図書館の取組」

小野町図書館 副主幹兼司書 西牧 美也子

「福島県立図書館のひみつ」

福島県立図書館 専門司書 鈴木 史穂

(4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

期日：令和元年11月9日(土)

場所：福島県立図書館

参加者：発表者20名(中学生13名、高校生7名)

観戦者200名

【中学生の部】

優勝 喜多方市立第三中学校 府栄野 幸羽

「天使は奇跡を希う」七月隆文

準優勝 南会津町立田島中学校 渡部 未徠

「告白」湊かなえ

優秀賞 白河市立表郷中学校 荒井 結花

「かがみの孤城」辻村深月

会津若松市立第二中学校 岡本 晴琉

「そして、バトンは渡された」瀬尾まいこ

【高校生の部】

優勝 福島県立田村高等学校 会田 遙輝

「線は、僕を描く」砥上裕將

準優勝 福島県立磐城高等学校 依田 輝

「54字の物語」氏田雄介

優秀賞 福島県立郡山高等学校 阿部 さくら

「食べごしらえおままごと」石牟礼道子

福島県立坂下高等学校 板橋 大

「嫌われる勇気」岩見一郎・古賀史健

福島県立会津高等学校 坂内 風来

「帰ってきたヒトラー」ティーム・ヴェルメシュ

福島県立磐城高等学校 吉田 快斗

「不道德教育講座」三島由紀夫

福島県立安積高等学校 渡辺 愉子

「銃・病原菌・鉄(上下)」ジャレド・ダイヤモンド

(5) 第四次福島県子ども読書活動推進計画

これまでの成果と課題を踏まえ、第四次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定した。

ア 第四次福島県子ども読書活動推進計画作成委員会

【第1回】令和元年6月18日(火)

自治会館502会議室

【第2回】令和元年10月3日(木)

自治会館101会議室

【第3回】令和元年11月28日(木)

自治会館502会議室

イ 教育委員会令和2年2月定例会

【策定】令和2年2月27日(木)

教育委員室(県庁西庁舎9階)

第8節 ユネスコ活動

1 ユネスコ協会事務局一覧

| 協会名          | 会長名    | 事務局                             | 事務局長  | 設立年月日       |
|--------------|--------|---------------------------------|-------|-------------|
| 須賀川地方ユネスコ協会  | 八木沼智恵子 | 須賀川市教委生涯学習スポーツ課内<br>須賀川市牛袋町5    | 河村 朝子 | S46. 9. 13  |
| いわきユネスコ協会    | 西山 允雄  | いわき市教委生涯学習課内<br>いわき市堂根町4-8      | 佐久間静子 | S51. 10. 23 |
| 郡山ユネスコ協会     | 倉又 晴男  | 学校法人尚志学園高等学校内<br>郡山市大槻町字坦ノ腰2    | 宗像 金三 | S53. 1. 24  |
| 白河ユネスコ協会     | 小野 利廣  | 白河市教委生涯学習スポーツ課内<br>白河市八幡小路7-1   | 小松 寛  | S53. 11. 19 |
| 福島ユネスコ協会     | 門間 孝一  | 福島市中央学習センター内<br>福島市松木町1-7       | 宗川 孝  | S55. 7. 19  |
| 会津ユネスコ協会     | 吉田 幸代  | 会津若松市教委生涯学習センター内<br>会津若松市栄町3-50 | 石田 明夫 | S55. 11. 16 |
| 郡山次世代ユネスコ協会  | 大本 研二  | 学校法人こおりやま東都学園本部気付<br>郡山市図景2-9-3 | 鈴木秀太郎 | H28. 1. 16  |
| 福島県ユネスコ連絡協議会 | 門間 孝一  | 福島市笹木野字中西表60-6<br>近野元洋宅         | 近野 元洋 | S56. 12. 5  |

## 2 福島県ユネスコ活動研修会

令和元年11月19日(火) 福島市吉井田学習センター

参加者数 34名 テーマ 「地域を振り返り、新しい学びへ」

## 第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

### 1 「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業

#### (1) 内容

対象者：福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の幼稚園、保育所（認可外保育施設を含む。）、特別支援学校幼稚部及び認定こども園、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

対象期間：令和元年5月10日～令和2年2月29日

実施内容：ア 小中学生を対象とした宿泊を伴う自然体験活動への補助

イ 保育所・幼稚園の幼児を対象とした体力向上等を目的とした自然体験活動への補助

ウ 社会教育団体が行う小中学生を対象とした長期宿泊型（4泊5日以上）の自然体験活動への補助

補助について：①活動費、②交通費、③宿泊費について、補助対象経費の80%以内か100万円の低い方

#### (2) 実績

ア 小・中学校自然体験活動支援事業

件数：309件 参加者：17,557名(うち 子ども 15,868名)

イ 幼稚園・保育所自然体験活動支援事業

件数：53件 参加者：5,053名(うち 子ども 3,014名)

ウ 社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：1件 参加者：13名(うち 子ども 11名)

### 2 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

#### (1) 内容

対象者：県内の不登校等で不安を抱えている子ども及び引率者等

対象期間：令和元年4月26日～令和2年2月29日

実施内容：県内3自然の家（郡山・会津・いわき）を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然体験活動や交流体験活動等を実施する。

#### (2) 実績

##### ○郡山自然の家

| 実施日       | 主な内容                              | 参加者数            |
|-----------|-----------------------------------|-----------------|
| 6月29日(土)  | 講師の方の体験や、今の思いをみんなで語り合おう           | 児童、保護者、講師 3名    |
| 7月28日(日)  | 森からの贈り物でオブジェを作り、野外炊飯で心とお腹を満たそう    | 児童、保護者、講師 3名    |
| 9月28日(土)  | FSGカレッジで、頑張っている人たちと交流をして、未来を想像しよう | 児童、保護者、講師 5名    |
| 11月14日(木) | ニュースポーツ（フロッカー）、万年カレンダー作り等         | 児童生徒、保護者、引率者 9名 |

※10月に予定していた事業は台風の影響のため中止

##### ○会津自然の家

| 実施日                      | 主な内容                   | 参加者数         |
|--------------------------|------------------------|--------------|
| 7月30日(火)～31日(水)<br>※1泊2日 | ツーリング、自然観察、カヌー、アスレチック等 | 児童生徒、保護者 41名 |
| 1月26日(日)                 | そり遊び、スノーシュー、自然観察等      | 児童生徒、保護者 18名 |

※11月に予定していた事業は参加者なく中止

##### ○いわき海浜自然の家

| 実施日      | 主な内容            | 参加者数        |
|----------|-----------------|-------------|
| 7月5日(金)  | 魚釣り、磯遊び、室内ゲーム等  | 児童生徒、講師 13名 |
| 10月9日(水) | 野外炊飯、オリエンテーリング等 | 児童生徒、講師 26名 |
| 2月5日(水)  | スポーツ交流、クラフト等    | 児童生徒、講師 24名 |

※9月に予定していた事業は参加者なく中止、10月に予定していた事業は台風の影響のため中止

### 3 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

#### (1) 内容

- 事業1 ふくしまの元気を届ける体験事業  
 事業2 ふくしまの今を発信体験事業  
 事業3 ふくしまを創る起業体験事業

#### (2) 実績

- 応募団体 83 団体  
 採択団体 74 団体  
 補助金額 86,160 千円

## 第10節 公民館等社会教育施設

### 1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

#### (1) 図書館の設置状況

##### ア 県立

| 名 称     | 所 在 地       | 電話番号         | 設置者 |
|---------|-------------|--------------|-----|
| 福島県立図書館 | 福島市森合字西養山 1 | 024-535-3220 | 福島県 |

##### イ 市町村立

| 名 称             | 所 在 地              | 電話番号         | 設置者  |
|-----------------|--------------------|--------------|------|
| 福島市立図書館         | 福島市松木町 1-1         | 024-531-6551 | 福島市  |
| 福島市西口ライブラリー     | 福島市三河南町 1-20       | 024-525-4023 | 福島市  |
| 福島市子どもライブラリー    | 福島市早稲町 1-1 (こむこむ内) | 024-526-4200 | 福島市  |
| 伊達市 教育部市立図書館    | 伊達市箱崎字川端 7         | 024-551-2132 | 伊達市  |
| 二本松市立二本松図書館     | 二本松市本町 1 丁目 102 番地 | 0243-23-5082 | 二本松市 |
| 二本松市立岩代図書館      | 二本松市小浜字藤町 242 番地   | 0243-55-3255 | 二本松市 |
| しらさわ夢図書館        | 本宮市白岩字堤崎 500       | 0243-44-2112 | 本宮市  |
| 郡山市中央図書館        | 郡山市麓山一丁目 5-25      | 024-923-6601 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 田村分館   | 郡山市田村町岩作字穂多礼 40-3  | 024-955-3842 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 喜久田分館  | 郡山市喜久田堀之内字下河原 1    | 024-959-2205 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 緑ヶ丘分館  | 郡山市緑ヶ丘東三丁目 1-21    | 024-944-0001 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 日和田分館  | 郡山市日和田町字小堰 23-4    | 024-958-2352 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 三穂田分館  | 郡山市三穂田町字東屋敷 6      | 024-953-2820 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 中田分館   | 郡山市中田町下枝字大平 385    | 024-973-2951 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 西田分館   | 郡山市西田町三丁目桜内 259    | 024-972-2807 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 大槻分館   | 郡山市大槻町字中前田 56      | 024-951-1512 | 郡山市  |
| 郡山市希望ヶ丘図書館      | 郡山市希望ヶ丘 1-5        | 024-961-1600 | 郡山市  |
| 郡山市安積図書館        | 郡山市安積一丁目 38        | 024-946-8850 | 郡山市  |
| 郡山市富久山図書館       | 郡山市富久山町福原字泉崎 181-1 | 024-921-0030 | 郡山市  |
| 須賀川市図書館         | 須賀川市八幡町 134        | 0248-75-3309 | 須賀川市 |
| 須賀川市長沼図書館       | 須賀川市長沼字金町 85       | 0248-67-2138 | 須賀川市 |
| 須賀川市岩瀬図書館       | 須賀川市柱田字中地前 22 番地   | 0248-65-3549 | 須賀川市 |
| 鏡石町図書館          | 鏡石町旭町 440-6        | 0248-62-1288 | 鏡石町  |
| 古殿町図書館          | 古殿町松川字横川 235       | 0247-53-2305 | 古殿町  |
| 三春町町民図書館        | 三春町字大町 12-1        | 0247-62-3375 | 三春町  |
| 小野町ふるさと文化の館・図書館 | 小野町大字小野新町字中通 2     | 0247-72-2120 | 小野町  |
| 田村市図書館          | 田村市船引町船引字扇田 19     | 0247-82-1001 | 田村市  |
| 田村市図書館滝根分館      | 田村市滝根町神俣町 48-1     | 0247-78-2001 | 田村市  |
| 田村市図書館大越分館      | 田村市大越町上大越字元池 87-5  | 0247-79-2161 | 田村市  |
| 田村市図書館常葉分館      | 田村市常葉町常葉字町裏 1      | 0247-77-2013 | 田村市  |

| 名 称          | 所 在 地              | 電話番号         | 設置者   |
|--------------|--------------------|--------------|-------|
| 田村市図書館都路分館   | 田村市都路町古道字本町 33-4   | 0247-75-2063 | 田村市   |
| 白河市立図書館      | 白河市道場小路 96-5       | 0248-23-3250 | 白河市   |
| 白河市立図書館表郷分館  | 白河市表郷金山字長者久保 2     | 0248-32-4784 | 白河市   |
| 白河市東図書館      | 白河市東釜子字狐内 47       | 0248-34-1130 | 白河市   |
| 白河市大信図書館     | 白河市大信町屋字沢田 25      | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 矢吹町図書館       | 矢吹町小松 481          | 0248-44-3595 | 矢吹町   |
| 泉崎図書館        | 泉崎村大字泉崎字館 24-9     | 0248-53-4779 | 泉崎村   |
| 棚倉町立図書館      | 棚倉町大字棚倉字棚倉字森町 21-1 | 0247-33-4342 | 棚倉町   |
| 塙町立図書館       | 塙町大字塙字栄町 68-6      | 0247-43-0808 | 塙町    |
| 矢祭もったいない図書館  | 矢祭町大字東館字石田 25      | 0247-46-4646 | 矢祭町   |
| 鮫川村図書館       | 鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 128  | 0247-49-3151 | 鮫川村   |
| 会津若松市立会津図書館  | 会津若松市栄町 3-50       | 0242-22-4711 | 会津若松市 |
| 猪苗代町図書館歴史情報館 | 猪苗代町字古城町 132-7     | 0242-23-7855 | 猪苗代町  |
| 喜多方市立図書館     | 喜多方市字柳原 7503-1     | 0241-22-1855 | 喜多方市  |
| 南会津町図書館      | 南会津町田島字宮本東 22      | 0241-62-5522 | 南会津町  |
| 相馬市図書館       | 相馬市中村字塚ノ町 65-16    | 0244-37-2630 | 相馬市   |
| 新地町図書館       | 新地町谷地小屋字樋掛田 40-1   | 0244-62-5031 | 新地町   |
| 南相馬市立中央図書館   | 南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1  | 0244-23-7789 | 南相馬市  |
| 南相馬市立鹿島図書館   | 南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1  | 0244-46-5116 | 南相馬市  |
| 南相馬市立小高図書館   | 南相馬市小高区本町二丁目 89-1  | 0244-44-3049 | 南相馬市  |
| 浪江町図書館（休館中）  | 浪江町権現堂字沢沢町 6-1     | 0240-34-5024 | 浪江町   |
| 双葉町図書館（休館中）  | 双葉町大字長塚字鬼木 1       | 0240-33-4214 | 双葉町   |
| 大熊町図書館（休館中）  | 大熊町大字下野上字大野 669-3  | 0240-32-3011 | 大熊町   |
| 富岡町図書館       | 富岡町大字本岡字王塚 622-1   | 0240-21-3665 | 富岡町   |
| いわき市立総合図書館   | いわき市平字田町 120       | 0246-22-5552 | いわき市  |
| いわき市立内郷図書館   | いわき市内郷綴町榎下 40-1    | 0246-45-1030 | いわき市  |
| いわき市立小名浜図書館  | いわき市小名浜字愛宕上 7-2    | 0246-54-9257 | いわき市  |
| いわき市立常磐図書館   | いわき市常磐関船町作田 1      | 0246-44-6218 | いわき市  |
| いわき市立勿来図書館   | いわき市植田町南町 1丁目 2-2  | 0246-62-7431 | いわき市  |
| いわき市立四倉図書館   | いわき市四倉町字東一丁目 50    | 0246-32-5980 | いわき市  |

#### ウ 法人

| 名 称        | 所 在 地           | 電話番号         | 設置者    |
|------------|-----------------|--------------|--------|
| クローバー子供図書館 | 郡山市開成 6丁目 346-1 | 024-932-2118 | 財金森和心会 |

## (2) 博物館の設置状況

### ア 登録博物館及び相当施設

| 名 称      | 所 在 地            | 電話番号         | 設置者  | 種別    | 登録・指定年月日 |
|----------|------------------|--------------|------|-------|----------|
| 福島県立美術館  | 福島市森合字西養山 1      | 024-531-5511 | 福島県  | 美術博物館 | 59.7.16  |
| 福島県立博物館  | 会津若松市城東町 1-25号   | 0242-28-6000 | 福島県  | 総合博物館 | 61.11.28 |
| 須賀川市立博物館 | 須賀川市池上町 6        | 0248-75-3239 | 須賀川市 | 歴史博物館 | 46.7.10  |
| いわき市立美術館 | いわき市平字堂根町 4-4    | 0246-25-1111 | いわき市 | 美術博物館 | 59.9.3   |
| 郡山市立美術館  | 郡山市安原町字大谷地 130-2 | 024-956-2200 | 郡山市  | 美術博物館 | 平 5.1.20 |
| 南相馬市博物館  | 南相馬市原町区牛来字出口 194 | 0244-23-6421 | 南相馬市 | 総合博物館 | 平 8.5.9  |

| 名 称                  | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者            | 種別    | 登録・指定年月日   |
|----------------------|----------------------|--------------|----------------|-------|------------|
| 野口英世記念館              | 猪苗代町大字三ツ和字前田 81      | 0242-85-7867 | (公財)野口英世記念会    | 歴史博物館 | 29.10.21   |
| 会津民俗館                | 猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1    | 0242-65-2600 | 会津民俗館          | 歴史博物館 | 55.10.3    |
| 白虎隊記念館               | 会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33  | 0242-24-9170 | (一財)白虎隊記念館     | 歴史博物館 | 63.6.30    |
| 奥会津博物館               | 南会津町糸沢字西沢山 3692-20   | 0241-66-3077 | 南会津町           | 歴史博物館 | 平 21.6.16  |
| 諸橋近代美術館              | 北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23 | 0241-37-1088 | (公財)諸橋近代美術館    | 美術博物館 | 平 11.8.17  |
| 藤田記念博物館(休館中)         | 白河市五郎窪 37-1          | 0248-24-1780 | (公財)藤田教育振興会    | 美術博物館 | 54.9.1     |
| CCGA 現代グラフィックアートセンター | 須賀川市塩田宮田 1           | 0248-79-4811 | (公財)DNP 文化振興財団 | 美術博物館 | 平 25.12.25 |

#### イ 博物館相当施設

| 名 称           | 所 在 地               | 電話番号         | 設置者          | 種別      | 登録・指定年月日   |
|---------------|---------------------|--------------|--------------|---------|------------|
| やないづ町立齋藤清美術館  | 柳津町柳津字下平乙 187       | 0241-42-3630 | 柳津町          | 美術博物館   | 平 11.9.28  |
| 龍が城美術館(休館中)   | いわき市平字旧城跡 27-1      | 0246-22-1601 | (一財)白龍会      | 美術博物館   | 30.2.10    |
| 会津武家屋敷会津歴史資料館 | 会津若松市東山町大字石山字院内 1   | 0242-28-2525 | (株)会津武家      | 屋敷歴史博物館 | 56.11.25   |
| 安積歴史博物館       | 郡山市開成 5-25-63       | 024-938-0778 | (公財)安積歴史博物館  | 歴史博物館   | 59.9.8     |
| 磐梯山噴火記念館      | 北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36  | 0241-32-2888 | (株)ワールドハウス目黒 | 科学博物館   | 平 5.7.1    |
| 會津藩校日新館       | 会津若松市河東町南高野字高塚山10番地 | 0242-75-2525 | (株)会津武家屋敷    | 歴史博物館   | 平 12.11.28 |
| はじまりの美術館      | 猪苗代町新町 4873         | 0242-62-3454 | (福)安積愛育園     | 歴史博物館   | 平 28.12.6  |

#### ウ 類似施設

| 名 称                 | 所 在 地                      | 電話番号         | 設置者  |
|---------------------|----------------------------|--------------|------|
| ふくしま海洋科学館           | いわき市小名浜字辰巳町 50             | 0246-73-2525 | 福島県  |
| 福島県文化財センター白河館       | 白河市白坂一里段 86                | 0248-21-0700 | 福島県  |
| 福島県歴史資料館            | 福島市春日町 5-54                | 024-534-9195 | 福島県  |
| ふれあい歴史館(福島市資料展示室)   | 福島市上町 39-1                 | 024-563-7855 | 福島市  |
| 福島市民家園              | 福島市上名倉字大石前地内               | 024-593-5249 | 福島市  |
| 福島市古関裕而記念館          | 福島市入江町 1-1                 | 024-531-3012 | 福島市  |
| 福島市写真美術館            | 福島市森合町 11-36               | 024-523-1202 | 福島市  |
| UFOふれあい館            | 福島市飯野町大字青木字小手神森 1-299      | 024-562-2002 | 福島市  |
| 民俗資料展示室             | 福島市飯野町大字明治字北小戸明利 60        | 024-525-3785 | 福島市  |
| 羽山の森美術館             | 伊達郡川俣町大字西福沢字山橋内 20         | 024-566-3367 | 川俣町  |
| 伊達市梁川美術館            | 伊達市梁川町字中町 10               | 024-527-2656 | 伊達市  |
| 伊達市保原歴史文化資料館        | 伊達市保原町大泉字宮脇 265            | 024-575-1615 | 伊達市  |
| 霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム | 伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1           | 024-589-2211 | 伊達市  |
| 二本松市歴史資料館           | 二本松市本町 1-102               | 0243-23-3910 | 二本松市 |
| 二本松市智恵子記念館          | 二本松市油井字漆原町 36              | 0243-22-6151 | 二本松市 |
| 二本松市大山忠作美術館         | 二本松市本町 2-3-1               | 0243-24-1217 | 二本松市 |
| あだたらふるさとホール         | 大玉村玉井字西庵 183               | 0243-48-2569 | 大玉村  |
| 本宮市歴史民俗資料館          | 本宮市字南町裡 130                | 0243-33-2546 | 本宮市  |
| 本宮市白沢ふれあい文化ホール      | 本宮市白岩字堤崎 494-44            | 0243-44-3185 | 本宮市  |
| 郡山市開成館              | 郡山市開成 3-3-7                | 024-923-2157 | 郡山市  |
| 郡山市歴史資料館            | 郡山市麓山 1-8-3                | 024-932-5306 | 郡山市  |
| 郡山市こおりやま文学の森資料館     | 郡山市豊田町 3-5                 | 024-991-7610 | 郡山市  |
| 郡山市ふれあい科学館          | 郡山市駅前 2-11-1 ビッグアイ 20F~24F | 024-936-0201 | 郡山市  |
| 須賀川市歴史民俗資料館         | 須賀川市長沼字門口 186              | 0248-67-2030 | 須賀川市 |
| 古殿町郷土文化保存伝習施設       | 古殿町大字松川字横川 235             | 0247-53-2305 | 古殿町  |

| 名 称                | 所 在 地                  | 電話番号         | 設置者   |
|--------------------|------------------------|--------------|-------|
| 天栄村ふるさと文化伝承館       | 天栄村大字大里字八石 1 - 2       | 0248-81-1030 | 天栄村   |
| 石川町歴史民俗資料館         | 石川町字高田 200 - 2         | 0247-26-3768 | 石川町   |
| 浅川町歴史民俗資料館         | 浅川町大字浅川字背戸谷地 144 - 6   | 0247-36-2134 | 浅川町   |
| 吉田富三記念館            | 浅川町大字袖山字森下 287         | 0247-36-4129 | 財団法人  |
| 三春町歴史民俗資料館         | 三春町字桜谷 5               | 0247-62-5263 | 三春町   |
| 三春郷土人形館            | 三春町字大町 30              | 0247-62-7053 | 三春町   |
| 小野町ふるさと文化の館・郷土資料館  | 小野町大字小野新町字中通 2         | 0247-72-2120 | 小野町   |
| 田村市歴史民俗資料館         | 田村市船引町船引字四城内前 196 番地   | 0247-81-1215 | 田村市   |
| 白河市歴史民俗資料館         | 白河市中田 7 - 1            | 0248-27-2310 | 白河市   |
| 白河集古苑              | 白河市郭内 1 - 73           | 0248-24-5050 | 白河市   |
| 中山義秀記念文学館          | 白河市大信町屋字沢田 25          | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 白河市大信ふるさと文化伝承館     | 白河市大信町屋字沢田 25          | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 泉崎資料館              | 泉崎村大字泉崎字館 24 - 9       | 0248-54-1533 | 泉崎村   |
| あぶくま高原美術館          | 塙町大字那倉字吉元 86 - 1       | 0247-42-2510 | 塙町    |
| 矢祭町歴史民俗資料館         | 矢祭町大字東館字石田 25          | 0247-46-2202 | 矢祭町   |
| 国指定名勝会津松平氏庭園       | 会津若松市花春町 8 - 1         | 0242-27-2472 | 会津若松市 |
| 若松城天守閣             | 会津若松市追手町 1 - 1         | 0242-27-4005 | 会津若松市 |
| 茶室麟閣               | 会津若松市追手町 1 - 1         | 0242-27-4005 | 会津若松市 |
| 会津町方伝承館            | 会津若松市大町 2 - 8 - 8      | 0242-22-8686 | 会津若松市 |
| アクアマリンいなわしろカワセミ水族館 | 猪苗代町大字長田字東中丸 344 - 4   | 0242-65-2481 | 猪苗代町  |
| 喜多方市郷土民俗館          | 喜多方市柳原 7503 - 1        | 0241-24-3821 | 喜多方市  |
| 喜多方蔵の里             | 喜多方市字押切 2 丁目 109       | 0241-22-6592 | 喜多方市  |
| 喜多方市美術館            | 喜多方市押切 2 丁目 2          | 0241-23-0404 | 喜多方市  |
| 喜多方市カイギョウランドたかさと   | 喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163    | 0241-44-2924 | 喜多方市  |
| 喜多方市高郷郷土資料館        | 喜多方市高郷町上郷字天神後戊 417     | 0241-44-2765 | 喜多方市  |
| 会津坂下町五浪美術記念館       | 会津坂下町字台 number / 下 842 | 0242-84-1233 | 会津坂下町 |
| ほっと i n やないづ縄文館    | 柳津町大字柳津字下平乙 151 - 1    | 0241-41-1077 | 柳津町   |
| 会津美里町民俗資料館         | 会津美里町米田字堂ノ後甲 149       | 0242-54-2368 | 会津美里町 |
| 三島町交流センター山びこ       | 三島町名入字諏訪ノ上 418         | 0241-52-2165 | 三島町   |
| からむし工芸博物館          | 昭和村大字佐倉字上ノ原 1          | 0241-58-1677 | 昭和町   |
| 旧南会津郡役所            | 南会津町田島字丸山甲 4681        | 0241-62-3848 | 南会津町  |
| 久川城資料館             | 南会津町青柳字久川 23           | 0241-76-2191 | 南会津町  |
| 奥会津民俗館 南郷館         | 南会津町界字川久保 552          | 0241-73-2829 | 南会津町  |
| 奥会津民族館 館岩館         | 南会津町松戸原 55             | 0241-78-2110 | 南会津町  |
| 奥会津民族館 伊南館         | 南会津町青柳字久川 24           | 0241-76-7719 | 南会津町  |
| 檜枝岐村歴史民俗資料館        | 檜枝岐村字下ノ原 887 - 2       | 0241-75-2342 | 檜枝岐村  |
| 会津只見考古館            | 只見町大字大倉字窪田 33          | 0241-86-2175 | 只見町   |
| 只見町ブナセンター          | 只見町字町下 2590            | 0241-72-8355 | 只見町   |
| 河井継之助記念館           | 只見町大字塩沢字上ノ台 850 - 5    | 0241-82-2870 | 只見町   |
| 相馬市歴史民俗資料館         | 相馬市中村字大手先 13           | 0244-37-2191 | 相馬市   |
| 鹿島歴史民俗資料館（廃止）      | 南相馬市鹿島区西町 3 - 1        | 0244-46-4281 | 南相馬市  |
| 埴谷島尾記念文学資料館（休館中）   | 南相馬市小高区本町 2 - 89 - 1   | 0244-44-3049 | 南相馬市  |
| 葛尾村郷土文化保存伝習館       | 葛尾村落合字落合 11            | 0240-29-2008 | 葛尾村   |

| 名 称                 | 所 在 地               | 電話番号         | 設置者  |
|---------------------|---------------------|--------------|------|
| 双葉町歴史民俗資料館（休館中）     | 双葉町大字新山字本町 27-1     | 0240-33-4763 | 双葉町  |
| 大熊町民俗伝承館（休館中）       | 大熊町大字下野上字大野 669-3   | 0240-32-3011 | 大熊町  |
| 富岡町歴史民俗資料館（休館中）     | 富岡町大字本岡字王塚 622-1    | 0240-22-2626 | 富岡町  |
| 檜葉町歴史資料館（休館中）       | 檜葉町大字北田字鐘突堂 5-4     | 0240-25-2492 | 檜葉町  |
| いわき市石炭・化石館          | いわき市常磐湯本町向田 3-1     | 0246-42-3155 | いわき市 |
| いわき市勿来関文学歴史館        | いわき市勿来町関田長沢 6-1     | 0246-65-6166 | 財団法人 |
| いわき市アンモナイトセンター      | いわき市大久町大久字鶴房 147-2  | 0246-82-4561 | いわき市 |
| いわき市考古資料館           | いわき市常磐湯本町手這 50-1    | 0246-43-0391 | いわき市 |
| いわき市立草野心平記念文学館      | いわき市小川町高萩字下夕道 1-39  | 0246-83-0005 | いわき市 |
| いわき市草野心平生家          | いわき市小川町上小川字植ノ内 6-1  | 0246-83-0005 | いわき市 |
| いわき市暮らしの伝承郷         | いわき市鹿島町下矢田字散野 14-16 | 0246-29-2230 | いわき市 |
| 原郷のこけし群西田記念館        | 福島市荒井字横塚 3-183      | 024-593-0639 | 財団法人 |
| 種徳美術館               | 桑折町字陣屋 12           | 024-582-5507 | 桑折町  |
| 東北サファリパーク           | 二本松市沢松倉 1           | 0243-24-2336 | 株式会社 |
| デコ屋敷資料館             | 郡山市西田町高柴字福内 41      | 024-971-3900 | 私人   |
| ふくしまの森科学体験センター      | 須賀川市虹の台 100         | 0248-89-1120 | 財団法人 |
| （有）大桑原つつじ園          | 須賀川市大桑原字竹ノ花 13      | 0248-76-5857 | 有限会社 |
| （株）エイトファーム三春ハーブガーデン | 三春町大字齊藤字仁井道 126     | 024-942-1138 | 株式会社 |
| リカちゃんキャッスル          | 小野町小野新町中通 51-3      | 0247-72-6364 | 株式会社 |
| 白河フラワーワールド          | 白河市南湖 59            | 0248-23-2100 | 私人   |
| 南湖神社宝物館             | 白河市字菅生館 2           | 0248-23-3015 | 私人   |
| 木の博物館               | 塙町大字伊香字松原 160-13    | 0247-43-1480 | 有限会社 |
| 會津宮泉酒造（旧會津酒造歴史館）    | 會津若松市東栄町 8-7        | 0242-26-0031 | 株式会社 |
| 會津葵シルクロード文明館        | 會津若松市追手町 4-6        | 0242-27-1001 | 株式会社 |
| （社）福島県伝統産業会館        | 會津若松市大町 1-7-3       | 0242-24-5757 | 社団法人 |
| 大和川酒造北方風土館          | 喜多方市宇寺町 4761        | 0241-22-2233 | 私人   |
| 喜多方蔵品美術館            | 喜多方市梅竹 7294-4       | 0241-24-3576 | 私人   |
| うるし美術博物館            | 喜多方市宇東町 4095        | 0241-24-4151 | 株式会社 |
| 御蔵入細井家資料館           | 南會津町静川字風下甲 175      | 0241-62-0906 | 私人   |
| 福島さくら遊学舎            | 三春町大字鷹巣字瀬山 213      | 0247-61-6345 | 株式会社 |

### (3) 青少年教育関係施設の設置状況

#### ア 県設置

| 名 称          | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者 |
|--------------|-----------------------|--------------|-----|
| 福島県郡山自然の家    | 郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46      | 024-957-2111 | 福島県 |
| 福島県会津自然の家    | 会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1 | 0242-83-2480 | 福島県 |
| 福島県いわき海浜自然の家 | いわき市久之浜町田之網字向山 53     | 0246-32-7700 | 福島県 |

#### イ 教育施設

| 名 称           | 所 在 地           | 電話番号         | 設置者   |
|---------------|-----------------|--------------|-------|
| 国立那須甲子青少年自然の家 | 西郷村大字真船字村火 6-1  | 0248-36-2331 | 文部科学省 |
| 国立磐梯青少年交流の家   | 猪苗代町字五輪原 7136-1 | 0242-62-2530 | 文部科学省 |
| 市町村（条例）設置     | ※27 施設（別掲）      |              |       |
| 他県設置等         | ※3 施設（別掲）       |              |       |

《市町村（条例）設置 27 施設》

| 名 称                      | 所 在 地              | 電話番号         | 設置者    |
|--------------------------|--------------------|--------------|--------|
| 福島県青少年会館                 | 福島市黒岩字田部屋 53-5     | 024-546-8311 | 公益財団法人 |
| 福島市社会教育会館「こぶし荘」          | 福島市庭坂字砥石山 40-13    | 024-591-3366 | 福島市    |
| 福島市社会教育会館「立子山自然の家」       | 福島市立子山字金井作 1       | 024-597-2951 | 福島市    |
| 福島市勤労青少年ホーム              | 福島市入江町 1-1         | 024-531-6257 | 福島市    |
| 福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館       | 福島市早稲町 1-1         | 024-524-3131 | 福島市    |
| 二本松市青年の家                 | 二本松市榎戸 1-92        | 0243-23-5121 | 二本松市   |
| 二本松市二本松勤労青少年ホーム          | 二本松市榎戸 1-92        | 0243-23-5121 | 二本松市   |
| 二本松市安達勤労青少年ホーム           | 二本松市油井字濡石 3-1      | 0243-23-3721 | 二本松市   |
| 本宮市勤労青少年ホーム              | 本宮市字矢来 39-1        | 0243-33-2611 | 本宮市    |
| 郡山市青少年会館                 | 郡山市大槻町字漆棒 82       | 024-961-8282 | 郡山市    |
| 郡山市少年湖畔の村                | 郡山市湖南町横沢字村西 112    | 024-982-2115 | 郡山市    |
| 郡山市勤労青少年ホーム              | 郡山市麓山 1 丁目 8-4     | 024-932-3027 | 郡山市    |
| 須賀川市市民の森                 | 須賀川市塩田音森 20        | 0248-79-2187 | 須賀川市   |
| 須賀川市勤労青少年ホーム             | 須賀川市和田字柏崎 44       | 0248-63-2154 | 須賀川市   |
| 須賀川市ふれあいセンター             | 須賀川市長祿町 79         | 0248-72-0200 | 須賀川市   |
| 鏡石町ふれあいの森公園              | 鏡石町堂前 90-1         | 0248-83-2381 | 鏡石町    |
| 鏡石町勤労者青少年ホーム             | 鏡石町中央 59           | 0248-62-2115 | 鏡石町    |
| 羽鳥湖畔オートキャンプ場             | 天栄村羽鳥字芝草 2-4       | 0248-85-2033 | 天栄村    |
| 小野町勤労青少年ホーム              | 小野町大字小野新町字中道 2     | 0247-72-2125 | 小野町    |
| 石川町勤労青少年ホーム              | 石川町字当町 418 番地の 1   | 0247-26-2566 | 石川町    |
| 会津若松市勤労青少年ホーム            | 会津若松市城東町 14-52     | 0242-26-6662 | 会津若松市  |
| 会津若松市少年の家                | 会津若松市城東町 15-62     | 0242-39-1304 | 会津若松市  |
| 喜多方市勤労青少年ホーム             | 喜多方市舞台田 3119-1     | 0241-22-1403 | 喜多方市   |
| 御蔵入の里会津山村道場うさぎの森オートキャンプ場 | 南会津町糸沢字西沢山 3692-20 | 0241-66-2108 | 南会津町   |
| 高清水自然公園                  | 南会津町界字長地沢口 4298-12 | 0241-73-2115 | 南会津町   |
| 三島町生涯学習センター森の校舎カタクリ      | 三島町西方字上原 3580      | 0241-48-5577 | 三島町    |
| 新地町勤労青少年ホーム              | 新地町大字福田字中里 15-1    | 0244-62-3106 | 新地町    |

《他県設置等 3 施設》

| 名 称              | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者   |
|------------------|-----------------------|--------------|-------|
| 越谷市立あだたら高原少年自然の家 | 二本松市永田字長坂国有林 14 林班    | 0243-24-2561 | 越谷市   |
| さいたま市立館岩少年自然の家   | 南会津町宮里字向山 2847-1      | 0241-78-2311 | さいたま市 |
| S Y D ぼんたいふれあいぴあ | 北塩原村桧原字南黄連沢山 1157-192 | 0241-33-2335 | 財団法人  |

## 2 文化施設の整備充実

### (1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の

充実に努めた。

### (3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

# 第11節 福島県立図書館

## 『福島県立図書館アクションプラン（第3次）』

平成30年度～令和2年度

### 1 概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成30年3月に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第3次）』（平成30年度～令和2年度）の基本理念と4つの目標に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、平成27年2月に策定された「第三次福島県子ども読書活動推進計画」（平成27年度～31年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んだ。

#### (1) 図書館協議会

開催日 令和元年12月13日(金) 於：県立図書館  
議題等

- ・福島県立図書館協議会会長及び副会長の選出
- ・図書館利用実績について
- ・只見線駅文庫の開設について
- ・台風19号被災支援について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の取組について

図書館協議会委員名※所属団体等は就任時現在

[任期：令和元年10月21日～令和3年10月20日]

| 区分     | 氏名    | 所属団体等（主な役職名等）                                |
|--------|-------|----------------------------------------------|
| 学識経験者  | 佐藤 佐敏 | 福島大学（人間発達文化学類教授）                             |
|        | 三瓶千香子 | 桜の聖母短期大学（キャリア教養学科准教授<br>生涯学習センター長・地域連携センター長） |
|        | 佐藤 克也 | 株式会社福島民報社<br>（編集局次長兼文化部長）                    |
|        | 小野 広司 | 福島民友新聞株式会社<br>（執行役員編集局長）                     |
|        | 三瓶 真二 | 公募                                           |
|        | 森岡 こう | 公募                                           |
| 家庭教育   | 高橋 明子 | 福島県家庭教育インストラクター連絡協議会（喜多方市教育委員会教育委員）          |
| 社会教育   | 須藤 薫  | 福島県公共図書館協会<br>（喜多方市図書館長）                     |
| 学校教育関係 | 佐藤 秀美 | 福島県高等学校長協会<br>（福島県立いわき光洋高等学校長）               |
|        | 志村 充代 | 福島県中学校長会<br>（郡山市立明健中学校長）                     |

（会長）佐藤 佐敏 （副会長）佐藤 秀美

### 1 基本理念

『「知の拠点」として、全ての県民の教育と文化の振興を図り、ふくしまの未来をひらきます。』

福島県立図書館は、情報（資料）の提供（貸出・閲覧）やレファレンス等、県民への直接的サービスに努める他、社会（地域）や行政の課題解決に応えるため、「知の拠点」としての責務を果たします。

また、市町村立図書館（未設置自治体にあつては公民館図書室等）の円滑な活動を支援するため、情報（資料）を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。そして、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子供たちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよう支援するなど、ふくしまの復興の一翼を文化面から担います。

### 2 福島県立図書館が目指す4つの目標

「基本理念」の実現に向けて定めた、「福島県立図書館が目指す4つの目標」

#### (1) 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料（情報）を収集し、保存し、提供することで、県民の皆さんに役立つ図書館を目指すとともに、全ての人が等しく利用できるサービス体制を目指します。

#### (2) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う、今とこれからの子どもたちのために、資料（情報）を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

#### (3) 市町村（図書館・公民館等）を支えるための図書館

県内市町村図書館等に対する協力・支援を充実させることにより、市町村の図書館活動を支えるとともに、ネットワーク体制を推進し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

#### (4) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の情報を収集し、保存し、発信することで、全ての人が、いつでも、どこからでも、「ふくしま」を知ることができる「拠点」となることを目指します。

## 2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

### (1) 図書館資料の収集

#### ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や

書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

#### イ 地域資料の収集

福島県に関する資料や福島県人著作の話題性のある資料の収集に努めた。地域資料に関しては通常の書店の販売ルートでは購入できないものなどもあるため、古書店等から伝統資料を購入したり、非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼したり、寄贈を呼びかけるチラシを館内で常設するなど収集に努めた。

行政資料についても各自治体・部局へ収集の依頼を行い、県職員へは全員へメールで要請した。収集した行政資料は、当館ホームページの「県立図書館所蔵 県内行政機関発行資料一覧」で情報提供を行った。「福島県行政資料コーナー」の紹介チラシを作成して館内で配布、グループウェアの掲示板に掲示した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料についても収集に努めた。寄贈資料に関してはホームページ上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、購入資料についても新地町からいわき市までの津波で被災した沿岸地域の震災前・震災後の様子を撮影した航空写真・衛星写真を収集した。

#### ウ 地域視聴覚資料の収集

震災関連資料及び吹奏楽関係資料のほか、2020年度前期放送・NHK朝の連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルとなった古閑裕而関連の資料等を含む61点を収集した。地元新聞のCD-ROMなど保存価値の高いものは継続的に収集し提供している。

#### エ 児童資料・研究資料の収集

##### (ア) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

##### (イ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

#### オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や相互貸借に対応できる資料を幅広く継続収集した。要望していた『福島民友新聞』過去紙面マイクロフィルム(平成5年-平成11年)168本を購入し提供している。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

#### カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

#### 逐次刊行物受入状況 (単位：種)

| 区分  | 購入  | 寄贈・他 | 計     |
|-----|-----|------|-------|
| 新聞  | 25  | 56   | 81    |
| 雑誌  | 237 | 776  | 1,013 |
| 官報等 | 3   | 0    | 3     |
| 合計  | 265 | 832  | 1,097 |

#### 資料受入状況 (単位：冊)

| 区分       | 購入     | 寄贈・他  | 計      |
|----------|--------|-------|--------|
| 一般資料     | 5,223  | 2,420 | 7,643  |
| 地域・行政資料  | 1,089  | 4,452 | 5,541  |
| 児童資料     | 2,133  | 391   | 2,524  |
| 児童図書研究資料 | 398    | 76    | 474    |
| 市町村支援資料  | 1,269  | 1,218 | 2,487  |
| 合計       | 10,112 | 8,557 | 18,669 |

#### 資料受入状況・推移 (単位：冊)

| 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度  |
|--------|--------|--------|
| 19,700 | 18,649 | 18,669 |

#### キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。令和元年度は、5団体(企業)から合計780冊の寄贈を受けた。

## 蔵書統計（資料別・分類別）

（単位：冊）

| 分類      | 区分        | 30年度累計  | 元年度増加 | 元年度除籍  | 利用替え      | 元年度累計   |
|---------|-----------|---------|-------|--------|-----------|---------|
| 一般資料    | 0 総記      | 32,599  | 384   | 1,401  | 0         | 31,582  |
|         | 1 哲学      | 26,287  | 316   | 30     | 0         | 26,573  |
|         | 2 歴史      | 65,311  | 990   | 10     | 0         | 66,291  |
|         | 3 社会科学    | 107,908 | 1,798 | 156    | 0         | 109,550 |
|         | 4 自然科学    | 37,214  | 876   | 39     | 0         | 38,051  |
|         | 5 工学・工業   | 36,466  | 895   | 385    | 0         | 36,976  |
|         | 6 産業      | 29,025  | 588   | 12     | 0         | 29,601  |
|         | 7 芸術      | 41,593  | 810   | 16     | 0         | 42,387  |
|         | 8 語学      | 9,634   | 131   | 9      | 0         | 9,756   |
|         | 9 文学      | 93,596  | 855   | 14     | 0         | 94,437  |
|         | 計         | 479,633 | 7,643 | 2,072  | 0         | 485,204 |
| 地域資料    | 0 総記      | 18,409  | 365   | 14     | 0         | 18,760  |
|         | 1 哲学      | 2,757   | 98    | 0      | 0         | 2,855   |
|         | 2 歴史      | 38,518  | 1,121 | 7      | 6         | 39,638  |
|         | 3 社会科学    | 66,865  | 1,509 | 2      | 0         | 68,372  |
|         | 4 自然科学    | 10,119  | 250   | 0      | 0         | 10,369  |
|         | 5 工学・工業   | 15,094  | 396   | 2      | 0         | 15,488  |
|         | 6 産業      | 22,334  | 702   | 2      | 0         | 23,034  |
|         | 7 芸術      | 17,205  | 571   | 0      | 0         | 17,776  |
|         | 8 語学      | 926     | 10    | 0      | 0         | 936     |
|         | 9 文学      | 28,707  | 519   | 1      | 0         | 29,225  |
|         | 計         | 220,934 | 5,541 | 28     | 6         | 226,453 |
| 児童資料    | 研究資料      | 36,978  | 474   | 1      | 11        | 37,462  |
|         | 児童図書      | 119,003 | 2,524 | 55     | -1,502    | 119,970 |
|         | 計         | 155,981 | 2,998 | 56     | -1,491    | 157,432 |
| 逐次刊行物資料 | 雑誌        | 170,035 | 5,042 | 185    | -6        | 174,886 |
|         | 新聞合本      | 15,564  | 144   | 0      | 0         | 15,708  |
|         | 新聞記事ファイル  | 3,832   | 2     | 0      | 0         | 3,834   |
|         | 計         | 189,431 | 5,188 | 185    | -6        | 194,428 |
| 特殊文庫    | 70,272    | 0       | 0     | 0      | 70,272    |         |
| 館内用計    | 1,116,251 | 21,370  | 2,341 | -1,491 | 1,133,789 |         |
| 市町村支援計  | 62,386    | 2,487   | 683   | 1,491  | 65,681    |         |
| 合計      | 1,178,637 | 23,857  | 3,024 | 0      | 1,199,470 |         |

## 3 館内奉仕

開館日は286日、入館者は172,464人、1日平均603人の利用があった。前年度比において0.9ポイントの減であるが、現状維持と捉えている。ただし、震災前（平成22年度）に比べその回復度は7割程度であり、利用向上傾向にはない。

## 入館者数

|        |         |
|--------|---------|
| 開館日数   | 286日    |
| 入館者数   | 172,464 |
| （1日平均） | 603     |

## 入館者数・推移

（単位：人）

| 平成29年度  | 平成30年度  | 令和元年度   |
|---------|---------|---------|
| 164,502 | 174,034 | 172,464 |

## (1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常の生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けており、総件数は前年度より1,000件ほど増加した。また、近年職員の館内研修の強化を図っている。

**調査相談件数**

(単位：件)

|       | 一般・地域・逐刊 | 児童資料  | 小 計    |
|-------|----------|-------|--------|
| 口 頭   | 7,516    | 3,597 | 11,113 |
| 電 話   | 1,544    | 35    | 1,579  |
| 文 書   | 44       | 0     | 44     |
| F A X | 23       | 0     | 23     |
| 電子メール | 177      | 2     | 179    |
| 合 計   | 9,304    | 3,634 | 12,938 |

**調査相談件数・推移**

(単位：件)

| 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度  |
|--------|--------|--------|
| 12,074 | 11,949 | 12,938 |

当館のホームページについては、全体的にアクセス件数が伸びている。特に「蔵書検索」においては前年度より13万件増えている。アクセス件数の増加の要因としては、SNSによる情報の発信と、受取館指定サービスなどのWeb環境を活用したサービスの提供が影響しているものと捉えている。また、県内図書館ネットワークの環境基盤となっていることも考えられる。

**ホームページアクセス件数**

(単位：件)

| 区 分        | 平成29年度  | 平成30年度  | 令和元年度   |
|------------|---------|---------|---------|
| トップページ     | 270,257 | 317,481 | 334,534 |
| 蔵 書 検 索    | 529,594 | 655,110 | 786,099 |
| 横 断 検 索    | 374,626 | 501,635 | 530,959 |
| デジタルライブラリー | 3,880   | 5,036   | 5,315   |
| こどものへや     | 3,383   | 2,651   | 2,728   |
| 利 用 案 内    | 14,595  | 20,362  | 19,132  |

**(2) 館内サービス**

「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

また、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、3月4日(水)より、閲覧席の削減や定期的な換気などの対策と、咳エチケット等の呼びかけに努めた。

**(3) 館外個人貸出**

貸出冊数は158,364冊、貸出者数は延べ41,712人で前年度より増加した。登録者数は13,813人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス（有料）の利用は、11件、98冊と前年度より減少した。

**館外個人貸出状況**

| 分 類 | 冊数(冊) | 構成比 (%) |
|-----|-------|---------|
| 総 記 | 2,624 | 1.7     |

| 分 類     | 冊数(冊)   | 構成比 (%) |
|---------|---------|---------|
| 哲学・宗教   | 4,566   | 2.9     |
| 歴史・地理   | 8,057   | 5.1     |
| 社会科学    | 12,629  | 8.0     |
| 自然科学    | 7,925   | 5.0     |
| 工学・工業   | 7,941   | 5.0     |
| 産 業     | 4,107   | 2.6     |
| 芸 術     | 8,123   | 5.1     |
| 語 学     | 1,362   | 0.9     |
| 文 学     | 21,606  | 13.6    |
| 地 域 資 料 | 7,568   | 4.8     |
| 新 聞 雑 誌 | 7,487   | 4.7     |
| 小 計     | 93,995  | 59.4    |
| 児 童     | 64,369  | 40.6    |
| 合 計     | 158,364 | 100.0   |

**館外個人貸出状況・推移**

| 区 分     | 平成29年度  | 平成30年度  | 令和元年度   |
|---------|---------|---------|---------|
| 冊 数 (冊) | 150,699 | 155,550 | 158,364 |
| のべ人数(人) | 39,979  | 41,513  | 41,712  |

**館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）（単位：人）**

| 区 分 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 合 計    |
|-----|--------|--------|-------|--------|
| 新 規 | 3,169  | 3,128  | 3,104 | 9,401  |
| 更新者 | 1,408  | 1,530  | 1,474 | 4,412  |
| 合 計 | 4,577  | 4,658  | 4,578 | 13,813 |

**館外個人貸出登録者数・推移**

(単位：人)

| 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度  |
|--------|--------|--------|
| 13,733 | 13,824 | 13,813 |

**(4) 特別貸出**

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

**特別貸出状況**

| 貸 出 先       | 件数(件) | 冊数(冊) |
|-------------|-------|-------|
| 官 公 庁 関 係   | 3     | 76    |
| 図 書 館 其 他   | 28    | 327   |
| 会 社 ・ 事 業 所 | 32    | 263   |
| 報 道 関 係     | 0     | 0     |
| 学 校         | 64    | 204   |
| 計           | 127   | 870   |

**特別貸出状況・推移**

(単位：冊)

| 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|--------|--------|-------|
| 755    | 433    | 870   |

## (5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。「本のひろば」のコーナーでは「平成をふりかえる」「環境問題を考える」「天才・偉人たちの伝記」など7回実施した。時事展示として、「科学ではたらく」「子どもたちの教科書を見てみよう!」「万葉集を知る～「令和」改元を記念して」「明智光秀とその時代」など6回実施。ミニ展示としては、美しい写真により編集された「美しき図鑑の世界」を実施した。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」においては、「再生可能エネルギーを知る」など新たに3本を作成するとともに6本を更新し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和元年11月3日(日)には図書館見学会を実施し県立図書館の役割や機能について紹介するとともに書庫を案内した(参加者7名)。また、貴重資料を紹介する機会として、平成29年2月に開設した「長田弘文庫見学会」を11月10日(日)に実施した(参加者4名)。

## (6) 地域資料

平成30年に没後70年を迎えた国際的歴史学者・朝河貫一博士(1873-1948)の功績を称え、令和元年度も「朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会」を開催した。講演会に合わせて関連のある所蔵資料を展示した。また、出張展示として「朝河貫一資料展示セット」について二本松市立図書館、福島県立安積高校、早稲田大学の3機関への貸出を行った。

企画展示は「ふくしま観光ガイドブック展」を開催した。明治から昭和に発行された福島県内の観光ガイドブックや絵葉書を展示したほか、県内各市町村発行のオリジナルティあふれる観光ガイドのパンフレット類の配布を行った。

地域資料については、県内外の個人・団体などから様々な調査相談が寄せられるため、資料の内容細目データを入力したり、福島県史や県内各市町村史の目次データを当館ホームページで公開したりしているが、当館のホームページにアクセスすれば利用者自身が自分で調べたいことの答えにたどりつけるように、データ入力の実を図った。

貴重資料のデジタル化も行っており、「郷土誌 飯曾石橋村」など8点、「福島旧城郭絵図」など6点についてもデジタル化して閲覧や貸出・複写を容易に行えるように努めた。

また国立国会図書館デジタルコレクションでインターネット公開されている資料の中から、福島県に關係する資料を紹介した「ふくしまについて調べるためのデジタル化資料」をホームページで公開した。

同じく調査相談に役立つパスファインダー「本の森への道しるべ」は、新規1本「ふくしまの城」、改訂1本「地域の出版文化を支える 福島民報出版文化賞」を作成した。

## (7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』(令和元年度版)については、大熊町、双葉町、浪江町の3町以外から回答を得て発行した。

これまで契約しているオンラインデータベースに「聞蔵(きくぞう)Ⅱビジュアル」が加わり、朝日新聞の記事検索の利用が可能になった。

令和元年9月16日(月・祝)敬老の日に、「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」を開催し、国立国会図書館歴史的音源を利用してクラシック、わらべ歌の音楽などを公開図書室データベースコーナーで鑑賞した。同日、「かんたん・べんりなデータベース講座～新聞記事検索を中心に～」を各回4名で2回実施した。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて、「雑誌で感じる春」「開幕、山のシーズン」「いい湯だな」など、季節を配慮するなどして利用者の方に関心を持っていただけのような内容で行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」は、新規1本「終活について」、改訂1本を作成した。

## (8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して10代の子どもたちに向けた展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・「ちいさなおはなしかい」(4月・5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・1月)

参加者合計 129名

・県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」(10月26日(土))を実施した。

参加者 33名

・県立美術館が実施事業「ワークショップマート～ものづくりの庭～」に合わせたおはなしかい「絵本とおりがみであそぼう!」(9月16日(月・祝))を実施した。

参加者 18名

・福島県国際交流協会との連携おはなしかい

「みんないっしょに世界のことでおはなしかい」(8月17日(土))、「クリスマスのおはなしかい みんないっしょに世界のことでおはなしかい」(12月7日(土))を実施した。

参加者合計 51名

ウ こども講座  
 ・「図書館×福島県文化財センター白河館（まほろん）こども講座 ようかい手長・足長と考える ヒトと自然のかかわり」（6月23日（日））を実施した。

参加者 22名

エ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

参加者合計 646名

オ 職場体験の受け入れ

参加者 8名

カ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。また、教科書改訂にあわせて『福島県立図書館 小学校国語科教科書紹介図書 所蔵一覧』を発行した。

キ ミニコーナーでの展示

企画展示等の資料の展示を行った。

(ア) 「Hyvaa pivaa（こんにちは）！ フィンランド」  
 フィンランドに関連する児童書や児童図書研究図書を展示した。

（令和元年5月10日（金）～6月5日（水））

(イ) 「八百板洋子様ご寄贈図書」

福島県出身の児童文学者・八百板洋子氏から寄贈された図書を展示した。

（令和元年12月6日（金）～令和2年2月11日（火））

ク 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための施設案内「ママ・パパこどもマップ」を更新した。また、子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。親子で楽しむ絵本の展示を行った。

ケ 子ども読書と科学のコラボ事業

「spffサイエンス屋台村inコミュニティ福島」（令和元年11月30日（土））に参加し、科学や実験に関連する資料の展示を行った。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」において福島県青少年健全育成条例により推奨された本を「ふくしまのこどもたちへ 福島県「優良図書」として案内した。

## (9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は、令和2年3月11日現在で13,124タイトルとなっており、令和元年度増加資料一覧を作成

しホームページで公開した。また、資料紹介として「ブックガイドNo.22」を刊行し利用促進を図った。

また福島民報と福島民友に掲載された震災・原発・復興関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和2年1月31日現在で更新し、3月、ホームページに掲載した。

さらに「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。令和元年度は、栃木市都賀図書館で出張展示が開催された（8月27日（火）～9月29日（日））。

## (10) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

### 複写利用状況

| 区分     | 件数（件） | 枚数（枚）  |
|--------|-------|--------|
| 自・他館処理 | 3,503 | 43,284 |

### 複写利用状況・推移（単位：枚）

| 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度  |
|--------|--------|--------|
| 49,297 | 48,507 | 43,284 |

## (11) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台とこどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図った。また、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を12月4日（水）に実施し、インターネット利用の啓発を図った。

### インターネット利用状況（単位：人）

| 区分 | 一般    | 児童 | 合計    |
|----|-------|----|-------|
| 人数 | 5,276 | 27 | 5,303 |

### インターネット利用状況・推移（単位：人）

| 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|--------|--------|-------|
| 6,067  | 6,210  | 5,303 |

## (12) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) さようなら平成

（平成31年2月23日（土）～令和元年5月8日（水））

(イ) 「フィンランドの子どもの本～フィンランドと日本の外交樹立100周年～」

（令和元年5月10日（金）～6月5日（水））

フィンランドの児童文学作家の作品を展示した。

(ウ) 「福島県文化財センター白河館（まほろん）移動展示 はま・なか・あいづ再生史 -遺跡に残された生活環境再建へのあしあと-」

（令和元年6月7日（金）～7月3日（水））

福島県文化財センター白河館（まほろん）による展示。大災害に見舞われても生活再建を目指した人びとの「再生の歴史」を、浜通り・中通り・会津の3地方の遺跡から解説した。

(エ) 「レオナルド・ダ・ヴィンチ 芸術と科学の融合～没後500年～」

（令和元年7月5日（金）～9月4日（水））

「万能の人」と呼ばれるレオナルド・ダ・ヴィンチの没後500年にあたり、ダ・ヴィンチが持つ科学的な視点を切り口に、その作品や趣向などを取り上げた当館資料を紹介した。

(オ) 「ふくしま観光ガイドブック展」

（令和元年9月6日（金）～10月2日（水））

明治から昭和に発行された福島県内の観光ガイドブックや絵葉書を展示。大正から昭和に人気を博した吉田初三郎の描いた鳥瞰図を載せたガイドブックや、開通60年を迎えた磐梯吾妻スカイラインの開通間もないころの絵葉書など、貴重な資料を公開した。期間中、県観光交流課と県観光物産交流協会との連携により講演会「四季折々 ふくしま ほんものの旅」（第3回ふくしまを知る連続講座）を開催した。

(カ) 「福島県歴史資料館移動展示 奥会津の古文書 -三島町・金山町・昭和村を中心に-」

（令和元年10月4日（金）～11月10日（日））

福島県歴史資料館による展示。福島県歴史資料館が所蔵する昭和村の古文書や行政文書等を紹介した。

(キ) 「伊達市保原歴史文化資料館移動展示 福島の偉人『三浦謹之助博士』」

（令和元年11月12日（火）～12月4日（水））

伊達市保原歴史文化資料館による展示。

伊達市保原町出身で、明治天皇・大正天皇の診療も行った「三浦謹之助博士」について解説した。

(ク) 「新しい時代を伝える新聞・雑誌展」

（令和元年12月6日（金）～令和2年2月11日（火））

5月に新しい元号「令和」になったことにあわせ、当館が所蔵する新聞・雑誌から新しい時代を迎えた時の記事が掲載された新聞・雑誌を展示した。

(ケ) 「はしれ ディーゼルきかんしゃデーデ 原画展」

（令和2年2月20日（木）～4月1日（水））

福島県立図書館・児童図書館研究会福島支部主催、鈴木まもる、童心社、小野町ふるさと文化の館、日本貨物鉄道株式会社協力、JBBY 希望プロジェクト（日本国際児童図書評議会）協賛で実施。

東日本大震災発生から9年の節目に合わせ、震災直後、福島に燃料を運んだディーゼル機関車を題材

とした絵本『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』（すとうあさえ文 鈴木まもる絵 童心社 2013年刊）の原画展を開催した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立図書館の資料展示と県民の作品等の展示を行った。

(ア) 「福島県の推奨図書 福島県青少年健全育成条例に基づく優良図書」（県立図書館）

（平成31年4月5日（金）～令和元年5月8日（水））

(イ) 「福島大学食農学類のめざすもの」

（令和元年5月10日（金）～6月5日（水））

(ウ) 「JICA 海外協力隊 活動写真パネル展」

（令和元年6月7日（金）～7月3日（水））

(エ) 「YA（ヤングアダルト）の本」（県立図書館）

（令和元年7月5日（金）～9月4日（水））

(オ) 「イタリア風景展」

（令和元年9月6日（金）～10月2日（水））

(カ) 「YA（ヤングアダルト文学）」（県立図書館）

（令和元年10月4日（金）～12月4日（水））

(キ) 「一目瞭然！ 会津美里町の魅力 ～只見線関連展示～」

（令和2年1月5日（日）～2月11日（火））

(ク) 「東日本大震災原子力災害パネル展」

（令和2年2月20日（木）～3月29日（日））

## (13) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

ア 講演会

朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会

「朝河貫一が文通したアメリカの女性たちー福島県立図書館所蔵の書簡からー」

開催日 令和元年7月14日（日）

講師 早稲田大学文学学術院 教授 甚野 尚志

参加者 62名

イ ふくしまを知る連続講座

第1回「私の好きなふくしまの山」

開催日 令和元年6月16日（日）

講師 西岡 義治

参加者 120名

第2回「はま・なか・あいづ再生史-遺跡に残された生活環境再建へのあしあと-」

開催日 令和元年6月23日（日）

講師 県文化財センター白河館副主幹 阿部 知己

参加者 62名

第3回「四季折々 ふくしま ほんものの旅」

開催日 令和元年9月15日（日）

第1部 季刊『ふくしまほんものの旅』について

講師 県観光物産交流協会観光部長 武藤 淳

第2部 登山と観光の情報サイト「やまふく」について

講師 県観光交流課副主査 清水 綾子

参加者 42名

第4回「からむし織の里・昭和村歴史紀行ー生業・信仰・戊辰戦争ー」

開催日 令和元年10月27日(日)

講師 公益財団法人県文化振興財団歴史資料課  
主幹 渡邊 智裕

参加者 36名

第5回「福島の偉人 三浦謹之助博士～ふくしまに残した足跡と周辺の人々」

開催日 令和元年11月23日(土)

講師 伊達市教育部生涯学習課学芸員 高橋 信一

参加者 43名

ウ 衛生学予防医学講演会

福島県立医科大学の衛生学・予防医学講座との連携による講演会を、平成20年度から開催している。

開催日 令和元年7月6日(土)

場 所 福島県立図書館 講堂

内容

(講演1)

・テーマ「そのゴリラ、見えますか?～注意・気づきで安全な生活を送るために～」

・講師 春日 秀朗

(県立医大衛生学・予防医学講座助手)

(講演2)

・テーマ「ご存知ですか? 福島市保健所の正体～県型保健所と市型保健所の違い～」

・講師 中川 昭生

(福島市保健所長・福島県立医科大学臨床教授)

参加者 70名

エ 県民講座

福島大学、福島県立医科大学、法テラス福島との連携による講演会を令和元年度より実施している。

第1回「吉田富三記念福島がん哲学外来10周年記念市民公開講座 明るくがんと生きる」

開催日 令和元年6月22日(土)

講師 順天堂大学 病理・腫瘍学教授 樋野 興夫

参加者 155名

第2回「あなたの相続が変わる!～相続の基礎と相続法改正～」

開催日 令和元年8月4日(日)

講師 志野 大輔 弁護士(福島県弁護士会)

参加者 52名

第3回「消費者トラブルの現状と対処法」

開催日 令和元年11月24日(日)

講師 湯浅 亮 弁護士(鈴木芳喜法律事務所・福島県弁護士会)

参加者 23名

第4回「法教育的『特殊詐欺の見抜き方』」

開催日 令和2年2月9日(日)

講師 岩崎 優二 弁護士(福島県弁護士会・いわき支部)

参加者 25名

オ 朗読会

原國雄元アナウンサーらによる朗読会を2009年から開催していたが、今年度をもって終了した。

第1回「初夏の朗読会」

開催日 令和元年6月9日(日)

参加者:150名

第2回「冬の朗読会」

開催日 令和元年12月8日(日)

参加者:260名

カ 敬老の日 イベント

「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」

「かんたん・べんりなデータベース講座

～新聞記事検索を中心に～」

「ご家族との思い出の新聞を見てみませんか」

参加者:28名

## 4 館外奉仕

### (1) 移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計28,380冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。また、図書館を新規開館した自治体にも立ち上げの支援を行った。合計23自治体に巡回し、延べ23,976冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な7自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

該当自治体全ての小学校を始め、希望が寄せられた公民館・認定こども園・中学校・仮設図書館に対して3,051冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、聴覚支援学校平校・西郷支援学校・富岡支援学校・石川支援学校・猪苗代支援学校の5校を巡回し、延べ1,450冊の資料を貸出した。

エ 文化施設連携事業

県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文化財センター白河館の事業(まほろん冬まつり)に参加し、5冊を貸出した。また、まほろんの企画展示「福島の製鉄」の関連資料を展示した。

オ その他

移動図書館事業のPRを目的に、福島県バス協会が開催したバスまつりに参加して、43冊を貸出した。

**移動図書館「あづま号」貸出状況・推移** (単位：冊数)

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度  |
|----------|----------|--------|
| 23,506   | 26,786   | 28,380 |

**(2) 市町村援助のための支援貸出**

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

令和元年度の利用状況は次のとおりである。

|            |         |
|------------|---------|
| 喜多方市教育委員会  | 297 冊   |
| 本宮市教育委員会   | 1,500 冊 |
| 川俣町教育委員会   | 410 冊   |
| 湯川村教育委員会   | 93 冊    |
| 平田村教育委員会   | 181 冊   |
| 浅川町教育委員会   | 500 冊   |
| 会津美里町教育委員会 | 2,177 冊 |
| 西会津町教育委員会  | 330 冊   |
| 合 計        | 5,488 冊 |

**(3) 福島県立図書館資料の譲与**

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和元年度の利用状況は次のとおりである。

|            |         |
|------------|---------|
| 学法石川高校     | 289 冊   |
| 会津坂下町教育委員会 | 305 冊   |
| 石川支援学校     | 18 冊    |
| 会津美里町教育委員会 | 873 冊   |
| 浅川町教育委員会   | 11 冊    |
| 合 計        | 1,496 冊 |

**(4) 只見線駅文庫**

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の会津川口駅と会津柳津駅に設置した。

**(5) 学校図書館活動支援貸出**

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和元年度は実績なし。

**(6) 学校図書館活動支援セット貸出**

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校及び特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テーマ(延べ277セット)を編成し貸出を行った。

令和元年度の利用状況は、17団体に対し73セット(3,008冊)を貸出した。

**(7) 広報資料の発行**

ア 館報「あづま」

第69巻(通巻273号)を令和2年2月18日に発行した。主たる掲載事項としては、「令和元年 県立図書館の取組み」「令和元年県内図書館の動き」「県立図書館を支える人々」等

イ 令和元年版福島県公共図書館・公民館図書実態調査報告書(データ版)

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館等の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は6,338,087冊で、当該人口1人当たり3.69冊(前年度3.59冊)、年間増加冊数は216,077冊である。また、平成30年度中の貸出図書冊数は、6,682,978冊(当該人口1人当たり3.89冊)である。

ウ 福島県郷土資料情報

第60号を発行。7月に開催した朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会「朝河貫一が文通したアメリカ人の女性たち～福島県立図書館所蔵の書簡から～」と、年度内に5回実施した「ふくしまを知る連続講座」の概要について報告した。特集として福島県内の地名を調べる際に役立つ「郷土福島の地名調べ・虎の巻」を掲載した。連載記事としては「福島県立図書館所蔵貴重郷土資料探照 20 明治末期浜通りの郷土誌」、「福島県関係書誌 2019」を掲載した。100部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

**5 図書館協力**

**(1) 相互協力と遠隔地返却**

協力貸出(他館との資料の賃借)サービス、遠隔地返却(当館からの借受け資料を他館に返却する)サービスを行っている。近年、予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる、受取館指定サービスの利用増と相まって、前年度比では若干ポイントを下げているが、市町村図書館を窓口とした遠隔地の県民へのサービス体制は強化されている。

**相互貸借状況**

(単位：件/冊)

| 区分 | 県内    |       | 県外  |     | 合計    |       |
|----|-------|-------|-----|-----|-------|-------|
|    | 件数    | 冊数    | 件数  | 冊数  | 件数    | 冊数    |
| 貸出 | 1,029 | 4,386 | 409 | 685 | 1,438 | 5,071 |
| 借用 | 149   | 249   | 73  | 111 | 222   | 360   |
| 小計 | 1,178 | 4,635 | 482 | 796 | 1,660 | 5,431 |

**相互貸借状況・推移**

(単位：冊)

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 |
|----------|----------|-------|
| 5,555    | 6,142    | 5,431 |

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し借受けた資料を  
県内の公立図書館に返却した冊数）（単位：冊）

| 平成 29 年度 | 平成 30 年度 | 令和元年度 |
|----------|----------|-------|
| 6,865    | 7,578    | 7,212 |

## (2) 図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。令和元年度は、16 コースを編成し、31 自治体と 2 高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

## (3) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

(ア) テーマ 「図書館の意義と基本について」

(イ) 期 日 令和元年 5 月 24 日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 72 名

(オ) 講 師 小野町ふるさと文化の館  
副主幹兼司書兼学芸員 籠田 まき子  
義務教育課指導主事 川野邊 勝也  
県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

(ア) テーマ 「図書館業務に活かす統計と指標  
～統計の分析で何が変わるのか～」

(イ) 期 日 令和元年 12 月 6 日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 30 名

(オ) 講 師 筑波大学 准教授 池内 淳

ウ 福島県内図書館初任者職員実務研修

(ア) 期 日 令和元年 6 月 20 日(木)～21 日(金)

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 6 名

(エ) 講 師 福島県立図書館職員

## (4) 第 17 回福島県図書館研究集会

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「10 代の図書館利用を考える  
～ヤングアダルトを中心に～」

イ 期 日 令和元年 10 月 18 日(金)

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 84 名

オ 内 容

事例報告

・テーマ「福島県内のヤングアダルトサービス事例に学ぶ」

・報告者

福島市立図書館 主任司書 加茂 亜子

郡山市中央図書館 主任 仲田 千鶴子

須賀川市中央図書館 司書 小針 望

白河市立図書館 司書 佐藤 志帆

会津若松市立会津図書館 主任主事

石井 杏紗美

喜多方市立図書館 館長 須藤 薫

南相馬市立中央図書館 司書 菊地 伸江

新地町図書館 主任主査兼管理係長兼司書

目黒 美千代

ワールドカフェ

・テーマ 「福島県内のヤングアダルトサービス事例に学ぶ～10 代が利用する図書館～」

・進 行 県立図書館 専門司書 鈴木 史穂

## (5) 令和元年度図書館地区別（北日本）研修会

情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題について研修を行い、図書館における中堅の司書としての力量を高めることを目的として実施している。

ア 期 日 令和元年 11 月 12 日(火)～14 日(木)

イ 会 場 福島県立図書館、白河市立図書館

ウ 参加者 北海道東北地区図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 48 名

エ 内容

基調講演「機能融合が生み出す新しい図書館とは」

講 師 松本大学松商短期大学部 教授 伊東 直登

講義①「求められるハイブリッドレファレンス」

講 師 千葉経済大学短期大学部 教授 齊藤 誠一

講義②「公共図書館とネットワーク情報資源の動向

講師 帝京平成大学 准教授 間部 豊

講義③「ヤングアダルトサービスの意義」

講師 相模原市立図書館 主任 清野 愛子

講義④「高齢者サービスに求められる地域連携の在り方」

講師 川崎市立宮前図書館 課長補佐 舟田 彰

講義⑤・施設見学・演習・グループワーク

・施設見学・演習「図書館サービスの展開と利用促進のための方策」

場所 白河市立図書館

講師 白河市立図書館 館長 田中 伸哉

・演習・グループワーク「図書館サービスの実際～その意義を考える～」

講師 青山学院大学 教授 小田 光宏

白河市立図書館 館長 田中 伸哉

## (6) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社

会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、「福島県内大学図書館連絡協議会」の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらすわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

## 第12節 福島県立美術館

### 1 概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

#### (1) 美術館運営協議会

##### ア 委員

|       |                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------|
| 山口 功  | 福島県中学校教育研究会美術専門部所属<br>(平成25年1月1日～)                  |
| 番匠あつみ | 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属<br>(平成27年1月1日～)                |
| 杉 昭重  | 前公益財団法人福島県文化振興財団理事長<br>兼福島県文化センター館長<br>(平成29年1月1日～) |
| 坂本 節子 | 福島県家庭教育インストラクターいわきの会事務局長<br>(平成25年1月1日～)            |
| 齋藤 勝正 | 福島県美術家連盟会長<br>(平成29年1月1日～)                          |
| 鈴木 仁  | 日本放送協会福島放送局長<br>(平成29年8月19日～)                       |
| 星 眞智子 | 西会津国際芸術村事務長<br>(平成27年1月1日～)                         |
| 清水 眞砂 | 世田谷美術館分館長<br>(平成27年1月1日～)                           |
| 齋藤美保子 | 郡山女子大学短期大学部副学長・教授<br>(平成27年1月1日～)                   |

舟木 藤弘 福島県立美術館友の会理事  
(平成29年1月1日～)

##### イ 協議会の開催

- (ア) 期日 令和2年3月6日(金)  
(イ) 内容 ・令和元年度事業実施の概要  
・令和2年度事業計画案の概要等  
・県立美術館の運営等

#### (2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

|      |                   |
|------|-------------------|
| 加盟団体 | ・全国美術館会議 (理事)     |
|      | ・日本博物館協会 (会員)     |
|      | ・日本博物館協会東北支部 (監事) |
|      | ・東北地区博物館協会 (監事)   |
|      | ・福島県博物館連絡協議会 (理事) |

## 2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的にを行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

令和元年度は25点の作品及び2件の資料を寄贈により収集した。

#### (1) 収蔵作品点数(令和2年3月31日現在)

|       |        |
|-------|--------|
| 海外作品  | 450点   |
| 日本画   | 363点   |
| 洋画    | 912点   |
| 版画    | 1,148点 |
| 立体    | 145点   |
| 工芸    | 158点   |
| 書     | 39点    |
| 素描・下絵 | 216点   |
| 写真    | 410点   |
| 作品合計  | 3,841点 |
| 美術資料  | 65件    |

#### (2) 収集評価委員会

##### ア 委員

|       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 中山 恵理 | 郡山市立美術館主任主査<br>(令和元年12月1日～)      |
| 松下 由里 | 群馬県立近代美術館次長兼学芸係長<br>(令和元年12月1日～) |
| 三上 満良 | 元宮城県美術館副館長<br>(平成23年12月1日～)      |
| 水沢 勉  | 神奈川県立近代美術館長<br>(令和元年12月1日～)      |
| 村田 眞宏 | 豊田市美術館長<br>(平成23年12月1日～)         |

##### イ 委員会の開催

- (ア) 期日 令和2年2月21日(金)  
(イ) 内容 ・平成30年度収集作品の報告  
・令和元年度収集候補作品について

### (3) 令和元年度収集作品等

#### ア 美術作品及び美術資料の収集

|          |                 |    |
|----------|-----------------|----|
| 国内：日本画   | 酒井白澄            | 1点 |
|          | 森田恒友            | 4点 |
|          | 結城素明            | 5点 |
| 国内：洋画    | 森田恒友            | 2点 |
|          | 堂本右美            | 1点 |
|          | 吉井 忠            | 2点 |
| 国内：立体    | 佐藤玄々（朝山）        | 5点 |
|          | 橋本高昇            | 1点 |
| 国内：工芸    | 緑川宏樹            | 3点 |
| 国内：素描・下絵 | 速水御舟            | 1点 |
| 国内：資料    | 結城素明資料          | 1件 |
|          | 伊藤隆三郎資料         | 1件 |
|          | 計 25 点、美術資料 2 件 |    |

#### イ 図書資料の収集

収蔵図書数 61,179 冊

### (4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

#### ア 保存環境調査の実施（虫菌害モニタリングと環境測定）

時期：令和元年6月3日（月）～17日（月）、

8月10日（土）～24日（土）

[報告書は令和元年6月27日（木）、令和元年9月22日（日）に提出]

内容：展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

#### イ 美術品の修復

松岡映丘《沼川・入江・薄野・雪路》、平福百穂《赤茄子と芋》の修復を実施したほか、関根正二作品の状態点検調査を実施した。またジョルジュ・ルオー《ミセレーレ》の額を交換した。

#### ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 毎月1回、計12回測定

(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計45か所

## 3 展示事業

### (1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回（版画は年8回）展示替えを行っている。

#### コレクション展Ⅰ 平成31年3月26日（火）

～令和元年6月23日（日）

春の日本画：速水御舟「晩冬の桜」、村上華岳「早春風景」

特集展示 生誕100年 橋本章：「武装する都市」、「立つ一脱獄囚」

印象派と海外の名品：ピサロ「エラニーの菜園」、

クロード・モネ「ジヴェルニーの草原」

斎藤清の版画：「凝視（猫）」、「地の幸」

追悼 浜田知明と秀島由己男：浜田知明「初年兵哀歌（歩哨）」、秀島由己男「わらべ唄」

### コレクション展Ⅱ

#### 特集「美のおもちゃ箱 河野保雄コレクション展」

令和元年6月29日（金）

～9月1日（日）

近代の光と影：青木繁「漁夫晩帰 下図」、岸田劉生「白狗図」、野田英夫「少女」、長谷川利行「芝居小屋」、高橋忠彌「花・鳥・ランプ」、吉井忠「森林帯」、山中春雄「街（横浜）」、鶴岡政男「マスク（仮面）」、麻生三郎「街と人」

ガラス絵の小宇宙：長谷川利行「湯浴する女」、桂ゆき「ブドウとキツネ」、清宮質文「夜明け」、北川民次「教会に集る群れ」、松本榮「辻音楽師（メキシコ）」

美のおもちゃ箱：竹久夢二「花火」、初山滋「へんなぞう」、荻原守衛「洗濯する女」、桂ゆき「躍動するカップ」、中村直人「楽器」、盛秀太郎「こけし」、佐藤玄々（朝山）「青鳩」

#### 関連事業

・特別講演会「生きている河野保雄コレクション」  
講師：早川 博明（館長）

日時：令和元年7月28日（日）14時～15時30分  
場所：講堂

参加者数：40名

・担当学芸員によるギャラリートーク

講師：①堀 宜雄（専門学芸員）

②白木 ゆう美（学芸員）

日時：①令和元年6月30日（日）14時～15時

②令和元年8月4日（日）14時～15時

参加者数：①15名、②10名

### コレクション展Ⅲ 令和元年9月7日（土）

～12月27日（金）

森田恒友展関連展示 喜多方美術倶楽部：小川芋銭「鍾馗図」、酒井三良「雪に埋もれつつ正月はゆく」  
昭和の洋画 吉井忠と仲間たち：麻生三郎「家族」、吉井忠「麦の穂を持つ女」

フランス美術の名品：カミーユ・コロー「ヴィル・ダヴレー」、ジョルジュ・ルオー「超人」

アメリカ美術特集 ベン・シャーンとアンドリュー・ワイエス：ワイエス「松ぼっくり男爵」、ベン・シャーン「ラッキードラゴン」、「リルケ『マルテの手記』より」

現代の版画：加納光於「星 反芻学」、李禹煥「遺跡地にて」、斎藤清「ヌード(4)」

### コレクション展Ⅳ 令和2年1月5日（日）

～3月8日（日）

現代の日本画 中野蒼穹小特集：中野蒼穹「武蔵野」、

菊地養之助「縄をなう人」  
佐藤玄々（朝山）の彫刻：「巢鶏」、「山嵐」  
新収蔵 宮崎進／若松光一郎：宮崎進「北の祭」、若松光一郎「宇宙の記念碑（一）」、ドーミエ「日々の出来事（アクチュアリ）」、ロダン「影の頭部」  
海外の版画：シャガール「死せる魂」、ルオー「流れる星のサーカス」  
版画 斎藤清／川上澄生：斎藤清「会津の冬(21)」、川上澄生「女と洋燈」  
関連事業

- ・トークイベント「宮崎進の作品を語る」  
講師：宮崎 とみゑ（作家遺族）、赤松 祐樹（多摩美術大学美術学部非常勤講師）、黒川 創（作家）  
司会：荒木 康子（学芸課長）  
日時：令和2年2月9日（日）14時～15時  
参加者数：15名

## (2) 企画展

令和元年度は6回の企画展を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

### ア 東日本大震災復興祈念 伊藤若冲展

- (ア) 会期 平成31年3月26日（火）  
～令和元年5月6日（月・祝）  
開催日数 38日（令和元年度 32日）
- (イ) 分野 絵画、版画、資料
- (ウ) 展示数 111点
- (エ) 主催 東日本大震災復興祈念「伊藤若冲展」実行委員会 [構成：福島県、福島県教育委員会、福島県立美術館、福島民友新聞社、福島中央テレビ]
- (オ) 観覧料 一般・大学生 1,500(1,300)円、  
学生 1,100(900)円、高校生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金
- (カ) 観覧者数 116,344名
- (キ) 概要

東日本大震災復興を祈念し開催した伊藤若冲の回顧展。京都国立博物館で「伊藤若冲展」を企画した狩野博幸氏の監修により、重要文化財の『蓮池連地図』、『果蔬素涅槃図』を始め、海外からも借用し、水墨画を中心とした百点以上の作品により構成。若冲作品が最も早い使用例とされる、プルシアン・ブルー（紺青）の絵具（国重文）も参考展示した。

- (ク) 関連事業  
・講演会「今を生きる若冲絵画-“旦那芸”の凄み-」  
講師：狩野 博幸（美術史家、展覧会監修者）  
日時：平成31年4月16日（火）14時～15時30分  
場所：講堂  
参加者数：250名
- ・A・O・Z（アオウゼ）連携企画レクチャー

- ①「伊藤若冲の芸術と生涯」  
講師：伊藤 匡（専門員）  
日時：平成31年3月12日（火）14時～15時30分  
場所：A・O・Z 大活動室  
参加者数：160名
- ②「伊藤若冲展 見どころはここ！」  
講師：紺野 朋子（副主任学芸員）  
日時：平成31年4月23日（火）14時～15時30分  
場所：A・O・Z 大活動室  
参加者数：180名
- ・ぬりえコーナー  
日時：展覧会会期中  
場所：エントランスホール  
参加者数：約47,000名

## イ やなぎみわ展 神話機械

- (ア) 会期 令和元年7月6日（土）～9月1日（日）  
開催日数 51日
- (イ) 分野 写真、映像、立体、演劇
- (ウ) 展示数 44点
- (エ) 主催 福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ  
協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、JAふくしま未来、JAグループ福島  
助成 芸術文化振興基金  
協力 京都造形芸術大学、香川高等専門学校、群馬工業高等専門学校、福島県立福島工業高等学校、京都工芸繊維大学 ROBOCON 挑戦プロジェクト、一色事務所、堀内カラー、被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会  
企画協力 一般社団法人 MIWA YANAGI OFFICE
- (オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円、  
高校生 500(400)円、小・中学生 300(200)円  
※( )内は前売料金または20名以上の団体料金
- (カ) 観覧者数 4,116名
- (キ) 概要

1990年代から現在に至るまで、現代美術のみならず演劇界でも忘れられないアートシーンを毎回創り出してきた美術家やなぎみわ(1967-)。《エレベーター・ガール》や《マイ・グランドマザーズ》などの写真作品で世界的な評価を得たが、2010年からは演劇プロジェクトを始める。本展は10年ぶりの美術館における個展となった。

本展では、舞台作品と並行し、日本神話をモチーフに福島市内の果樹園で桃を撮影した新作シリーズが、日本で初めてまとめて紹介されるとともに、巡回展各地の学校等（福島県立福島工業高等学校）と連携して制作されたマシンによる神話世界《神話機械》が、会場に生み出された。4台のマシンによる無人公演を1日3回実施。作家と地域を繋げ、巻き込みながら展覧会を作り上げる有意義な機会となった。

(ク) 関連事業

- ・やなぎみわトークショー  
講師：やなぎみわ、聞き手：早川 博明(館長)  
日時：令和元年7月6日(土)14時～  
場所：講堂  
参加者数：82名
- ・ライブパフォーマンス『MM』  
構成・演出：やなぎみわ、出演：高山 のえみ、  
音楽：内橋 和久  
日時：①令和元年7月13日(土)19時30分～  
②令和元年7月14日(日)19時30分～  
場所：企画展示室  
参加者数：①91名、②98名
- ・ロボット教室  
講師：吉田 健(福島県立福島工業高等学校教諭)  
日時：令和元年8月3日(土)13時～16時30分  
会場：福島県立美術館、福島県立福島工業高等学校  
参加者数：9名
- ・触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ  
「神話と機械を見聞きする」  
講師：やなぎみわ、嶋村 泰(ミュージシャン)  
日時：令和元年9月1日(日)  
①10時30分～12時、②14時～15時30分  
場所：企画展示室  
参加者数：①10名、②10名  
(いずれも視覚障がい者と晴眼者含む)
- ・担当学芸員によるギャラリートーク  
講師：荒木 康子(学芸課長)  
日時：①令和元年7月27日(土)15時～16時  
②令和元年8月10日(土)15時～16時  
場所：企画展示室  
参加者数：①10名、②10名
- ・ケンピ桃マルシェ  
会期中、庭園で桃をはじめとする福島の野菜の  
販売をGDMふくしま、JAふくしま未来の協力を得  
て行った。  
実施日：令和元年7月6日、13日、14日、20日、  
8月2日、3日、24日、31日
- ・福島のおすすめ桃メニュー  
市内のレストランやバーとともに、展覧会限定  
の桃メニューを展開し、桃のピザやカクテルなど  
を提供した。

ウ 生誕120年・没後100年 関根正二展

- (ア) 会期 令和元年9月14日(土)～11月10日(日)  
開催日数50日
- (イ) 分野 絵画
- (ウ) 展示数 205点  
(関根作品100点、資料57点、関連作家48点)
- (エ) 主催 福島県立美術館・福島民報社・福島テレビ

- (オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円、  
高校生500(400)円、小・中学生300(200)円  
※( )内は20名以上の団体料金

- (カ) 観覧者数 6,235名

(キ) 概要

関根正二は、1919年にわずか20歳2ヶ月で夭折した洋画家である。関根は、福島県白河に生まれ、9歳で東京に移住し、わずかな期間美術研究所に通った程度であるが、卓越した素描力と鮮烈な色彩による謎めいた絵画世界をつくりあげ、代表作《信仰の悲しみ》(大原美術館)は国重要文化財に指定されている。

当館では3度目、20年ぶりの回顧展となる本展は、新発見作品、資料を含め、過去最大の展覧会となった。今までつながりがわかりづらかった関根の作品世界が、新発見資料や作品により、少しずつその連続性が見えるようになり、彼の絵画世界の謎を再考する好機であった。

(ク) 関連事業

- ・講演会「永遠の、《子供》と関根正二」  
講師：貝塚 健  
(石橋財団アーティゾン美術館教育普及部長)  
日時：令和元年9月14日(土)14時～15時30分  
場所：講堂  
参加者数：90名
- ・ゲストトーク「油彩画の技法と読み解くヒント」  
講師：田中 善明(三重県立美術館学芸普及課長)  
日時：令和元年10月6日(日)14時～15時30分  
場所：企画展示室  
参加者数：37名
- ・ゲストトーク「関根正二の『塗り残し』」  
講師：小林 俊介(山形大学教授、画家)  
日時：令和元年10月20日(日)14時～15時30分  
場所：企画展示室  
参加者数：45名
- ・担当学芸員によるギャラリートーク  
講師：堀 宜雄(専門学芸員)  
坂本 篤史(主任学芸員)  
日時：①令和元年9月22日(日)14時～15時  
②令和元年10月19日(土)14時～15時  
③令和元年11月1日(金)14時～15時  
場所：企画展示室  
参加者数：①21名、②17名、③22名

エ 森田恒友展

- (ア) 会期 令和元年11月23日(土・祝)  
～令和2年1月19日(日)  
開催日数43日
- (イ) 分野 日本近代洋画・日本画
- (ウ) 展示数 256点
- (エ) 主催 福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ

協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜  
出品協力 東京国立近代美術館

助成 公益財団法人ポーラ美術振興財団

- (カ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円、  
高校生 600(500)円、小・中学生 400(300)円  
※( )内は 20 名以上の団体料金

(キ) 観覧者数 2,292 名

(ク) 概要

埼玉県熊谷市出身の森田恒友は、不同舎や東京美術学校に学んだ後にヨーロッパに留学し、セザンヌの紹介者として知られた。また一方で、文芸、俳句と密接に関わって出版界で漫画家・挿絵画家としても活躍した。後半生は関東平野を題材にした穏やかな日本画を描いた。

恒友はまた、大正初期に会津地方に4度訪れ、会津若松城址や磐梯山周辺、阿賀川畔を題材に多くの作品を生み出した、福島ゆかりの作家でもある。埼玉県立近代美術館との共同企画により新資料が多く発見され、大規模な回顧展が実現した。

会期中、喜多方在住の作家による漫画絵巻物制作ワークショップを開催し、好評を得た。また、喜多方市美術館では、協力事業として「森田恒友関連展示」を行った。

県ゆかりの作家として、また近代画家として再評価する機会となった。

(ク) 関連事業

・ゲストトーク

「小さいながらも真の画人―森田恒友の軌跡」

日時：令和元年12月21日(土)14時～

場所：企画展示室

パネリスト：吉岡 知子(埼玉県立近代美術館学芸員)

参加者数：30名

・担当学芸員によるギャラリートーク

講師：①増渕 鏡子(専門学芸員)

②増渕 鏡子(専門学芸員)

日時：①令和元年12月7日(土)14時～15時

②令和2年1月11日(土)14時～15時

場所：企画展示室

参加者数：①20名、②20名

・創作プログラム「まんが絵巻をつくろう！」

講師：久松 知子(アーティスト)

日時：令和元年11月24日(日)10時～15時

場所：実習室

参加者数：16名

## オ Gallery F 2020 コレクション再発見

①生誕100年 建島覚造展 かたちの探求

②アートカード★チャレンジ

(ア) 会期 令和2年2月8日(土)～3月8日(日)

開催日数 25日

(イ) 分野 ①立体、②絵画、版画、工芸

(ウ) 展示数 ①9点、②24点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般 280(220)円、高校生以下無料

(カ) 観覧者数 1,125名

(キ) 概要

「Gallery F」とは、当館のコレクションの中から、今まで紹介できなかった作品や新収蔵・寄託作品を取り上げ、あるいはテーマを絞って掘り下げる小さな展覧会を意味する。4回目の今年は彫刻家、建島覚造とアートカードを使ったコレクション再発見の試み。

①「生誕100年 建島覚造」展では、日本の現代彫刻を代表する彫刻家建島覚造(たてはた・かくぞう 1919～2006)の、当館が所蔵する作品を中心に展示し、かたちと素材を探求した建島覚造の魅力を紹介した。

②「アートカード★チャレンジ」では、福島市立野田中学校3年生の生徒たちが、鑑賞教材アートカードを使って考えた展覧会を、実際に当館のコレクションを展示して再現した。

(ク) 関連事業

・ギャラリートーク

講師：酒井 哲朗(名誉館長)

日時：令和2年2月8日(土)14時～15時

場所：企画展示室

参加者数：18名

・ギャラリートーク

講師：三上 満良(元宮城県美術館副館長)

日時：令和2年2月22日(土)14時～15時

場所：企画展示室

参加者数：25名

・福島市立野田中学校生徒によるギャラリートーク

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## カ ブダベスト国立工芸美術館名品展

ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ

(ア) 会期 令和2年3月24日(火)～5月10日(日)

開催日数 43日(元年度7日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月18日(土)をもって展覧会中止(開催日数23日)。

(イ) 分野 近代西洋工芸

(ウ) 展示数 193点

(エ) 主催 ジャポニズム福島展実行委員会[構成：福島県立美術館、福島中央テレビ、福島民友新聞社]

協賛 福島トヨタ自動車、佐藤燃料、福島県商工信用組合、JAグループ福島

(オ) 観覧料 一般 1,300(1,100)円、大学生・専門学校生 1,100(900)円、小・中・高校生 650(500)円  
※( )内は 20 名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 1,409名(令和元年度)

(キ) 概要

日本の美術がどのようにして西洋に影響を与えたか、そして日本美術を西洋がどのように解釈したか、その歴史を辿る内容。ジャポニズムとアール・ヌーヴォーをテ

ーマに、ブダペスト国立工芸美術館の所蔵品から、ティファニー、ガレ、ドーム兄弟やラリックを含めた作品とともに、ジョルナイ陶磁器工房などハンガリーを代表する作品群を含めて約200点を紹介した。

#### (7) 関連事業

- ・講演会「開幕記念講演会」
  - ・講演会「海を渡った日本工芸とジャポニスム」
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

## 4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

令和元年度は、県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収集作家（関根正二、森田恒友、喜多方美術倶楽部関係の作家たち、山内神斧、宮崎進、建昌覚造、亜欧堂田善など）の調査を重点的に行った。

## 5 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

### (1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

団体総数は248団体8,408人で、そのうち解説を行ったのは60団体2,651人である。

### (2) 鑑賞講座

館長講座「古典に帰れ—西洋美術の巨匠たち—」

#### 第1回

「バロック(3) プッサン、ロラン、ラ・トゥール」

令和元年5月18日(土) 参加者数：28名

#### 第2回

「ロココ(1) ヴァトー、ブーシェ、フラゴナール」

令和元年7月20日(土) 参加者数：29名

#### 第3回

「ロココ(2) ホガーズ、レノルズ、カナレットなど」

令和元年9月21日(土) 参加者数：26名

#### 第4回

「新古典派とロマン派 アングル、ドラクロワなど」

令和元年11月23日(土) 参加者数：25名

#### 第5回

「英独西の近代巨匠 ターナー、フリードリヒ、ゴッダ」

令和2年1月18日(土) 参加者数：25名

#### 第6回

「19世紀写実派 ミレー、コロー、クールベ」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### (3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア 「若沖ぬりえに挑戦！」

平成31年3月26日(火)～令和元年5月6日(月・祝)

・参加者数：約47,000名

イ 「イメージの手がかり～おもしろ紙コップを作る」

令和元年5月26日(日)

・講師：横山 信人(ベニヤ板造形作家)

・参加者数：11名

ウ 「橋本章的カオスとベタ塗り」

令和元年6月1日(土)、2日(日)、8日(土)

・講師：大町 亨(美術家、モダンアート協会会員)

・参加者数：16名

エ 「ロボット教室」

令和元年8月3日(土)

・講師：吉田 健(県立福島工業高等学校教諭)

・参加者数：9名

オ 「大地の絵具で絵を描こう」

令和元年8月17日(土)

・講師：佐藤 香(現代美術家)

・参加者数：20名

カ 「テンペラ絵具を作って描こう」

令和元年9月29日(日)、10月6日(日)、13日(日)、14日(月・祝)

・講師：小林 俊介(山形大学教授、画家)

・参加者数：13名

キ 「木炭で自画像を描く」

令和元年10月19日(土)

・講師：大北 孝(主任学芸員)

・参加者数：11名

ク 「まんが絵巻をつくろう」

令和元年11月24日(日)

・講師：久松 知子(アーティスト)

・参加者数：16名

ケ 「組み木のおもちゃを作ろう！」

令和元年12月15日(日)

・講師：古川 英樹(創作おもちゃ作家)

・参加者数：21名

コ 「冬に透ける街～水彩絵の具の光に透ける感覚を楽しもう～」

令和2年2月15日(土)

・講師：小原 風子(画家・絵本作家)

・参加者数：11名

サ 「写真のような鉛筆デッサン」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### (4) 美術館・学校教育連携事業

##### ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より開催する連携事業。こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

令和元年度は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・適応指導教室合わせて7校（参加者延べ137名）で開催した。ワークショップ作品は令和2年1月25日（土）～2月2日（日）の期間、当館企画展示室Bにて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

##### (ア) 作家：三浦 麻梨乃（銅版画家）

プログラム：版画でつづる「ささやかな幸せ」

内容：自分の好きなもの、大切なものをモチーフとして、日々の出来事をドライポイントの技法で表現した。

開催校・開催日・人数：

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和元年10月3日（木） 13名

郡山市立御館中学校（2年生）

令和元年10月7日（月） 10名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和元年11月25日（月） 13名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和元年11月26日（火） 13名

郡山市立御館中学校（2年生）

令和元年11月28日（木） 10名

##### (イ) 作家：坂内 直美（画家・女子美術大学芸術学部美術学科洋画専攻助手）

プログラム：「好きなもので自画像を描いてみよう！」

内容：自分の好きなものと自分の顔をキャンバス（幼稚園では画用紙）にミクストメディアで表現した。

開催校・開催日・人数：

二本松市立渋川小学校（3年生）

令和元年9月12日（木） 12名

川俣町立富田幼稚園（5歳児）

令和元年10月8日（火） 23名

福島県立相馬東高等学校（美術部）

令和元年10月26日（土） 3名

会津若松市立第一中学校（美術部）

令和元年11月2日（土） 15名

会津若松市立第一中学校（美術部）

令和元年11月9日（土） 15名

会津若松市立第二中学校（美術部）

令和元年11月16日（土） 10名

##### イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。令和元年度も前年度に引き続き、前期（福島県教育センター）、後期（県立美術館）の2回に分けて開催した。

前期日時：令和元年8月21日（水）13時～14時

講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅠ」

大北 孝（主任学芸員）

後期日時：令和元年10月25日（金）10時～15時45分

講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅡ」

演習「鑑賞用教材を活用した鑑賞活動」

橋本 淳也（教育センター指導主事）、大北 孝

（主任学芸員）、白木 ゆう美（学芸員）

参加者：小学校教諭6名、中学校教諭3名、

高等学校教諭1名 合計10名

#### (5) 美術館への年賀状展

県内の小中高校生から寄せられた手作り年賀状を全てエントランスホールに展示した。

会期：令和2年1月12日（日）～31日（金）

応募総数：213通 観覧者数：541名

#### (6) 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時：令和元年8月20日（火）～25日（日）

受講者数：4名

#### (7) 友の会、協力会との連携事業

##### ア 福島県立美術館友の会 通常総会の開催

日時：令和元年5月20日（月）

場所：講義室

参加者数：18名（早川 博明（館長）、荒木 康子（学芸課長）参加）

##### イ 伊藤若冲展ボランティア

友の会有志を中心とするメンバーが、会期中の土日、荷物一時預かり及び観光紹介のボランティア活動を行った。

参加者数：会期中の土日18回 延べ72名

##### ウ ワークショップマート ～ものづくりの庭～

<NPO法人福島県立美術館協力会との共催>

漆作家や自家焙煎珈琲店、綿花農家など様々な異業種事業者が当館収蔵作品をテーマに「ものづくりワークショップ」を美術館エントランスホールで開催した。

また、当日は、友の会有志が、参加者への案内、アンケート調査等のボランティア活動を行った。

日時：令和元年9月16日（月・祝）10時～15時

場所：エントランスホール

企画・ディレクション：フライデースクリーン

参加者数：約1,000名

##### エ 友の会研修旅行

日時：令和元年9月28日（土）

旅行先：秋田県立近代美術館、  
深横手市増田まんが美術館  
参加者数：33名（早川 博明（館長）、伊藤 匡（専門員）ほか参加）

オ 友の会実技講座「木炭で静物を描く」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

カ アート チャリティ バザー

友の会会員や美術館関係者が美術工芸品、美術図書、図録、ミュージアムグッズなどを持ち寄り、安い価格で販売した。バザーの収益金によりポータブル・マイクセットを購入し、美術館に寄付した。

日時：令和元年12月8日（日）9時30分～13時

場所：エントランスホール

参加者数：約150名

キ ミュージアム・コンサート

「ラテンジャズでホットな春を！」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ク 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞

ワークショップ「神話と機械を見聞きする」

<NPO 法人福島県立美術館協力会との共催>

「やなぎみわ展」関連事業として、作家を講師に開催した。見える人、見えない人一緒に、やなぎみわが表現する神話の世界を視覚だけでなく五感で体感しようという企画。まずは《神話機械》の4体のマシンを視覚障がい者、晴眼者が一緒に触察したり、お互いに話をしたりしながら鑑賞。その後、ミュージシャンの嶋村泰に加わってもらい、音と言葉によるパフォーマンス「黄泉比良坂」を参加者全員で作成し、上演した。

日時：令和元年9月1日（日）

①10時30分～12時、②14時～15時30分

場所：企画展示室

講師：やなぎみわ、嶋村 泰（ミュージシャン）

参加者数：①10名、②10名

（いずれも視覚障がい者と晴眼者含む）

ケ アートカード『ぼけっとアート』貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式にした鑑賞補助教材『ぼけっとアート』の貸出を行っている。令和元年度の小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含めた貸出総数は117か所、612セットである。

(8) その他の事業

ア 福島県立図書館との連携事業「アートなおはなし会」、「色であそぼう」

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみきかせ」と美術館展示室及び実習室の「鑑賞と工作のワークショップ」

日時：令和元年10月26日（土）

場所：福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数：33名

イ 「中学生ドリームアップ事業」職場体験活動

令和元年7月9日（火）～12日（金）

福島市立松陵中学校 2年生 2名

福島市立岳陽中学校 2年生 2名

ウ 委員等

- ・いわき市立美術館収集評価委員（荒木 康子学芸課長）
- ・郡山市立美術館協議会委員（荒木 康子学芸課長）
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員（伊藤 匡専門員）
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員  
(増淵 鏡子専門学芸員)
- ・相馬市史調査編さん委員（増淵 鏡子専門学芸員）
- ・須賀川市立博物館資料収集選定委員  
(増淵 鏡子専門学芸員)
- ・須賀川市文化財保護審議会委員  
(増淵 鏡子専門学芸員)
- ・一般財団法人可月亭庭園美術館評議員  
(増淵 鏡子専門学芸員)
- ・福島市写真美術館運営委員（紺野 朋子主任学芸員）
- ・西会津国際芸術村公募展審査員（大北 孝主任学芸員）
- ・裏磐梯猪苗代フォトコンテスト審査委員  
(坂本 篤史主任学芸員)

エ 寄稿、発表、受賞等

- ・2019年美連協大賞（美術館連絡協議会）
- 「生誕120年・没後100年 関根正二展」大賞受賞
- 「森田恒友展」優秀カタログ賞-美連協展部門-受賞
- ・福島大学行政政策学類「博物館経営論」講師  
平成31年4月12日（金）～令和元年7月26日（金）  
全15回（伊藤 匡専門員）
- ・諸橋近代美術館講座  
「イメージの探索者 マックス・エルンスト」  
令和元年6月1日（土）（橋本 恵里学芸員）
- ・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ講座  
「関根正二展 見どころはここ！」  
令和元年9月20日（金）（坂本 篤史主任学芸員）
- ・第8回福島市医師会市民文化講演会  
「福島県立美術館のコレクションから一ワイエスとベン・シャーン」  
令和元年10月26日（土）（荒木 康子学芸課長）
- ・福島県立医科大学  
「博物館・美術館にみる芸術と文化」講師  
①令和元年11月20日（水）（荒木 康子学芸課長）  
「福島県立美術館コレクションから」  
②令和元年11月27日（水）（増淵 鏡子専門学芸員）  
「企画展 森田恒友展について」  
③令和元年11月30日（土）（増淵 鏡子専門学芸員）  
「展覧会見学と美術館バックヤードツアー」
- ・桜の聖母短期大学生涯学習センター講座  
「アンドリュー・ワイエスの世界」  
令和元年11月22日（金）（坂本 篤史主任学芸員）

- ・山形大学地域教育文化学部「キャリア教育」講師  
「美術館教育普及の仕事について」  
令和元年12月5日(木) (白木 ゆう美学芸員)
- ・埼玉県立近代美術館レクチャー  
「恒友をめぐる人と自然—会津を中心に」  
令和2年2月23日(日) (増淵 鏡子専門学芸員)

- ③令和元年度博物館入館者数(1月末現在)について
- ④令和2年度当初予算(案)について

## 第13節 福島県立博物館

### 1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。令和元年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

#### (1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

##### ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

##### 学校教育

- 鈴木 廣美 いわき市立小名浜東小学校長
- 伊藤 俊幸 福島県立会津支援学校長

##### 社会教育

- 長野 隆人(会長) いわき芸術文化交流館経営総務課広報グループチーフ
- 岡部 兼芳 社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館館長

##### 家庭教育

- 滝沢 玲子 福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会津さざなみの会会員

##### 学識経験者

- 佐藤 公(副会長) 磐梯山噴火記念館館長
- 川口 立喜 公立大学法人会津大学グローバル推進本部国際戦略室長・准教授
- 四家 久央 合名会社四家酒造店代表社員
- 大越 章子 日々の新聞社記者

##### 公募

- 岩崎 和美 書道家

##### イ 会議

第1回 令和元年6月20日(木)

- 議題 ①会長、副会長の選出について
- ②平成30年度博物館入館者数について
- ③平成31年度当初予算について
- ④平成31年度事業計画について
- ⑤福島県立博物館の使命及び中期目標について

第2回 令和2年2月20日(木)

- 議題 ①令和2年度事業計画(案)について
- ②福島県立博物館第3期中期目標(令和元年度12月末現在)について

## 2 資料収集事業

### (1) 収集展示委員会

#### ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

#### 福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

| 氏名     | 役職名                           | 備考   |
|--------|-------------------------------|------|
| 有賀 祥隆  | 東北大学名誉教授、東京藝術大学客員教授           | 委員長  |
| 村川 友彦  | 福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長          | 副委員長 |
| 岡田 清一  | 東北福祉大学大学院嘱託教授                 |      |
| 原田 一敏  | 東京藝術大学大学美術館副館長                |      |
| 柳田 俊雄  | 東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員     |      |
| 玉川 一郎  | 福島県考古学会長                      |      |
| 大石 雅之  | 岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員 |      |
| 三上 喜孝  | 国立歴史民俗博物館准教授                  |      |
| 北野 博司  | 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授          |      |
| 加藤 幸治  | 東北学院大学文学部歴史学科教授               |      |
| 角屋 由美子 | 米沢市上杉博物館学芸主査                  |      |
| 奥村 弘   | 神戸大学大学院人文学研究科教授               |      |

#### イ 会議

令和元年8月2日(金)

- 議題 ①今後3年間の展示計画について
- ②令和2年度・令和3年度開催予定企画展等について
- ③使命の改正、第3期中期目標について

### (2) 受贈・受託

#### ア 歴史資料

- (7) 受贈 絵葉書「吾妻スカイライン」ほか 計89件
- (1) 受託 短刀無銘ほか 計30件

#### イ 美術資料

- (7) 受贈 佐野龍雲筆「浦上玉堂先生肖像」ほか 計14件

(イ) 受託  
松平定信賛・谷文晁筆「異国船図」ほか 計4件

ウ 民俗資料

(ア) 受贈  
鋸ほか 計265件

(イ) 受託  
紙本著色野馬追図ほか 計32件

エ 考古資料

(ア) 受贈  
石鏃ほか 計21件

(イ) 受託  
元屋敷遺跡出土品 1件

オ 自然資料

(ア) 受贈  
浅貝層産植物葉化石ほか 計850件

(イ) 受託  
宮古層群産アンモナイト 1件

(3) 購入

ア 民俗資料

『都道府県別日本の祭り・行事調査報告書集成―北海道・東北地方および関東地方』（全4冊）ほか  
計5件

イ 自然資料

現生貝類標本（ヤコウガイほか） 106件

ウ 図書資料

(ア) 一般図書 193冊  
(イ) 定期刊行物 32種

3 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は1件と数える。

令和元年度収蔵指定文化財一覧

(令和2年3月31日現在)

| 連番 | 指定者 | 指定種別  | 資料種類 | 指定番号 | 資料名                   | 点数 | 単位 | 備考         |
|----|-----|-------|------|------|-----------------------|----|----|------------|
| 1  | 国   | 重要文化財 | 絵画   | 1903 | 絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図       | 1  | 幅  | 館蔵         |
| 2  | 国   | 重要文化財 | 絵画   | 6    | 紙本著色蒲生氏郷像             | 1  | 幅  | 寄託         |
| 3  | 国   | 重要文化財 | 工芸品  | 2065 | 銅鉢                    | 2  | 口  | 指定4口中の2口寄託 |
| 4  | 国   | 重要文化財 | 工芸品  | 2187 | 椿彫木彩漆笈                | 1  | 背  | 館蔵         |
| 5  | 国   | 重要文化財 | 工芸品  | 981  | 白銅三鈷杵                 | 1  | 点  | 寄託         |
| 6  | 国   | 重要文化財 | 工芸品  | 2055 | 刺繍阿弥陀名号掛幅             | 1  | 幅  | 寄託         |
| 7  | 国   | 重要文化財 | 考古資料 | 352  | 会津大塚山古墳出土品            | 一括 |    | 寄託         |
| 8  | 福島県 | 重要文化財 | 絵画   | 7    | 絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像 | 3  | 幅  | 寄託         |
| 9  | 福島県 | 重要文化財 | 絵画   | 10   | 絹本著色松平楽翁像             | 1  | 幅  | 館蔵         |
| 10 | 福島県 | 重要文化財 | 絵画   | 25   | 絹本著色達磨図               | 1  | 幅  | 寄託         |
| 11 | 福島県 | 重要文化財 | 絵画   | 26   | 絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図   | 2  | 幅  | 寄託         |
| 12 | 福島県 | 重要文化財 | 絵画   | 9    | 絹本著色十六善神像             | 1  | 幅  | 寄託         |

収蔵資料数（令和2年3月31日現在）

| 分野   | 件数      | 備考                 |
|------|---------|--------------------|
| 考古   | 20,236  | 土器・石器・金属器ほか        |
| 民俗   | 13,917  | 生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか |
| 歴史   | 22,322  | 書籍・文書資料ほか          |
| 美術   | 6,750   | 絵画・彫刻・工芸資料ほか       |
| 自然   | 44,398  | 化石・岩石・鉱物ほか         |
| 震災遺産 | 155     | 被災遺物、文書資料、写真ほか     |
| 合計   | 107,778 |                    |

イ 図書及び映像

(ア) 収蔵図書数（令和2年3月31日現在）

考古分野：27,851冊 民俗分野：5,035冊  
歴史分野：10,789冊 美術分野：4,510冊  
自然分野：17,599冊 保存分野：1,865冊  
震災遺産：93冊 その他：59,828冊  
合計：127,570冊

(イ) 収蔵映像資料数（令和2年3月31日現在）

収蔵映像資料総数：1,374点

(2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

平成25年度から、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I. B. Museum SaaS を導入している。一部の登録項目の再構成については、令和元年度に改修を実施した。

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

令和元年度は、博物館中期目標は第3期の1年目であり、資料情報の外部公開件数のみを数値目標として設定したが、本年度の公開件数は目標値に届かなかった。

| 連番 | 指定者 | 指定種別    | 資料種類 | 指定番号 | 資料名                    | 点数  | 単位 | 備考             |
|----|-----|---------|------|------|------------------------|-----|----|----------------|
| 13 | 福島県 | 重要文化財   | 絵画   | 3    | 紙本著色千葉妙見寺縁起            | 2   | 巻  | 寄託             |
| 14 | 福島県 | 重要文化財   | 絵画   | 13   | 絹本著色名体不離阿弥陀画像          | 1   | 幅  | 寄託             |
| 15 | 福島県 | 重要文化財   | 絵画   | 27   | 絹本著色熊野曼陀羅図             | 1   | 幅  | 寄託             |
| 16 | 福島県 | 重要文化財   | 絵画   | 28   | 絹本著色普賢菩薩像              | 1   | 幅  | 寄託             |
| 17 | 福島県 | 重要文化財   | 絵画   | 2    | 紙本著色両界種子曼荼羅            | 2   | 幅  | 寄託             |
| 18 | 福島県 | 重要文化財   | 絵画   | 6    | 絹本著色土津神社霊神画像           | 1   | 幅  | 指定9幅中の<br>1幅寄託 |
| 19 | 福島県 | 重要文化財   | 彫刻   | 4    | 木造大日如来坐像               | 1   | 軀  | 寄託             |
| 20 | 福島県 | 重要文化財   | 彫刻   | 29   | 木造地藏菩薩坐像               | 1   | 軀  | 寄託             |
| 21 | 福島県 | 重要文化財   | 彫刻   | 81   | 銅造聖観音菩薩立像（羽黒山湯上神社）     | 1   | 軀  | 寄託             |
| 22 | 福島県 | 重要文化財   | 彫刻   | 23   | 銅造聖観音菩薩立像（福聚寺）         | 1   | 軀  | 寄託             |
| 23 | 福島県 | 重要文化財   | 工芸品  | 58   | 銅鉢                     | 1   | 口  | 寄託             |
| 24 | 福島県 | 重要文化財   | 工芸品  | 55   | 青磁牡丹唐草文大瓶              | 1   | 口  | 寄託             |
| 25 | 福島県 | 重要文化財   | 工芸品  | 18   | 鉄製釣燈籠                  | 1   | 箇  | 寄託             |
| 26 | 福島県 | 重要文化財   | 工芸品  | 40   | 十一面観音版木                | 1   | 枚  | 寄託             |
| 27 | 福島県 | 重要文化財   | 工芸品  | 42   | 刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅            | 1   | 幅  | 寄託             |
| 28 | 福島県 | 重要文化財   | 工芸品  | 53   | 大名家婚礼調度等               | 47  | 件  | 寄託             |
| 29 | 福島県 | 重要文化財   | 書跡   | 8    | 紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸        | 1   | 巻  | 寄託             |
| 30 | 福島県 | 重要文化財   | 書跡   | 10   | 相馬家系図                  | 1   | 巻  | 寄託             |
| 31 | 福島県 | 重要文化財   | 典籍   | 3    | 家世実紀                   | 277 | 冊  | 館蔵             |
| 32 | 福島県 | 重要文化財   | 古文書  | 10   | 築田家文書                  | 一括  |    | 寄託             |
| 33 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 35   | 流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣           | 1   | 口  | 寄託             |
| 34 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 1    | 福島信天山出土品               | 一括  |    | 館蔵             |
| 35 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 14   | 金銅製双魚袋金具               | 2   | 枚  | 館蔵             |
| 36 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 21   | 原山1号墳出土埴輪              | 一括  |    | 館蔵             |
| 37 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 28   | 常世原田遺跡出土品              | 一括  |    | 館蔵             |
| 38 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 2    | 田村山古墳出土品               | 一括  |    | 寄託             |
| 39 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 46   | 相馬・双葉地方の弥生時代石器         | 一括  |    | 館蔵             |
| 40 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 23   | 松野千光寺経塚出土品             | 一括  |    | 寄託             |
| 41 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 20   | 五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口 | 3   | 口  | 寄託             |
| 42 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 33   | 森北1号墳出土品               | 一括  |    | 寄託             |
| 43 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 40   | 荒屋敷遺跡出土品               | 一括  |    | 寄託             |
| 44 | 福島県 | 重要文化財   | 考古資料 | 48   | 四穂田古墳出土品               | 一括  |    | 寄託             |
| 45 | 福島県 | 重要文化財   | 歴史資料 | 4    | 絹本著色恵日寺絵図              | 1   | 幅  | 寄託             |
| 46 | 福島県 | 重要文化財   | 歴史資料 | 5    | 陸奥国会津城絵図               | 1   | 舗  | 館蔵             |
| 47 | 福島県 | 重要文化財   | 歴史資料 | 15   | 絹本著色飯豊山山道絵図            | 1   | 巻  | 寄託             |
| 48 | 福島県 | 有形民俗文化財 |      | 16   | 上行合人形                  | 368 | 点  | 寄託             |
| 49 | 福島県 | 有形民俗文化財 |      | 3    | (宇内薬師堂) 古絵馬            | 3   | 面  | 指定6面中の<br>3面寄託 |
| 50 | 福島県 | 有形民俗文化財 |      | 31   | 旧修験高橋家所蔵修験資料           | 241 | 点  | 寄託             |
| 51 | 福島県 | 有形民俗文化財 |      | 38   | 紙本著色野馬追図               | 2   | 舗  | 寄託             |
| 52 | 福島県 | 天然記念物   | 化石   | 63   | パレオパラドキシア化石梁川標本        | 1   | 体  | 館蔵             |

| 資料類別   | 登録資料<br>(令和元年度) | 登録資料<br>(累計) | 資料情報の外部公開<br>(令和元年度) | 資料情報の外部公開<br>(累計) |
|--------|-----------------|--------------|----------------------|-------------------|
| 考古資料類  | 0               | 12,130       | 0                    | 3,532             |
| 民俗資料類  | 390             | 14,860       | 824                  | 5,232             |
| 歴史資料類  | 17              | 45,721       | 700                  | 12,688            |
| 美術工芸品類 | 1               | 6,230        | 13                   | 36                |
| 自然標本類  | 431             | 25,644       | 517                  | 12,263            |
| 合計     | 839             | 104,585      | 2,054                | 33,751            |

## ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

## (ア) 自然資料整理

化石標本整理 11日 2人

岩石・化石標本整理 15日 1人

## (イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち10名が参加

し、月1回の開催で文書の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取)を行った。

## (ウ) 民俗資料整理

民俗資料整理ボランティア1名を登録し、月例の収蔵庫資料整理日及び山口弥一郎調査資料の研究の資料整理日の作業に参加、資料の整理や情報提供の協力を得た。

## (3) 貸出

## ア 博物館資料

## 貸出資料一覧

| 資料名                                                                                | 貸出先             | 貸出期間              | 展覧会名                     |
|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-------------------|--------------------------|
| 慧日寺絵図(当館受託資料) 1幅                                                                   | 大和文華館           | 令和元年9月～11月        | 特別展「聖域の美—中世社境内の風景」       |
| 白河口戦争絵図(当館受託資料) 1点<br>新選組名簿(当館受託資料) 1点<br>陣中日誌(当館受託資料) 1点<br>土方歳三書状(当館受託資料) 1点     | 日野市立新選組のふるさと歴史館 | 平成31年4月11日～令和元年7月 | 特別展「土方歳三没後150年」          |
| 会津若松市田村山古墳出土 内行花文鏡(当館受託資料) 2点<br>会津坂下町森北1号墳出土 珠文鏡(当館受託資料) 1点                       | 大安場史跡公園         | 令和元年6月27日～9月10日   | 企画展「FUKUSHIMA 前期古墳アラカルト」 |
| 山川浩和歌「さつま人」 1点<br>山川健次郎書「有文事者必有武備」 1点                                              | 若松城天守閣郷土博物館     | 令和元年9月1日～11月30日   | 企画展「明治の会津藩～新時代を生きた会津人」   |
| 松平定信像 1点                                                                           | 小峰城歴史館          | 令和元年8月～10月        | 特別企画展「白河藩主 七家二十一代」       |
| アンモナイト類 42点                                                                        | いわき市石炭・化石館      | 令和元年7月18日～9月10日   | 特別展「アンモナイト展」             |
| 須賀川市跡見塚古墳出土 象嵌鏝 1点                                                                 | 福島県文化財センター白河館   | 令和元年9月26日～12月26日  | 企画展「渦文—時を超える文様—」         |
| 木造建築継ぎ手一式                                                                          | 個人              | 令和元年9月6日～7日       | 令和元年度「福島県もりの案内人養成講座」     |
| 浪岡家文書<br>触(兵学寮差許ニ付) 1点<br>(諸組改革ニ付書状) 1点<br>明治元戊辰六月於西京被仰出書写 1点<br>浪岡右門頭令(顕令略歴書上) 1点 | 三春町歴史民俗資料館      | 令和元年9月17日～12月13日  | 特別展「武士の時代の終わり」           |

| 資料名                                 | 貸出先      | 貸出期間                   | 展覧会名            |
|-------------------------------------|----------|------------------------|-----------------|
| 塵芥集(複製) 1点                          | 桑折町種徳美術館 | 令和元年10月25日<br>～12月     | 企画展「伊達氏と桑折西山城」  |
| 天神沢遺跡出土 石製品 10点<br>真野古墳群出土 金銅双鱼佩 1点 | 文化庁      | 令和元年5月7日<br>～令和2年3月31日 | 「発掘された日本列島2019」 |

#### イ 写真資料

総数：106件 124点

考古：13件 16点 民俗：8件 8点

歴史：51件 65点 美術：27件 27点

自然：6件 7点 震災遺産：1件 1点

#### (4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

##### ア 保存管理

##### (ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）など主要なスペースの保存環境を7月6日～8月4日、11月28日～12月24日にかけて調査した。

##### (イ) 生物被害防除

7月、8月に各1回、新収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、385件燻蒸処理した。

## 4 展示事業

### (1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

#### ア 部門展示室リニューアル（民俗・考古）

##### (ア) 部門展示室（民俗）「雪国・会津の暮らしと祈り」

平成31年4月2日に、民俗分野の新しい部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」を開室した。山・冬・雪をキーワードにして構成された3つのコーナー（「1、雪と山国の暮らし」、「2、植物と手仕事の文化」、「3、雪国の祈りと祭り」）から、厳しくも豊かな自然環境が生み出した暮らしの文化にスポットを当てている。

##### (イ) 考古部門展示室

令和元年6月29日に、考古分野の新しい部門展示室「よみがえる会津大塚山古墳」を開室した。

平成25年度から続いた会津大塚山古墳出土資料の保存修理を経て、新たにわかったことや最新の古墳時代研究を踏まえ、新しい会津大塚山古墳像を紹介する。

また、開室と同日に、学芸員による記念講演会「会津大塚山古墳を考える」を開催し、展示の見どころのほか、出土資料を通して見えてくる会津大塚山古墳の魅力を解説した。

#### イ テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。

- (ア) 「うるわしのうるしのうつわ一土の中から」
- (イ) 「いいたてミュージアム」
- (ウ) 「大須賀清光の土津神社図・円蔵寺図屏風」
- (エ) 「100年カエル館のときめくカエルアート図鑑」
- (オ) 「けんぱくの宝2019—武の美—」
- (カ) 「祈りのふくしま3」
- (キ) 「山口弥一郎のみた東北」

#### ウ ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全16回開催した。

- (ア) 「フタバスズキリュウの時代の貝」
- (イ) 「桧枝岐の歌舞伎衣装」
- (ウ) 「元号改元の今と昔」
- (エ) 「戦国武将の花押と印判①—伊達政宗」
- (オ) 「三葉虫の不思議」
- (カ) 「型をつくる・型からつくる」
- (キ) 「会津の経塚—500年前のタイムカプセル」
- (ク) 「松平容大夫人の白衣観音図」
- (ケ) 「暮らしと麻」
- (コ) 「戦国武将の花押と印判②—蘆名盛氏」
- (サ) 「戊辰戦争をくぐりぬけた刀」
- (シ) 「畏（わな）—栗城弥平民具コレクション」
- (ス) 「相馬藩主の御料理番—魚や鳥を調理する作法」
- (セ) 「斎藤一と会津」
- (ソ) 「いわきの石炭をつくった植物たち」
- (タ) 「古い道具と昔の暮らし—つくる・きる・あろう」

### (2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和元年度は、3本の企画展示を開催した。

#### ア 春の企画展「とりもどすぎずな つながるみらい」

(ア) 会期 平成31年4月27日(土)～令和元年6月9日(日)  
開館日数 39日間

(イ) 会場 企画展示室・エントランスホール

(ウ) 入館者数 4,710人

(エ) 担当学芸員 美術分野 川延 安直、小林 めぐみ

(オ) 趣旨

震災直後から活動を開始し、現在まで変容を重ねながら継続、発展している7つの文化芸術事業を紹介し、震災から9年目の福島で、あらためて震災の被害から得た文化芸術のムーブメントを捉え、震災以降に生まれた交流を未来に届ける場となることを企図した。

(カ) 展示構成

- a プロジェクト FUKUSHIMA! (大友 良英、山岸 清之進 and more)
- b Daylily Art Circus、ほか (開発 好明)
- c I am flower project  
(原案：片桐 功教、企画・運営：西会津国際芸術村)
- d 流転 (中筋 純)
- e Koi 鯉 アートのぼり (渡邊 晃一+福島大学芸術による地域創造研究所)
- f 光の鳥プロジェクト+ミズアオイプロジェクト (吉田 重信)
- g HEART MARK VIEWING (日比野 克彦)

(キ) 関連事業

- ・「アーティストトーク1 福島の開発好明」
- ・「アーティストトーク2 つなぐアート-HEART MARK VIEWING」
- ・「アーティストトーク3 プロジェクト FUKUSHIMA!のこれまで・これから」
- ・「ワークショップ1 HEART MARK VIEWING」
- ・「ワークショップ2 オーケストラ FUKUSHIMA！」
- ・「ワークショップ3 光の鳥を飾ろう」
- ・「ワークショップ4 福興ダルマをつくろう」

(ク) 成果

東日本大震災から9年目を迎える中、あらためて平成23年から多くの方が福島に支援の手をのばしてくださったこと、平成23年以降も地域で継続する活動が福島の文化力を高めていることを来場者と共有することができた。7つのプロジェクトを紹介する作品や資料の展示とあわせて、平成23年からの歩みを年表で紹介し、本展が各プロジェクトのアーカイブズともなった。

トークイベントはプロジェクトの振り返りや意義の共有に繋がり、ワークショップは来場者にもプロジェクトに参加してもらう機会となった。

イ 夏の企画展「福島復興祈念展 興福寺と会津～徳一がつかない西と東」

(ア) 会期 令和元年7月6日(土)～8月18日(日)

開館日数 39日間

(イ) 会場 福島県立博物館企画展示室、部門展示室(歴史・美術)

(ウ) 主催 興福寺と会津展実行委員会(福島民友新聞社・福島中央テレビ・福島県立博物館)

(エ) 入館者数 41,211人

(オ) 担当学芸員 美術分野

川延 安直、小林 めぐみ、塚本 麻衣子

(カ) 趣旨

平安時代の高僧・徳一が、奈良・興福寺から会津を訪れたことにより、会津の仏教文化は花開いた。本展は東日本大震災復興によせる興福寺の思いを受け、国宝3件・重要文化財8件を含む興福寺の寺宝16件を紹介。あわせて、徳一ゆかりの会津の寺院を中心に、会津の寺宝18件を展示した。各種解説パネルや図録により、興福寺と会津の結びつきや、度重なる戦乱や災害から復興を遂げてきた興福寺の歴史を伝える構成とし、関連事業として解説会、トークイベント等を開催、興福寺・会津の仏教文化・仏教美術の魅力を紹介した。

(キ) 展示構成

- a 興福寺の寺宝 徳一時代とそれから
- b 徳一と会津

(ク) 関連事業

- ・開幕式・内覧会・レセプション
- ・展示解説会
- ・夜の仏像鑑賞会
- ・ワークショップ「福島の孔雀石でほとけさまを描こう」
- ・ワークショップ「仏像福笑い 仏像について楽しく知ろう！」
- ・公演「声明の響き～仏教伝統の調べ～」
- ・コンサート「奉る音～ギター・編鐘と篠笛・箏が奏でる祈りのコンサート」
- ・連続講座プレイベント①「興福寺と会津～その歴史と美術」  
「興福寺の今昔～1350年の歴史・美術・教えの紹介」  
「興福寺と会津のえにし～徳一の事跡と会津の仏教美術」
- ・連続講座プレイベント②「阿修羅像を未来へ」  
「興福寺のあゆみ」  
「阿修羅像、1300年を超えて未来に」
- ・館長講座特別編「風土の旅学―東北編 第4回 徳一」
- ・美術講座「興福寺と会津展 みどころ案内」
- ・特別講演「福島復興への祈り～興福寺と会津展によせて」

(ケ) 成果

徳一が生きた時代の仏像をはじめ、興福寺の国宝・重要文化財を福島県で初公開したことに加え、徳一ゆかりの会津の寺院等の寺宝を紹介したことにより、平安時代に遡る興福寺と会津の結びつきを広く知っていただく機会となった。また、会津の仏教文化の奥深さ・広がりをも改めて見直すことにもつながった。

ウ 秋の企画展「あにまるず ANIMAL×Zoo—どうぶつの考古学」

(ア) 会期 令和元年9月7日(土)～11月17日(日)

開館日数 63日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

- (エ) 入館者数 8,708 人
- (オ) 担当学芸員 考古分野: 高橋 満
- (カ) 趣旨  
狩猟・装身・象形・マツリに関わる考古資料から、原始・古代のヒトと動物の関係性を読み解き、その多様な世界を紹介した。

- (キ) 展示構成  
第1章 イノシシとシカの年代記  
第2章 狩りとイノリとマツリとオクリ  
第3章 何これ？不思議！カワイイ！どうぶつ園
- (ク) 関連事業  
・展示解説会  
・講演会1「同位体人類学-ふくしま縄文人の食にせまる」  
・講演会2「はにわの鳥から考える鳥と人のつながり」  
・縄文笛コンサート  
・ミニ講演会&放鷹実演「会津の空に鷹が舞う」  
・国史跡清戸迫横穴 VR 体験

- (ケ) 成果  
考古学や埋蔵文化財への興味や関心を広く喚起し、その魅力を多様な世代や階層に幅広く伝えるため、身近な存在である動物をテーマに展示会を構成した。考古学研究者やコアな考古学ファンにとどまらず、日常生活の中で博物館へ足を運ぶことが多くはない「ライト層」へ訴求できるように分かりやすい展示を目指した。その結果、アンケートによる来場者動向によると20代～50代の4世代がそれぞれ20%前後の来場割合を占めており、来場世代比に偏りがなかった。

考古学そのものをテーマにした講演会の座学と動物や考古学にかかわる実演などを比較的多く開催し、多くの方の来館があった。

### (3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。令和元年度は、前年から継続展示した「震災遺産を考える」のほか、第3期中期目標で掲げている震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承を図る活動として、冬季特集展「震災遺産を考える—それぞれの9年—」を開催した。

ア 特集展「震災遺産を考える」

- (ア) 会期 平成31年2月16日(土)～4月11日(木)  
開館日数47日間(平成31年度の会期9日間)
- (イ) 会場 企画展示室
- (ウ) 共催 大熊町、双葉町、浪江町
- (エ) 観覧者数 717人(会期中の累計観覧者数3,503人)
- (オ) 担当学芸員 平成30年度震災遺産保全チーム
- (カ) 趣旨  
平成30年度より継続展示。これまでに収集・保全した「震災遺産」を展示し、震災に向き合う機会とした。
- (キ) 展示構成  
第1章 地震と破壊

- 第2章 混乱と避難
- 第3章 災害と時間  
ソフトウェアで観覧する  
親子で震災遺産を考える  
図書コーナー

- イ 特集展「震災遺産を考える—それぞれの9年—」
- (ア) 会期 令和2年2月11日(火)～4月12日(日)  
開館日数:54日間(令和元年度の会期43日間)
- (イ) 会場 企画展示室
- (ウ) 後援 公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構
- (エ) 観覧者数 2,086人(令和2年3月31日時点、会期中の累計観覧者数2,323人)
- (オ) 担当学芸員 震災遺産保全チーム担当学芸員
- (カ) 趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産に関わった人たちの証言から震災遺産を振り返り、それぞれの9年間を共有することをめざした。

- (キ) 展示構成
  - ① 命一半杭一成さん
  - ② 繰り返した避難生活から感謝の日々へ—伊藤まりさん
  - ③ 負けたままではいられない—金谷清子さん
  - ④ ふるさとへの想い—林富士雄さん
  - ⑤ 情報の架け橋として—鈴木裕次郎さん
  - ⑥ 光の鳥 子どもたちのメッセージ
  - ⑦ 富岡は負けん！—平山勉さん
  - ⑧ 大熊町の記憶—鎌田清衛さん
  - ⑨ 東日本大震災・原子力災害伝承館所蔵予定

- (ク) 関連事業  
・展示解説会(2月分)  
※以下事業新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止  
・講演会&トークイベント「ひなん暮らし—過去・現在・未来—」  
・防災講座「楽しいそなえ」  
・展示解説会(3月以降)

- (ケ) 成果  
震災遺産の特集展は毎年テーマを変えながら続けており、今回の展示では人に注目した。今回の展示に合わせて積極的に資料に関する当事者の物語を聞き取り調査することで、震災遺産資料について9年間の空白を埋めて歴史資料としての厚みを増すことができた。解説会では被災地に思いを馳せ、涙ぐまれる方もおられ、アンケート等の来場者の意見としても「忘れないためにも県内外問わず多くの人に見てほしい」との意見を多くいただいた。

#### (4) 指定文化財の公開

令和元年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

##### ア 国指定

〈国宝〉

(ア) 四天王立像（多聞天像・広目天像）ほか 計3件

〈重要文化財〉

(イ) 地藏菩薩立像ほか 計10件

(ロ) 青森県薬師前遺跡墓坑出土品のうち

猪牙製垂飾5点ほか 計8件

(ハ) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 計1件

##### イ 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

(ア) 寺脇貝塚出土品のうち骨角器26点ほか 計3件

(イ) 陣ヶ峯城跡出土品のうち木製品及び炭化物8点  
計1件

(ロ) 関和久官衙遺跡出土品のうち墨書土器4点ほか  
計4件

(ハ) 八槻都々古別神社御正体 一面 計1件

#### (5) 展示解説

##### ア 展示解説員

令和元年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。企画展についても、通常の展示解説員1名に監視員1名を交えた体制で展示室の対応を行った。

(ア) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、開館30周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものであり、4月27日から2月24日の期間実施した。

＜実施状況＞ 実施日数：74日 総参加人数：474人

(イ) 通し解説

不定期に常設展・企画展を解説するもので、主として来館する個人・団体の要望に応じ、展示解説員1名が全体を解説する。

実施回数：54回

(ロ) 部屋送り解説

不定期に常設展・企画展を解説するもので、主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている展示解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：19回

(ハ) 体験講座

体験講座などの展示解説員が主体となって実施する講座は開催されなかったが、従来展示解説員が作成・飾り付けを行っていた団子さしを、参加者に作成・飾り付けしてもらって体験型で実施した。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図った。

##### イ 学芸員

企画展及び特集展の開催中は、展示解説員だけでは昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっており、令和元年度は年間で363回を数えた。

##### ウ 展示解説のための資料等

(ア) 『展示解説シート』

展示室見学の参考とするため、主にグループで入館する児童や生徒に配布した。2か月ごとにテーマを決めて、常設展示総合展示室（A～F）の各部屋からおすすめ資料を選定し、紹介する。

(イ) 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説したもので、館活動についても紹介している。昭和61年に発行され、一部改訂をしながら観覧補助資料として有償配布している。

(ロ) Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

ガイドブックを要約した英文の展示解説パンフレット（14ページ）で、平成18年に発行され、一部改訂を行いながら観覧補助資料として、希望する来館者に無償配布している。

#### (6) 体験学習室

エントランスホール隣に設置され、囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分があり、無料で使用できる。昔のおもちゃが用意され自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。また、資料に触れるハンズオンコーナーを常設することで、子どもたちも博物館に親しむことのできる空間作りを目指している。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

##### ア 衣装

(ア) 衣装着付け

季節ごとに入れ替えを行いながら、時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のまま着られる衣装だが、着付けの技術や衣装についての知識を深めるため、新任の展示解説員に研修を行うなど、より質の高いサービスを提供できるように努めている。

令和元年度は忍者衣装、会津木綿着物を新たに追加し、衣装の充実を図った。また、新たに当館の収蔵資料を活用した撮影スポットを設置したことで、より多くの方に着付けを楽しんでいただけるよう工夫した。

a 衣装着付け件数 418件

b 着付けた衣装

春：打掛・番具足・忍者衣装（イベントのみ）

夏：水干・直垂・忍者衣装（イベントのみ）

秋：会津木綿着物・当世具足

冬：壺衣装・山伏

(イ) 衣装展示

春：小直衣・十二単

夏：大鎧・稚児鎧

秋：天武朝女官朝服・推古朝朝服

冬：素襖・南蛮装束

## イ 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り / 12月：クリスマスツリー /

1月：団子さし / 3月：手作り雛人形

## ウ おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。ただ、おもちゃの経年劣化に加えて利用者の増加もあり、修理を必要とするおもちゃの数も増えている。

おもちゃの修理：46件

## エ ハンズオンコーナー

来館者が実際に体感することで、様々な学びを促進するためのコーナー。令和元年度は「土器パズル」（縄文土器の写真を再現するパズル）、「化石にさわろう！」（当館収蔵の様々な化石を実際に手に取ることが出来るコーナー）、「福島県地図パズル」（各市町村の形を、それぞれの市町村の木で製作してあるパズル）を常設展示として設置した。7月～9月にかけては蚊帳を設置し、一昔前の暮らしを体感できるコーナーを作った。また、会津工業高等学校建築インテリア科と連携した木製玩具の製作、設置をしたり、当館収蔵資料を活用した撮影スポットを設置したりとコーナーの充実を図った。

## 5 調査研究事業

### (1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和元年度は以下の7テーマの調査を実施した。

#### ア 山口弥一郎調査資料の研究

##### (ア) 分野 民俗分野

##### (イ) 調査概要

平成27年度から引き続き資料整理作業を行い、特に簡易整理が終了した山口弥一郎の調査ノート、調査資料、カード、日記・手帳について、再分類と番号のふり直しを進めた。また映像資料・音声資料の一部をデジタル化した。本事業は令和元年度が最終年度となったが、その成果報告としてテーマ展の開催と報告書の刊行を行った。テーマ展「山口弥一郎のみた東北」では、「1. 学問との出会い」「2. 東北を襲う津波と凶作」「3. 戦中・戦後の農村に暮らす」「4. 学校教員と郷土研究」「5. 文化財の保護と後進の育成」「6. 大学教育と研究の集大成」という6つのコーナーから山口の生涯と研究の軌跡を紹介した。『山口弥一郎旧蔵資料調査報告書』は「Ⅰ 解題編」「Ⅱ 目録編」「Ⅲ 論考編」の3部構成とし、山口の人物像や資料の概要、資料目録、事業参加者による論考等を掲載した。

#### イ 考古資料による原始・古代の画期の再検討

##### (ア) 分野 考古分野

##### (イ) 調査概要

県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚及び西会津町塩喰岩陰遺跡出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。塩喰岩陰遺跡人骨の年代は前期初頭よりも古くなる可能性があり、県内最古例の出土人骨であることが分かった。また川俣町前田遺跡で検出された人骨を伴う土壇墓や出土人骨の検討を行った。

#### ウ 会津の三十三観音めぐりの調査研究

##### (ア) 分野 美術分野・民俗分野

##### (イ) 調査概要

会津の三十三観音を構成する観音堂を実際にめぐり、各観音堂の歴史や地域において果たしてきた役割等について現地調査を行い、調査結果を講演会などに活かした。また、会津の三十三観音めぐりを楽しくわかりやすい発信と今後の教育普及や活用のために、実際にめぐった知見を活かした「会津の三十三観音めぐりすごろく」を作成した。

#### エ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

##### (ア) 分野 震災遺産保全チーム

##### (イ) 調査概要

東日本大震災を福島県の歴史として位置づけるために、また常設展示へ向けた取り組みとして学習会を行った。「地域の暮らしを主体的に考える場となる」ことをチームのビジョンとし、それに向けてテーマを決め、外部講師、博物館OBからの協力も得て学芸員が分担して実施した。内容は以下のとおり。

- ・山口弥一郎について 内山学芸員（民俗分野）
- ・磐梯山の噴火からの復興  
佐藤公（磐梯山噴火記念館館長）
- ・福島第一・第二原子力発電所の建設について  
栗原学芸員（歴史分野）
- ・水力発電所について 大里学芸員（民俗分野）
- ・高度経済成長とエネルギー 筑波学芸員（歴史分野）
- ・近世の災害と対応—会津藩を事例として—  
阿部学芸員（歴史分野）
- ・総合展示「自然と人間」福島の鉱山概要  
竹谷陽二郎氏（自然分野、当館学芸員OB）

また、今までに収集した震災遺産のデータを深めるために、収集した震災遺産に関係する人たち7人へ聞き取り調査を行った。

#### オ 古墳出土金属製品の現代保存修復と展示公開

##### (ア) 分野 保存科学分野

##### (イ) 調査概要

展示ケース内で金属試験片（銀・銅）に発生した金属腐蝕膜（錆）の分析値より腐蝕速度を予測した。

#### カ 浜通りにおける古生代大型化石の研究

##### (ア) 分野 自然分野

##### (イ) 調査概要

福島県内産古生代巻貝化石の現状把握のため、いわ

き市石炭化石館収蔵資料について調査を行った。福島県立博物館に所蔵されている巻貝化石について鑑定作業を行った。

キ 福島県成立前後の近代資料の調査研究

(ア) 分野 歴史分野

(イ) 調査概要

地租改正の測量場面を描いた秋田県立博物館所蔵の「文明開化地租改正地面測量取之図」を調査した。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

令和元年度は、前年度に登録した松崎達夫家寄贈資料(若松城下葉種問屋資料)の公開に向けて、登録内容の確認及び修正を行った。また未登録であった斎藤一(藤田五郎)関係資料の登録並びに未公開であった相原秀郎家・和泉富夫家・久米幹男家の寄贈資料を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

(ア) 印刷物(単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

阿部 綾子「小室梅尾「会津籠城絵詞一会津藩の女中が記録した籠城戦の体験」」『福島県立博物館紀要』第34号 p.33-40

猪瀬 弘瑛・渡辺 昇「広野町桜沢に分布する白亜系双葉層群足沢層から産出する二枚貝化石群集」『福島県立博物館紀要』第34号 p.11-15 福島県立博物館

内山 大介編『山口弥一郎旧蔵資料 調査報告書』(福島県立博物館 調査報告第41集)

内山 大介「山口弥一郎と柳田民俗学—方法としての「寄寓採録」と「帰郷採録」—」『山口弥一郎旧蔵資料 調査報告書』(福島県立博物館 調査報告第41集) p.71-76

内山 大介「書評 菊池和子『震災を生きる人々—福島芸能の灯消さず』」『福島の民俗』第48号 福島県民俗学会 p.124-126

内山 大介「寄稿 三陸地震 被災地くまなく 山口弥一郎の足跡たどる」『福島民友』

内山 大介「奉納される傘鉾と吊り下げ物—東北日本海地域における傘鉾の展開—」『まつり』81号(特集 傘鉾と吊り下げ物) まつり同好会 p.31-64

内山 大介「小荒井豊山筆『製鋸図』と会津の鋸鍛冶」『民具マンスリー』52巻6号 神奈川大学日本常民文化研究所 p.1-7

内山 大介「県立博物館がとらえる地域と民俗展示—福島県立博物館部門展示室リニューアル」『民具マンスリー』52巻4号 神奈川大学日本常民文化研究所 p.1-7

大里 正樹「【民具短信】黒船来航を伝える農具」『民具マンスリー』52-6(通巻618) p.22-24 神奈川大学日本常民文化研究所

大里 正樹「磐城民俗研究会の活動と山口弥一郎—『民間伝承』記事と収蔵資料から—」『福島県立博物館調査報告第41集 山口弥一郎旧蔵資料調査報告書』 p.87-90 福島県立博物館

大里 正樹「書評 古川利意『古川利意年賀状版画集』」『福島の民俗』48号 p.123-124 福島県民俗学会

片岡 太郎・上條 信彦・佐々木 理・高橋 満「福島県三島町荒屋敷遺跡出土漆器の製作技法研究」日本考古学協会第85回総会研究発表要旨 pp.206-207 一般社団法人日本考古学協会

鈴木 苑子・猪瀬 弘瑛・上松 佐知子・大石 雅之・指田 勝男・藤田 英留「埜町に分布する中新統久保田層より産した鯨類化石と古環境」『福島県立博物館紀要』第34号 p.1-10 福島県立博物館

高橋 充「戦国期奥羽の書状の形態をめぐって—『堅紙・堅切紙系書状』の展開—」矢田俊文編『戦国期文書論』 p.187-211 高志書院

高橋 充「報告要旨 戦国期の蘆名氏と会津」『国史談話会雑誌』60号 p.76-77 東北大学国史談話会

高橋 充・時枝 務「信夫山頂遺跡出土品の研究(7)」『福島県立博物館紀要』第34号 p.17-32 福島県立博物館

高橋 充・布尾 幸恵「宮城県図書館蔵『会津全図』について」『福島県立博物館紀要』第34号 p.41-59 福島県立博物館

高橋 満「博物館における震災の継承—震災遺産保全のケーススタディ」博物館研究 vol.54 No.7、pp.19-22 公益財団法人日本博物館協会

高橋 満 編著「あにまらず ANIMAL×Zoo どうぶつの考古学図鑑」福島県立博物館企画展図録

高橋 満「福島県浜通り地域中・北部における製塩土器類の類例と評価」『中才遺跡(2次調査)—災害公営住宅建設事業(西ヶ原第二工区)における記録保存のための発掘調査』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第32集、pp.138-143、南相馬市教育委員会

西山 剛・内山 大介・筑波 匡介「専門家によるポイント解説(3)被災時の博物館」『ICOM 京都大会からみたあたらしいミュージアムのかたちとは?』ICOM 京都大会 2019 報告会・ワークショップ 報告書 京都歴史文化施設クラスター実行委員会・ICOM 京都大会 2019 組織委員会・ICOM 日本委員会 p.21-24

平澤 慎「古墳時代 東北」『考古学ジャーナル』727号 p.58-59 ニューサイエンス社

(イ) 学会発表

内山 大介 「震災・原発事故と文化財レスキュー～災害から地域文化を守るために～」

内山 大介 「会津彼岸獅子と都市近郊の地域社会」

内山 大介 「民俗学者・山口弥一郎の研究者人生と旧蔵資料」

内山 大介 「山口弥一郎の学問形成とノート利用の変遷－旧蔵資料アーカイブの試みから－」

片岡 太郎・上條 信彦・佐々木 理・高橋 満 「福島県三島町荒屋敷遺跡出土漆器の製作技法研究」

菅原 滋・杉崎 佐保恵・中山 芳彦・谷口 秀哉・石丸 伊知郎 「近赤外ハイパースペクトラルイメージング法による陶器上の接着剤と印刷物上のニス分布の測定」

鈴木 苑子・上松 佐知子・猪瀬 弘瑛 「福島県の上部中新統久保田層より産したクジラ化石と古環境」

高橋 充・布尾 幸恵 「宮城県図書館蔵『会津全図』について」

高橋 充 「戦国期の蘆名氏と会津」

高橋 満 「震災遺産の保存活用」「これからの地域と歴史・文化遺産」

高橋 満 「東日本大震災と地域博物館」「近年の特別展・企画展の動向」

高橋 満 「関東地方 霞ヶ浦周辺における 縄文時代製塩遺跡の構造と理解」「日本列島における製塩技術史の解明 I－縄文から古代まで拡張して見えるもの」

西山 剛・内山 大介・筑波 匡介 「専門家によるポイント解説(3)被災時の博物館」『ICOM 京都大会からみたあたらしいミュージアムのかたちとは?』

イ 他団体による委嘱等

阿部 綾子

- ・相馬市史編さん調査執筆員
- ・郡山市文化財保護審議委員会委員
- ・史跡若松城跡御三階復元検討会委員(会津若松市教育委員会)

猪瀬 弘瑛

- ・ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

内山 大介

- ・国立歴史民俗博物館共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」共同研究員
- ・福島県立医科大学医学部非常勤講師
- ・日本民具学会理事・評議員
- ・会津の御田植祭調査委員会副委員長
- ・会津坂下町史編さん専門委員
- ・郡山市文化財保護審議委員会委員
- ・(仮称)郡山市歴史情報・公文書館基本計画策定に係る懇談会委員

・福島県民俗学会事務局長

・八戸地方えんぶり調査委員会調査委員(八戸市教育委員会)

大里 正樹

- ・三島町史編さん専門委員
- ・会津坂下町史編さん専門委員
- ・福島県民俗学会事務局
- ・沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員

川延 安直

- ・喜多方市美術館収集委員会委員
- ・「ふるさとの風景展」審査員(喜多方市美術館)
- ・いわき市文化財保護審議委員会委員
- ・須賀川市文化財保護審議委員会委員
- ・白河市文化財保護審議委員会委員
- ・福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員
- ・福島大学芸術による地域創造研究所研究員
- ・やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員

小林 めぐみ

- ・福島藝術計画×Art Support TOHOKU-TOKYO 運営委員会委員(福島県、東京都)
- ・会津漆器技術後継者訓練校講師(会津漆器協同組合)
- ・やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員
- ・会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員(公益財団法人会津若松文化振興財団)
- ・只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員(只見町ユネスコエコパーク推進協議会)
- ・只見町ぶなと川のミュージアム運営委員会委員
- ・福島大学芸術による地域創造研究所研究員
- ・会津の御田植祭調査委員会委員
- ・会津坂下町史編さん委員

佐藤 洋一

- ・南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
- ・国立歴史民俗博物館共同研究『「聆涛閣集古帖」の総合資料学的研究」共同研究員

高橋 充

- ・二本松城跡整備検討委員会委員
- ・向羽黒山城跡調査整備委員会委員(会津美里町教育委員会)
- ・相馬市史編さん専門委員
- ・会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員(会津若松市教育委員会)
- ・神指城跡調査指導委員会委員(会津若松市教育委員会)
- ・阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員(国見町教育委員会)
- ・伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策定委員会委員
- ・伊達市立博物館(仮称)整備検討委員会委員
- ・棚倉町中世城館等調査指導委員会委員

- ・会津坂下町史編さん委員会委員
- ・北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員
- ・小峰城跡石垣検討委員会委員（白河市）
- ・堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員（湯川村教育委員会）
- ・須賀川市文化財保護審議会委員
- ・医学部講義「芸術と文化（博物館・美術館にみる芸術と文化）」（福島県立医科大学）

高橋 満

- ・会津坂下町史編さん委員
- ・文化庁第11回指定文化財（美術工芸品）企画
- ・展示セミナー講師
- ・「資源利用史 研究クラスター」研究推進員（明治大学）
- ・富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員
- ・福島大学コア・アクティブ科目非常勤講師

田中 敏

- ・会津坂下町史編さん委員
- ・御三階復元検討委員会委員（会津若松市教育委員会）

- ・会津藩主松平家墓所整備指導会議委員（会津若松市教育委員会）
- ・白河市天王山遺跡検討委員会委員

藤原 妃敏

- ・会津若松市文化財保護審議委員
- ・新鶴民俗資料館運営委員（会津美里町教育委員会）
- ・喜多方市文化財保護審議委員会委員
- ・笹山原No.16 遺跡調査指導委員（郡山女子短期大学）
- ・福島県考古学会副会長（福島県考古学会）
- ・南相馬市博物館運営協議会委員
- ・会津坂下町史編さん委員

ウ 研究助成金等

高橋 満

- ・科研費・基盤研究（C）「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基礎的研究」研究代表者
- ・科研費・基盤研究（A）「日本列島における製塩技術史の解明」研究分担者

## 6 教育普及事業

### (1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演会等を実施している。令和元年度の各講座開催数は130、総参加者数は14,897人であった。

ア 令和元年度講座・講演会等の回数と参加者数

| テーマ                                | 回数  | 参加者数   |
|------------------------------------|-----|--------|
| (1) 館長講座                           | 11  | 1,191  |
| (2) 考古学講座                          | 4   | 95     |
| (3) 民俗講座                           | 8   | 229    |
| (4) 歴史講座                           | 10  | 493    |
| (5) 自然史講座                          | 2   | 70     |
| (6) 保存科学講座                         | 2   | 26     |
| (7) 美術講座                           | 5   | 268    |
| (8) 防災講座                           | 1   | 51     |
| (9) 実技講座                           | 4   | 61     |
| (10) 実演                            | 2   | 60     |
| (11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説等） | 51  | 6,788  |
| (12) ミュージアムイベント                    | 6   | 852    |
| (13) 子育て世代対応事業                     | 9   | 357    |
| (14) 体験的学習事業                       | 3   | 3,220  |
| (15) 共催事業                          | 2   | 307    |
| (16) 後援事業                          | 5   | 464    |
| (17) ライフミュージアムネットワーク事業             | 3   | 218    |
| (18) 友の会事業                         | 1   | 90     |
| (19) 復興応援パートナー事業                   | 1   | 57     |
| 計                                  | 130 | 14,897 |

イ 令和元年度講座・講演会等行事一覧

(ア) 館長講座

| テーマ                      | 講師・所属等                           | 期日                  | 参加人数 |
|--------------------------|----------------------------------|---------------------|------|
| 館長講座 風土の旅学—東北編①松尾芭蕉      | 赤坂 憲雄 (館長)                       | 平成 31 年 4 月 19 日(金) | 87   |
| 館長講座 風土の旅学—東北編②江戸の旅人たち   | 赤坂 憲雄 (館長)                       | 令和元年 5 月 17 日(金)    | 95   |
| 館長講座 風土の旅学—東北編③イザベラ・バード  | 赤坂 憲雄 (館長)                       | 令和元年 6 月 21 日(金)    | 110  |
| 館長講座 風土の旅学—東北編④特別編・徳一    | 赤坂 憲雄 (館長)<br>玄侑 宗久 (僧侶/小説家)     | 令和元年 7 月 19 日(金)    | 375  |
| 館長講座 風土の旅学—東北編⑤柳田国男      | 赤坂 憲雄 (館長)                       | 令和元年 8 月 16 日(金)    | 87   |
| 館長講座 風土の旅学—東北編⑥武田久吉      | 赤坂 憲雄 (館長)                       | 令和元年 9 月 20 日(金)    | 55   |
| 館長講座 風土の旅学—東北編⑦柳宗悦       | 赤坂 憲雄 (館長)                       | 令和元年 10 月 18 日(金)   | 54   |
| 館長講座 風土の旅学—東北編⑧岡本太郎      | 赤坂 憲雄 (館長)                       | 令和元年 11 月 22 日(金)   | 55   |
| 館長講座 風土の旅学—東北編⑨司馬遼太郎     | 赤坂 憲雄 (館長)                       | 令和元年 12 月 19 日(木)   | 116  |
| 館長講座 風土の旅学—東北編⑩つげ義春      | 赤坂 憲雄 (館長)                       | 令和 2 年 1 月 17 日(金)  | 74   |
| 対談「震災・アート・地域 北川フラム×赤坂憲雄」 | 赤坂 憲雄 (館長)<br>北川 フラム (アートディレクター) | 令和 2 年 2 月 21 日(金)  | 83   |

(イ) 考古学講座

| テーマ                          | 講師・所属等                    | 期日                | 参加人数 |
|------------------------------|---------------------------|-------------------|------|
| 部門展示室リニューアル記念講座「会津大塚山古墳を考える」 | 平澤 慎 (学芸員)<br>藤原 妃敏 (専門員) | 令和元年 6 月 29 日 (土) | 40   |
| 縄文土器をつくろう 1                  | 考古分野学芸員                   | 令和元年 7 月 27 日(土)  | 20   |
| 縄文土器をつくろう 2                  | 考古分野学芸員                   | 令和元年 7 月 28 日(日)  | 20   |
| 縄文土器の野焼き                     | 考古分野学芸員                   | 令和元年 9 月 28 日(土)  | 20   |

(ウ) 民俗講座

| テーマ                                  | 講師・所属等         | 期日                 | 参加人数 |
|--------------------------------------|----------------|--------------------|------|
| 部門展示室リニューアル記念講座①「雪国・会津の民家と暮らし」       | 内山 大介 (主任学芸員)  | 令和元年 5 月 12 日(日)   | 25   |
| 部門展示室リニューアル記念講座②「雪国・会津の自然と手仕事」       | 山口 拡 (副主任学芸員)  | 令和元年 6 月 16 日(日)   | 32   |
| 部門展示室リニューアル記念講座③「雪国・会津のまつり」          | 大里 正樹 (副主任学芸員) | 令和元年 7 月 7 日(日)    | 30   |
| 部門展示室リニューアル記念講座④雪国・会津の食文化～エゴの不思議!?!～ | 江川 トヨ子 (主任学芸員) | 令和元年 8 月 4 日(日)    | 9    |
| ミニ映画会「ふくしまの技と祭り① 奥会津の木地師」            | 民俗分野学芸員        | 令和元年 11 月 17 日(日)  | 25   |
| ミニ映画会「ふくしまの技と祭り② 金沢の羽山ごもり」           | 民俗分野学芸員        | 令和元年 12 月 15 日(日)  | 18   |
| ミニ映画会「ふくしまの技と祭り③ からむしと麻」             | 民俗分野学芸員        | 令和 2 年 1 月 19 日(日) | 32   |
| ミニ映画会「ふくしまの技と祭り④ 元山と番匠」              | 民俗分野学芸員        | 令和 2 年 2 月 16 日(日) | 58   |

(エ) 歴史講座

| テーマ                                | 講師・所属等        | 期日                | 参加人数 |
|------------------------------------|---------------|-------------------|------|
| はじめてさんの古文書講座① 近世編 (3回連続)           | 阿部 綾子 (主任学芸員) | 令和元年 5 月 25 日(土)  | 32   |
| はじめてさんの古文書講座② 近代編 (3回連続)           | 栗原 祐斗 (学芸員)   | 令和元年 6 月 8 日(土)   | 29   |
| はじめてさんの古文書講座③ 中世編 (3回連続)           | 高橋 充 (専門学芸員)  | 令和元年 6 月 23 日(日)  | 29   |
| 福島再発見! 古文書講座① 近代編 (3回連続)           | 栗原 祐斗 (学芸員)   | 令和元年 8 月 24 日(土)  | 40   |
| 福島再発見! 古文書講座② 近世編 (3回連続)           | 阿部 綾子 (主任学芸員) | 令和元年 9 月 28 日(土)  | 47   |
| 福島再発見! 古文書講座③ 中世編 (3回連続)           | 高橋 充 (専門学芸員)  | 令和元年 10 月 26 日(土) | 35   |
| 企画展先取り講座「ふくしまの旅」①近代ふくしま交通網の整備と旅行   | 栗原 祐斗 (学芸員)   | 令和元年 11 月 30 日(土) | 40   |
| 企画展先取り講座「ふくしまの旅」②江戸時代の旅—会津藩士の赴任旅行— | 阿部 綾子 (主任学芸員) | 令和元年 12 月 14 日(土) | 115  |

| テーマ                              | 講師・所属等        | 期日           | 参加人数 |
|----------------------------------|---------------|--------------|------|
| 企画展先取り講座「ふくしまの旅」③いい湯だな～ 会津東山の今と昔 | 高橋 充 (専門学芸員)  | 令和2年2月1日(土)  | 73   |
| 企画展先取り講座「ふくしまの旅」④災害とツーリズム        | 筑波 匡介(副主任学芸員) | 令和2年2月15日(土) | 53   |

(ウ) 自然史講座

| テーマ       | 講師・所属等      | 期日            | 参加人数 |
|-----------|-------------|---------------|------|
| 化石標本をつくろう | 自然分野学芸員     | 令和元年10月19日(土) | 42   |
| 鶴ヶ城の野鳥    | 古川裕司(野鳥研究家) | 令和元年11月10日(日) | 28   |

(エ) 保存科学講座

| テーマ     | 講師・所属等                             | 期日           | 参加人数 |
|---------|------------------------------------|--------------|------|
| 和紙にふれる① | 鈴木 晴彦(文化財保存修理技術者)<br>杉崎 佐保恵(主任学芸員) | 令和元年12月7日(土) | 13   |
| 和紙にふれる② | 鈴木 晴彦(文化財保存修理技術者)<br>杉崎 佐保恵(主任学芸員) | 令和元年12月8日(日) | 13   |

(オ) 美術講座

| テーマ                         | 講師・所属等         | 期日              | 参加人数 |
|-----------------------------|----------------|-----------------|------|
| 触って見てみる刀剣講座                 | 藤安 将平(将平鍛刀場刀匠) | 令和元年11月23日(土・祝) | 20   |
| 聞いて見てみる刀剣講座                 | 藤安 将平(将平鍛刀場刀匠) | 令和元年11月23日(土・祝) | 71   |
| ちょっと不思議な仏教美術のせかい①仏像アバンギャルド  | 塚本 麻衣子(副主任学芸員) | 令和元年12月21日(土)   | 53   |
| ちょっと不思議な仏教美術のせかい②絵巻物ワンダーランド | 塚本 麻衣子(副主任学芸員) | 令和2年1月11日(土)    | 60   |
| ちょっと不思議な仏教美術のせかい③聖者のイメージ    | 塚本 麻衣子(副主任学芸員) | 令和2年1月25日(土)    | 64   |

(カ) 防災講座

| テーマ           | 講師・所属等        | 期日          | 参加人数 |
|---------------|---------------|-------------|------|
| ミニ防災講座 楽しいそなえ | 筑波 匡介(副主任学芸員) | 令和元年9月1日(日) | 51   |

(キ) 実技講座

| テーマ                   | 講師・所属等                  | 期日            | 参加人数 |
|-----------------------|-------------------------|---------------|------|
| 須賀川の絵のぼり オリジナル小旗をつくろう | 大野 青峯・大野 久子(須賀川絵のぼり吉野屋) | 令和元年5月4日(土・祝) | 14   |
| 縄文の編み組みを再現しよう         | 國井 秀紀(福島県文化振興財団)        | 令和元年8月25日(日)  | 17   |
| 唐人和風をつくろう             | 齋藤 誠一(つくし工房)            | 令和元年9月22日(日)  | 13   |
| 漆を楽しむワークショップ          | 会津漆器協同組合青年部の皆さん         | 令和元年12月1日(日)  | 17   |

(ク) 実演

| テーマ          | 講師・所属等                | 期日            | 参加人数 |
|--------------|-----------------------|---------------|------|
| 大堀相馬焼の絵付け    | 山田 慎一(大堀相馬焼窯元・いかりや商店) | 令和元年7月21日(日)  | 30   |
| 会津・三島の編み組み細工 | 三島町生活工芸館の皆さん          | 令和元年11月16日(土) | 30   |

(ケ) 子育て世代対応事業

| テーマ        | 講師                 | 期日           | 参加人数 |
|------------|--------------------|--------------|------|
| 博物館でも読み聞かせ | おはなしのへや/ゆかいな仲間たち   | 平成31年4月7日(日) | 22   |
| 博物館でも読み聞かせ | ハーモニー/心に虹のおはなし会    | 令和元年5月11日(土) | 25   |
| 博物館でも読み聞かせ | 手作り絵本の会            | 令和元年6月8日(土)  | 22   |
| 博物館でも読み聞かせ | ハーモニー/おはなしのへや      | 令和元年7月13日(土) | 35   |
| 博物館でも読み聞かせ | 会津大学短期大学部          | 令和元年8月10日(土) | 41   |
| 博物館でも読み聞かせ | ゆかいな仲間たち/おはなしの会ゆがわ | 令和元年9月14日(土) | 18   |

| テーマ                               | 講師                  | 期日           | 参加人数 |
|-----------------------------------|---------------------|--------------|------|
| 野口英世記念ふくしま国際音楽祭 2019<br>ピアノ アニマルズ | 碓井 俊樹、榊原 聡子 (ピアニスト) | 令和元年9月27日(金) | 151  |
| 博物館でも読み聞かせ                        | おはなしのへや/たんぼぼの会      | 令和元年11月9日(土) | 26   |
| 博物館でも読み聞かせ 特別バージョン                | 会津大学短期大学部           | 令和2年1月11日(土) | 17   |

(シ) 体験的学習事業

| テーマ              | 講師    | 期日                          | 参加人数  |
|------------------|-------|-----------------------------|-------|
| 子どもミニミニ博物館       | 当館学芸員 | 平成31年4月27日(土)～令和元年5月6日(月・祝) | 1,354 |
| 親子で探検!はくぶつかんのウラ側 | 当館学芸員 | 令和元年8月3日(土)                 | 24    |
| 子どもミニミニ博物館       | 当館学芸員 | 令和元年8月11日(日・祝)～18日(日)       | 15    |

(ス) 共催事業

| テーマ                                       | 主催                                                             | 期日             | 参加人数 |
|-------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|----------------|------|
| 映画上映会「からむしのこえー会津のものづくり」+座談会「会津のものづくりの未来像」 | 鞍田 崇 (明治大学准教授)<br>分藤 大翼 (信州大学准教授)<br>春日 聡 (国立歴史民俗博物館客員准教授)     | 令和2年1月13日(月・祝) | 264  |
| フォーラム「レスキュー・レプリカその先に」                     | 大河内 智之 (和歌山県立博物館主任学芸員)<br>吉野 高光 (双葉町教育委員会生涯学習係長)<br>藤井 光 (美術家) | 令和2年2月22日(土)   | 43   |

(セ) 後援事業

| テーマ                                       | 主催               | 講師・所属                | 期日            | 参加人数 |
|-------------------------------------------|------------------|----------------------|---------------|------|
| 福島県史学会 研究報告会                              | 福島県史学会           | 福島県史学会会員             | 令和元年6月1日(土)   | 50   |
| 令和元年度福島県市町村教育委員会連絡協議会会津ブロック研修会            | 福島県市町村教育委員会連絡協議会 | 塚本 麻衣子 (副主任学芸員)      | 令和元年7月25日(木)  | 80   |
| 会津史談会 文化史講座「会津彼岸獅子と都市近郊の地域社会」             | 会津史談会            | 内山 大介 (主任学芸員)        | 令和元年11月21日(木) | 54   |
| 会津史学会公開講座「会津盆地を支配した古代王者にせまる」              | 会津史学会            | 辻 秀人 (東北学院大学教授)      | 令和元年11月24日(日) | 150  |
| 会津民俗研究会公開講座「伊勢参宮日記について」「私の四国八十八か所歩き遍路旅日記」 | 会津民俗研究会          | 滝沢 洋之、伊藤 誠 (会津民俗研究会) | 令和2年2月24日(月)  | 130  |

(リ) ライフミュージアムネットワーク事業

| テーマ                                         | 講師・所属等                                                                    | 期日            | 参加人数 |
|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------|------|
| オープンディスカッション ソーシャルインクルージョン (テーマ:障がいとミュージアム) | 新井 浩 (福島大学教授)<br>上島 雅彦 (竹田綜合病院)<br>久保田 翠 (認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長)       | 令和元年10月27日(日) | 11   |
| ライフミュージアムネットワーク 2019 フォーラム1「活かす・生きるミュージアム」  | 大澤 苑美 (八戸市まちづくり文化推進室主事兼学芸員)<br>西澤 真樹子 (なにわホネホネ団団長)<br>寺沢 秀文 (満蒙開拓平和記念館館長) | 令和2年1月18日(土)  | 54   |
| ライフミュージアムネットワーク 2019 フォーラム2「記憶と人間の方舟として」    | 鷺田 清一 (せんだいメディアテーク館長)<br>赤坂 憲雄 (館長)                                       | 令和2年2月14日(金)  | 153  |

(ル) 復興応援パートナー事業

| テーマ                    | 講師・所属等          | 期日           | 参加人数 |
|------------------------|-----------------|--------------|------|
| 福島しあわせ運べるように合唱団ミニコンサート | 福島しあわせ運べるように合唱団 | 平成31年4月6日(土) | 57   |

## (2) ミュージアムイベント

福島市の文化や博物館の活動について、気軽な雰囲気の中で知っていただくための催し。県民の皆様に博物館を身近に感じてもらうことで、今まで博物館に縁遠かった人々を含め、様々な人の集う空間になるよう企画し、6件実施した。

### ア 山ノ内磐水と玄如節

- (ア) 日時 令和元年6月15日(土) 13時30分～15時
- (イ) 会場 福島県立博物館 エントランスホール
- (ウ) 参加者数 72人
- (エ) 共催・出演 玄如節顕彰会

### イ 会津磐梯山・市民盆踊り

- (ア) 日時 令和元年8月15日(木) 19時～20時30分  
※博物館閉館後
- (イ) 会場 福島県立博物館 前庭
- (ウ) 参加者数 152人
- (エ) 共催 会津磐梯山盆踊り保存会

### ウ 夏休みナイトミュージアム

- (ア) 日時 令和元年8月24日(土) 17時30分～18時30分  
※博物館閉館後
- (イ) 会場 福島県立博物館 常設展示室 企画展示室
- (ウ) 参加者数 88人
- (エ) 講師 学芸員

### エ 「Coderanni」コンサート

- (ア) 日時 令和元年9月16日(月・祝) 13時30分～15時
- (イ) 会場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 215人 解説会 13人
- (エ) 出演 会津室内楽団「アンソングル・Coderanni」の皆様

### オ 親子でやすらぐ子守唄コンサート

- (ア) 日時 令和元年10月17日(木) 10時～11時30分
- (イ) 会場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 230人

### (エ) 出演 第1部 トーク

西舘 好子 (NPO法人日本子守歌協会理事長)  
赤坂 憲雄 (館長)

### 第2部 子守歌演奏

雨宮 知子 (歌手)、岸本 あかね (ピアノ)

### カ けんぱく映画会「縄文にハマる人々」

- (ア) 日時 令和元年10月20日(日)  
13時30分～15時30分
- (イ) 会場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 95人

## (3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

### ア 展示室での自主学習 (しおり・ワークシート)

- (ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)  
本年度企画展にあわせてワークシートの内容について一部見直しを行った。
- (イ) 常設展総合展示室案内シート  
一部ワークシートの内容見直しや、新規に家族での来館に対するワークシートの導入検証を行った。

一部ワークシートの内容見直しや、新規に家族での来館に対するワークシートの導入検証を行った。

### イ 学習プログラム

各団体のニーズに応じたきめ細かい事前相談に取り組んでいるが、幅広い年齢層に対応できるプログラム作りに工夫改善を図っている。令和元年度は幼児に向けて前年度開発した「未就学児対応学習プログラム」を協力園の園児たちに試行した。

### ウ 指導者向け研修

令和元年度は「博物館を使った授業でできること、伝えたいことを考える」をテーマに、学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施した。

・令和元年8月1日(木) 午前の部 2名、午後の部 18名

### エ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。令和元年度については学習用具・教材等の貸出実績はなかった。

### オ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和元年度の実施回数は7回で、参加者は339人であった。

ゲストティーチャー実施一覧

| 月 日          | 講 師   | 分野 | 内 容                                  | 実施先            | 科目                          |
|--------------|-------|----|--------------------------------------|----------------|-----------------------------|
| 令和元年9月4日(水)  | 小林めぐみ | 美術 | 地域に根ざす日本の伝統文化を学ぶ (会津型について・日本の文様について) | 会津若松市立第二中学校    | 2年・美術(地域の工芸学習)              |
| 令和元年9月12日(木) | 筑波匡介  | 震災 | 昭和中学校防災教室                            | 昭和村立昭和中学校 全校生徒 | 防災教育                        |
| 令和元年10月8日(火) | 相田優   | 自然 | 環境教育～自然に学ぶ                           | 慈光こども園 年長児     | 環境教育                        |
| 令和元年10月9日(水) | 猪瀬弘瑛  | 自然 | 地層や火山について                            | 会津若松市立湊小学校     | 6年・理科「大地のつくり」<br>「変わり続ける大地」 |

| 月 日               | 講 師          | 分野          | 内 容        | 実施先              | 科目        |
|-------------------|--------------|-------------|------------|------------------|-----------|
| 令和元年10月<br>10日(木) | 相田優          | 自然          | 環境教育～自然に学ぶ | 慈光第二こども<br>園 年長児 | 環境教育      |
| 令和元年11月<br>13日(水) | 平澤慎          | 考古・連<br>携交流 | 職業人講話      | 会津学鳳高校           | 1年・キャリア教育 |
| 令和元年11月<br>22日(金) | 筑波匡介<br>弦巻優太 | 震災          | 防災教育出前講座   | 三島町三島中学<br>校全校生徒 | 防災教育      |

#### カ 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和元年度は5校からの要請があり、受け入れを実施した。

##### ○職場体験受け入れ実績（生徒のみ）

- ・会津若松市立第一中学校（2年生：3名） 2日間
- ・会津若松市立第三中学校（2年生：3名） 3日間
- ・会津若松市立第四中学校（2年生：3名） 2日間
- ・会津若松市立第六中学校（2年生：2名） 2日間
- ・会津若松市立一箕中学校（2年生：1名） 1日間

#### キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和元年度は県内出身及び県内大学に在学する学生11名を受け入れた。

実習期間 令和元年8月27日(火)～9月1日(日)

#### (4) 生涯学習・研究支援

##### ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,705冊である。

##### イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

##### 分野別特別観覧件数

考古：27件48点 歴史：18件149点 美術：1件3点  
民俗：1件2点 自然：4件1,338点 計51件1,540点

##### ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

令和元年度の派遣回数は21回で、参加者は1,484人であった。

#### 講師派遣一覧

| No. | 月 日                     | 講 師          | 分野 | 演 題 ・ 内 容 等               | 主 催                  |
|-----|-------------------------|--------------|----|---------------------------|----------------------|
| 1   | 令和元年6月12日(水)            | 塚本麻衣子        | 美術 | 興福寺の国宝がやってくる              | 福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ |
| 2   | 令和元年6月15日(土)            | 高橋充          | 歴史 | 戦国期の蘆名氏と会津                | 東北大学国史談話会            |
| 3   | 令和元年6月22日(土)            | 塚本麻衣子        | 美術 | 徳一と会津の仏教文化                | 磐梯山慧日寺資料館            |
| 4   | 令和元年6月26日(水)            | 高橋満          | 考古 | 東日本大震災と地域博物館              | 文化庁                  |
| 5   | 令和元年6月28日(金)            | 高橋充          | 歴史 | 戦国時代の福島                   | 会津美里町教育委員会           |
| 6   | 令和元年7月27日(土)            | 内山大介         | 民俗 | 文化遺産としての民俗・地域研究としての民俗学    | 福島大学                 |
| 7   | 令和元年8月25日(日)            | 阿部綾子         | 歴史 | 戊辰戦争 会津での戦い～奥女中が伝えた会津籠城戦～ | 只見町                  |
| 8   | 令和元年9月12日(木)            | 内山大介<br>大里正樹 | 民俗 | 金山町民具資料の整理について            | 福島大学                 |
| 9   | 令和元年9月13日(金)～<br>15日(日) | 内山大介<br>大里正樹 | 民俗 | 金山町民具資料の整理について            | 金山町・福島大学             |
| 10  | 令和元年9月29日(日)            | 高橋充          | 歴史 | 蒲生秀行の生涯と宇都宮・若松            | 宇都宮市                 |
| 11  | 令和元年10月2日(水)            | 高橋充          | 歴史 | ガイダンス・福島の博物館と城・町          | 福島県立医科大学             |
| 12  | 令和元年10月9日(水)            | 内山大介         | 民俗 | 医療と民俗Ⅰ 妊娠と出産              | 福島県立医科大学             |
| 13  | 令和元年10月16日(水)           | 内山大介         | 民俗 | 医療と民俗Ⅱ 死と葬送               | 福島県立医科大学             |
| 14  | 令和元年11月3日(日・祝)          | 高橋充          | 歴史 | 会津・米沢街道を往来した人々            | 北塩原村                 |
| 15  | 令和元年11月16日(土)           | 高橋充          | 歴史 | 伊達政宗の挑戦、蒲生氏郷の理想           | JR 東日本企画             |

| No. | 月 日                  | 講 師          | 分野       | 演 題 ・ 内 容 等                    | 主 催                                                |
|-----|----------------------|--------------|----------|--------------------------------|----------------------------------------------------|
| 16  | 令和元年 11 月 19 日(火)    | 猪瀬弘瑛         | 自然       | 棚倉をクジラが泳いでいたところ                | 棚倉町                                                |
| 17  | 令和元年 12 月 5 日(木)     | 藤原妃敏         | 考古       | 会津に人が住み始めた頃の話                  | 磐梯町中央公民館                                           |
| 18  | 令和 2 年 1 月 13 日(月・祝) | 内山大介<br>筑波匡介 | 震災       | 専門家によるポイント解説「被災時の博物館」          | 京都歴史文化施設クラスター実行委員会、ICOM 京都大会 2019 組織委員会、ICOM 日本委員会 |
| 19  | 令和 2 年 1 月 25 日(土)   | 阿部綾子         | 歴史       | 中村藩士の禄高～明治四年の禄高調から～            | 相馬郷土史研究会                                           |
| 20  | 令和 2 年 1 月 27 日(月)   | 塚本麻衣子        | 美術       | 会津の仏像の見所紹介                     | 極上の会津プロジェクト協議会                                     |
| 21  | 令和 2 年 2 月 13 日(木)   | 高橋充<br>塚本麻衣子 | 歴史<br>美術 | 江戸時代の観音めぐり<br>三十三観音めぐりと会津の仏教文化 | 極上の会津プロジェクト協議会                                     |

## (5) 博物館友の会活動への支援

福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

### ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年 3 月 10 日

#### (イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

#### (ウ) 総会の開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### (エ) 令和元年度会員数

個人会員：135 家族会員：31 高校生会員：0  
賛助会員：4 合計：170

### イ 令和元年度事業概要

#### (ア) 友の会主催特別講演会の開催

日 時：令和元年 11 月 4 日(月・振休)13 時 30 分  
講 師：平澤 慎(学芸員)  
演 題：東日本における会津の古墳  
来場者：90 名

#### (イ) 研修旅行

○春の研修旅行

研修先：十日町市博物館 新潟県立歴史博物館  
期 日：令和元年 7 月 30 日(火)  
参加者：33 名

※秋については参加希望者が定員に達せず中止

#### (ウ) 会報の発行

第 119 号・第 120 号・第 121 号と 3 回の会報を発行し会員に配布した。

#### (エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

「とりもどすきずなつながるみらい」 35 名参加

「興福寺と会津」 50 名参加

「あにまるぞうどうぶつのはな」 26 名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

### ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の 2 サークルが活動している。

#### (ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成 11 年に設立。会員数 35 名。令和元年度は次の活動を行った。

- いわき市御斎所鉱山(鉱物：菱マンガン鉱)
- 新潟県阿賀町草倉鉱山(鉱物：黄銅鉱、石英、水晶)
- 黒沢鉱山、田代鉱山(鉱物：黒鉱、方鉛鉱)
- 昭和村(化石：貝化石)
- 和久観音山(鉱物：電気石、石川石)
- 水引鉱山(鉱物：磁硫鉄鉱、硫砒鉄鉱)
- 「自然史講座：化石標本をつくろう」
- 新潟県阿賀町中ノ沢での鉱物採集(輝沸石、メノウ、玉髓)
- 学習会
- 総会 研修会

#### (イ) 古文書愛好会

平成 14 年度に発足した古文書愛好会は随時 20～25 名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは 5 つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。令和元年度の活動人数は 24 名で、月 1 回・第 2 土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。

## 7 文化財・自然資料レスキュー

### (1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和元年度には次の活動を行った。

#### ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」)に参画して活動した。幹事会を3回実施(9月6日、10月30日、2月12日)した。

なお、年度末の幹事会において、以下のことが決定され、救援本部の設置要綱が改正された。

- 東日本大震災及び原発事故に起因する被災文化財への対応は今後も必要である。救援本部の設置期間は、令和4年3月31日まで延長する。
- 今後の自然災害発生時の文化財レスキューは、現在県で進めている「大規模自然災害発生時の被災文化財に係る相互応援協定」により対応することとし、救援本部は東日本大震災及び原発事故に起因する文化財レスキューに特化(限定)して対応に当たる。
- 各市町村からの要請に基づいて活動を行うことに変わりはない。ただし、救援本部会議の構成員を、これまでの幹事会構成員に絞り、より機動力を高める。市町村構成員すべてに対して会議のために集まっていたかなくとも、救援の内容に応じた招請で対応する。他の市町村等の協力が必要な場合についても調整する。
- 以上の方針に従って、設置要綱を改正する。

#### イ 被災地域の資料への対応

##### (ア) 蛭沢稻荷神社資料の返還(7月11日)

震災後に旧相馬東高校校舎へ避難させていた「蛭沢稻荷神社奉納絵馬・地引大漁図及び船模型」(県指定文化財)等の資料を神社の絵馬堂へ返還した(資料の一部は南相馬市博物館へ搬入)。

##### (イ) 双葉町羽鳥観音堂仏像移送(7月27日)

帰還困難区域の観音堂・不動堂にある仏像の管理が困難であるため、檀家・双葉町教育委員会とともに、仏像4体を双葉町歴史民俗資料館へ移送した。

#### (2) 令和元年東日本台風(令和元年台風19号)に伴う被災文化財等レスキュー

令和元年10月12日に日本に上陸した令和元年東日本台風(令和元年台風19号)に伴う河川の氾濫により、資料館・博物館等の文化財を収蔵する施設が被災し、文化財等の水損被害が各地で発生したことから、次の活動を行った。

#### ア レスキュー作業の体制

福島県立博物館では文化財課や福島県立美術館、福島県文化財センター白河館(まほろん)、ふくしま歴史資料保存ネットワーク(福島大学)と連絡をとりながら、被害状況に関する情報収集や現況確認調査などに協力した。被災資料の保全作業のため学芸員が交替で作業に参加した。

#### イ 被災地域の資料への対応

##### (ア) 本宮市

本宮市歴史民俗資料館の収蔵資料(古文書、美術

・工芸品、考古資料、発掘調査記録、民俗資料など)が被災した。一部は近くのサンライズもとみやへ一時避難させ保全作業が行われたが、被害の規模が大きく、十分な対応がとれない状況も生じた。

##### (イ) 田村市

田村市文化センターの収蔵資料(古文書、美術・工芸品、発掘調査記録など)が被災し、田村市歴史民俗資料館や船引就業改善センター等に一時避難させ、保全作業が行われた。

##### (ウ) 伊達市

旧梁川町史編さん室の収蔵資料(古文書、民具など)及び旧霊山町稚蚕飼育所の収蔵資料(民具、考古資料など)が被災した。一部は伊達市役所梁川総合支所へ一時避難させ、おもに水損資料の保全作業が行われた。

## 8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

### (1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。令和元年度は民俗2名、考古1名、歴史3名、自然1名、美術1名、保存科学1名の計9名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害史担当学芸員を中心に取り組んだ。また常設展示に向けて各分野からテーマを持ち寄り学習会を設けた。

### (2) 震災遺産の調査・保全

資料情報を充実させるための追加調査等を行った。浪江中学校避難所資料、旧相馬女子高避難所資料、浪江町新聞販売店資料、富岡はげん、鎌田氏作成フロッタージュ作品、南相馬市半杭牧場牛舎柱レプリカについて聞き取り調査を行い、その成果を特集展として公開した。

### (3) 他団体・他機関との連携・協力

筑波大学の白井哲哉教授を研究代表者とする科学研究費補助金基盤研究(A)「防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築—国際比較の観点から—」(課題番号:17H00772)による研究の一環として、2月に原子力発電所事故のあったウクライナのチェルノブイリへの調査に同行した。また東日本大震災・原子力災害伝承館との連携を図り、担当課と協議しながら伝承館の広報を委託している公益財団法人福島イノベーション・コースト構想機構と協力体制を構築した。

#### (4) 普及事業

特集展「震災遺産を考える－それぞれの9年－」を実施した。調査をもとに、7人のその後をまとめ、資料に人の物語を加えた展示を行った。

会津方部高等学校歴史地理公民研究会などの学校教員の研究会へ積極的に授業提案を行った。震災遺産を活用した主体的で対話的な授業の内容として提案し、その結果、防災教育としてゲストティーチャーの依頼を受けた。(昭和中、三島中)授業では震災遺産を教室へ持ち込み、資料を前に自分たちで考えて防災について対話的な内容として実施した。

ICOM(世界博物館会議)京都大会にライフミュージアムネットワーク実行委員会からの依頼で前年度作成した牛舎柱のレプリカを展示した。

## 9 ライフミュージアムネットワーク

### (1) 事業趣旨

東日本大震災後を契機に【いのち(ライフ)】と【くらし(ライフ)】に再び誠実に向き合い同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張することを目指し、平成30年度よりライフミュージアムネットワーク実行委員会を設立、活動を行った。

### (2) 組織

- ア 主催 ライフミュージアムネットワーク実行委員会
- イ 構成団体  
南相馬市博物館、はじまりの美術館、三島町生活工芸館、一般社団法人ふくしま連携復興センター、原爆の図丸木美術館、山の暮らし再生機構、福島県立博物館
- ウ 委員長 赤坂憲雄(館長)
- エ 事務局 福島県立博物館

### (3) 実施期間

- ア 実施期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日
- イ プロジェクト活動期間  
令和元年5月16日～令和2年3月31日

### (4) 助成

文化庁令和元年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

### (5) 事業内容

リサーチ、オープンディスカッション、フォーラム、スタディツアーを実施し、記録集(『ライフミュージアムネットワーク2019活動記録集』、2,000部)を作成した。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」(以下「青年の家」という。)を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年度より公益財団法人に移行)」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度まで「福島県郡山自然の家」について、「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

### (2) 所在地

- ア 福島県郡山自然の家  
福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46  
〒963-0213 TEL 024-957-2111  
FAX 024-957-2112

URL <https://www.koriyama-nc.fcs.ed.jp/>

## 第14節 福島県自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」(以下「自然の家」という。)を開設。

イ 福島県会津自然の家  
 福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1  
 〒969-6504 TEL 0242-83-2480  
 FAX 0242-83-2481  
 URL <https://www.aizu-nc.fcs.ed.jp/>

ウ 福島県いわき海浜自然の家  
 福島県いわき市久之浜町田之網字向山 53  
 〒979-0335 TEL 0246-32-7700  
 FAX 0246-32-7730  
 URL <https://www.iwaki-nc.fcs.ed.jp/>

## 2 教育目標及び基本的視点

### (1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

- ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
- イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

### (2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。
- オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

## 第 15 節 福島県郡山自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

郡山自然の家は、昭和 47 年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来 48 年が経過し、平成 30 年 12 月には、延べ利用者数が 170 万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約 11km、郡山中央スマートインターから車で約 6 分、郡山南インターより約 8 分、という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲ま

れている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成 31 年 4 月 1 日より学校法人国際総合学園が指定管理者となり管理運営を行っている。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多様多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開するとともに、生涯学習の拠点として、広く県民に利用していただけるような施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、年代や性別を問わず利用しやすい施設とすべく対応を進めてきた。

また、園児から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に利用していただけるよう、多種多様な企画事業の展開や、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

さらに、放射線の影響を心配する利用者の声に応えるため、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するとともに、クラフト活動で使用する木材等については、「みどりの宅配便」を利用して全国から取り寄せるなど対応に努めた。また、放射線量が比較的高い場所の除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の清掃除去を実施し放射線量の低減化に努めた。

年間の利用状況は、利用団体数 492 団体、延べ利用者数 30,020 人となった。

### (2) 職員組織

| 職 名   | 人員 |
|-------|----|
| 所長    | 1  |
| 指導部長  | 1  |
| 事務局長  | 1  |
| 指導部主任 | 1  |
| 指導員   | 1  |
| 体験指導員 | 3  |
| 事務員   | 2  |
| 運転手   | 1  |
| 計     | 11 |

### (3) 令和元年度重点目標と成果

「復興加速の年」と位置づけ、利用者数を震災前の水準まで戻すために次の点に力を入れて取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

- (イ) 団体が主体的に活動できるように、学校利用・社会教育団体利用ともに、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。学校利用については、4 月と 7 月に「学校利用指導者研修会」を実施し、フィールドワークやニュースポーツなどの実技研修のほか、施設の概要説

明や活動計画の立案に際して指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるよう支援に努めた。

- (イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしながら、施設見学や活動計画の調整など、各団体の利用目的に応じた活動が展開できるよう努めた。
- (ウ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、職員の対応や準備物、食事等の改善に努めるとともに、利用者の立場に立った施設の運営改善に努めた。

#### イ 魅力ある企画事業の運営

- (ア) 季節感を生かした魅力ある企画事業を計画するとともに、外部講師やボランティアを積極的に活用したり、地域や関係機関との連携を積極的に進めた。
- (イ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、施設利用者の満足度を高める運営に努めた。
- (ウ) 利用者増を図るために新規の企画事業を立案し、幅広い年代に応じた特色ある企画事業を実施することができた。

#### ウ 広報の充実と利用促進

- (ア) 多くの団体に利用してもらえるよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行った。学校利用の拡大については、各種企画事業の案内をその都度電子メールで送付するなど、より多くの学校に利用していただけるようPR活動を行った。また、未来キッズ生き生き事業については、中通り地区の全小学校・全児童に案内を配付し周知に努めた。
- (イ) 企画事業案内や事業の実施状況をホームページに掲載するなど、ホームページの改善・充実に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供に努めた。
- (ウ) 企画事業では、報道機関を通じた周知活動や広報活動を積極的に行い、利用拡大に努めた。また、新聞社やタウン誌に企画事業に関する記事の掲載の依頼をすることで、多くの方の参加につながることができた。
- (エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザピークラブ」とした。登録した会員には会員証を発行して利用手続きの簡略化を図ったり、企画事業の案内を送付したりして利用促進につなげた。また、利用回数に応じて、特製のシールやキーホルダーを贈呈した。

#### エ 安全管理と保健安全指導の徹底

- (ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について働きかけを行った。

また、特に次の点に力を入れてきた。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検の徹底。
  - ・食中毒防止のための、手洗い・アルコール消毒の徹底。
  - ・食物アレルギー対応のための、利用団体との情報共有及び食堂との連携。
  - ・スズメバチ対策のための、捕虫装置の設置と点検。
  - ・松食い虫による倒木防止のため、森林組合との連携による計画的な伐採と日常の安全点検。
- (イ) 防災に関しては、食堂及び警備会社等委託業者の参加協力を得て全所をあげた消防訓練や避難訓練を実施した。また、総合防災訓練として消防・警察の協力の下、専門的な見地から非常時における対応について指導をいただくとともに、日常の自主点検について再確認する機会となった。施設の特徴として、不特定多数の方が利用する本施設において、利用者の安全確保は最優先事項であり、不審者の侵入防止を図るためのマニュアルを作成するとともに、その対応について職員研修により来所者への積極的な声かけの必要性や、車止めや施設の施錠に万全を期すなど理解を深めた。

安全な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大であり、そのため相互の信頼関係を日々醸成するため情報の共有・伝達を丁寧に行った。

#### オ 施設・設備の整備

- (ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース整備を行い目の高さにある木の枝を除伐したり、コースロープを設置したりして、安全・安心に利用できるような対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検においては職員が実際に利用し、器具の状態を確認するとともに随時、必要な補修整備に努めた。
- (イ) 館内については、季節ごとの掲示に心がけ、利用者から届いた写真や手紙を工夫して掲示し、生きた壁面利用に計画的に取り組んだ。  
館内外の表示については、年齢性別障がいの有無にかかわらず、利用者が情報をわかりやすく入手できるようユニバーサルデザインの観点に基づき、取組を続けている。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

### (2) 宿泊定員

- ア 本館 172名 (15部屋)
- イ ロッジ 126名 (9棟)
- ウ テント 120名 (20張)

### (3) 敷地面積

237,587.59㎡

### (4) 建物面積

延床面積 3,806.08㎡

- ・本館（管理棟・宿泊室・研修室・浴室）
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

## (5) 設備備品等

### ア 野外活動設備

（みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場 24 的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場 4 か所）

### イ その他

（野外炊飯用具、インラインスケート、frisbee ゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナッグゴルフ、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビ（ほか）

## 3 利用状況

### (1) 令和元年度利用者数

延べ利用者数 30,020 人

|    |        |        |          |
|----|--------|--------|----------|
| 内訳 | 学校教育団体 | 234 団体 | 12,877 人 |
|    | 社会教育団体 | 175 団体 | 6,604 人  |
|    | ファミリー  | 22 団体  | 94 人     |
|    | 企画事業   | 61 団体  | 10,445 人 |

## 4 企画事業

### (1) 研修会事業

#### ア 学校利用指導者研修会

##### (ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活動の実際について研修し、指導者としての資質を高め、同時利用校（園）との調整を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 17 日（水）  
対象 5 月～8 月まで利用の学校（園）  
参加者数 52 名
- 期日 令和元年 7 月 26 日（金）  
対象 9 月～10 月以降利用の学校（園）  
参加者数 43 名

##### (ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・活動プログラム実技研修
- ・活動計画書の作成・調整

### (2) 利用拡大事業

#### ア サクラ・カタクリ週間

##### (ア) 目的

カタクリの群生、桜を觀賞し、春の自然を満喫する。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 1 日（月）～21 日（日）  
対象 一般  
参加者数 1,320 名

##### (ウ) 活動内容

本所の一部を開放し、春の植物を觀賞した。

#### イ さくらウォーク

##### (ア) 目的

春の三穂田路の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 13 日（土）  
対象 一般  
参加者数 65 名

##### (ウ) 活動内容

本所を出発し笹原川千本桜まで約 5km・10km に分かれて散策をした。帰所後は、みどりの広場でのアスレチック体験、総合活動館での自由活動を楽しんだ。

#### ウ オープニングセレモニー

##### (ア) 目的

平成 31 年度のオープンに合わせ、アスレチックと総合活動館を地元小学生に開放し、使い始めを行う。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 16 日（火）  
対象 郡山市立多田野小学校（堀口分校含）  
4、5 年生と先生方  
参加者数 44 名

##### (ウ) 活動内容

児童代表あいさつの後、今回は所内に自生するツタを使用しテープカットのセレモニーを行った。その後、アスレチックと総合活動館に分かれ自由に活動し楽しんだ。

#### エ 春のオープンデー

##### (ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 28 日（日）  
対象 一般  
参加者数 395 名

##### (ウ) 活動内容

アーチェリー、インラインスケート、フィールド活動、アスレチック開放、会津自然の家及びいわき海浜自然の家のクラフト活動などを提供した。

#### オ 親子でチャレンジ（未来キッズ生き生き事業と併催）

##### (ア) 目的

家族や親子でアーチェリーに挑戦し、その後、野外炊飯に取り組む。体力の増進を図るとともに、参加者の絆を深める。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 令和元年 6 月 16 日（日）  
対象 小学生とその家族  
参加者数 39 名

- (ウ) 活動内容  
雨のため体育館にて室内アーチェリーを楽しんだ後、親子で野外炊飯（カレー作り）を行った。
- カ 夢冒険キャンプ（未来キッズ生き生き事業と併催）
- (ア) 目的  
キャンプ生活をとおして、自然との共存を図りながら様々な困難に打ち勝つことのできる子どもを育成する。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和元年8月8日(木)～10日(土)  
対象 小学4～6年生  
参加者数 110名
- (ウ) 活動内容  
2泊3日で5班に分かれ、クラフト活動や野外炊飯、野外活動を行った。また、猪苗代湖での湖水浴のほか、たらい舟体験や宝探しゲームを楽しんだ。
- キ 第17回郡山自然の家オープンデー  
（未来キッズ生き生き事業と併催）
- (ア) 目的  
本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和元年9月8日(日)  
対象 一般  
参加者数 650名
- (ウ) 活動内容  
アーチェリー、インラインスケート、フィールド活動、アスレチック開放、県内の自然の家の活動体験、学校法人国際総合学園各専門学校の似顔絵体験などのプログラムを楽しんだ。
- ク 親子五色沼ハイキング
- (ア) 目的  
家族や親子で秋の裏磐梯をトレッキングし、身近な自然に親しむとともに、家族間の交流を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和元年10月20日(日)  
対象 小学生を含む家族・グループ  
参加者数 31名
- (ウ) 活動内容  
現地ガイドと共に親子で秋の裏磐梯五色沼自然探勝路（約3.6km）の散策を楽しんだ。
- ケ 手ぶらでも煮会
- (ア) 目的  
野外炊飯等をとおして食についての意識を高め、家族やグループとの親睦を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和元年10月27日(日)  
対象 小学生を含む家族・グループ  
参加者数 81名

- (ウ) 活動内容  
各家族・グループに分かれていも煮会を楽しんだ。
- コ 自然の家をたのしもう！
- (ア) 目的  
本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和元年11月10日(日)  
対象 幼児から小学生を含む家族  
参加者数 104名
- (ウ) 活動内容  
アーチェリー、インラインスケートの体験プログラムとアスレチックの開放を行った。
- サ 親子でハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー
- (ア) 目的  
クリスマスお菓子の家作りやミニ門松作りをとおして、伝統文化を体験する機会とするとともに、家族や友だちとの交流を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和元年12月15日(日)  
対象 幼児から小学生とその家族  
参加者数 61名
- (ウ) 活動内容  
クリスマスお菓子の家作りとミニ門松作りに分かれて活動した。参加者全員でクリスマスパーティを楽しんだ。
- シ 親子スケート教室
- (ア) 目的  
スケートについて、安全に滑る知識と技能を身につけ、家族や親子で楽しく活動する。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和2年1月12日(日)  
対象 幼児から小学生を含む家族  
参加者数 35名
- (ウ) 活動内容  
磐梯熱海アイスアリーナで講師からスケートの基本的な動きの指導を受け、自由滑走を楽しんだ。
- ス わくわく！ファミリー冬のつどい
- (ア) 目的  
スキーや雪遊びを体験し冬のスポーツを楽しむとともに、家族の絆と交流を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数  
期日 令和2年2月15日(土)～16日(日)  
対象 小・中学生とその家族  
参加者数 56名
- (ウ) 活動内容  
猪苗代スキー場で講師からスキーの基本的な動きの指導を受け、個々の技量に応じた滑走を楽しんだ。
- セ サザンピーククラブ感謝デー  
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### (3) 協力事業

#### ア 逢瀬公園さくらまつり(福島県総合緑化センター主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 平成31年4月13日(土)

参加者数 410名

##### (イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

#### イ 春のオープンデー(いわき海浜自然の家主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年5月19日(日)

参加者数 520名

##### (イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

#### ウ 春のオープンデー(会津自然の家主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年5月26日(日)

参加者数 458名

##### (イ) 活動内容

プラ板キーホルダー作りの提供。

#### エ 安積山登山

(安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年6月9日(日) 参加者数 180名

##### (イ) 活動内容

安積山縦走トレッキング(総距離約16km)の運営補助。

#### オ サマースクール(郡山市青少年会館主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年7月24日(水)～26日(金)

参加者数 174名

##### (イ) 活動内容

缶バッジ作りの出前講座の提供。

#### カ FSG カレッジリーグ学園祭

(学校法人国際総合学園主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年8月25日(日) 参加者数 247名

##### (イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

#### キ ミュージックライブ

(安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年9月16日(月・祝)

参加者数 260名

##### (イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

#### ク なすかしの森ファミリーフェスティバル

(那須甲子青少年自然の家主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年10月6日(日) 参加者数 600名

##### (イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

#### ケ 逢瀬公園秋の感謝祭(福島県総合緑化センター主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年10月20日(日) 参加者数 381名

##### (イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

#### コ 福島ファイヤーボンズ ホームゲーム出店

(福島ファイヤーボンズ主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年11月25日(月) 参加者数 192名

令和元年11月26日(火) 参加者数 166名

令和元年12月11日(水) 参加者数 157名

令和元年12月14日(土) 参加者数 156名

令和元年12月15日(日) 参加者数 158名

令和2年2月22日(土) 参加者数 144名

令和2年2月23日(日) 参加者数 152名

##### (イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

#### サ お正月を楽しもう!(郡山市青少年会館主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和2年1月5日(日) 参加者数 24名

##### (イ) 活動内容

伝承遊びの出前講座の提供。

#### シ ウィンターフェスティバル!(会津自然の家主催)

※雪不足のため中止

#### ス いなわしろフェスティバル 冬

(国立磐梯青少年交流の家主催)

##### (ア) 期日及び参加者数

期日 令和2年1月19日(日) 参加者数 1,415名

##### (イ) 活動内容

事業運営の補助。

### (4) 年間継続事業

#### ア みどりの広場アスレチック&活動館開放します!

##### (ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 平成31年4月20日(土) 参加者数 22名

令和元年5月11日(土) 参加者数 20名

令和元年5月25日(土) 参加者数 38名

令和元年11月16日(土) 参加者数 31名

令和元年12月7日(土) 参加者数 20名

令和2年1月25日(土) 参加者数 21名

令和2年2月8日(土) 参加者数 38名

対象 県中地区の特別支援学校、学級の幼児及び小学生とその家族

b 期日 平成31年4月21日(日) 参加者数 51名

令和元年5月12日(日) 参加者数 18名

令和元年5月26日(日) 参加者数33名  
 令和元年11月17日(日) 参加者数44名  
 令和元年12月8日(日) 参加者数50名  
 令和2年1月26日(日) 参加者数97名  
 令和2年2月9日(日) 参加者数69名

対象 県中地区の幼児及び小学生とその家族

(ウ) 活動内容

みどりの広場アスレチック(10基)、活動館開放

イ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

親子にプログラムを体験してもらい、心身の健康や体力向上へつなげていく。

(イ) 対象

中通り地区の幼児から小学生とその家族

(ウ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和元年6月30日(日)

対象 県北地区 参加者数80名

b 期日 令和元年7月7日(日)

対象 県中、県南地区 参加者数228名

c 期日 令和元年9月8日(日)

対象 中通り全地区 参加者数650名

(エ) 活動内容

午前3、午後3のプログラムを選択制で楽しんだ。

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所の活動館を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和元年11月12日(火)～令和2年3月13日(金)までの平日、9時～16時

対象 県中地区内の幼稚園・保育園

参加者 26園、733名対象

(ウ) 活動内容

活動館やアスレチックを利用した運動

## 第16節 福島県会津自然の家

### 1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和元年度末で39年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和元年度の利用者数は、51,527人で、前年度を5,161人上回った。天候上の理由で企画事業の中止や新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種団体受入を中止したものの、企画事業の工夫や出前講座を積極的に実施することで、利用促進に努めることができた。

また、6つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利

用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

### (1) 職員組織

| 職名       | 人員 |
|----------|----|
| 所長       | 1  |
| 主幹(兼)次長  | 1  |
| 主事       | 1  |
| 専門員      | 1  |
| 主任社会教育主事 | 1  |
| 社会教育主事   | 2  |
| 指導主事     | 1  |
| 体験活動指導員  | 3  |
| 嘱託運転手    | 1  |
| 計        | 12 |

### (2) 令和元年度重点目標と成果

年間利用者数4万人以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。【 】の数値は職員による自己評価の平均値(4段階評価)

ア 教育目標を達成する研修プログラムを充実します。

(ア) 里山、堤及び周辺環境の活用、四季に応じて体験できる野外活動の充実【3.67】

研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った野外活動ができるようにした。

(イ) 利用者層に応じた、健康増進や体力づくりのための活動プログラムの更新と提供【3.89】

新たに活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

(ウ) ボランティアの確保及び活動機会の充実【3.33】

ボランティアセミナーを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。

(エ) 職員一人一人の絶えざる研鑽と修養【3.56】

所内の安全に関する研修を計画的に実施したり、お互いのプログラム指導を見合ったりしながら、所員全体のスキルアップに努めた。

イ 「好感度」の高い施設を目指す親切な接遇に努めます。

(ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇【3.56】

団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 利用者一人一人の立場に立った支援【3.67】

利用者のねらい達成のために、必ず団体に担当所員がつき、積極的に支援を行った。

(ウ) 各団体の自立的活動による、目標達成の支援【3.78】

社会教育団体の利用数増加に伴い、自立的な活動が可能となるよう補助及び支援を行った。

- (エ) 適切な会計事務の執行、服務規律の厳正な保持【3.78】  
会計事務にかかる研修を受講したり、服務倫理委員会を定期的に開催したりして、会計事務の適正化を図った。
- (オ) 施設内・フィールド内ごみゼロ及び整理整頓【3.44】  
所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の環境づくりに努めることができた。
- ウ 生涯学習施設の拠点として、対象や内容の多様化を図るなど企画事業を充実します。
  - (ア) 自然体験活動の促進及び家族やグループ間交流に係る事業の工夫【3.44】  
高寺山登山や東松峠ウォーキング大会などの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。
  - (イ) 社会や利用者のニーズに応え、前年踏襲にとられない事業の企画・立案【3.33】  
企画事業において様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた。
  - (ウ) R-PDCAサイクルの確実な実施【3.33】  
R-PDCAサイクルを確実に実施することにより、反省点を活かして、次の事業などの計画立案を進めることができた。
- エ 事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。
  - (ア) 日常（事前、事中、事後）及び定期的安全・確認の徹底【3.89】  
労務員も含めた全所員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。
  - (イ) 利用者への適時的確な指導助言【3.89】  
気象条件等、様々な状況の変化に対応し、所員の連携を図りながら、助言に努めることができた。
  - (ウ) 感染症（インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症、胃腸炎等）の発生防止【3.56】  
食堂業者との連携も密にし、疾病の発症や感染症の発生の防止に努めることができた。
  - (エ) 迅速・計画的な施設の整備、修繕【3.44】  
日常点検を大切に、危険箇所を発見したらすぐに整備、修繕を行った。
- オ 利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動を充実します。
  - (ア) ホームページの充実及び適時的確な更新【3.67】  
タイムリーな話題を時期を逃さず、ホームページにアップするよう、担当を中心に全所員で更新に努めた。
  - (イ) フェイスブック等の活用による情報発信の工夫【3.89】  
新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを活用し、利用促進につなげることができた。
  - (ウ) 誘客活動の工夫（保育所・幼稚園・こども園、小中高・特別支援学校、大学、各市町村教育委員会、企業等へのていねいな働きかけ）【3.78】

- 学校、公民館など教育施設への出前事業や企業訪問を行い、利用者の拡大につなげる事ができた。
- (エ) 記録（データ）の確実な蓄積、分析及び活用【3.67】  
利用者アンケートや食堂アンケートなどの声を、確実に集計、分析し、改善につなげる事ができた。
- カ 組織として機能する自然の家を目指し、基盤づくりに努めます。
  - (ア) 将来的な指定管理者制度導入に対する取組【3.78】  
研修プログラムや企画事業等のマニュアル化や電子データ化の推進（指導部）、施設・設備の円滑な管理や会計事務等のマニュアル化並びに帳簿等の整理（総務部）に努めた。
  - (イ) 指導部と総務部の情報共有及び関係機関との連携強化【3.78】  
職員会議や朝の打合せなどで指導部と総務部の情報共有を図り、関係機関との円滑な対応につなげる事ができた。

## 2 施設・設備の概要

- (1) 所在地  
河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1
- (2) 宿泊定員
  - ア 本館 26室 292名（うち1室障がい者用）
  - イ ロッジ 10棟 150名
  - ウ テント 10張 60名
- (3) 敷地面積  
249,848.98㎡
- (4) 建物面積
  - ア 延床面積 5,893.8㎡
  - (ア) 管理研修棟（鉄筋造2階建）
  - (イ) 宿泊棟（鉄筋造2階建）
  - (ウ) プレイホール（鉄筋造）
  - (エ) アセンブリホール（鉄筋造）
  - (オ) 機械棟（鉄筋造3階建）
  - (カ) ロッジ（木造平屋建）
  - (キ) 野外活動管理センター（鉄筋造）
  - (ク) 炊飯場（鉄筋造）
  - (ケ) 薪置場（コンクリートブロック造）
  - (コ) 車庫（鉄筋造）
  - (ク) 野外便所（鉄筋造）
- (5) 運動広場面積  
8,500㎡
- (6) 設備備品等
  - ア フィールドアスレチック
  - イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
  - ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
  - エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
  - オ ピアノ、オルガン
  - カ 伝承遊びセット
  - キ クラフト用具

- ク 各種オリエンテーリング用具
- ケ アルペンスキー
- コ 歩くスキー（クロスカンリースキー）
- サ そり
- シ スノーシュー
- ス 営火場（4か所）
- セ 諸活動コース
- ソ その他

### 3 利用状況

#### (1) 令和元年度の利用団体数

延べ利用者数 51,527人

|    |        |       |         |
|----|--------|-------|---------|
| 内訳 | 学校教育団体 | 259団体 | 19,239人 |
|    | 社会教育団体 | 229団体 | 27,739人 |
|    | ファミリー  | 17団体  | 105人    |
|    | 企画事業   |       | 4,444人  |

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

##### (ア) 目的

- a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を確認する。
- b 児童生徒が安全に生活し、充実した活動が行えるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項と効果的な活動計画が作成できるようにする。
- c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- a 第1回：平成31年4月17日(水)  
5月16日(木)～6月16日(日)に利用する学校教職員32名参加
- b 第2回：平成31年4月23日(火)  
6月18日(火)～7月19日(金)に利用する学校教職員41名参加
- c 第3回：平成31年4月24日(水)  
8月27日(火)～10月6日(日)に利用する学校教職員23名参加

##### (ウ) 研修内容

- a 利用の仕方及び利用日までの手続き、準備物の確認
- b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- c プログラム及び活動内容、指導方法の理解
- d 施設及び避難経路の確認

イ ボランティアのつどい

##### (イ) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。

- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種オープンデー等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- a 第1回：令和元年5月12日(日) 19名参加  
第2回：令和2年2月15日(土) 4名参加
- b 高校生、一般

##### (ウ) 研修内容

- a ボランティア概論
- b 野外クッキング研修
- c 本所プログラム研修

#### (2) 教育研究事業

ア 高寺山歴史勉強会

##### (ア) 目的

- a 高寺山山開き前日に歴史勉強会を開催し、いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山及び周辺の歴史や文化を学び、興味を持って高寺山山開きに参加させるようにする。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- a 平成31年4月20日(土) 32名参加
- b 一般対象

##### (ウ) 活動内容

- a 歴史勉強会

イ ステップアップセミナー

##### (イ) 目的

- a 放課後子ども教室や児童クラブの指導者に対し、信頼関係づくりゲームや木工工作を研修することにより、子どもたちの活動の充実を図れるようにする。
- b 本所ならではの活動プログラムを実際に体験していただくことで、関係機関の利用促進につなげる。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- a 平成31年4月26日(金) 46名参加
- b 放課後子ども教室、児童クラブ職員

##### (ウ) 活動内容

- a 信頼関係づくりゲーム
- b クラフト
- c 情報交換

ウ 通学キャンプ

##### (イ) 目的

- a 本所での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- b 中学校進学前に、他校との交流を図ることにより中学校進学の不安を少しでも解消できるようにする。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
  - a 第1回：令和元年10月24日(木)～26日(土)  
喜多方二中学校区 13名参加
  - 第2回：令和元年10月31日(木)～11月2日(土)  
坂下中学校区 52名参加
  - 第3回：令和元年11月7日(木)～9日(土)  
北会津中学校区 12名参加
- b 小学校5、6年生
- (ウ) 活動内容
  - a 交流活動
  - b 学習(宿題・読書)
  - c 屋外活動
- エ 冬休み学習宿

- (イ) 目的
  - a 児童に冬季休業中の学習課題等に効果的に取り組む場を設定する。
  - b 自主性や創造性を育みながら、学習の仕方や基本的な生活習慣を身に付けさせる。
  - c 児童のふれあいや東京大学の学生ボランティアとのふれあいの場を設定し、参加者相互の交流を図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
  - a 令和元年12月26日(木)～28日(土)  
児童67名、保護者等26名参加
  - b 県内の小学校4～6年生
  - c 大学生5名

- (ウ) 活動内容
  - a お楽しみ交流会
  - b 学習(国語、社会、算数、理科)
  - c 体力づくり
  - d 大学生との情報交換会

### (3) 利用促進事業

- ア 第15回高寺山山開き(会津坂下町との共催)
  - (イ) 目的
    - a いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山を広く内外に広報し、地域振興に資する。
    - b 参加者同士が共に汗を流し登山することより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。
  - (イ) 期日、対象及び参加者数
    - a 平成31年4月21日(日) 346名参加
    - b 一般対象
  - (ウ) 活動内容
    - a 山開き式典
    - b 高寺山登山
    - c お楽しみ抽選会、豚汁サービス

- イ 春のオープンデー(未来キッズ生き生き事業との併催)
  - (イ) 目的
    - a 自然の家オープンデーを実施することにより、県民に会津自然の家内外の環境やプログラムについて公開する。

- b 子どもたちに、心身ともにリラックスできる環境とプログラムを体験する機会を提供し楽しい活動をさせる。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
  - a 令和元年5月26日(日) 619名参加
  - b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
  - c ボランティア等47名
- (ウ) 活動内容
  - a プログラム体験コーナー(無料)  
カヌー、アスレチック、森遊び、火おこし体験、ミニ樹木OL、UFOゴルフ、クラフト

- ウ サマーキャンプ「さまきゃん」
  - (イ) 目的
    - a 会津自然の家でのテント泊を通して、自然に親しんだり、仲間とふれあったりすることができる。
    - b 夏ならではの川活動や森活動などの自然体験を楽しむことができる。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
  - a 令和元年8月9日(金)～11日(日) 2泊3日  
39名参加
  - b 会津域内の小・中学生
  - c 講師3名、ボランティア16名

- (ウ) 活動内容
  - a 交流活動
  - b 野外炊飯
  - c 班別活動(ワークショップ・木工クラフト)
  - d 川遊び・森遊び
  - e バードウォッチング

- エ お月見コンサート2019
  - (イ) 目的
    - a 「月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え、共に秋の夜長を楽しむ。

- (イ) 期日、対象、参加者数、出演者数
  - a 令和元年9月14日(土) 173名参加
  - b 一般対象
  - c ピアノ演奏、ゴスペル及び民話の出演者40名

- (ウ) 活動内容
  - a 会津の民話
  - b ゴスペルライブ
  - c 音楽コンサート

- オ あったかふれあいまつり ※台風接近により中止
- カ 東松峠ウォーキング大会2019

- (イ) 目的
  - a 「旧越後街道」は、古くから会津若松と新潟県新発田市を結ぶ重要な街道であり、文化庁が選定する「歴史の道百選」に選定されており、地域の歴史的文化的遺産である「東松峠」の再確認と継承・維持と保護の一環とする。
  - b 東松峠ウォーキング大会に、地区外から参加を募ることにより、交流・地域の活性化を図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
  - a 令和元年 10 月 19 日(土) 82 名参加
  - b 一般対象

- (ウ) 活動内容
  - <コース>
    - 高寺コミュニティーセンター→天屋・本名→三本松→旧道→里檀→東松洞門→峠の茶屋跡→新道→三本松→天屋の阿弥陀様(希望者)→高寺コミュニティーセンター ※片門薬師堂(希望者)

- キ 三たてを味わう 新そばにチャレンジ
  - (ア) 目的
    - そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
  - a 第 1 回：令和元年 11 月 16 日(土) 67 名参加
  - 第 2 回：令和元年 11 月 17 日(日) 66 名参加
  - 第 3 回：令和元年 11 月 24 日(日) 69 名参加
  - b 一般対象
  - c 講師各回 2 名

- (ウ) 活動内容
  - a そば打ち実演
  - b そば打ち体験
  - c そば茹で実演
  - d 実食

- ク 手作り森のクリスマス
  - (ア) 目的
    - a クリスマスケーキ、クラフトづくりを通して、楽しみながらケーキを作ったり、自然素材を工夫したりすることにより、家族やグループ間の交流、親睦を深める。
    - b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、本所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
  - a 第 1 回：令和元年 12 月 14 日(土) 57 名参加
  - 第 2 回：令和元年 12 月 15 日(日) 57 名参加
  - b 県内の小・中学生とその家族対象
  - c 講師各回 1 名

- (ウ) 活動内容
  - a クリスマスケーキ作り(シフォンケーキ)
  - b クリスマスクラフト作成(スノードーム)
  - c 試食

- ケ ウィンターフェスティバル
  - ※ 雪不足のため中止
- コ クラフトキッズフェア
  - ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

#### (4) その他の企画事業

- ア 未来キッズ生き生き事業
  - (ア) 目的、対象
    - 県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待

し、プレイヤーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康、運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

会津地方の 12 歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

- (イ) 名称、期日及び参加者数
  - a 春のオープンデー・・・・・・・・・・前  
令和元年 5 月 26 日(日)
  - b 会津自然の家里山開放デー①  
令和元年 6 月 9 日(日) 140 名参加
  - c 会津自然の家里山開放デー②  
令和元年 7 月 21 日(日) 403 名参加
  - d 会津自然の家里山開放デー③  
令和元年 9 月 1 日(日) 133 名参加
  - e 雪遊びファミリーデー(ニュースポーツ開放デー)  
第 1 回：令和 2 年 1 月 26 日(日) 22 名参加  
第 2 回：令和 2 年 2 月 2 日(日) 42 名参加  
第 3 回：令和 2 年 2 月 9 日(日) 51 名参加  
第 4 回：令和 2 年 2 月 16 日(日) 76 名参加

## 第 17 節 福島県いわき海浜自然の家

### 1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成 8 年 7 月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年 11 月 1 日から財団法人いわき市教育文化事業団(平成 26 年 4 月 1 日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称)を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成 23 年度に本館周辺、平成 24 年度につどいの広場・いこいの広場及び第 5 営火場周辺、平成 25 年度にトリムランド、平成 26 年度に野営場周辺の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。しかし、山林部については、平成 29 年 3 月に冒険の森及びキャンプ場の除染を行ったが、一部で放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、使用休止中に傷んだ遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森などの山での活動プログラムの再開はできていない。放射線量については、活動エリア内を定期的に測定し、データをホームページで公開している。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて、平成 25 年度から砂の芸術、磯遊び、魚釣りを再開し、平成 28 年度から川での活動として再開したいかだ乗り、カヤック乗りも平成 30 年度から四倉漁港に活動場所を戻し、あわ

せてボディボードを再開した。海浜に隣接した施設としての特性を活かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、地元のいわき地区の利用団体からも好評を得ている。

令和元年度の利用状況は、475 団体、延べ利用者数 38,808 人であった。令和元年 10 月の台風 19 号に伴う断水や令和 2 年 2～3 月の新型コロナウイルスの影響があり、平成 30 年度と比較すると、団体数は 88%、延べ利用者数は 86%であった。

しかしながら、学校教育団体の利用状況は平成 30 年度と比較すると延べ約 3,100 人（6 団体）増加しており、特に小学校は 147 団体の利用があった。その内、いわき市内の小学校は 47 団体で、地元からの利用が回復傾向にある。

### (1) 令和元年度重点目標と成果

震災の影響で、未だに自然体験活動が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方などを考えながら受け入れを実施。山林部での活動内容が制限されていることから、野外活動やクラフト活動において、自発的な活動を促し、また集団で活動する楽しさや目的を達成した時の喜びを体感することができるよう、プログラムの内容を見直して体験活動の充実を図った。

(イ) オープンデーやクラフトのつどいなどの企画事業において、指定管理者が受託しているいわき市内の教育文化施設と連携し新たなプログラムを加えるなど、内容を充実させ、利用の促進及び施設の広報につなげることができた。

(ウ) 小・中学校等への利用促進のための積極的な情報提供、PR 活動に努めるとともに、生涯学習施設としての役割に鑑み、教育文化施設や公民館への広報活動を行った。また、公民館への出前講座でクラフトなどのプログラムを提供し、連携を図りながら新たな利用者の開拓を行った。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅広いプログラムの開発とクラフト活動の充実を努めた。

(イ) 企画事業を通してアンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行い、ニーズに応じた支援を実施した。また、利用者の自主性・主体性を助長できるよう、支援方法の検討・改善に努めた。

(ウ) 利用が制限されている冒険の森のナイトハイコースに代わり、多目的広場周辺を整備し、夜の自然の様子に親しむことができるコースを設定した。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

(イ) 学校・社会教育団体ともに事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な助言を行い安全教育の充実を図った。

(ウ) 危機管理マニュアルを作成し、事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にしているが、平成 30 年度の台風及び水害を教訓に危機管理マニュアルの見直しを行い、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。

また、無線アンテナ設備の設置による海浜活動時等の情報通信網の整備や自然災害等での避難方法のマニュアル化など、利用者の安全と被害防止に努めた。

(エ) トリムランドの利用前に所員が点検を行うとともに、年 1 回の公園施設製品安全管理士による点検を行い、安全管理に努めた。

(オ) 放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。

(カ) 所内にハチトラップを設置してスズメバチ対策を行った。また、所外での活動に備えて平成 30 年度に引き続き 2 台の AED をレンタルして安全対策の充実を図った。

エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。

(ア) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会や、法人が受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

(イ) 利用団体からの意見や要望などを分析し、多面的かつ多角的な視点から、業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

(ウ) 利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

(ア) 環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年 1 回行い、地域との連携を密接にするとともに地域に根ざした施設づくりに努めた。

(イ) 支援ボランティアが企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

(ウ) いわき市内の高校・大学を通じて高校生・大学生がボランティア養成講座に参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。

(エ) 地域の公民館、教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、支所、消防署、交番とも連携して安全対策を図りながら、利用者がより良い環境の中で体験を深めることができるよう図った。また、地域のまちづくり活動に協力するなどして、各種団体との連携強化に努めた。

(オ) 地域のスポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供している。

## (2) 職員組織

| 職名      | 人員 |
|---------|----|
| 所長      | 1  |
| 次長      | 1  |
| 専門指導員   | 1  |
| 主査      | 1  |
| 指導員     | 3  |
| 教育指導専門員 | 1  |
| 体験活動指導員 | 5  |
| 運転手     | 2  |
| 環境整備員   | 1  |
| 事務補助員   | 2  |
| 計       | 18 |

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

### (2) 宿泊定員

- ア 本館定員 300名 (和室 28室)
- イ ロッジ定員 160名 (10棟)
- ウ テント定員 100名 (25張)

### (3) 敷地面積

350,171 m<sup>2</sup>

### (4) 建物面積

- ア 延床面積 6,696.97 m<sup>2</sup>
  - (ア) 中心施設
    - 本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)
    - 体育館
  - (イ) 野外施設
    - 管理棟、ロッジ、便所等

### (5) 野外活動施設面積

- ア つどいの広場 7,000 m<sup>2</sup>
- イ 多目的広場 8,890 m<sup>2</sup>
- ウ 自然観察園 4,050 m<sup>2</sup>
- エ みんなの広場 4,700 m<sup>2</sup>

## (6) 設備備品等

- ア 体育館
  - (バレーボールコート 2面、バスケットボールコート 1面 (バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート 2面、卓球台 3台、ピアノ 1台、キンボール ほか)
- イ 野営場
  - (野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか)
- ウ 野外活動設備
  - (フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場 5か所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース ほか)
- エ 多目的広場
  - (ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか)
- オ その他
  - (視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか)

## 3 利用状況

### (1) 令和元年度利用者数

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 延べ利用者数 | 38,808人              |
| 内訳     | 学校教育団体 193団体 20,380人 |
|        | 社会教育団体 246団体 15,691人 |
|        | ファミリー 8団体 132人       |
|        | 企画事業 2,605人          |

## 4 企画事業

### (1) 研修会事業

- ア 学校教育団体指導者事前研修会
  - (ア) 目的
    - 本所の利用にあたって、自主的、主体的な活動を展開するため、施設見学や実技研修を行い、研修計画の立案やその実施についての理解を深める。また、学校間で調整を図り、宿泊体験活動が円滑に実施できるようにする。
  - (イ) 期日、対象及び参加者数
    - ・期日 第1回平成 31年 4月 24日(水)～25日(木)
    - 第2回令和元年 5月 9日(木)～10日(金)
    - 第3回令和元年 5月 29日(水)～30日(木)
  - ・対象 令和元年度利用の学校教育団体
  - ・参加者数 (延べ人数)
    - 第1回 50名 第2回 47名 第3回 44名
  - (ウ) 研修内容
    - ・施設紹介と利用の仕方について
    - ・活動プログラムの紹介
    - ・活動計画書の作成・調整

## イ 社会教育団体指導者事前研修会（活動プログラム研修会）

### (ア) 目的

施設見学や実技研修を通して、自主的、主体的な活動の進め方や研修計画の立案や実施についての理解を深め、活動が円滑に実施できるようにする。

### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年5月17日(金)
- ・対象 令和元年7月1日以降の利用団体及び参加希望団体

- ・参加者数 34名

### (ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・海浜活動（磯遊び）

## ウ ボランティア養成講座

### (ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年5月12日(日) 参加者数 14名  
令和元年7月14日(日) 参加者数 5名  
令和元年9月29日(日) 参加者数 4名  
令和元年12月22日(日) 参加者数 5名
- ・対象 高校生、大学生、一般

### (ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

## (2) 利用促進事業

### ア 春のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）

連携：会津自然の家、郡山自然の家

### (ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解と利用促進を図る。また、子どもたちがボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性の育成を図る。

### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年5月19日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 993名

### (ウ) 内容

ファミリーゴルフ、マウンテンバイクなどのスポーツ体験で身体を動かし、缶バッジ作り、キーホルダー作りなどのクラフト体験を楽しんだ。いわき市内の高校生サークルによるフラダンスショー、パトカー・消防車両展示、タッチプールによる舟戸海岸に棲息する生物の展示など、地域の団体と連携したプログラムも提供し、好評を得た。また、野外炊飯（豚汁）、海浜レストラン、海浜風呂などでも楽しんだ。

## イ 遊ぼう！初夏の海で

### (ア) 目的

初夏の海で、釣りや磯遊びを楽しみながら、親子で協力して活動することで絆を深める。

### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年6月16日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 34名

### (ウ) 内容

久之浜漁港の堤防で魚釣りを楽しみながら、海への理解を深めた。釣りの補助に当たったボランティアスタッフとの交流により、子どもたちが感謝の気持ちを学ぶことで、豊かな人間性を育むことができた。

## ウ スポーツフェスティバル（未来キッズ生き生き事業）

※台風19号の影響による断水のため中止

## エ 秋のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）

※台風19号の影響による断水のため中止

## オ ふれあいオータムキャンプ

### (ア) 目的

自然のすばらしさや人とふれあう喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。

### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年11月9日(土)～10日(日)
- ・対象 小学生（4～6年生）
- ・参加者数 8名

### (ウ) 内容

四倉漁港・舟戸海岸を巡る海岸ウォークラリー、ネイチャーゲーム、キャンドルファイア、野外炊飯（豚汁、手打ちうどん）などを行い、参加者同士の親睦を深めた。いわき市内には台風19号の影響が残る地域もあり、参加者は例年より大幅に減少した。

## カ アウトドアクッキング

### (ア) 目的

自然の中で家族や仲間と協力して調理をする楽しさを体験しながら、参加者間の交流の機会を提供し、併せて、本所への理解及び利用促進を図る。

### (イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年11月17日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 22名

### (ウ) 内容

野外炊飯場のかまどを利用し、協力しながらダッチオーブを使った煮込みハンバーグ、直火での焼きリンゴ作りを行い、野外炊飯の楽しさや共同作業の大切を学んだ。

## キ 親子のつどい

### (ア) 目的

親子での共同作業による季節にふさわしい体験活動を通して、家族の絆を深めるとともに、他の家族との交流の促進を図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和元年12月14日(土)～15日(日)
  - ・対象 幼児から小学生とその家族
  - ・参加者数 27名

(ウ) 内容  
家族でクラフト体験(クリスマスリース作り)、  
野外炊飯(海鮮パエリア、オニオングラタンスープ、  
焼きバナナ)、交流ゲームなどを楽しんだ。

ク 冬を楽しもう!～スキー教室～

(ア) 目的  
雪で遊ぶことが少ないいわきの親子を対象に、会  
津地方のスキー場で県内の風土の豊かさを感じなが  
ら、冬の自然体験活動の楽しさを学ぶ。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年1月12日(日)
  - ・対象 小学生とその家族
  - ・参加者数 40名

(ウ) 内容  
裏磐梯スキー場でスキーやそり遊びなどのウィン  
タースポーツを体験した。

ケ クラフトのつどい

(ア) 目的  
創作活動の場を提供し、ものづくりの楽しみや生  
涯学習の振興を図る。自然の素材を生かしながらオ  
リジナル作品を作ることで、地域の豊かな自然環境  
を体感する。併せて、本所への理解及び利用促進を図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年2月16日(日)
  - ・対象 幼児から中学生とその家族
  - ・参加者数 332名

(ウ) 内容  
ジオードを割って水晶を探す体験、草木染め(藍  
染め)、革細工のキーホルダー作り、ストーンア  
ートなどの創作活動を楽しみ、段ボール迷路やトリム  
ランドで身体を動かした。

コ 森の音楽会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

### (3) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的  
本所のアスレチック施設等を利用して、身体を動  
かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を  
図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和元年11月17日(日) 参加者数 346名  
令和2年1月19日(日) 参加者数 168名  
令和2年2月9日(日) 参加者数 178名
  - ・対象 幼児から小学生とその家族

(ウ) 内容  
所内のアスレチックで身体を動かし、エアートラ  
ンポリンやラダーゲッター等の屋内スポーツ、凧あ  
げなどを楽しんだ。

### (4) 連携事業

ア ウィンターフェスティバル 主催:会津自然の家  
※暖冬の影響でスキー場の利用ができず中止

イ 出前講座(全7件)

(ア) 目的  
自然の家の活動内容の紹介と学校及び社会教育団  
体等への利用促進を図り、また、生涯学習支援をす  
る出前講座を行う。

- (イ) 期間、対象及び参加者数
- ・期日 平成31年4月1日(月)～  
令和2年3月31日(火)
  - ・参加者数 651名

(ウ) 内容  
県内の自然の家の企画事業や、いわき市内の生涯  
学習施設・公民館・老人福祉施設等で、クラフトの  
出前講座を実施。

# 第 10 章 文化財

## 第 1 節 文化財保護体制の充実

### 1 指定文化財保護体制の充実 (文化財パトロール)

例年、文化財保護体制の充実を図るため、民間の有識者を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その現況把握に努めてきた。令和元年度は県内 15 地区 175 件の文化財を巡視した。

### 2 文化財保護指導者研修会

#### (1) 趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、公益財団法人福島県文化振興財団と県教育委員会の共催により実施した。文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

#### (2) 期日及び場所

令和元年 10 月 17 日(木)～18 日(金)  
北塩原村生涯学習センター、柏木城跡(北塩原村)

#### (3) 内容

- ア 講義内容及び講師
  - (ア) 「柏木城跡の調査と保護―北塩原村の取組み―」  
布尾 和史(北塩原村教育委員会)
  - (イ) 「柏木城跡の歴史的経緯」  
高橋 明(福島県史学会)
  - (ウ) 「改正文化財保護法と大綱及び地域計画について」  
岡部 睦美(福島県教育庁文化財課)
- イ 現地研修  
柏木城跡(北塩原村) 見学

### 3 市町村文化財保護担当者会議

#### (1) 趣旨

県内市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえでの必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的として開催した。

#### (2) 期日及び場所

令和元年 6 月 3 日(月)  
福島県庁本庁舎 正庁

#### (3) 内容

- ア 文化行政の動向
- イ 令和元年度事業について
- ウ 指定文化財の対応について

## 第 2 節 埋蔵文化財の保護の充実

### 1 埋蔵文化財保護体制

県の歴史と文化を物語る文化財や県内の遺跡への関心は、県民の中で着実に高まっていることから、県教育委員会は、埋蔵文化財(遺跡)の保存・保護のため調査体制の充実を図ってきた。令和元年度は、他県及び公益財団法人福島県文化振興財団から 4 名の派遣を受けて、東日本大震災からの復旧・復興事業の埋蔵文化財調査のため、文化財課の体制を強化した。

#### 他県及び公益財団法人福島県文化振興財団からの派遣

| 派遣期間       | 県及び組織名(人数)                           |
|------------|--------------------------------------|
| H31.4～R2.3 | 岩手県(1)、新潟県(1)、<br>公益財団法人福島県文化振興財団(2) |

また、県の委託により発掘調査を行っている公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部においては、財団職員 21 名、派遣教員 1 名、財団間出向職員 4 名、計 26 名で調査にあたった。

#### 公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部職員数

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 年度 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 元  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 人員 | 26 | 26 | 30 | 40 | 44 | 47 | 47 | 55 | 60 | 60 | 62 | 62 | 62 | 62 |
| 年度 | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 人員 | 62 | 62 | 68 | 68 | 76 | 61 | 39 | 40 | 40 | 40 | 41 | 41 | 38 | 32 |
| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | R1 |    |    |    |    |
| 人員 | 26 | 26 | 35 | 40 | 39 | 37 | 32 | 30 | 32 | 26 |    |    |    |    |

(平成 14 年度までは遺跡調査課定数)

### 2 開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」・「試掘・確認調査」の結果により、事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

#### (1) 分布調査、試掘・確認調査

分布調査、試掘・確認調査は、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。

令和元年度は、一般国道 349 号 1,100 ㎡、県道いわき上三坂小野線 16,300 ㎡、只見川河川整備 3,500 ㎡、阿武隈川河川整備 31,100 ㎡、計 52,000 ㎡の試掘・確認調査を実施した。

なお、復興事業に係る埋蔵文化財調査については別記した。

#### (2) 保存協議

昨年度からの継続協議を含め、関係機関と保存協議を実施した。

関係機関：国土交通省、環境省、県土木部、県農林水産部、東北電力等。

### (3) 発掘調査

県教育委員会では、開発に伴う発掘調査（記録保存目的の本発掘調査）を公益財団法人福島県文化振興財団に委託し、以下の遺跡について実施した。

- ・会津縦貫南道路：栗林遺跡（下郷町）3,950 m<sup>2</sup>
- ・県道広野小高線（浪江工区）整備事業：鹿屋敷遺跡、赤坂D遺跡（浪江町）計 3,780 m<sup>2</sup>
- ・国道 114 号（山木屋 1 工区）改良工事：前田遺跡（川俣町）1,500 m<sup>2</sup>
- ・国道 289 号渡瀬 2 工区道路整備事業：姿平西製鉄遺跡、姿平西 A 遺跡（鮫川村）計 670 m<sup>2</sup>
- ・河川整備事業只見川筋：小和瀬遺跡（三島町）3,000 m<sup>2</sup>
- ・中間貯蔵建設予定地：銅谷迫遺跡・後迫 B 遺跡（双葉町）8,100 m<sup>2</sup>

なお、県内市町村においても開発に伴う発掘調査を各市町村文化財保護担当部局が実施しているが、遺跡の重要性や調査体制の実情に応じ、適時指導・助言している。

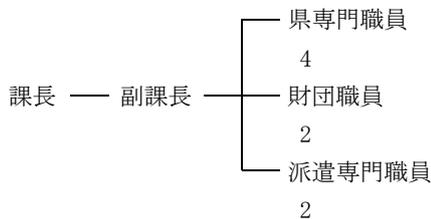
### 3 令和元年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況

東日本大震災及び原子力災害に係る復旧・復興事業計画区域内において、埋蔵文化財の分布調査、試掘・確認調査を迅速に実施し、復興事業計画に遅れが出ないように対応した。

また、被災市町村の復興事業に対しても、埋蔵文化財調査に係る技術協力を実施し、復興事業の迅速化に寄与してきた。

〈令和元年度〉復興調査体制

（南相馬市駐在）



調査対応した開発事業は以下のとおりである。

#### (1) 分布調査

農山村地域復興基盤総合整備、中間貯蔵施設等 2,809,151 m<sup>2</sup>

#### (2) 試掘・確認調査

農山村地域復興基盤総合整備、海岸防災林造成、中間貯蔵施設等 852,350 m<sup>2</sup>

#### (3) 災害復興に係る市町村技術協力

- ア 飯舘村  
携帯電話基地局建設に係る試掘・確認調査
- イ 大熊町  
特定復興再生拠点に係る分布調査
- ウ 広野町  
町道整備に係る試掘・確認調査、発掘調査
- カ 川俣町  
国道改良、河川改修、太陽光発電に係る試掘・確認調査  
土砂採取に係る発掘調査

### 4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

#### (1) 福島県文化財センター白河館文化財研修

公益財団法人福島県文化振興財団が指定管理を行っている福島県文化財センター白河館において、埋蔵文化財の調査を担当する自治体・団体職員などを対象とした研修会を実施し、195名が受講した。

#### (2) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修

令和元年度研修を受けた者は、以下のとおり。

| 研修名称       | 期 日               | 受 講 者              |
|------------|-------------------|--------------------|
| 出土木器調査課程   | 9月30日～<br>10月4日   | 公益財団法人福島県文化振興財団 1名 |
| 文化財三次元計測課程 | 11月18日～<br>11月22日 | 公益財団法人福島県文化振興財団 1名 |

### 5 埋蔵文化財保護普及活動

令和元年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

- ・福島県内遺跡分布調査報告 26
- ・一般国道 349 号関連遺跡発掘調査報告 1
- ・県道吉間田滝根線関連遺跡発掘調査報告 1
- ・県道広野小高線関連遺跡発掘調査報告 2
- ・一般国道 115 号相馬福島道路遺跡発掘調査報告 8
- ・東日本大震災復興関連遺跡調査報告 6
- ・平成 31・令和元年度中間貯蔵土壌貯蔵施設等工事予定地における埋蔵文化財調査業務報告書

### 6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

| 市町村   | 遺 跡 名     | 協力内容               |
|-------|-----------|--------------------|
| 湯川村   | 浜崎城跡・堂後遺跡 | 試掘・確認調査、<br>範囲確認調査 |
| 矢吹町   | 鬼穴古墳群     | 遺物整理・報告書<br>作成     |
| 広野町   | 東町VI遺跡    | 発掘調査               |
| 会津美里町 | 高田館跡      | 発掘調査               |
| 南会津町  | 鶴巣地区・荒海地区 | 分布調査               |
| 小野町   | 飯豊上地区     | 分布調査               |

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請により県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術を協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により公益財団法人福島県文化振興財団が選任した財団職員で、分布調査、試掘・確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

令和元年度の技術協力の実績は、前記のとおり。

## 7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数

### (1) 令和元年度 試掘・確認調査件数

(平成31年4月～令和2年3月)

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計   |
|-----|------------------|----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 1   | 道路               | 2  |     | 2  | 1  |     | 5  | 2   | 12  |
| 2   | 河川               | 1  | 1   |    | 1  |     | 1  |     | 4   |
| 3   | ダム               |    | 2   |    |    |     |    |     | 2   |
| 4   | 住宅               | 3  | 9   |    |    |     | 2  |     | 14  |
| 5   | 個人住宅             | 11 | 60  | 1  | 1  |     | 8  |     | 81  |
| 6   | 店舗               |    | 1   |    | 1  |     |    |     | 2   |
| 7   | その他建物            |    | 12  |    |    |     | 10 | 1   | 23  |
| 8   | 宅地造成             | 5  | 9   |    |    |     |    | 3   | 17  |
| 9   | 土地区画整理           |    |     |    |    |     | 1  |     | 1   |
| 10  | 公園造成             |    |     |    |    |     | 1  | 1   | 2   |
| 11  | 電気・ガス・水道等        | 1  |     |    |    |     | 1  |     | 2   |
| 12  | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | 1  | 4   |    |    |     | 13 | 1   | 19  |
| 13  | その他の農業関係事業       |    |     |    |    |     | 2  |     | 2   |
| 14  | 土砂採取             |    |     |    |    |     | 6  |     | 6   |
| 15  | その他開発            | 4  | 10  |    | 2  |     | 13 |     | 29  |
| 合 計 |                  | 28 | 108 | 3  | 6  |     | 63 | 8   | 216 |

### (2) 令和元年度 発掘調査件数

(平成31年4月～令和2年3月)

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|------------------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 道路               | 5  | 2  | 1  | 2  | 1   | 5  | 1   | 17 |
| 2   | 河川               |    |    |    | 1  |     |    |     | 1  |
| 3   | 学校建設             |    |    |    | 1  |     | 1  |     | 2  |
| 4   | 住宅               |    | 1  |    | 2  |     | 1  |     | 4  |
| 5   | 個人住宅             |    |    |    |    |     | 1  |     | 1  |
| 6   | その他建物            | 1  |    |    |    |     |    |     | 1  |
| 7   | 宅地造成             |    |    | 1  | 1  |     | 2  |     | 4  |
| 8   | 土地区画整理           |    |    |    |    |     |    | 1   | 1  |
| 9   | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | 1  |    | 2  | 4  |     |    |     | 7  |
| 10  | その他の農業関係事業       |    |    |    |    |     | 1  |     | 1  |
| 11  | 土砂採取             | 1  |    |    | 1  |     |    |     | 2  |
| 12  | その他開発            | 1  |    |    |    |     | 3  | 1   | 5  |
| 合 計 |                  | 9  | 3  | 4  | 12 | 1   | 14 | 3   | 46 |

## 8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査

| No  | 調査原因      | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|-----------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 範囲内容確認調査  | 4  | 1  | 3  | 4  |     | 6  | 2   | 20 |
| 2   | 史跡整備に係る調査 |    |    | 1  | 3  | 1   | 1  |     | 6  |
| 3   | 学術調査      |    | 1  |    | 1  |     |    |     | 2  |
| 合 計 |           | 4  | 2  | 4  | 8  | 1   | 7  | 2   | 28 |

## 9 令和元年度 試掘・確認調査

| No | 遺跡名             | 所在地                    | 調査主体者 | 調査実施期間                    | 調査面積<br>(㎡) | 時代          | 種別       | 調査原因   |
|----|-----------------|------------------------|-------|---------------------------|-------------|-------------|----------|--------|
| 1  | 鹿屋敷遺跡ほか4か所      | 浪江町大字棚塩字狐塚ほか           | 福島県教委 | 5月9日～1月23日                | 503         | 弥生・奈良・平安・中世 | 集落跡ほか    | 道路     |
| 2  | 鹿島地区遺跡推定地       | 南相馬市鹿島区大字北海老字鳥バミ       | 福島県教委 | 9月10日～9月12日               | 64          | —           | —        | 海岸防災林  |
| 3  | 右田・海老地区遺跡推定地3か所 | 南相馬市鹿島区北右田字高田ほか        | 福島県教委 | 4月11日～5月8日                | 101         | —           | —        | 農地整備   |
| 4  | 植ノ畑遺跡ほか1か所      | 南相馬市鹿島区上柘窪字川南ほか        | 福島県教委 | 8月26日～8月27日               | 99          | 縄文          | 散布地      | 農地整備   |
| 5  | 鹿島西部地区遺跡推定地     | 南相馬市鹿島区浮田字羽竜           | 福島県教委 | 11月14日                    | 42          | —           | —        | 農地整備   |
| 6  | 柚原古墳群           | 南相馬市鹿島区江垂字柚原、熊野前       | 福島県教委 | 11月21日～11月22日             | 95          | 古墳          | 古墳       | 農地整備   |
| 7  | 明地遺跡            | 南相馬市小高区女場字明地           | 福島県教委 | 8月6日                      | 70          | 不明          | その他(水田跡) | 農地整備   |
| 8  | 仏供田遺跡ほか8か所      | 南相馬市小高区上根沢字仏供田ほか       | 福島県教委 | 7月8日～2月10日                | 1,009       | 縄文・弥生・平安・中世 | 散布地・集落跡  | 農地整備   |
| 9  | 元屋敷遺跡ほか8か所      | 南相馬市小高区小谷字元屋敷ほか        | 福島県教委 | 6月3日～6月25日                | 838         | 縄文・古墳・奈良・平安 | 集落跡      | 農地整備   |
| 10 | 八重畑遺跡           | 南相馬市原町区中太田字八重畑         | 福島県教委 | 7月2日～7月3日                 | 25          | 奈良・平安       | 散布地      | 農地整備   |
| 11 | 藤橋地区遺跡推定地4か所    | 浪江町大字藤橋字藤橋             | 福島県教委 | 5月13日～5月22日               | 407         | —           | —        | 農地整備   |
| 12 | 上繁岡山根遺跡         | 檜葉町大字上繁岡字山根、八幡前        | 福島県教委 | 10月28日～10月31日             | 226         | 縄文・平安・中世・近世 | 散布地      | 農地整備   |
| 13 | 稻荷古墳ほか3か所       | 檜葉町山田岡字一升平ほか           | 福島県教委 | 11月25日～2月7日               | 496         | 古墳          | 古墳       | 農地整備   |
| 14 | 湯口遺跡ほか1か所       | 葛尾村大字葛尾字湯口ほか           | 福島県教委 | 9月24日～9月26日               | 145         | 近世          | 製鉄跡      | 農地整備   |
| 15 | 下木戸遺跡ほか1か所      | 田村市船引町北移字下木戸ほか         | 福島県教委 | 7月5日～2月19日                | 159         | 縄文・平安       | 散布地      | 農地整備   |
| 19 | 久保谷地A遺跡ほか17か所   | 双葉町大字郡山字久保谷地ほか         | 福島県教委 | 4月15日～12月24日              | 3,223       | 弥生・奈良・平安・中世 | 散布地・集落跡  | 中間貯蔵施設 |
| 20 | 八坂遺跡            | 大熊町大字熊坂字八坂地内           | 福島県教委 | 6月4日                      | 50          | 縄文・近世・近代    | 散布地      | 河川海岸   |
| 21 | 宮平遺跡            | 矢祭町大字下関河内字宮平           | 福島県教委 | 5月27日～28日                 | 46          |             |          | 道路     |
| 22 | いわき市遺跡推定地4か所    | いわき市添野町欠下・古防・砂方        | 福島県教委 | 6月17日～21日<br>11月25日～12月3日 | 442         |             |          | 道路     |
| 23 | 中丸城跡ほか1か所       | 金山町大字横田・大字越川           | 福島県教委 | 9月7日～13日                  | 85          |             |          | 河川海岸   |
| 24 | 徳定A・B遺跡ほか1か所    | 郡山市西田町鬼生田字黒田、田村町徳定・御代田 | 福島県教委 | 9月2日～11月8日                | 1,153       |             |          | 河川海岸   |

## 10 令和元年度 発掘調査

### (1) 県調査

| No | 遺跡名     | 所在地             | 調査主体者 | 調査実施期間       | 調査面積<br>(㎡) | 時代          | 種別      | 調査原因     |
|----|---------|-----------------|-------|--------------|-------------|-------------|---------|----------|
| 1  | 栗林遺跡    | 下郷町大字中妻字和田前、柳ノ下 | 福島県教委 | 4月10日～11月29日 | 3,950       | 縄文          | 集落跡     | 会津縦貫道路   |
| 2  | 鹿屋敷遺跡   | 浪江町大字棚塩字狐塚      | 福島県教委 | 5月28日～10月30日 | 2,380       | 縄文・弥生・古墳・奈良 | 集落跡     | 県道整備     |
| 3  | 赤坂D遺跡   | 浪江町大字棚塩字赤坂      | 福島県教委 | 10月15日～3月6日  | 1,400       | 古墳・奈良       | 生産遺跡    | 県道整備     |
| 4  | 前田遺跡    | 川俣町大字小綱木字前田     | 福島県教委 | 4月13日～3月10日  | 1,500       | 縄文・奈良・平安    | 低湿地・集落跡 | 国道114号改良 |
| 5  | 小和瀬遺跡   | 三島町大字桧原字小和瀬     | 福島県教委 | 4月15日～10月31日 | 3,000       | 縄文・弥生       | 集落跡     | 河川整備     |
| 6  | 姿平西製鉄遺跡 | 鮫川村大字渡瀬字青生野     | 福島県教委 | 4月8日～7月31日   | 470         | 縄文・近世・近代    | 生産遺跡    | 国道289号整備 |
| 7  | 姿平西A遺跡  | 鮫川村大字渡瀬字青生野     | 福島県教委 | 6月14～6月26日   | 200         | 近世          | 生産遺跡    | 国道289号整備 |
| 8  | 銅谷迫遺跡   | 双葉町大字郡山字銅谷迫     | 福島県教委 | 4月15日～12月20日 | 5,400       | 弥生・奈良・近世    | 集落遺跡    | 中間貯蔵施設   |
| 9  | 後迫B遺跡   | 双葉町大字郡山字後迫      | 福島県教委 | 7月22日～12月25日 | 2,700       | 弥生・奈良・平安    | 集落跡     | 中間貯蔵施設   |

## 第3節 文化財保存助成の充実

### 1 文化財保存助成事業

国指定文化財の防災設備保守点検等の管理に必要な経費について、助成を行った。

| 事業区分            | 補助事業者 | 名称         | 種別  | 事業内容    | 金額(単位:円) |         |         |         |
|-----------------|-------|------------|-----|---------|----------|---------|---------|---------|
|                 |       |            |     |         | 事業費      | 国庫補助    | 県費補助    | その他     |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 八葉寺   | 八葉寺阿弥陀堂    | 建造物 | 防災保守点検等 | 800,650  | 200,000 | 200,000 | 400,650 |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 延命寺   | 延命寺地蔵堂     | 建造物 | 防災保守点検等 | 63,000   | 15,500  | 15,500  | 32,000  |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 飯盛正徳  | 旧正宗寺三匠堂    | 建造物 | 防災保守点検等 | 500,790  | 125,000 | 125,000 | 250,790 |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 横山操   | 旧滝沢本陣横山家住宅 | 建造物 | 防災保守点検等 | 123,700  | 30,500  | 30,500  | 62,700  |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 勝福寺   | 勝福寺観音堂     | 建造物 | 防災保守点検等 | 68,580   | 17,000  | 17,000  | 34,580  |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 熊野神社  | 熊野神社長床     | 建造物 | 防災保守点検等 | 160,780  | 40,000  | 40,000  | 80,780  |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 円満寺   | 円満寺観音堂     | 建造物 | 防災保守点検等 | 348,200  | 87,000  | 87,000  | 174,200 |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 飯野八幡宮 | 飯野八幡宮      | 建造物 | 防災保守点検等 | 775,027  | 193,500 | 193,500 | 388,027 |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 福生寺   | 福生寺観音堂     | 建造物 | 防災保守点検  | 51,580   | 12,500  | 12,500  | 26,580  |

| 事業区分            | 補助事業者 | 名称           | 種別  | 事業内容    | 金額（単位：円）  |         |         |           |
|-----------------|-------|--------------|-----|---------|-----------|---------|---------|-----------|
|                 |       |              |     |         | 事業費       | 国庫補助    | 県費補助    | その他       |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 常福院   | 常福院薬師堂       | 建造物 | 防災保守点検  | 47,225    | 11,000  | 12,000  | 24,225    |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 法用寺   | 法用寺本堂内厨子及び仏壇 | 建造物 | 防災保守点検  | 40,490    | 10,000  | 10,000  | 20,490    |
| 国指定文化財の管理に関する事業 | 恵隆寺   | 恵隆寺観音堂       | 建造物 | 雪降し、除雪等 | 0         | 0       | 0       | 0         |
| 計               | 12件   |              |     |         | 2,980,022 | 742,000 | 743,000 | 1,495,022 |

## 2 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業（保存事業）とそれらの文化財を活用した事業（活用事業）を一体的に行った事業（保存活用事業）に必要な経費について、助成を行った。

### (1) 国指定文化財

| 事業区分    | 補助事業者 | 名称    | 種別  | 事業内容 | 金額（単位：円）    |            |           |            |
|---------|-------|-------|-----|------|-------------|------------|-----------|------------|
|         |       |       |     |      | 事業費         | 国庫補助       | 県費補助      | その他        |
| 建造物保存修理 | 専称寺   | 専称寺本堂 | 建造物 | 防災工事 | 112,192,000 | 94,761,000 | 2,500,000 | 14,931,000 |
| 計       | 1件    |       |     |      | 112,192,000 | 94,761,000 | 2,500,000 | 14,931,000 |

### (2) 県指定文化財

| 事業区分    | 補助事業者 | 名称               | 種別  | 事業内容       | 金額（単位：円）   |      |            |            |
|---------|-------|------------------|-----|------------|------------|------|------------|------------|
|         |       |                  |     |            | 事業費        | 国庫補助 | 県費補助       | その他        |
| 記念物保存修理 | 八幡神社  | 旧梁川亀岡八幡宮並びに別当寺境域 | 史跡  | 本殿修復工事     | 24,293,085 | 0    | 8,090,000  | 16,203,085 |
| 建造物保存修理 | 国見町   | 旧佐藤家住宅           | 建造物 | 屋根修復工事     | 6,302,620  | 0    | 2,100,000  | 4,202,620  |
| 建造物保存修理 | 南会津町  | 旧猪股家住宅           | 建造物 | 屋根修復工事     | 10,838,520 | 0    | 2,520,000  | 8,318,520  |
| 建造物保存修理 | いわき市  | 旧樋口家住宅           | 建造物 | 住宅修復工事     | 10,502,800 | 0    | 2,450,000  | 8,052,800  |
| 記念物保存修理 | 矢吹町   | 鬼穴古墳群            | 史跡  | 測量調査及び実施設計 | 1,500,417  | 0    | 500,000    | 1,000,417  |
| 計       | 5件    |                  |     |            | 53,437,442 | 0    | 15,660,000 | 37,777,442 |

## 3 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

台風19号等により被災した国指定文化財の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

| 事業区分 | 補助事業者 | 名称         | 種別 | 事業内容   | 金額（単位：円）    |            |            |            |
|------|-------|------------|----|--------|-------------|------------|------------|------------|
|      |       |            |    |        | 事業費         | 国庫補助       | 県費補助       | その他        |
| 災害復旧 | 白河市   | 白川城跡       | 史跡 | 災害復旧工事 | 129,800,000 | 90,860,000 | 19,470,000 | 19,470,000 |
| 災害復旧 | 白河市   | 南湖公園       | 史跡 | 災害復旧工事 | 62,300,000  | 43,610,000 | 9,345,000  | 9,345,000  |
| 災害復旧 | 白河市   | 白河舟田・本沼遺跡群 | 史跡 | 災害復旧工事 | 2,332,736   | 1,632,000  | 350,000    | 350,736    |

| 事業区分 | 補助事業者    | 名称       | 種別     | 事業内容   | 金額（単位：円）    |             |            |            |
|------|----------|----------|--------|--------|-------------|-------------|------------|------------|
|      |          |          |        |        | 事業費         | 国庫補助        | 県費補助       | その他        |
| 災害復旧 | いわき市     | 白水阿弥陀堂境域 | 史跡     | 災害復旧工事 | 8,970,500   | 6,279,000   | 1,345,000  | 1,346,500  |
| 災害復旧 | 相馬野馬追保存会 | 相馬野馬追    | 重要無形民俗 | 災害復旧工事 | 40,301,000  | 20,150,000  | 10,075,000 | 10,076,000 |
| 計    | 5件       |          |        |        | 243,704,236 | 162,531,000 | 40,585,000 | 40,588,236 |

※ 白河市（白川城跡、南湖公園）及び相馬野馬追保存会（相馬野馬追）は、令和2年度に繰越。

## 第4節 文化財の保護と公開の推進

### 1 第61回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知するとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

期 日 令和元年 10月26日 リハーサル・実行委員会

10月27日 開会式・民俗芸能公開

場 所 やまぎんホール（山形県山形市）

公開演目 本県出演団体 1団体

「絹谷の獅子舞」絹谷獅子舞保存会（いわき市）

### 2 文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11月1日から11月7日までの文化財保護強調週間を中心に、チラシを配布し、県民に対し啓発を行った。

### 3 文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者・管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月26日の文化財防火デーを中心に、チラシを配布するなど啓発を行った。

また、各市町村においては、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

## 第5節 銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品としての価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

### 1 登録審査委員

佐藤安弘、阿部榮、溝井辰美、塚本剛之

### 2 登録審査会の実施状況

| 期 日    | 会 場       | 審査数 | 失格数 | 登録数 | 登録数の内訳 |     |
|--------|-----------|-----|-----|-----|--------|-----|
|        |           |     |     |     | 刀 剣    | 銃 砲 |
| 5月16日  | いわき合同庁舎   | 19  | 0   | 19  | 19     | 0   |
| 7月18日  | 郡山市労働福祉会館 | 49  | 0   | 49  | 48     | 1   |
| 9月2日   | 会津若松合同庁舎  | 21  | 2   | 19  | 19     | 0   |
| 11月14日 | あづま荘      | 51  | 1   | 50  | 50     | 0   |
| 2月7日   | 郡山市労働福祉会館 | 60  | 0   | 60  | 53     | 7   |
| 計      |           | 200 | 3   | 197 | 189    | 8   |

※ 再交付に係る審査を除く。

### 3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況

| 区 分   | 銃 砲 等 | 刀 剣 類 |
|-------|-------|-------|
| 譲 受 け | 24    | 344   |
| 相 続   | 3     | 73    |
| 貸 付   | 0     | 0     |
| 保管の委託 | 1     | 6     |
| 計     | 28    | 423   |

## 第6節 福島県文化財センター白河館の運営状況

### 1 入館者数

令和元年度の入館者は23,679人であり、前年度の入館者(26,731人)に比べ3,052人減少した。団体利用は、前年度に比べ990名減少した。平成13年7月の開館からの延べ入館者数は、564,756人となった。

(令和2年3月31日現在)

| 月   | 入館者数(人) | 1日平均入館者数(人) |
|-----|---------|-------------|
| 4月  | 2,355   | 91          |
| 5月  | 3,135   | 116         |
| 6月  | 2,250   | 87          |
| 7月  | 2,418   | 93          |
| 8月  | 2,755   | 98          |
| 9月  | 1,939   | 78          |
| 10月 | 1,405   | 52          |
| 11月 | 2,332   | 90          |
| 12月 | 1,270   | 55          |
| 1月  | 1,070   | 47          |
| 2月  | 1,835   | 73          |
| 3月  | 915     | 35          |
| 計   | 23,679  | 77          |

### 2 入館者の内訳と傾向

地域別利用状況 県内者 79.3% (うち総入館者数に占める白河市の割合 37.9%)

県外者 20.7%

年齢層別利用状況 入館者全体のうち、児童生徒(高校生以下)が40.2%、団体入館者が28.9%を占める。

### 3 団体利用者の内訳と傾向

(単位 人) (令和2年3月31日現在)

|         |      | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月 | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計     |
|---------|------|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|
| 幼稚園・保育園 | 団体数  | 1   |     | 2   | 1   |    | 1   |     |     |     | 1  |    |    | 6     |
|         | 入館者数 | 15  |     | 83  | 35  |    | 6   |     |     |     | 13 |    |    | 152   |
| 小学校     | 団体数  | 14  | 7   | 13  | 6   |    | 5   | 2   | 5   | 4   | 2  | 1  |    | 59    |
|         | 入館者数 | 493 | 440 | 601 | 414 |    | 458 | 152 | 260 | 97  | 92 | 35 |    | 3,042 |
| 中学校     | 団体数  | 1   |     |     |     | 1  | 1   |     |     | 1   |    |    |    | 4     |
|         | 入館者数 | 24  |     |     |     | 79 | 49  |     |     | 13  |    |    |    | 165   |
| 高等学校    | 団体数  |     |     |     |     |    | 1   |     |     |     |    |    |    | 1     |
|         | 入館者数 |     |     |     |     |    | 5   |     |     |     |    |    |    | 5     |

|                         |      | 4月   | 5月   | 6月    | 7月    | 8月   | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月  | 3月 | 計     |
|-------------------------|------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|-----|----|-------|
| 支援学校                    | 団体数  |      |      |       |       |      |      |      |      | 1    |      |     |    | 1     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      |      |      |      | 28   |      |     |    | 28    |
| 大学                      | 団体数  |      | 1    |       | 1     | 2    |      |      | 2    |      |      |     |    | 6     |
|                         | 入館者数 |      | 105  |       | 9     | 25   |      |      | 31   |      |      |     |    | 170   |
| 幼小中高PTA<br>(保護者のみ)      | 団体数  |      |      |       |       |      |      |      | 1    |      |      |     |    | 1     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      |      |      | 33   |      |      |     |    | 33    |
| 幼小中高PTA<br>(保護者と児童生徒)   | 団体数  |      |      | 7     | 6     |      | 2    |      |      |      |      |     |    | 15    |
|                         | 入館者数 |      |      | 349   | 281   |      | 110  |      |      |      |      |     |    | 740   |
| 研究会                     | 団体数  |      | 1    |       | 1     |      | 1    |      |      |      |      |     |    | 3     |
|                         | 入館者数 |      | 22   |       | 42    |      | 42   |      |      |      |      |     |    | 106   |
| 子ども会                    | 団体数  |      |      |       | 2     |      | 1    |      |      |      |      |     |    | 3     |
|                         | 入館者数 |      |      |       | 29    |      | 64   |      |      |      |      |     |    | 93    |
| 公民館等                    | 団体数  | 1    | 3    | 2     | 5     | 1    | 1    | 4    | 2    | 3    | 1    |     |    | 23    |
|                         | 入館者数 | 23   | 98   | 61    | 258   | 13   | 11   | 98   | 33   | 33   | 13   |     |    | 641   |
| 福祉施設・<br>デイケアサービス       | 団体数  | 3    | 1    |       | 3     | 3    | 2    | 2    | 4    | 1    | 1    |     |    | 20    |
|                         | 入館者数 | 68   | 24   |       | 29    | 87   | 48   | 25   | 33   | 10   | 19   |     |    | 343   |
| 資料館等                    | 団体数  |      |      |       |       |      | 1    |      | 1    |      |      |     |    | 2     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      | 20   |      | 31   |      |      |     |    | 51    |
| 歴史研究団体                  | 団体数  | 1    | 1    | 1     |       |      |      | 1    | 2    |      | 1    |     |    | 7     |
|                         | 入館者数 | 10   | 15   | 33    |       |      |      | 15   | 40   |      | 13   |     |    | 126   |
| 県・市町村・<br>教委・審議会等       | 団体数  |      |      |       |       |      |      | 2    | 1    |      |      |     |    | 3     |
|                         | 入館者数 |      |      |       |       |      |      | 41   | 16   |      |      |     |    | 57    |
| その他                     | 団体数  | 1    | 3    | 3     | 4     | 6    | 2    | 6    | 6    | 4    | 1    | 2   |    | 38    |
|                         | 入館者数 | 10   | 88   | 41    | 88    | 400  | 33   | 94   | 200  | 113  | 7    | 38  |    | 1,112 |
| 計                       | 団体数  | 22   | 17   | 28    | 29    | 13   | 18   | 17   | 24   | 14   | 7    | 3   | 0  | 192   |
|                         | 入館者数 | 643  | 792  | 1,168 | 1,185 | 604  | 846  | 425  | 677  | 294  | 157  | 73  | 0  | 6,864 |
| 総入館者に占める<br>団体入館者の割合(%) |      | 27.3 | 25.3 | 51.9  | 49.0  | 21.9 | 43.6 | 30.3 | 29.0 | 23.2 | 14.7 | 4.0 | 0  | 29.0  |

#### 4 情報発信事業の利用者

ホームページアクセス件数 51,759 件

(令和2年3月31日現在)

(文化財データベースのほか、福島県文化財センター白河館のイベント情報等をホームページで紹介している。)

#### 5 資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品等 56,760 箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理している。  
写真掲載・転載の申し込み 30 件、出土品借受の申し込み 13 件、収蔵庫保管品の館内閲覧 21 件であった。

#### 6 研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、文化財保護指導者、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

| 区分           | 研修対象者                          | 研修内容                                                  |
|--------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 基礎研修<br>(2回) | 市町村職員<br>等                     | 市町村が直面する課題や先行実践例の検証などを通して、文化財保護法改定後の文化財保護行政のあり方を議論する。 |
| 専門研修<br>(2回) | 市町村職員、<br>市町村文化<br>財保護指導<br>者等 | 市町村文化財保護行政の実践例を現地で検証したり、デジタル技術を駆使した最新の調査・記録技術を学ぶ。     |
| 特別研修<br>(2回) | 市町村職員<br>等                     | 市町村の要望に応じて館内外において随時実施。                                |

参加者：合計 214 名

**令和元年度研修実施状況** (令和2年3月31日現在)

- ・基礎研修 (2回)
  - 「第1回文化財保護行政実務者研修」7月 5日 参加者 16名
  - 「第2回文化財保護行政実務者研修」8月 9日 参加者 22名
- ・専門研修 (2回)
  - 「文化財保護指導者研修会」(開催場所:北塩原村生涯学習センター) 10月17日～18日 参加者のべ148名
  - 「遺構・遺物の簡易なデジタル実測法」 2月 6日 参加者 18名
- ・特別研修 (2回)
  - 「ジオラマ作成研修」 5月24日 参加者 3名
  - 「文化財保管環境研修」 8月29日 参加者 7名

し、関連性・継続性のあるメニューを年間で実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

- ・まほろん森の塾
  - 第1回「入塾式・大豆種まき・田植え」 6月17日 参加者7名
  - 第2回「すり鉢づくり・鋳型づくり」 7月 7日 参加者7名
  - 第3回「ガラス玉づくり」 10月 6日 参加者6名
  - 第4回「味噌づくり」 11月10日 参加者6名
  - 第5回「森の塾活動報告会」 12月22日 参加者7名
- ・実技講座
  - 「カラムシコースターづくり①刈り取り・苧ひき」 7月21日 参加者 3名
  - 「カラムシコースターづくり②糸づくり」 7月28日 参加者 3名
  - 「カラムシコースターづくり③アンギン編み」 9月 1日 参加者 3名
  - 「土器づくり初級編①土器づくり」 8月 4日 参加者 4名
  - 「土器づくり初級編②野焼き」 9月29日 参加者 0名
  - 「縄文時代のオカリナづくり」 8月25日 参加者16名
  - 「縄文土器づくり上級編①成形・施文」 1月18日 参加者10名
  - 「縄文土器づくり上級編②施文・赤彩」 1月19日 参加者10名
  - 「縄文土器づくり上級編③ミガキ」 1月21日～23日 参加者13名
  - 「縄文土器づくり上級編④野焼き」 3月 1日 参加者 8名

**7 体験学習事業の状況**

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室、別棟として体験学習館を設けている。また、野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代の家、前方後円墳、奈良時代の家、奈良時代の倉庫、製鉄炉、室町時代の館を復元展示している。

**(1) いつでもできる体験学習**

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体で体験学習を希望する場合作対象とするものを用意している。内容は、「勾玉づくり」「管玉づくり」「火おこしに挑戦」のほか、月替わりの期間限定メニューを用意している。

**常時体験型体験活動状況** (令和2年3月31日現在)

| 月   | 来館者数(人) | 体験者数(人) | 割合(%) |
|-----|---------|---------|-------|
| 4月  | 2,355   | 2,205   | 93.6  |
| 5月  | 3,135   | 3,226   | 102.9 |
| 6月  | 2,250   | 1,788   | 79.5  |
| 7月  | 2,418   | 2,470   | 102.1 |
| 8月  | 2,755   | 1,738   | 63.1  |
| 9月  | 1,939   | 1,905   | 98.2  |
| 10月 | 1,405   | 811     | 57.7  |
| 11月 | 2,332   | 799     | 34.3  |
| 12月 | 1,270   | 836     | 65.8  |
| 1月  | 1,070   | 823     | 76.9  |
| 2月  | 1,835   | 588     | 32.0  |
| 3月  | 915     | 1       | 0.1   |
| 計   | 23,679  | 17,190  | 72.6  |

※ 体験者数は1人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

**(2) 募集型体験学習**

事前に参加者を募集して土器づくり、からむし織りなどの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集

**(3) 体験イベント**

- 「ゴールデンウィークまほろん特別体験」 4月27日～5月5日 参加者2,329名
- 「まほろん夏休み特別体験」 8月10日～18日 参加者1,402名
- 「まほろん感謝デー」 11月 3日 参加者 641名
- 「まほろん冬まつり」 2月16日 参加者 520名

**(4) 館外体験学習**

ア おでかけまほろん

福島県文化財センター白河館の職員が、小中学校等教育機関を対象として職員が出向き、収蔵資料等を活用した学習や体験学習を教職員と協働で行うプログラム。平成31年度は15校で実施し、参加者数は合計311名であった。

- 第1回 会津若松市立神指小学校 6月 6日 参加者 30名
- 第2回 会津美里町立新鶴小学校 6月 6日 参加者 32名
- 第3回 古殿町立古殿小学校 6月13日 参加者 42名
- 第4回 いわき市立入遠野小学校 6月20日 参加者 21名
- 第5回 郡山市立安子島小学校 6月27日 参加者 14名
- 第6回 伊達市立石田小学校 7月 4日 参加者 9名
- 第7回 福島県立会津支援学校竹田校(会津若松市) 7月11日 参加者 5名
- 第8回 平田村立小平小学校 7月18日 参加者 22名
- 第9回 郡山市立御館小学校 9月 5日 参加者 25名

- 第10回 福島県立猪苗代支援学校（猪苗代町）  
9月19日 参加者 13名
- 第11回 二本松市立新殿小学校 11月 7日 参加者 19名
- 第12回 南相馬市立原町第二小学校  
11月28日 参加者 36名
- 第13回 田村市立船引南中学校 12月 5日 参加者 26名
- 第14回 会津若松市南公民館 12月 8日 参加者 6名
- 第15回 福島県立西郷支援学校（西郷村）  
12月19日 参加者 11名

#### イ 生涯学習行事への出展

生涯学習施設や地元機関等が主催するに行事に職員が出向き、収蔵資料等を活用したミニ展示や体験学習を行うプログラムを実施。令和元年度は5か所で実施し、2,784名が参加した。

- 第1回 国立磐梯青少年交流の家 6月2日 参加者 192名
- 第2回 夏休みキッズワールド（福島民報社主催）  
8月6日～7日 参加者 59名
- 第3回 国立那須甲子青少年自然の家  
10月6日 参加者 141名
- 第4回 大玉村文化祭 10月19日 参加者 168名
- 第5回 那須高原ビジターセンター  
11月16日～17日 参加者 1,923名

## 8 講演会・講習会

文化財に親しみ、文化財への理解を深めるために、講演会や講座を開催した。

- ア 館長講演会 5回開催
- 第1回「大正11年、ピラミッド頂上の日章旗—ツタンカーメンのミイラが甦った時代—」 5月25日 聴講者 31名
- 第2回「考古学から心を探るために—先史～古代日本の精神文化—」 7月27日 聴講者 39名
- 第3回「『縄文世界遺産』はいまどうなっているのか？」  
9月28日 聴講者 35名
- 第4回「文化財保護法の改定と世界遺産の理念—首里城の火災に思う—」 12月14日 聴講者 35名
- 第5回「考古ニュースを解説する」 2月8日 聴講者 38名

#### イ 文化財講演会

- 「縄文土器編年と放射性炭素年代測定—縄文時代早・前期を中心に—」 6月22日 聴講者 60名
- 「気候変動と人類の歴史—おだやかな時代はいつまで続くのか—」 8月12日 聴講者 82名
- 「福島県の横穴壁画を解く—渦文の宇宙—」  
10月12日 聴講者 22名
- 「縄文土器の文様の描き方」 11月23日 聴講者 55名

#### ウ 文化財講座

- 「縄文時代・弥生時代の年代」 8月12日 聴講者 72名

#### エ シンポジウム

- 「鉄の道をたどる」 3月7日～8日 中止

## 9 常設展事業

常設展示室では、収蔵遺物や復元品を、「見て、触れて、考え、学ぶ」というプロセスを通じて理解しやすい形で展示している。常設展示では、次の各展示コーナーにより構成される。「暮らしのうつりかわり」「みんなの研究ひろば」「しらかわ歴史名場面」「話題の遺跡」については展示替えを積極的に行い、歴史や文化財等に関する新鮮な情報を提供した。

- 暮らしのうつりかわり（昭和～縄文時代の出土品等）
- みんなの研究ひろば（相馬高校郷土部のキセキ展等）
- しらかわ歴史名場面（中通り南部の製鉄遺跡等）
- 話題の遺跡（まほろん収蔵資料の年代測定資料の紹介等）
- 重要文化財公開（国指定法定正尻遺跡出土品）
- プロムナードギャラリー等でのミニ展示及び展示替え
  - ・「まほろんの逸品」（赤柴遺跡出土 葉莢等）
  - ・「新春干支特別展示」（上吉田遺跡出土「子」墨書須恵器等）

## 10 企画展事業

特別展示室では、指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。

### (1) 特集展

- 「子どものための特集展」  
4月16日～5月12日 観覧者3,614名

### (2) 収蔵資料展

- 「時を測る—縄文・弥生時代の年代—」  
6月15日～8月25日 観覧者6,240名

### (3) 指定文化財展

- 「渦文—時を超える文様—」  
9月28日～12月15日 観覧者4,812名

### (4) ふくしま歴史探訪展

- 「ふくしま鉄ものがたり—鉄滓の山から読み解く歴史—」  
2月1日～3月29日 観覧者2,723名

### (5) 移動展

自治体・関係機関等と連携して、移動展を実施した。

- 「はま・なか・あいづ再生史」6月7日～7月3日 福島県立図書館共催（場所：福島県立図書館）観覧者 736名
- 「大熊の記憶」11月18日～19日 ライフミュージアムネットワーク（福島県立博物館事務局）共催（場所：大熊町役場新庁舎）観覧者 125名
- 「郷土史を愛する心—山内幹夫コレクション展—」令和2年1月23日～2月3日 檜葉町教育委員会共催（場所：檜葉町コミュニティーセンター）観覧者 200名

## 11 ボランティア運営事業

### (1) 「まほろんボランティア」の活動状況

- 施設・展示の案内  
体験学習用器材の整備など  
ボランティア連絡会（8回開催）

### (2) 登録数

- 個人ボランティア 32名

## 12 市町村への技術支援の状況

文化財保護に対する個別の技術支援が必要な市町村に対して、専門職員の派遣を実施する。平成31年度は、4市町に対し計11回、延べ23人の職員を派遣した。

- ・ 台風19号にともなう被災文化財保全技術支援
  - 本宮市(5回)
  - 田村市(2回)
  - 伊達市(3回)
- ・ 出土品の劣化防止に関する技術支援
  - 会津坂下町(1回)

# 第 11 章 福利厚生

## [教職員の健康管理・福利厚生事業]

### 第 1 節 概要

- (1) 教職員の健康管理については、教職員の安全確保と健康の保持増進のため、労働安全衛生法や学校保健安全法等に基づき各種事業を実施した。
- (2) 保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施するとともに、教職員人間ドック等をはじめとする健診事業を県、市町村、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会等が連携を図り、実施した。教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成事業等を実施した。

また、教職員の生涯生活設計の推進のためのライフプラン講座、教職員の健康管理意識を高めるため、生活習慣病、メンタルヘルス等に関する各種セミナー事業を実施し、教職員の心身の健康づくりを支援した。さらに、ふくしま教職員こころのケア事業等をはじめとする各種相談事業やストレスチェック事業を実施し、メンタルヘルス対策の充実を図った。

主な事業と実績は、以下のとおりである。

### 第 2 節 事業実績

#### 1 教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、各種健康診断、ストレスチェック事業等を実施した。

##### (1) 雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

###### ア 健康診断実施状況

| 受診者   | 異常なし |       | 要注意者 |       | 要精密検査者 |       | 治療中 |      |
|-------|------|-------|------|-------|--------|-------|-----|------|
|       | 人数   | 割合    | 人数   | 割合    | 人数     | 割合    | 人数  | 割合   |
| 138 人 | 51 人 | 37.0% | 35 人 | 25.4% | 45 人   | 32.6% | 7 人 | 5.1% |

###### イ 検査項目ごとの状況

| 検査項目   | 聴力   | 血圧   | 血液   | 脂質    | 肝機能  | 血糖   | 尿    | 心電   | 胸部   |
|--------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|
| 受診者    | 138  | 138  | 138  | 138   | 138  | 130  | 137  | 137  | 136  |
| 異常なし   | 135  | 120  | 117  | 93    | 113  | 108  | 125  | 127  | 133  |
| 要注意者   | 0    | 12   | 13   | 20    | 13   | 22   | 0    | 8    | 2    |
| 要精密検査者 | 3    | 5    | 6    | 20    | 12   | 0    | 12   | 2    | 1    |
| 治療中    | 0    | 1    | 2    | 5     | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    |
| 要精密検査率 | 2.2% | 3.6% | 4.3% | 14.5% | 8.7% | 0.0% | 8.8% | 1.5% | 0.7% |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が 1 人で 2 つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

##### (2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

###### ア 健康診断実施状況

| 区分     |    | 受診者   | 異常なし | 要注意者  | 要精密検査者 | 治療中   |
|--------|----|-------|------|-------|--------|-------|
| 35 歳以上 | 男性 | 3,161 | 96   | 821   | 1,124  | 1,120 |
|        | 女性 | 2,160 | 212  | 807   | 709    | 432   |
|        | 計  | 5,321 | 308  | 1,628 | 1,833  | 1,552 |
| 35 歳未満 | 男性 | 666   | 173  | 240   | 210    | 43    |
|        | 女性 | 653   | 288  | 172   | 161    | 32    |
|        | 計  | 1,319 | 461  | 412   | 371    | 75    |
| 合計     | 男性 | 3,827 | 269  | 1,061 | 1,334  | 1,163 |
|        | 女性 | 2,813 | 500  | 979   | 870    | 464   |
|        | 計  | 6,640 | 769  | 2,040 | 2,204  | 1,627 |

イ 検査項目ごとの状況

| 検査項目   | 聴力    |       | 血圧    |       | 血液一般  |       | 血中脂質  |       | 肝機能   |       | 腎機能   |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 35歳未満 | 35歳以上 |
| 受診者    | 1,314 | 5,303 | 1,317 | 5,318 | 1,316 | 5,309 | 1,316 | 5,308 | 1,316 | 5,089 | 1,316 | 5,307 |
| 異常なし   | 1,305 | 4,596 | 1,155 | 3,456 | 1,060 | 4,014 | 824   | 2,746 | 1,050 | 3,192 | 1,141 | 4,305 |
| 要注意者   | 0     | 198   | 116   | 704   | 199   | 944   | 253   | 1,070 | 154   | 1,375 | 110   | 753   |
| 要精密検査者 | 9     | 309   | 30    | 447   | 46    | 213   | 191   | 860   | 109   | 427   | 65    | 232   |
| 治療中    | 0     | 200   | 16    | 711   | 11    | 138   | 48    | 632   | 3     | 95    | 0     | 17    |
| 要精密検査率 | 0.7%  | 5.8%  | 2.3%  | 8.4%  | 3.5%  | 4.0%  | 14.5% | 16.2% | 8.3%  | 8.4%  | 4.9%  | 4.4%  |

| 検査項目   | 血糖    |       | 尿     |       | 心電図   |       | 胃エックス線 |       | 大腸がん  |       | 眼底    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満  | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 | 35歳未満 | 35歳以上 |
| 受診者    | 1,248 | 5,312 | 1,301 | 5,229 | 1,317 | 5,290 | /      | 4,035 | /     | 4,832 | /     | 5,207 |
| 異常なし   | 1,108 | 2,547 | 1,212 | 4,834 | 1,188 | 4,108 |        | 3,475 |       | 4,146 |       | 4,811 |
| 要注意者   | 132   | 2,132 | 0     | 2     | 102   | 804   |        | 430   |       | 392   |       | 65    |
| 要精密検査者 | 8     | 236   | 89    | 386   | 27    | 369   |        | 128   |       | 282   |       | 284   |
| 治療中    | 0     | 397   | 0     | 7     | 0     | 9     |        | 2     |       | 12    |       | 47    |
| 要精密検査率 | 0.6%  | 4.4%  | 6.8%  | 7.4%  | 2.1%  | 7.0%  |        | 3.2%  |       | 5.8%  |       | 5.5%  |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

| 受診者    | 異常なし   | 要注意者 | 要精密検査者 | 治療中 | 要精密検査率 |
|--------|--------|------|--------|-----|--------|
| 6,405人 | 6,150人 | 201人 | 42人    | 12人 | 0.7%   |

(4) 教職員ストレスチェック事業（県）

教育庁及び県立学校等教職員

（令和元年7～11月実施）

検査を受けた職員数、率 6,728人、97.4%

(5) VDT作業従事教職員健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者数 5,196人

(6) 警戒区域等で業務に従事した職員の健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者延数 1,243人

2 保健事業

(1) 特定健康診査等（共済組合）

令和元年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

| 対象者数    | 受診者数    | 受診率   | 保健指導対象者 |
|---------|---------|-------|---------|
|         |         | B/A   |         |
| A       | B       |       |         |
| 16,679人 | 14,570人 | 87.4% | 2,587人  |

**(2) 人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）**

ア 教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成 31 年 4 月 1 日現在、満 35・38・40・43・45・48・50・53・55・58 歳、61 歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む。）を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 6,345 人   | 5,142 人   | 5,080 人   | 81.0% | 80.1% | 98.8% | 3.0% | 34.7% | 36.7% | 25.6% |

イ 配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

平成 31 年 4 月 1 日現在、満 35 歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

| 申込者数<br>A | 受診者数<br>B | 受診率   | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           | B/A   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 270 人     | 248 人     | 91.9% | 3.6% | 40.0% | 38.7% | 17.7% |

ウ 定年退職予定者人間ドック（互助会）

平成 31 年 4 月 1 日現在、満 59 歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 649 人     | 471 人     | 457 人     | 72.6% | 70.4% | 97.0% | 2.4% | 22.5% | 25.4% | 49.7% |

**(3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）**

平成 31 年 4 月 1 日現在、満 35 歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、大腸がん検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率  | 受診率  |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|------|------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A  | C/A  | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 10,789 人  | 917 人     | 800 人     | 8.5% | 7.4% | 87.2% | 56.9% | 33.8% | 8.6% | 0.8% |

**(4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合・互助会）**

平成 31 年 4 月 1 日現在、満 20 歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 6,853 人   | 3,826 人   | 3,686 人   | 55.8% | 53.8% | 96.3% | 76.5% | 15.0% | 7.8% | 0.7% |

**(5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）**

平成 31 年 4 月 1 日現在、満 40・43・45・48・50・53・55・58 歳、61 歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 5,676 人   | 980 人     | 965 人     | 17.3% | 17.0% | 98.5% | 0.8% | 14.6% | 50.5% | 34.1% |

**(6) 脳検診（共済組合・互助会）**

平成 31 年 4 月 1 日現在、満 40・43・45・48・50・53・55・58 歳、61 歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|-----------|-----------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
|           |           |           | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 5,676 人   | 1,620 人   | 1,560 人   | 28.5% | 27.5% | 96.3% | 75.3% | 17.8% | 6.8% | 0.1% |

**(7) 肺がん検診（共済組合・互助会）**

平成 31 年 4 月 1 日現在、満 40 歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

| 対象者数<br>A | 申込者数<br>B | 受診者数<br>C | 申込率  | 受診率  |       | 検診結果  |       |       |      |
|-----------|-----------|-----------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|
|           |           |           | B/A  | C/A  | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検   | 治療中  |
| 14,174 人  | 1,380 人   | 1,323 人   | 9.7% | 9.3% | 95.9% | 56.5% | 31.2% | 10.9% | 1.4% |

**(8) 胃がん検診（共済組合・互助会）**

平成31年4月1日現在、満30・33歳の教職員を対象に胃がん検診を実施した。

| 対象者数 | 申込者数 | 受診者数 | 受診率   |       |       | 検診結果  |      |      |     |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-----|
|      |      |      | 申込率   | 受診率   |       | 異常なし  | 要注意  | 要精検  | 治療中 |
| A    | B    | C    | B/A   | C/A   | C/B   |       |      |      |     |
| 637人 | 119人 | 101人 | 18.7% | 15.9% | 84.9% | 89.1% | 7.9% | 3.0% | 0%  |

**3 厚生事業**

**(1) 厚生事業**

**ア ライフプラン講座（共済組合・互助会）**

教職員一人ひとりが、生涯にわたり健やかで充実したゆとりある生活を送ることができるよう、退職後の生活を視野に入れた生涯生活設計づくりとその実現を支援するため、ライフプラン講座を開催した。

| 日程    | 令和元年<br>7月26日                                                                       | 令和元年<br>7月31日 | 令和元年<br>8月1日      |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------|-------------------|
| 会場    | ビッグパレットふくしま                                                                         |               |                   |
| プログラム | ○Aコース 初級編（8月1日）<br>株式会社FP研究所 石田 英憲                                                  |               |                   |
|       | ○Bコース 資産運用実践編（7月31日）<br>株式会社FP研究所 今野 隆文                                             |               |                   |
|       | ○Cコース 退職準備編（7月26日・8月1日）<br>公立学校共済組合福島支部 金子 大知<br>株式会社FP研究所 今野 隆文<br>元福島高等学校校長 齋藤 和也 |               |                   |
| 受講者数  | Aコース<br>87人                                                                         | Bコース<br>94人   | Cコース<br>154人・174人 |

**イ 在宅介護講座（共済組合）**

組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の1日介護講座を実施した。

| 日程    | 令和元年<br>7月31日                              | 令和元年<br>8月2日 | 令和元年<br>8月8日 |
|-------|--------------------------------------------|--------------|--------------|
| 会場    | 福島県男女共生センター                                |              |              |
| プログラム | (1) 講義「在宅介護の基礎知識」                          |              |              |
|       | (2) 実技Ⅰ「移動介助と更衣の仕方」                        |              |              |
|       | (3) 実技Ⅱ「食事介助法と排泄援助」                        |              |              |
| 受講者数  | (4) 実技Ⅲ「清潔援助」<br>7月31日福島県介護福祉士会 達 乃介、渡邊 浩幸 |              |              |
|       | 8月2日福島県介護福祉士会 橋本 好博、小林 広子                  |              |              |
|       | 8月8日福島県介護福祉士会 関根 誠一、佐藤 彩                   |              |              |
| 受講者数  | 17人                                        | 16人          | 14人          |

**ウ 管理監督者メンタルヘルス研修会**

管理監督者に対し、メンタルヘルスケアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、研修会を実施した。

|      |                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------|
| 日程   | 平成31年4月25日～令和元年10月3日（計8回）                                                  |
| 会場   | 県内各支部                                                                      |
| 講師   | 東北中央病院 主任臨床心理士 古澤 あや<br>関東中央病院 メンタルヘルスセンター医長 秋山 長夫<br>関東中央病院 主任臨床心理士 卜部 裕介 |
| 受講者数 | 計734人                                                                      |

**エ メンタルヘルスセミナー（共済組合）**

組合員の心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座を開催した。

| 日程    | 令和元年8月7日                                                                                          | 令和元年8月8日    |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 会場    | 会津アピオ                                                                                             | ビッグパレットふくしま |
| プログラム | 講演：メンタルヘルスの基礎知識・ストレスについて&自分で判断する不調のサイン<br>演習・体験：セルフメンタルケアの方法<br>良質な睡眠を取る方法<br>講師：ウェルリンク株式会社 柏崎 咲江 |             |
| 受講者数  | 38人                                                                                               | 86人         |

**オ 女性のための健康セミナー（共済組合）**

女性組合員を対象に、健康意識の向上を図るため、女性特有の病気についての知識や予防法等を習得する講演、実技を行うセミナーを開催した。

| 日程    | 令和元年7月25日                                                      | 令和元年8月9日  |
|-------|----------------------------------------------------------------|-----------|
| 会場    | ビッグパレットふくしま                                                    | ハタゴイン福島広野 |
| プログラム | (1) 講演<br>「明日の自分が輝くために」<br>(株)カイトック 講師 樋口 恵子                   |           |
|       | (2) 演習<br>「好きな香りで癒される<br>フレッシュナーを作しましょう！」<br>(株)カイトック 講師 樋口 恵子 |           |
|       | (3) 実技<br>「歪み改善骨盤底筋群エクササイズ」<br>(株)カイトック 講師 杉島 小百合              |           |
| 受講者数  | 147人                                                           | 36人       |

カ 生活習慣病予防セミナー（共済組合）

組合員を対象に、生活習慣病の知識と予防法等に関する講話と運動指導を行うセミナーを実施した。

| 日 程                   | 令和元年<br>7月23日                                                                                                                                                                                                  | 令和元年<br>7月24日   | 令和元年<br>8月6日   |
|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------|
| 会 場                   | 会津アピオ<br>スペース                                                                                                                                                                                                  | ビッグパレット<br>ふくしま | 南東北総合卸<br>センター |
| プ<br>ロ<br>グ<br>ラ<br>ム | (1) 教職員のためのカラダ元気力アップ！セミナー(7月23日・7月24日)<br>①講演「最新！ライフスタイル改善術」<br>②実践「セルフチェックでカラダ改善」<br>③運動「ボクシングエクササイズ」<br>講師：(株)カイトック 皆川 芳弘<br>(2) 教職員のための筋力アップ！セミナー<br>(8月6日)<br>①講演&実技<br>②質疑応答<br>講師：近畿大学生物理工学部准教授<br>谷本 道哉 |                 |                |
| 受講者数                  | 27人                                                                                                                                                                                                            | 34人             | 59人            |

キ 食のセミナー（共済組合）

組合員と被扶養配偶者を対象に、「高血圧」、「糖尿病」の予防・改善のため、「食に関する秘訣」を習得するセミナーを実施した。

| 日 程                   | 令和元年7月30日                                                                                                                                               | 令和元年8月5日    |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 会 場                   | あづま荘                                                                                                                                                    | ビッグパレットふくしま |
| プ<br>ロ<br>グ<br>ラ<br>ム | (1) 講話 「高血圧・糖尿病について」<br>(2) 演習 「からだ改善チャレンジ！」<br>「栄養バランスのとれた食事」<br>「よく利用する弁当や汁物のカロリー<br>やバランス 塩分について」<br>(公財)福島県保健衛生協会<br>保健師 佐藤 志保<br>管理栄養士 軒名 礼子 木田 早紀 |             |
| 受講者数                  | 46人                                                                                                                                                     | 51人         |

ク 保育補助（共済組合）

令和元年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児1人につき1セット交付した。

| 区分   | 内 容                                                                                                | 交付件数 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| Aセット | 電子レンジで除菌セット<br>ベビー用耳式体温計<br>お風呂用湯温計                                                                | 89件  |
| Bセット | ベビー食器セット(14点セット)<br>ベビーマグセット(スペアパーツ付属)                                                             | 181件 |
| Cセット | ベビー用フード付きバスタオル<br>肌着(前開きミニオール)                                                                     | 58件  |
| Dセット | 月刊「赤ちゃん和妈妈」 12冊<br>お誕生号 1冊<br>単行本<br>「赤ちゃんのつぶやき」 1冊<br>「きちんとかんたん離乳食」 1冊<br>冊子<br>「お医者さんにかかるまでに」 1冊 | 9件   |
| 計    |                                                                                                    | 337件 |

ケ 教職員健康相談事業（共済組合）

(こころとからだの健康相談)  
健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられるよう、18医療機関に相談業務を委託。  
のべ利用件数 9件

コ 教職員相談事業（県）

専任の相談員を配置し、教職員の各種相談に応じた。  
のべ相談件数 411件

サ メンタルヘルスサポート（セルフチェック）事業

公立学校共済組合福島支部のホームページにアクセスし、所定の質問に回答することで、自己の状態を確認した。  
アクセス数 22,927件

シ ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合）

東日本大震災を受けて、日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに相談できる機会を提供するため、7カウンセリング機関に業務を委託。

カウンセリングのべ利用件数 637件  
講師派遣利用件数 4件  
グループカウンセリングコース・  
ピアカウンセリングコース利用件数 1件

ス 教職員メンタルヘルスカウンセリング事業（県）  
常勤講師等臨時的任用職員の心の疾患の未然防止や心の健康保持増進を図るため7カウンセリング機関に業務を委託。

カウンセリングのべ利用件数 13 件

セ 保養所等利用助成（共済組合）

組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した場合、利用料金の一部を助成した。

○ あづま荘利用助成

| 区分            | 助成対象                            | 助成内容                                    | 助成件数           |
|---------------|---------------------------------|-----------------------------------------|----------------|
| 宿泊利用助成        | 組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖父母が宿泊したとき    | 1人1泊1食まで<br>2,000円<br>1人1泊2食<br>3,000円等 | 11,390件        |
| 平日宿泊特別割引利用助成  | 組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖父母が宿泊したとき    | 1人1泊2食<br>大人 500円<br>子供 300円            | 2,553件<br>103件 |
| 退職者宿泊特別割引利用助成 | 退職予定の組合員が宿泊したとき                 | 1人1泊2食<br>2,000円                        | 84件            |
| 会議室利用助成       | 組合員が開催する諸会議                     | 会議室料金の2分の1の額                            | 69件            |
| 会食利用助成        | 組合員が5名以上で、かつ1人5,000円以上の会食を行ったとき | 1人<br>1,000円                            | 225件           |
| 法要利用助成        | 組合員及び直系親族が法要を行うとき               | 利用額の30%<br>(上限70,000円)                  | 8件             |

○ 他支部保養所等利用助成

県内2、県外10の指定宿泊施設利用に対し、1人1泊1,500円、計1,341件の助成を行った。

ソ 指定旅館等利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（24施設）、県外（9施設）の宿泊施設等を指定し、会員が利用したとき、利用料金の一部を助成した。

| 区分        | 助成件数    | 金額       |
|-----------|---------|----------|
| 宿泊利用助成    | 12,490件 | 34,267千円 |
| 会食利用助成    | 225件    | 225千円    |
| アガマリン利用助成 | 398件    | 352千円    |
| 計         | 13,113件 | 34,844千円 |

タ 弔慰供花（共済組合）

在職中に亡くなった組合員の霊前に供花を行い、哀悼の意を表した。

供花件数 12 件

チ 法律相談（共済組合）

組合員が抱える民事問題を早期解決に導くため法律相談を実施した。

相談件数 6 件

ツ 災害対策事業（共済組合）

災害救助法が適用された地域内で被災（地域外で同一の事由での被災を含む。）し、短期給付の災害見舞金の給付該当会員に見舞金を支給した。

給付件数 195 件

テ リフレッシュ助成（互助会）

勤続10年及び20年の節目に心身のリフレッシュを図るための助成（旅行券又は宿泊施設利用券）を実施した。

実施件数 487 件

ト 永年勤続リフレッシュ助成（互助会）

永年勤続表彰会員及び20年以上30年未満勤続し退職した会員等に対し、助成品（旅行券、宿泊施設利用券、図書券又は現金）を交付した。

永年勤続表彰会員 743 名

20年以上30年未満勤続し退職した会員 12 名

勤続30年以上で表彰を受けずに退職した会員 3 名

ナ 国内外旅行助成（互助会）

福島空港を利用して旅行した会員に対し、旅行代金の一部を助成した。

| 区分   | 助成件数 | 金額      |
|------|------|---------|
| 国内旅行 | 198件 | 990千円   |
| 海外旅行 | 25件  | 130千円   |
| 計    | 223件 | 1,120千円 |

ニ 教育塔合祀遺族助成（互助会）

教育塔に合祀された教職員、生徒児童等の遺族が教育祭に参加するための経費の一部を助成した。

教育祭参加者数 2 人

ヌ 会員交流促進事業（互助会）

独身会員を対象に異性との出会いと交流の場を提供することを目的に実施した。

事業参加者数 35 人

## (2) 公益事業

ア へき地等教育事業助成（互助会）

県人事委員会指定の特地以上のへき地学校及び特別支援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これらの学校に図書を贈呈した。

対象校 87 校

児童生徒数 5,340 人

イ 互助会文庫（互助会）

県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用 1,151 冊（累計 64,443 冊）

### 第3節 貸付事業

#### 1 共済組合

令和元年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付けをはじめ、一般、教育、災害、結婚、住宅災害、特例住宅災害の7種類の新規貸付けを行った。

#### (1) 貸付けの状況

種類別貸付けの状況は次のとおりである。

(単位：件、千円)

| 種 類 別     | 件 数 | 金 額     | 金額割合  |
|-----------|-----|---------|-------|
| 一般貸付け     | 145 | 168,620 | 39.4  |
| 住宅貸付け     | 22  | 136,195 | 31.9  |
| 教育貸付け     | 75  | 89,752  | 21.0  |
| 災害貸付け     | 4   | 5,893   | 1.4   |
| 結婚貸付け     | 6   | 10,037  | 2.3   |
| 住宅災害貸付け   | 2   | 8,100   | 1.9   |
| 特例住宅災害貸付け | 1   | 9,000   | 2.1   |
| 計         | 255 | 427,597 | 100.0 |

### 第4節 宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯坂保養所「あづま荘」を運営しているが、令和元年度の利用状況は、次のとおりである。

| 種別  | 施設       | あづま荘                                                                                                                                                                                                                                                  |     |          |     |         |     |       |     |     |     |     |   |          |
|-----|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|----------|-----|---------|-----|-------|-----|-----|-----|-----|---|----------|
|     | 利用人員     | <table border="1"> <tr><td>宿 泊</td><td>15,187 人</td></tr> <tr><td>会 議</td><td>2,217 人</td></tr> <tr><td>宴 会</td><td>676 人</td></tr> <tr><td>婚 礼</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>休 憩</td><td>0 人</td></tr> <tr><td>計</td><td>18,080 人</td></tr> </table> | 宿 泊 | 15,187 人 | 会 議 | 2,217 人 | 宴 会 | 676 人 | 婚 礼 | 0 人 | 休 憩 | 0 人 | 計 | 18,080 人 |
| 宿 泊 | 15,187 人 |                                                                                                                                                                                                                                                       |     |          |     |         |     |       |     |     |     |     |   |          |
| 会 議 | 2,217 人  |                                                                                                                                                                                                                                                       |     |          |     |         |     |       |     |     |     |     |   |          |
| 宴 会 | 676 人    |                                                                                                                                                                                                                                                       |     |          |     |         |     |       |     |     |     |     |   |          |
| 婚 礼 | 0 人      |                                                                                                                                                                                                                                                       |     |          |     |         |     |       |     |     |     |     |   |          |
| 休 憩 | 0 人      |                                                                                                                                                                                                                                                       |     |          |     |         |     |       |     |     |     |     |   |          |
| 計   | 18,080 人 |                                                                                                                                                                                                                                                       |     |          |     |         |     |       |     |     |     |     |   |          |
| 利用率 | 宿 泊      | 46.4%                                                                                                                                                                                                                                                 |     |          |     |         |     |       |     |     |     |     |   |          |
|     | 宿 泊 外    | 2.3%                                                                                                                                                                                                                                                  |     |          |     |         |     |       |     |     |     |     |   |          |

※利用率

$$\cdot \text{宿泊} = \frac{\text{利用人数 (宿泊)}}{\text{宿泊延定員 (宿泊定員} \times \text{営業日数)}} \times 100$$

$$\cdot \text{宿泊外} = \frac{\text{利用人数 (会議・宴会・婚礼)}}{\text{宿泊外延定員 (宿泊外定員} \times \text{営業日数)}} \times 100$$

### 第5節 児童手当（特例給付を含む）

次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的とする「児童手当法」に基づき、年3回、定期支給を行った。

(単位：人、千円)

|          | 支給対象者数<br>(R2.2月期) | 支給対象児童数<br>(R2.2月期) | 支給額<br>(年間) |
|----------|--------------------|---------------------|-------------|
| 本庁・教育機関等 | 130                | 202                 | 24,835      |
| 小学校      | 1,017              | 1,674               | 221,250     |
| 中学校      | 888                | 1,440               | 190,005     |
| 高等学校     | 956                | 1,608               | 214,380     |
| 特別支援学校   | 321                | 565                 | 76,260      |
| 計        | 3,312              | 5,489               | 726,730     |

### 第6節 財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、令和元年度における契約状況は次のとおりである。

#### 財産形成貯蓄契約状況

◎貯蓄種類別契約件数（令和元年3月31日現在）

(単位：件)

|      | 期日指定<br>定期預金 | 金銭<br>信託 | 公社債<br>投資信託 | 積立<br>保険 | 計     |
|------|--------------|----------|-------------|----------|-------|
| 一般貯蓄 | 6,783        | 46       | 112         | 500      | 7,441 |
| 年金貯蓄 | 1,526        | 24       | 39          | 244      | 1,833 |
| 住宅貯蓄 | 368          | 6        | 8           | 41       | 423   |
| 計    | 8,677        | 76       | 159         | 785      | 9,697 |

契約者数 6,983 人

### [福利給付事業]

### 第7節 概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会において、組合員（会員）に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、厚生（共済）年金及び恩給の支給を行った。

なお、令和元年度の年金額は平成30年度から0.1%プラスで改定された。

## 第8節 短期給付

### 1 共済組合

令和元年度末現在における組合員数は、現職組合員数 18,851 人（前年同期比 170 人減）、任意継続組合員 378 人（同 41 人減）の計 19,229 人（同 211 人減）である。

また、被扶養者数は、15,874 人（同 550 人減）、組合員 1 人当たりの被扶養者数は、0.83 人となっている。

令和元年度の共済組合短期給付の給付総額は、5,318,616 千円で、前年度対比 167,408 千円の増加となった。

総額に占める割合は、法定給付 97.53%、附加給付 2.47%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

共済組合短期給付内訳表

| 法定給付   |          |         |                | 附加給付    |             |       |         |
|--------|----------|---------|----------------|---------|-------------|-------|---------|
| 種別     |          | 件数(件)   | 給付額(千円)        | 種別      |             | 件数(件) | 給付額(千円) |
| 医療給付   | 本人医療費    | 177,786 | 1,882,054      | 医療給付    | 家族療養費       | 872   | 27,042  |
|        | 家族医療費    | 136,346 | 1,309,083      |         | 家族訪問看護療養費   | 0     | 0       |
|        | 療養費      | 2,867   | 306,014        |         | 出産費         | 273   | 13,650  |
|        | 薬剤       | 144,802 | 923,488        |         | 家族出産費       | 106   | 5,300   |
|        | 移送費      | 0       | 0              |         | 埋葬料         | 16    | 400     |
|        | 小計       | 461,801 | 4,420,639      |         | 家族埋葬料       | 10    | 250     |
| その他の給付 | 出産費      | 274     | 114,798        | その他の給付  | 直営保健給付家族療養費 | 0     | 0       |
|        | 家族出産費    | 115     | 49,143         |         | 傷病手当金       | 30    | 6,951   |
|        | 埋葬料      | 17      | 850            |         | 災害見舞金       | 0     | 0       |
|        | 家族埋葬料    | 10      | 500            |         | 結婚手当金       | 0     | 0       |
|        | 傷病手当金    | 261     | 66,575         |         | 入院附加金       | 0     | 0       |
|        | 出産手当金    | 23      | 1,926          |         |             |       |         |
|        | 休業手当金    | 0       | 0              |         |             |       |         |
|        | 育児休業手当金  | 2,199   | 375,576        |         |             |       |         |
|        | 介護休業手当金  | 49      | 7,712          |         |             |       |         |
|        | 弔慰金      | 0       | 0              |         |             |       |         |
|        | 家族弔慰金    | 0       | 0              |         |             |       |         |
|        | 災害見舞金    | 141     | 149,420        |         |             |       |         |
|        | 小計       | 3,089   | 766,500        |         |             |       |         |
|        | ① 法定給付 計 | 464,890 | 5,187,139      |         | ② 附加給付 計    | 1,307 | 53,593  |
|        |          |         | ③ 一部負担金払戻金     | 2,574   | 77,884      |       |         |
|        |          |         | 短期給付合計 (①+②+③) | 468,771 | 5,318,616   |       |         |

### 2 互助会

令和元年度末現在の互助会の会員数は、16,065 人（前年同期比 137 人増）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次のとおりである。

#### (1) 短期給付金

| 種別           | 件数(件)  | 給付額(千円) |
|--------------|--------|---------|
| 医療補助金 (被扶養者) | 11,530 | 49,304  |
| 死亡弔慰金 (会員)   | 12     | 600     |
|              | (被扶養者) | 8       |
| 災害見舞金        | 187    | 14,700  |
| 出産見舞金 (会員)   | 185    | 9,250   |
|              | (被扶養者) | 77      |
| 計            | 11,999 | 76,504  |

#### (2) 厚生給付金

| 種別      | 件数(件)  | 給付額(千円) |
|---------|--------|---------|
| 医療給付金   | 42,034 | 159,616 |
| 死亡給付金   | 501    | 16,730  |
| 出産給付金   | 92     | 2,760   |
| 結婚祝金    | 216    | 10,800  |
| 入学祝金    | 488    | 14,640  |
| 入院療養見舞金 | 1,422  | 14,909  |
| 障害見舞金   | 58     | 2,900   |
| 育児休業給付金 | 2,215  | 30,808  |
| 介護休暇給付金 | 20     | 3,020   |
| 計       | 47,046 | 256,183 |

## 第9節 長期給付

令和元年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

### 1 恩給

#### (1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

令和元年度末現在の受給者数は36人（前年度比11人減）、令和元年度における支給総額は56,558千円（同13,033千円減）となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

| 学校種別    | 普通恩給      |             | 扶助料       |             | 退隠料       |             | 遺族扶助料     |             | 計         |             |
|---------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
|         | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) |
| 小学校     | 1         | 4,109       | 23        | 31,650      | 1         | 277         | 0         | 0           | 25        | 36,036      |
| 中学校     | 0         | 0           | 9         | 18,384      | 1         | 1,395       | 0         | 0           | 10        | 19,779      |
| 特別支援学校  | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 1         | 113         | 1         | 113         |
| 高等学校    | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           |
| 教育庁・その他 | 0         | 0           | 0         | 630         | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 630         |
| 計       | 1         | 4,109       | 32        | 50,664      | 2         | 1,672       | 1         | 113         | 36        | 56,558      |

イ 裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。（単位：人）

| 恩給種別  | 裁 定 | 失 権 | 左のうち<br>完全失権 |
|-------|-----|-----|--------------|
| 普通恩給  | 0   | 2   | 2            |
| 扶助料   | 0   | 9   | 9            |
| 退隠料   | 0   | 0   | 0            |
| 遺族扶助料 | 0   | 0   | 0            |
| 計     | 0   | 11  | 11           |

#### (2) 恩給の改定について

恩給は、国民年金改定率（国民年金法第27条で規定する改定率）を基準に毎年度改定し、当該年度の4月以降に適用される。

直近の改定としては、平成21年度に0.9%の引き上げがされているが、平成22年度以降は実施していない。

なお、被用者年金一元化法により、平成28年4月分以後の支払額について端数処理の方法が変更された。

### 2 退職手当

#### (1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別    | 人員（人） | 支給額（千円）    |
|---------|-------|------------|
| 教育庁・その他 | 11    | 200,222    |
| 小学校     | 1,306 | 7,827,352  |
| 中学校     | 837   | 4,645,376  |
| 高等学校    | 542   | 2,981,593  |
| 特別支援学校  | 400   | 981,136    |
| 計       | 3,096 | 16,635,679 |

#### (2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別    | 人員（人） | 支給額（千円） |
|---------|-------|---------|
| 教育庁・その他 | 0     | 0       |
| 小学校     | 20    | 4,155   |
| 中学校     | 20    | 4,891   |
| 高等学校    | 13    | 4,312   |
| 特別支援学校  | 11    | 2,582   |
| 計       | 64    | 15,940  |

### 3 年金

#### (1) 進達件数

老齢厚生（退職共済）年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

（単位：件）

| 進達<br>区分 | 旧共済法による年金 |      | 新共済法・一元化法による年金       |                          |                          |                    |                    | 計   |
|----------|-----------|------|----------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|-----|
|          | 退職年金      | 障害年金 | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金 | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金(特別) | 老齢厚生<br>(退職共済)<br>年金(繰上) | 障害厚生<br>(共済)<br>年金 | 遺族厚生<br>(共済)<br>年金 |     |
| 決定請求     | 0         | 0    | 22                   | 53                       | 7                        | 24                 | 17                 | 123 |
| 改定請求     | 0         | 0    | 15                   | 53                       | 0                        | 0                  | 0                  | 68  |

#### (2) 支給人員及び支給額

老齢厚生（退職共済）年金等の令和元年度末現在における支給人員は 26,008 人で、令和元年度における支給額は、36,468,147 千円である。

平成 27 年 10 月の被用者年金一元化以降は、新たに厚生年金、職域加算額の年金及び年金払い退職給付の年金が決定されることになったが、一人の者に厚生年金と職域加算額の年金など複数の年金受給権が発生することになるため、年金種別ごとの受給者数が増加している。

前年度に比較して人員で 604 人の増加、支給額で 812,677 千円の減少となっている。

| 年金種別                   |                  | 受給者数<br>(人) | 平均年金額<br>(円)   | 支給額<br>(円)     |
|------------------------|------------------|-------------|----------------|----------------|
| 厚生<br>年金               | 老齢厚生年金           | 2,220       | 1,286,493      | 2,856,014,460  |
|                        | 老齢厚生年金(特別)       | 1,539       | 1,208,623      | 1,860,070,797  |
|                        | 障害厚生年金           | 55          | 1,026,509      | 56,457,995     |
|                        | 遺族厚生年金           | 350         | 1,254,997      | 439,248,950    |
|                        | 小計               | 4,164       | —              | 5,211,792,202  |
| 年金<br>払給付              | 終身退職年金           | 125         | 3,458          | 432,250        |
|                        | 有期退職年金           | 102         | 6,057          | 617,814        |
|                        | 公務障害年金           | 0           | 0              | 0              |
|                        | 公務遺族年金           | 0           | 0              | 0              |
|                        | 小計               | 227         | —              | 1,050,064      |
| 新共済<br>年金・<br>職域<br>加算 | 退職共済年金(既裁定)      | 9,684       | 1,763,634      | 17,079,031,656 |
|                        | 退職共済年金(特別・既裁定)   | 5           | 1,290,295      | 6,451,475      |
|                        | 退職共済年金(職域加算額)    | 2,195       | 238,197        | 522,842,415    |
|                        | 退職共済年金(特別・職域加算額) | 1,527       | 229,956        | 351,142,812    |
|                        | 退職共済年金(追加費用)     | 0           | 0              | 0              |
|                        | 障害共済年金(既裁定)      | 281         | 1,168,281      | 327,162,961    |
|                        | 障害共済年金(職域加算額)    | 42          | 175,891        | 7,387,422      |
|                        | 遺族共済年金(既裁定)      | 3,831       | 1,676,329      | 6,422,016,399  |
|                        | 遺族共済年金(職域加算額)    | 1,106       | 136,748        | 151,243,288    |
|                        | 遺族共済年金(追加費用)     | 755         | 1,685,321      | 1,272,417,355  |
| 小計                     | 19,426           | —           | 26,139,695,783 |                |
| 旧共済<br>年金              | 退職年金             | 1,630       | 2,629,072      | 4,285,387,360  |
|                        | 減額退職年金           | 141         | 1,947,265      | 274,564,365    |
|                        | 通算退職年金           | 10          | 628,310        | 6,283,100      |
|                        | 障害年金             | 38          | 2,087,540      | 79,326,520     |
|                        | 遺族年金             | 371         | 1,266,604      | 469,910,084    |
|                        | 通算遺族年金           | 1           | 136,645        | 136,645        |
|                        | 小計               | 2,191       | —              | 5,115,608,074  |
| 合計                     | 26,008           | —           | 36,468,146,123 |                |

- ※ 支給額は平均年金額に受給者数を乗じた額である。
- ※ 受給者数について、1人の者に厚生年金及び職域加算額が裁定された場合はそれぞれ1件の年金受給権が発生するものとして合計している。
- ※ 既裁定とは一元化前に裁定された共済年金であり、職域加算とは一元化後に裁定された厚生年金等の旧職域部分の年金である。
- ※ 追加費用とは一元化後に受給権が発生した共済年金であり、厚生年金保険法が適用される。

### (3) 年金額の改定

年金額の改定については、法律上、賃金水準の変動がマイナスで物価水準の変動がプラスになる場合には、年金を受給し始める際の年金額（新規裁定年金）、受給中の年金額（既裁定年金）ともにスライドなしとすることが規定されている。

令和元年度の年金額の改定は、年金額改定に用いる物価変動率（1.0%）が名目手取り賃金変動率（0.6%）よりも高いため、新規裁定年金・既裁定年金ともに名目手取り賃金変動率（0.6%）にマクロ経済スライドによる令和元年度のスライド調整率（ $\Delta 0.2\%$ ）と平成30年度に繰り越されたマクロ経済スライドの未調整分（ $\Delta 0.3\%$ ）が乗じられることとなり、改定率は、0.1%となった。



## 第12章 福島県教育センター

### 第1節 概要

教育センターは、教育に関する専門的・技術的事項の調査と研究、教育関係職員の研修、情報教育、教育相談及び教育図書・資料の作成・収集・提供等、本県の学校教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

平成28年度より初任者の負担軽減や継続的な研修を考慮し、実践的指導力の向上を目的とし、「2年次教員フォローアップ研修」を設けた。

なお、事業概要は、次のとおりである。

#### 1 調査・研究事業

教育センターの使命と役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとしての期待にこたえとともに、本県の教育推進上の課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の諸課題の解決に役立つ先導的、実証的な調査・研究を進めてきた。

##### (1) 調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。さらに、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

##### (2) 研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、調査・研究のためのチームを組織し、また、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。また、調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそれぞれ共同研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センターWebサイト」、「研究紀要」、「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、令和元年11月28日（木）に実施した「福島県教育研究発表会」においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

#### 2 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「平成31年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

基本研修、職能研修（職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ）、専門研修について、令和元年度の実績は次のとおりである。

|        |                     |
|--------|---------------------|
| 講座数    | 82講座                |
| 講座開設数  | 149回                |
| 講座研修者数 | 4,804人（延べ人数）        |
| 講座開設期間 | 平成31年4月3日～令和2年2月14日 |

前年度比

|        |      |
|--------|------|
| 講座数    | 3増   |
| 講座開設数  | 1増   |
| 講座研修者数 | 735増 |

#### 3 情報教育事業

情報教育事業では、学習指導要領に対応した研修の充実を図り、「教科指導におけるICT活用」、「児童生徒の情報活用能力の育成」、「校務の情報化」を3つの柱とした「教育の情報化」の推進に向けて取り組んだ。

専門研修では、「校務処理に生かす表計算活用講座」や「授業力向上のためのICT活用基礎講座」、「グループウェアで活用するG Suite実践講座」、「校内ネットワークの管理と運用基礎講座」等を行った。また、基本研修での講義等を通して、「情報モラル教育」及び「教科指導におけるICT活用」の研修の充実を図った。さらに、職能研修では「教育の情報化」の講義を行い、教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう努めた。

#### 4 教育相談事業

教育相談事業では、児童生徒の教育上の諸課題について来所及び電話で相談を受け、課題の改善・解決を目指した。

主訴別では、来所相談は不登校に関するもの、電話相談は学校への不満、不登校、友人関係やいじめに関するものが多かった。

不登校、友人関係やいじめに関する電話相談については、相談者の思いを受け止めるとともに、今後の対応を一緒に考えたり、身近な相談機関を紹介したりした。

また、本県の不登校者数は年々増加傾向にあり、不登校に関する電話相談で来所希望がある場合には、保護者や本人に継続的な支援を行った。

#### 5 教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努め、データベース化して教育センターWebサイトに掲載し、図書検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸出し等のサービスを行い、教職員の研修・研究活動を援助した。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第177号、178号及び「研究紀要」第49集を発行した。

## 第2節 調査・研究事業

### 1 調査・研究

令和元年度は、教育センターにおける実施要項に基づき、教育庁より承認を得た調査研究課題について、調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームで取り組んだ。

#### (1) 調査研究チームによる研究

高等学校におけるアクティブ・ラーニングの視点を生かした学習指導の在り方（第二年次）～研究協力校における実践的研究～

次期高等学校学習指導要領には、生徒に新たな時代の創り手として必要な資質・能力を育成することが明記されている。特に、小・中学校及び高等学校の接続を意識した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。

当チームにおいて平成28年度から2年間、研究主題「『思考力』を高める問題解決的な学習指導の在り方」の実践的研究に取り組み、小・中学校におけるアクティブ・ラーニングの視点を生かした授業改善のポイント（「授業構成モデル」）を明らかにした。それらを高等学校の授業改善に生かすことができれば、次期高等学校学習指導要領で目指す授業が実現されるのではないかと考えた。

令和元年度は前年度に引き続き、本県県立高等学校における授業を担当している教員を対象に、FCSメールを活用して学習指導実態調査を実施することとした。また、第一年次研究の成果を踏まえ、第二年次研究では研究協力校において単元を通じた実践を積み重ね、主体的・対話的で深い学びの実現につながる授業づくりの具体を提言することとした。なお、研究協力校として、福島県立福島高等学校の協力を得て研究を進めた。

以上の実践結果から、次のような成果と課題が確認された。

#### (成果)

- 授業づくりに当たっては、期待する学びの姿を具体的にイメージして学習活動を設定したことで、生徒が自ら新たな知識・技能を獲得していく姿を引き出すことができ、資質・能力の育成を図ることができた。
- 自分の課題を明確にするとともに、追究意欲を高めた生徒の姿が多く見られた。また、自分の考えに基づいて話し合ったり、深めたりする姿につながった。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を実現する上で、教師が教えるという意識を変革し、学びの主体を生徒にすることが重要となる。今年度の授業づくりの実践を通して、授業改善のポイントをリーフレット「授業づくり はじめの一步」としてまとめることができた。「大切にしたい生徒の姿」を重視し、それに合わせて指導のポイントを位置付けることができた。
- 研究協力者の授業を、他教科担当の教員や教頭も参観し、ワークショップ型事後研究会を行うことができた。

#### (課題)

- 本研究でまとめた「授業づくり はじめの一步」を、各校での授業改善に生かしていくために、Webサイト等を活用して発信するとともに、教育センターの研修での活用も図っていく必要がある。
- 授業の中で、自ら知識を獲得したり、実感や納得を伴う理解ができたことを、生徒に自覚させる振り返りを充実させるにはどうすればよいか、そのための具体的な手立てを考えていく必要がある。

#### (2) 情報教育チームによる研究

高等学校での学びを意識した小・中学校をつなぐプログラミング教育の在り方（第一年次）～プログラミング的思考を生かしたプログラミングを通して～

次期学習指導要領では、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力と位置付けられた。小・中・高等学校を通じてプログラミング教育の充実が図られ、さらに校種間の円滑な接続が求められている。そこで、第一年次は本県の中学校・高等学校におけるプログラミング教育の現況等を把握し、小学校を中心としたプログラミング的思考の育成を図る授業の実践と中学校技術科担当教員による参観等を通して、小学校のプログラミング的思考を生かした学びを充実させるとともに、中学校プログラミング教育の指導計画を構想した。

今年度の取組から、次のような成果と課題が確認された。

#### (成果)

- 県内の普通科・普通系専門学科及び総合学科の高等学校65校110名、研究協力校高等学校1学年233名を対象にアンケートを実施したことにより、中学校と高等学校のプログラミング教育の現況を把握し、校種間の円滑な接続に対する課題を明確にすることができた。
- 小学校教員がプログラミングを体験したことで、プログラミング教育への不安感や抵抗感が軽減され、円滑にプログラミング体験の授業を行うことができた。その授業の中で、児童にプログラムの働きやよさ、問題の解決には必要な手順があることに気付かせ、プログラミング的思考の育成につなげることができた。また、小学校学習指導要領に例示されている学習場面だけではなく、各教科等の授業においても、プログラミング的思考が育成できる学習場面を見だし、次年度に向けたプログラミング教育全体計画及び指導計画を構想することができた。
- 中学校技術科担当教員が、小学校の校内研修や授業実践に参加したことで、児童の実態を把握し、小学校でのプログラミング教育を理解することができた。そして、小学校の学びを生かし発展させ、中学校、高等学校へつなげるための3年間を見通したプログラミングに関する学習の指導計画を構想することができた。

#### (課題)

- プログラミング体験には、児童にコンピュータの操作スキルを習得させておくことが重要である。そのために、情報教育全体計画の中でプログラミング教育だけで

なく、コンピュータの操作スキルの学びも含めた実施と改善が必要である。

- 次年度は、本年度実践を行った同一生徒を対象に、技術・家庭科（技術分野）でのプログラミングの授業を実施し、小学校で身に付けたプログラミング的思考をより確実なものにしていく必要がある。

### (3) 教育相談チームによる研究

よりよい人間関係を育む指導援助の在り方に関する研究（第二年度）～対話的な学びを支える学級集団づくりを通して～

本研究においては、自己理解や他者理解が促され、自他を尊重できる「対話的な学びを支える学級集団」づくりを通して、教員の「よりよい人間関係を育む力」の向上を目指した。教員研修を中心とした第一年度研究の成果・課題を踏まえ、第二年度研究においては、提案授業を中心とした実践を行った。事前にQ-Uの読み取りや担任への聴き取りを通してコアチーム（校内研修を推進するチーム）が教育相談的な手法を取り入れた授業計画を検討し、「対話的な学びを支える学級集団」を目指すための授業を実践した。併せて、事後研究会や担任による事後指導（友達と関わる学習）を行うことにより、インクルーシブ教育の視点を踏まえた、教員の「よりよい人間関係を育む力」の向上を目指した。

#### (成果)

- 対話的な学びを支える学級集団づくりを目指す上で、教育相談的な手法を取り入れた実践やインクルーシブ教育の視点を踏まえた支援を促す教員研修等の、教員への指導援助を焦点化できたのは、ねらいや計画を検討したコアチームが機能したためと考える。
- 教員の指導により、児童のよりよい人間関係が育まれていたことから、校内研修を推進したコアチームが行った教員に対する指導援助は、教員の「よりよい人間関係を育む力」を高めるために効果があった。
- 本研究で実践した提案授業の指導資料を、Webサイトで発信することができた。

#### (課題)

- 今後も、教員の「よりよい人間関係を育む力」が高まるように、各校においてコアチームを組織し、機能させていく必要があると考える。
- Q-Uの結果の読み取り方や児童の実態に応じた教育相談的な手法の効果的な活用の仕方を、今後も県内の教員に発信していきたい。

## 2 長期研究員制度による研究

平成23年度より長期研究員制度が復活した。長期研究員は、年間を通じて各自が研究テーマを設定して計画、実践、評価、まとめを行うこととしている。令和元年度は、14名が研究に取り組み、福島県教育研究発表会では7名が成果を発表した。また、研究結果を『研究紀要』、『研究報告書』にまとめるとともにWebサイトに掲載した。

## 第3節 研修事業

### 1 研修講座の概要

#### (1) 基本研修

- ア 新規採用者・初任者研修  
教職員としての基礎・基本を習得する研修である。
- (7) 幼稚園等教諭
  - a 園内における研修（10日）
  - b 園外における研修（10日）  
宿泊研修（2泊3日）、地区別研修（3日）（各地区）、参観研修（3日）、選択研修（1日）
- (4) 小・中学校教諭
  - a 校内における研修（150時間以上）
  - b 校外における研修（22日）
    - (a) 宿泊研修（6日）  
宿泊研修A（2泊3日）、宿泊研修B（2泊3日）
    - (b) 地区別研修（16日）
      - ・地区別研修A（7日）（各地区）  
一般研修、授業研修、へき地校研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修
      - ・地区別研修B（9日）  
（市町村教育委員会、各学校による計画）  
研究発表集会等研修、一般研修、社会奉仕体験活動研修、他校種園参観研修
- (7) 高等学校教諭
  - a 校内における研修（150時間以上）
  - b 校外における研修（22日）
    - (a) 宿泊研修（8日）  
基本研修（1泊2日）、一次研修（2泊3日）、二次研修（2泊3日）
    - (b) 教科別研修（3日）  
（教科ごとに初任者配置校を会場として実施）
    - (c) 地区別研修（11日）
      - ・地区別研修A（7日）（各地区）  
一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
      - ・地区別研修B（4日）（各学校による計画）  
特別支援学校研修、他校種及び他校での授業参観等研修
- (エ) 公立学校実習助手  
（高校教育課所管 高等学校初任者研修と合同開催）
  - a 校内における研修（2日程度）
  - b 校外における研修（9日）
    - (a) 基本研修（1泊2日）
    - (b) 地区別研修（7日）（各地区）  
一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修
- (4) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
  - a 校内における研修（15日）
  - b 校外における研修（14日）

- (a) 宿泊研修（6日）  
 宿泊研修A（2泊3日）、宿泊研修B（2泊3日）  
 <小・中学校>
- (b) 地区別研修（8日）
- ・地区別研修A（6日）（各地区）  
 一般研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修、学校訪問研修
  - ・地区別研修B（2日）  
 （市町村教育委員会、各学校による計画）  
 一般研修、企業等体験研修
- <高等学校>
- (b) 地区別研修（8日）
- ・地区別研修A（6日）（各地区）  
 一般研修、カウンセリング研修、社会奉仕体験研修、企業等体験研修
  - ・地区別研修B（2日）（各学校による計画）  
 特別支援学校研修、学校訪問研修
- <特別支援学校>
- (b) 特別支援教育センター等における研修（8日）
- ・特別支援教育センター研修（5日）  
 （特別支援教育センターによる計画）  
 基本研修、カウンセリング研修、特別支援学校教育課程研修
  - ・地区別研修（3日）  
 （特別支援教育センター、各学校による計画）  
 企業等体験研修、学校訪問研修
- (カ) 学校栄養職員
- a 学校等内における研修（15日）
- b 学校等外における研修（13日）
- (a) 宿泊研修（6日）  
 宿泊研修A（共通研修）（2泊3日）、  
 宿泊研修B（専門研修）（2泊3日）
- (b) 地区別研修（7日）
- ・地区別研修A（4日）（各地区）  
 一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研修、共同調理場実地研修
  - ・地区別研修B（3日）  
 （市町村教育委員会による計画）  
 一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修
- イ 2年次教員フォローアップ研修
- 初任者研修を修了した教諭に対して、初年度に培った基礎的な力を、日々の教育実践に生きる確かな資質や能力へと高める研修である。
- (ア) 小学校・中学校教諭
- a 校内研修（30時間以上）
- b 校外研修（3日）
- (イ) 高等学校教諭
- a 校内研修（30時間以上）
- b 校外研修（3日）
- (ウ) 公立学校実習助手（高校教育課所管 高等学校2年次教員フォローアップ研修と合同開催）
- a 校外における研修（2日程度）
- ウ 経験者研修Ⅰ
- 在職期間が5年に達した教職員を対象とし、専門的知識と技能を高め、資質の向上を図る研修である。
- (ア) 小・中学校教諭
- a 校内研修（5日）
- b 校外研修（3日）  
 宿泊研修（2泊3日）
- (イ) 高等学校教諭
- a 校内研修（5日）
- b 校外研修（3日）  
 宿泊研修（2泊3日）
- (ウ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
- a 校内研修（3日）
- b 校外研修（3日）  
 宿泊研修（2泊3日）
- (エ) 学校栄養職員（隔年実施）
- a 校内研修（2日）
- b 校外研修（2日）  
 宿泊研修（1泊2日）
- エ 経験者研修Ⅱ
- 在職期間が10年に達した教職員を対象とし、幅広い識見と豊かな社会性を得させ、併せて学校組織マネジメントに資する能力の育成を図るとともに、組織の中核として運営に資する人材の育成と職能の更なる向上を図る研修である。
- (ア) 幼稚園等教諭
- a 園内研修（7日）
- b 園外研修（5日）  
 保育専門研修（1泊2日）、共通研修（1日）（各地区）、社会体験研修（1日）、選択研修（1日）
- (イ) 小・中学校教諭
- a 校内における研修（15日）
- b 校外における研修（10日）  
 共通研修（各地区）（1日）、教科指導研修（2泊3日）、生徒指導研修（各地区）（1日）、社会体験研修Ⅰ（2日）、選択研修（3日）
- (ウ) 高等学校教諭
- a 校内における研修（15日）
- b 校外における研修（10日）  
 共通研修（1日）、生徒指導研修（1日）、教科指導研修Ⅰ（1日）、教科指導研修Ⅱ（2日）、社会体験研修Ⅰ（2日）、選択研修（3日）
- (エ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
- a 校内研修（4日）
- b 校外研修（6日）  
 共通研修（1日）、宿泊研修（2泊3日）、社会体験研修Ⅰ（1日）、選択研修（1日）

- (オ) 学校栄養職員（隔年実施、令和元年度は実施せず）
  - a 校内研修（4日）
  - b 校外研修（6日）
    - 共通研修（1日）、宿泊研修（2泊3日）、
    - 社会体験研修Ⅰ（1日）、選択研修（1日）

オ 経験者研修Ⅲ

教務主任、学年主任等の教員に対する学校管理運営上の諸問題の解決や、専門的な職能の向上を図る研修である。

- (ア) 市町村立学校教諭（隔年実施、令和元年度は実施せず）

教育センター（2泊3日）

- (イ) 県立学校教諭

教育センター（2泊3日）

**(2) 職能研修**

新任の校長・教頭・主幹教諭・教務主任に対する職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱを実施した。

ア 職能研修Ⅰ

- (ア) 市町村立小・中・特別支援学校新任校長研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (イ) 県立学校新任校長研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (ウ) 市町村立小・中・特別支援学校新任副校長研修会
  - 教育センター（1日）
- (エ) 県立学校新任副校長研修会
  - 教育センター（1日）
- (オ) 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (カ) 県立学校新任教頭研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (キ) 新任主幹教諭研修会
  - 教育センター（1日）
- (ク) 新任教務主任研修会（小・中・高・特別支援）
  - 各地区（1日）（関係各教育事務所または各中核市教育委員会による計画）

イ 職能研修Ⅱ

- (ア) 複式指導（国語・算数）担当教員研修会
  - 教育センター（1泊2日）
- (イ) 免許外教科担任教員研修会
  - 教育センター（2泊3日）
- (ウ) 校長のためのマネジメント講座
  - 教育センター（1泊2日）
- (エ) 教頭のためのマネジメント講座
  - 教育センター（1泊2日）
- (オ) 小・中学校におけるキャリア教育実践講座
  - 教育センター（1泊2日）

- (カ) 養護教諭専門研修講座（隔年実施、令和元年度は実施せず）
  - 教育センター（2泊3日）
- (キ) 学校栄養職員専門研修講座（隔年実施）
  - 教育センター（2泊3日）

**(3) 専門研修**

個に即応した指導力の向上を図るために、情報教育、学校教育相談（基礎、実践、予防・開発的教育相談）、道徳教育実践（小・中）、各教科（小・中・高）、高等学校理科実習助手等の各講座を実施した。

**2 研修講座**

**(1) 令和元年度研修講座数・受講者数**

ア 基本研修

|        | 基本研修  |     |     |     |     | 計     |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|
|        | 初任研   | 2年次 | 経験Ⅰ | 経験Ⅱ | 経験Ⅲ |       |
| 講座数    | 6     | 3   | 5   | 5   | 1   | 20    |
| (延べ数)  | 49    | 5   | 7   | 19  | 1   | 81    |
| 延べ受講者数 | 2,526 | 168 | 202 | 587 | 51  | 3,534 |

イ 職能研修

|        | 職能研修  |       | 計   |
|--------|-------|-------|-----|
|        | 職能研修Ⅰ | 職能研修Ⅱ |     |
| 講座数    | 7     | 6     | 13  |
| (延べ数)  | 9     | 7     | 16  |
| 延べ受講者数 | 282   | 290   | 572 |

ウ 専門研修

|        | 専門研修 | 計   |
|--------|------|-----|
| 講座数    | 49   | 49  |
| (延べ数)  | 52   | 52  |
| 延べ受講者数 | 698  | 698 |

エ 総計

|        | 基本研修  | 職能研修 | 専門研修 | 計     |
|--------|-------|------|------|-------|
| 講座数    | 20    | 13   | 49   | 82    |
| (延べ数)  | 81    | 16   | 52   | 149   |
| 延べ受講者数 | 3,534 | 572  | 698  | 4,804 |

(2) 令和元年度研修講座実施状況

ア 基本研修

| 講座名                | 会場                     | 期日                  | 受講者数                                                                |          |
|--------------------|------------------------|---------------------|---------------------------------------------------------------------|----------|
| 初任者研修              | 幼稚園等                   | 教育センター              | 8月19日～8月21日                                                         | 82       |
|                    | 小学校                    | 磐梯青少年交流の家<br>教育センター | 5月21日～5月23日<br>7月29日～7月31日<br>8月5日～8月7日                             | 178      |
|                    | 中学校                    | 磐梯青少年交流の家<br>教育センター | 5月21日～5月23日<br>7月24日～7月26日                                          | 70       |
|                    | 高等学校                   | 教育センター              | 4月4日～4月5日<br>4月17日～4月19日<br>9月3日～9月5日<br>9月17日～9月19日<br>2月12日～2月14日 | 45       |
|                    | 養護教諭                   | 教育センター              | 5月27日～5月29日<br>11月6日～11月8日                                          | 34       |
|                    | 栄養職員                   | 教育センター              | 5月27日～5月29日<br>9月18日～9月20日                                          | 2        |
|                    | 地区別研修                  | 各地区で開催              | 各地区で定めた日程                                                           | 1,761    |
| 2年次教員<br>フォローアップ研修 | 小学校                    | 教育センター              | 7月22日<br>8月19日                                                      | 28<br>35 |
|                    | 中学校                    | 教育センター              | 7月1日                                                                | 31       |
|                    | 高等学校                   | 教育センター              | 7月8日                                                                | 37       |
| 経験者研修Ⅰ             | 小学校                    | 教育センター              | 6月12日～6月14日                                                         | 61       |
|                    | 中学校                    | 教育センター              | 9月24日～9月26日<br>10月2日～10月4日                                          | 45       |
|                    | 高等学校                   | 教育センター              | 9月24日～9月26日<br>10月2日～10月4日                                          | 69       |
|                    | 養護教諭                   | 教育センター              | 9月11日～9月13日                                                         | 19       |
|                    | 学校栄養職員                 | 教育センター              | 8月6日～8月7日<br>隔年実施                                                   | 8        |
| 経験者研修Ⅱ             | 幼稚園等                   | 教育センター              | 5月30日～5月31日                                                         | 15       |
|                    | 小学校                    | 教育センター              | 6月19日～6月21日                                                         | 53       |
|                    | 中学校                    | 教育センター              | 9月11日～9月13日                                                         | 34       |
|                    | 高等学校                   | 教育センター              | 4月12日<br>7月2日～7月3日<br>2月6日～2月7日                                     | 79       |
|                    | 養護教諭                   | 教育センター              | 7月30日～8月1日                                                          | 10       |
|                    | 学校栄養職員                 | 教育センター              |                                                                     |          |
|                    | 地区別研修                  | 各地区で開催              | 各地区で定めた日程                                                           | 242      |
| 経験者研修Ⅲ             | 小学校<br>中学校<br>市立特別支援学校 | 教育センター              |                                                                     |          |
|                    | 県立学校                   | 教育センター              | 10月30日～11月1日                                                        | 51       |

イ 職能研修

| 講 座 名                   |                        | 期 日         | 受講者数 |
|-------------------------|------------------------|-------------|------|
| 職能研修 I                  | 市町村立小・中・特別支援学校新任校長研修会  | 4月22日～4月23日 | 71   |
|                         |                        | 5月9日～5月10日  | 30   |
|                         | 県立学校新任校長研修会            | 5月9日～5月10日  | 7    |
|                         | 市町村立小・中・特別支援学校新任副校長研修会 | 4月22日       | 3    |
|                         | 県立学校新任副校長研修会           | 5月14日       | 3    |
|                         | 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会  | 5月7日～5月8日   | 95   |
|                         |                        | 5月16日～5月17日 | 41   |
|                         | 県立学校新任教頭研修会            | 5月16日～5月17日 | 16   |
|                         | 新任主幹教諭研修会              | 5月20日       | 16   |
| 市町村立小・中・特別支援学校新任教務主任研修会 | 各教育事務所の日程              | 81          |      |
| 県立学校新任教務主任研修会           | 各教育事務所の日程              | 14          |      |
| 職能研修 II                 | 複式指導（国語・算数）担当教員研修会     | 5月28日～5月29日 | 23   |
|                         | 免許外教科担任教員研修会           | 5月13日～5月15日 | 45   |
|                         |                        | 5月22日～5月24日 | 40   |
|                         | 校長のためのマネジメント講座         | 6月10日～6月11日 | 67   |
|                         | 教頭のためのマネジメント講座         | 9月19日～9月20日 | 77   |
|                         | 小・中学校におけるキャリア教育実践講座    | 9月2日～9月3日   | 36   |
|                         | 養護教諭専門研修講座             |             |      |
| 学校栄養職員専門研修講座            | 9月2日～9月4日              | 2           |      |

ウ 専門研修

| 講 座 名               |                                        | 期 日          | 受講者数 |
|---------------------|----------------------------------------|--------------|------|
| 教科教育系               | 深い教材研究による小学校国語科授業づくり講座                 | 9月2日～9月3日    | 7    |
|                     | 主体的・対話的で深い学びを実現する小学校国語科指導力向上講座         | 7月11日～7月12日  | 5    |
|                     | 主体的・対話的で深い学びを実現する中学校国語科指導力向上講座         | 9月30日～10月1日  | 8    |
|                     | 授業改善に結び付く国語科の評価問題作成・研究講座               | 8月8日～8月9日    | 11   |
|                     | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた PISA 型読解力研究講座      | 10月8日～10月9日  | 11   |
|                     | 「問い」で10倍楽しくなる社会科の授業づくり講座               | 8月8日～8月9日    | 14   |
|                     | 社会科・地理歴史科・公民科の評価問題作成・研究講座              | 8月21日～8月22日  | 7    |
|                     | 小・中・高の「社会的な見方・考え方」を生かした授業づくり講座         | 6月24日～6月25日  | 8    |
|                     | 社会科・地理歴史科・公民科の主権者教育の授業づくり講座            | 9月2日         | 11   |
|                     | 数学的活動の充実を図る算数科授業づくり講座                  | 8月8日～8月9日    | 14   |
|                     | 教科の本質に迫る中学校数学科授業づくり講座                  | 9月30日～10月1日  | 3    |
|                     | 数学的に考える資質・能力を高め課題解決を図る数学科問題作成・研究講座     | 7月24日～7月25日  | 7    |
|                     | データを活用し統計的な判断力を伸ばさせる中学校・高等学校数学科授業づくり講座 | 10月31日～11月1日 | 10   |
|                     | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた小学校理科講座             | 8月21日～8月22日  | 6    |
|                     | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた中学校理科講座             | 8月1日～8月2日    | 12   |
| 高等学校理科観察・実験・授業づくり講座 | 9月30日～10月1日                            | 13           |      |

|                                        | 講 座 名                      | 期 日           | 受講者数 |
|----------------------------------------|----------------------------|---------------|------|
| 教科教育系                                  | 実習助手のための理科観察・実験講座          | 6月17日～6月18日   | 11   |
|                                        | 小学校外国語活動・外国語科講座            | 9月5日～9月6日     | 9    |
|                                        | 発問で授業を活性化させる英語指導講座         | 11月5日～11月6日   | 11   |
|                                        | スピーキング力を高める英語指導講座          | 8月9日          | 15   |
|                                        | 教科書を活用して表現力を高める英語指導講座      | 8月1日～8月2日     | 10   |
|                                        | 諸外国の民族音楽の授業づくり講座           | 9月30日～10月1日   | 10   |
|                                        | 日本伝統音楽の授業づくり講座             | 11月12日～11月13日 | 5    |
|                                        | 児童・生徒の心をつかむ合唱指導講座          | 6月25日         | 17   |
|                                        | 楽しみながら力を伸ばす図画工作科指導法講座      | 6月26日         | 11   |
|                                        | 創造性を育む図画工作・美術の鑑賞指導法講座      | 前期 8月21日      | 12   |
|                                        |                            | 後期 11月1日      | 10   |
|                                        | 創造性を育む美術の表現指導法講座           | 9月30日～10月1日   | 13   |
|                                        | 発想と技法を学ぶ書道実技講座             | 10月8日         | 9    |
|                                        | 運動が苦手な児童生徒のための体育指導講座       | 8月22日～8月23日   | 6    |
|                                        | ICTを活用した保健体育科の授業づくり講座      | 11月6日～11月7日   | 17   |
|                                        | 匠に学ぶものづくり講座                | 8月8日～8月9日     | 8    |
|                                        | 技術科を担当する先生のためのプログラミング講座    | 10月17日        | 9    |
| 家庭科を担当する先生のための基礎・基本講座（被服編）             | 8月8日                       | 11            |      |
| 実践的・体験的な学習の充実を図るための家庭科講座（高齢者との関わりと福祉編） | 11月12日～11月13日              | 10            |      |
| 教育相談系                                  | 明日から生かせる学校教育相談基礎講座         | 7月25日～7月26日   | 25   |
|                                        | 子どもたちの育ちを支える学校教育相談スキルアップ講座 | 6月25日～6月26日   | 9    |
|                                        |                            | 10月7日～10月8日   | 9    |
|                                        |                            | 2月12日～2月13日   | 9    |
| 人間関係づくりに生かす予防・開発的教育相談講座                | 6月18日                      | 39            |      |
| 情報教育系                                  | 校務処理に生かす表計算活用講座            | 10月10日        | 30   |
|                                        | 授業力向上のための ICT 活用基礎講座 義務系   | 11月14日        | 13   |
|                                        | 授業力向上のための ICT 活用基礎講座 県立系   | 11月1日         | 19   |
|                                        | 校内ネットワークの管理と運用基礎講座         | 9月9日～9月10日    | 14   |
|                                        | グループウェアで活用する G Suite 実践講座  | 7月23日         | 26   |
|                                        | はじめての G Suite 基礎講座         | 6月26日         | 20   |
|                                        | ワークショップで学ぶ情報モラル教育講座        | 8月20日         | 23   |
| 教科外教育系                                 | 小学校「特別の教科 道徳」の授業づくり講座      | 9月5日～9月6日     | 7    |
|                                        | 中学校「特別の教科 道徳」の授業づくり講座      | 9月17日～9月18日   | 23   |
|                                        | 子どもの思いを実現し、豊かな学級をつくる学級活動講座 | 8月23日         | 31   |
|                                        | 放射線・防災教育指導力向上講座            | 8月20日         | 18   |
|                                        | 養護教諭のための指導力向上講座            | 8月9日          | 32   |

### 3 指導主事派遣等

令和元年度の指導主事派遣の概要は次のとおりである。

( )内は昨年度比。「出前講座」での指導主事派遣件数は、指導主事派遣件数を含む。

|          |            |
|----------|------------|
| 指導主事派遣件数 | 98件 (52件減) |
| (内訳) 小学校 | 23件 (24件減) |
| 中学校      | 8件 (20件減)  |
| 高等学校     | 12件 (6件減)  |
| 教育委員会等   | 13件 (2件増)  |
| 各種教育団体等  | 42件 (4件減)  |

「出前講座」での指導主事派遣件数 55件

|          |     |
|----------|-----|
| (内訳) 小学校 | 16件 |
| 中学校      | 8件  |
| 高等学校     | 9件  |
| 教育委員会等   | 7件  |
| 各種教育団体等  | 15件 |

## 第4節 情報教育事業

### 1 研修講座の概要

小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修(専門研修)の概要は以下のとおりである。

#### (1) ネットワークを活用するための講座(小・中・高・特支)

- ア 校内ネットワークの管理と運用基礎講座
- イ グループウェアで活用するG Suite実践講座

#### (2) 授業実践講座(小・中・高・特支)

- ア 授業力向上のためのICT活用基礎講座
- イ ワークショップで学ぶ情報モラル教育講座

#### (3) 校務の効率化を目指す講座(小・中・高・特支)

- ア 校務処理に生かす表計算活用講座
- イ はじめてのG Suite基礎講座
- ウ グループウェアで活用するG Suite実践講座

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報の扱いや情報セキュリティについても、その重要性・緊急性に言及した。

自主講座においては、6月8日に「表計算入門講座」を実施し、14名の参加を得た。また、一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携した、小・中学生対象の「子どものためのロボットワークショップ」は、8月3日に10組20名の小・中学生とその保護者の参加により実施した。

### 2 施設利用概況

基本研修の実践講座の各教科において、「教科指導におけるICT活用」を共通項目で指導するため、パソコンやプロジェクタ等ICT機器の活用機会やパソコン研修室の利用は多く、以下のとおりであった。

### パソコン研修室利用状況

| 利用区分     | 講座数  | 利用日数 | 実人数   | 延べ人数  |     |
|----------|------|------|-------|-------|-----|
| 教育センター研修 | 47   | 67   | 725   | 973   |     |
| 講座       | 基本研修 | 20   | 31    | 186   | 329 |
|          | 専門研修 | 22   | 30    | 449   | 531 |
|          | 職能研修 | 5    | 6     | 90    | 113 |
| 教育庁研修    | 8    | 11   | 359   | 365   |     |
| 合計       | 55   | 78   | 1,084 | 1,338 |     |

## 第5節 教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による教育相談を受けている。令和元年度の来所相談・電話相談の概要は、以下のとおりである。

### 1 対象別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談日数は116日、電話相談日数は240日であった。

| 種別       | 対象 | 幼  | 小   | 中   | 高   | 一般 | 教員 | 計   |
|----------|----|----|-----|-----|-----|----|----|-----|
|          |    | 件数 | 0   | 8   | 9   | 23 | 0  | 1   |
| 来所<br>相談 | 人数 | 0  | 9   | 10  | 23  | 0  | 3  | 45  |
|          | 回数 | 4  | 140 | 115 | 225 | 76 | 6  | 566 |

### 2 区分別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」、「学校への不満」の相談が含まれる。

| 種別       | 対象 | 知能<br>学業 | 性格<br>行動 | 身体<br>神経 | 進路<br>適性 | 教育<br>一般 | その<br>他 | 計   |
|----------|----|----------|----------|----------|----------|----------|---------|-----|
|          |    | 件数       | 0        | 12       | 0        | 0        | 5       | 24  |
| 来所<br>相談 | 人数 | 0        | 14       | 0        | 0        | 7        | 24      | 45  |
|          | 回数 | 1        | 66       | 39       | 28       | 287      | 145     | 566 |

### 3 地区別来所相談件数

| 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 県外 | 計  |
|----|----|----|----|-----|----|-----|----|----|
| 12 | 6  | 3  | 10 | 1   | 6  | 3   | 0  | 41 |

### 4 月別相談件数・回数

| 種別       | 月  | 4        | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 1  | 2  | 3  | 計   |
|----------|----|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
|          |    | 来所<br>相談 | 件数 | 2  | 2  | 9  | 1  | 0  | 2  | 10 | 2  | 1  | 0  | 11  |
| 電話<br>相談 | 人数 | 3        | 2  | 9  | 1  | 0  | 4  | 10 | 2  | 2  | 0  | 11 | 1  | 45  |
|          | 回数 | 66       | 61 | 51 | 44 | 35 | 47 | 52 | 42 | 44 | 46 | 49 | 29 | 566 |

## 第6節 教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や「所報ふくしま『窓』」を刊行した。

### 1 教育図書・教育資料の収集

|                         |      |
|-------------------------|------|
| 教育図書購入冊数                | 32冊  |
| 寄贈教育図書等（DVD等を含む、教科書は除く） | 8冊   |
| 定期刊行図書購入冊数              | 27冊  |
| 研究紀要等寄贈冊数               | 133冊 |
| 恵贈定期刊行物数                | 34冊  |

### 2 教育資料の刊行

|           |             |
|-----------|-------------|
| 研究紀要      | 第49集        |
| 所報ふくしま「窓」 | 第177号～第178号 |

#### 付記

平成16年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成20年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。令和元年度は研修者なし。

# 第 13 章 福島県特別支援教育センター

## 第 1 節 概要

昭和 61 年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・教育研究、図書・資料の収集と情報提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

今年度は、第 6 次福島県総合教育計画（改訂版）に基づき、早期からの教育的支援、小・中学校及び高等学校等に在籍する発達障がいを含む特別な支援を必要とする児童生徒等への支援、特別支援学校の専門性の向上と特別支援教育におけるセンターの機能の充実に向けた支援、関係機関との連携等の充実に努めてきた。

### 1 教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの適切な支援策や指導法について共に見つけだすようにした。また、面接、行動観察等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センター相談での相談受理件数は 176 件（昨年度比 81.5%）、延べ件数は 550 件（昨年度比 78.8%）であった。障がい種別による相談実件数では、その他（医師による診断のない者）の相談が最も多く 48.3%、続いて発達障がい、26.1%であった。これらを合わせると実件数の 74.4%を占めている。知的障がいに関する相談は約 10.2%であり、合わせると実件数全体の 84.6%を占める。相談者は、本人、保護者、教員、関係機関等である。

その他、地域・学校等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、教職員等が適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言を行った。学校等のニーズに応じ、ケース検討会や校内研修会等の開催・運営等への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉の関係機関、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

### 2 教職員研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「平成 31 年度福島県公立学校教職員現職計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

特別支援学校の基本研修においては、初任者研修、2 年次教員フォローアップ研修、経験者研修Ⅰ・Ⅱと教職経験年数に応じて、基礎的・基本的な事項を中心とした研修や教員の専門的な知識・能力の深化を図る研修、教員として教育活動全般にわたる広い視野に立った研修等を実施した。また、小

・中学校や高等学校、特別支援学校等の教員を対象とする職能研修では、特別支援学級等新任担当教員研修会や特別支援教育コーディネーター研修会など、その職責に応じた資質・力量の向上を目指した研修を行った。さらに、専門研修の各講座では、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の正しい理解や教育的な対応、授業の改善や充実につながる研修を行うとともに、最新の知見を取り入れた各種講座を設け実施した。

基本研修の受講者総数は延べ 504 名（初任者研修、2 年次教員フォローアップ研修、経験者研修Ⅰ、経験者研修Ⅱ）であった。職能研修の受講者総数は延べ 526 名（特別支援学級等新任担当教員研修会、特別支援学級担当教員（経験三年）研修会、小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会、高等学校特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援学校訪問教育・医療的ケア担当教員研修会、通級指導教室担当教員研修会）、そして、専門研修講座（16 講座）の総受講者は延べ 510 名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（8 講座）の聴講者総数は 73 名で、自主研修講座（2 講座）の参加者総数は 20 名であった。

### 3 調査研究・教育研究事業

本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の研究等を行った。

#### (1) 調査研究

「発達障がいの可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査研究」（二年度）

平成 23 年度に「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」が全国規模で実施されたが、本県を含む東北 3 県は震災の影響により実施対象とならなかった。そのため、本県における発達障がいの可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒の状況は、平成 16 年度（小・中学校）及び平成 20 年度（高等学校）に行った調査以来、把握ができていない状況となっていた。そこで、本調査研究では、平成 30 年度（一年次）に小・中学校、義務教育学校の通常の学級及び高等学校（通信制は除く）に在籍し、学習面や行動面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒の状況調査を実施した。

令和元年度（二年度）は、各学校における合理的配慮の提供状況についての調査から把握した現状と課題を踏まえ、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、合理的配慮の提供を推進し、必要な支援が確実に実施されるための有効な取組について研究協力校と実践研究を行った。

#### (2) 教育研究

「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校にお

ける各教科の指導の充実」(二年次)～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～

平成 29 年 4 月、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が改訂され、小・中学校に準じた改善が図られるとともに「学びの連続性を重視した対応」の一つとして、知的障がいのある児童生徒のための各教科が整理され充実した。その中で、障がいのある児童生徒が自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うための教育の充実、各教科の指導の充実が求められている。新学習指導要領を踏まえ、特別支援学校(知的障がい)において、知的障がいのある児童生徒への各教科の指導の充実を図り、児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指して研究協力校と共同で研究を行った。

#### 4 教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実を目指して広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備・充実を図った。

本年度も特別支援教育の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Web サイトによる紹介等を推進した。

なお、3 月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は 6,392 冊、定期刊行物 6 種、教育資料数 4,450 点である。

#### 5 広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報及び資料、並びに本センターの事業内容を広報誌や各種発行物として関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓発や理解推進を図った。併せて、事業内容を多くの方々に伝えるため、Web サイトでも情報提供に努めた。

#### 6 情報教育事業

専門研修講座を中心に、障がいのある児童生徒の学習を支援するため、ICT 等支援機器の活用に関する研修の企画運営を行った。

## 第 2 節 教育相談事業

### 1 相談対象

相談は、障がいのある、又はその心配のある乳幼児、児童、生徒及びその保護者や関係者を対象として実施した。相談の障がい種別は次のとおりである。

- 視覚障がいにかかわる相談
- 聴覚障がいにかかわる相談
- 知的障がいにかかわる相談
- 肢体不自由にかかわる相談
- 病弱・身体虚弱にかかわる相談
- 言語障がいにかかわる相談
- 情緒障がい(場面緘黙等)にかかわる相談
- 発達障がいにかかわる相談
- その他(医師による診断のない者)の相談

### 2 形態

#### (1) センター相談

電話での申込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、相談者の来所による教育相談を行った。また、相談の内容によっては電話のみによる相談も行った。

#### (2) 要請を受けての相談

困難な事例や特に必要な場合には学校等に出向き、現地においての相談を行った。また、保育所・幼稚園、認定こども園、小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校から支援要請を受け、事例研究を通しての相談を行った。

### 3 現状と課題

特別支援教育の相談については、各学校において特別支援教育の校内委員会や教育相談・進路指導、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが組織として機能してきたと考える。本センターの教育相談においては、そのような地域・学校等の機能とどのように連携し、学校等の支援体制づくりに寄与していくのか、さらに検討が必要である。

相談者からの主訴では、幼児については、就学に向けて多様な学びの場についての情報提供が多く、小学生では、他者とのコミュニケーションや学習面についてが多い。小学校高学年から高校生までの幅広い年齢層で、生活において不適応を起し、「登校しぶり」「不登校」についての相談が増加している。子どもの困難さの背景を探り、適切な支援を考える必要から、関係者によるケース会議の開催が重要となっている。また、小学校高学年から高校生については、自己理解を促す相談も大切に重ねていく必要があると考える。

#### <年齢・学校別相談件数>

| 年齢・学校  | 乳幼児(歳) |   | 小学校(学年) |    |    |    |    |    | 中学校(学年) |    |    | 高等学校(学年) |    |   | 一般他 | 計  |     |
|--------|--------|---|---------|----|----|----|----|----|---------|----|----|----------|----|---|-----|----|-----|
|        | 0~4    | 5 | 1       | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 1       | 2  | 3  | 1        | 2  | 3 |     |    |     |
| センター相談 | 実件数    | 7 | 15      | 11 | 11 | 9  | 20 | 10 | 12      | 15 | 15 | 18       | 6  | 2 | 11  | 14 | 176 |
|        | 延件数    | 8 | 24      | 37 | 35 | 35 | 58 | 34 | 68      | 48 | 52 | 64       | 17 | 6 | 46  | 18 | 550 |

<障がい種別相談件数>

| 障がい種   |     | 視覚障がい | 聴覚障がい | 知的障がい | 肢体不自由 | 病弱虚弱 | 言語障がい | 情緒障がい | 発達障がい | その他 | 計   |
|--------|-----|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-----|-----|
| センター相談 | 実件数 | 0     | 7     | 18    | 4     | 2    | 0     | 14    | 46    | 85  | 176 |
|        | 延件数 | 0     | 17    | 50    | 5     | 12   | 0     | 21    | 173   | 272 | 550 |

<地区別相談件数>

| 地区  | 県北 | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | その他 | 計   |
|-----|----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|
| 延件数 | 99 | 356 | 25 | 26 | 1   | 17 | 15  | 11  | 550 |

### 第3節 教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上を目指し、講座内容の一層の充実を図った。

- 専門研修講座を16講座設け、そのうち8講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。
- 講座は講義を中心としながらも、演習や実技、協議等に重点を置いて構成し、研修内容・方法に工夫を加えた。研修を通して受講者が自らの課題に気付き、その解決に主体

的に取り組むことができるように、話し合いの活動を多く取り入れ、具体的な方策に結び付くようにした。

- 特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。
- 調査研究や教育研究等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

#### 1 教職員の研修講座

##### (1) 専門研修

| 講座名                                                                           | 期日及び期間 | 受講者数(人) |
|-------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 発達障がいの教育Ⅰ 発達障がいのある幼児児童生徒の基礎的な理解と対応                                            | 7月2日   | 30      |
| 発達障がいの教育Ⅱ 発達障がいのある児童生徒のライフステージに応じた支援を考える                                      | 9月26日  | 9       |
| 特別支援教育の充実Ⅰ 障がいのある子どもを支える保護者や関係機関との連携                                          | 9月24日  | 19      |
| 特別支援教育の充実Ⅱ<br>通常の学級に在籍する多様な児童生徒が共に学ぶための指導の充実 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりと合理的配慮～ | 8月19日  | 54      |
| 特別支援教育の充実Ⅲ 多様な学びを支えるアセスメント                                                    | 7月11日  | 16      |
| 特別支援教育の充実Ⅳ<br>生徒の進路実現と生涯にわたる支援の充実 ～生涯にわたる支援のために～                              | 9月17日  | 48      |
| 特別支援教育の充実Ⅴ チーム力向上のための知識・理論 ～チームづくりのヒント：0JL～                                   | 10月1日  | 17      |
| 特別支援教育実践力アップⅠ 自立活動の指導の充実 ～新学習指導要領を踏まえて～                                       | 7月4日   | 63      |
| 特別支援教育実践力アップⅡ<br>知的障がい教育における各教科の指導の充実 ～新学習指導要領を踏まえて（国語編）～                     | 7月25日  | 41      |
| 特別支援教育実践力アップⅢ<br>特別支援学校における重度・重複障がいのある児童生徒の理解と授業づくり                           | 7月9日   | 29      |
| 特別支援教育実践力アップⅣ<br>特別支援学校における授業力向上 ～新学習指導要領を踏まえた目標と評価～                          | 9月19日  | 28      |
| 特別支援教育実践力アップⅤ<br>チーム力向上のためのメンタルヘルスとリスクコミュニケーション                               | 10月4日  | 16      |
| 特別支援教育実践力アップⅥ<br>特別支援教育に活かすICT機器やデジタル教材 ～合理的配慮の充実に向けて～                        | 9月12日  | 44      |
| 特別支援教育実践力アップⅦ<br>連続性のある多様な学びのための小・中学校、高等学校、特別支援学校の連携<br>～切れ目のない支援のための学校間の引継ぎ～ | 7月30日  | 41      |

| 講座名                                    | 期日及び期間 | 受講者数(人) |
|----------------------------------------|--------|---------|
| 特別支援教育実践力アップⅧ 特別支援学級の学級経営 ～教育課程と授業づくり～ | 8月22日  | 17      |
| 幼児期から児童期への支援を継続する幼小連携 ～子どもの発達を考える～     | 7月26日  | 38      |
| 計                                      |        | 510     |

(他に公開講座に73名、自主研修講座に20名が参加)

## (2) 基本研修

| 研修名                         | 期日及び期間    | 受講者数(人) |
|-----------------------------|-----------|---------|
| 特別支援学校初任者研修一般研修             | 4月10日～11日 | 64      |
| 特別支援学校初任者研修カウンセリング研修        | 6月12日～13日 | 63      |
| 特別支援学校初任者研修宿泊一次研修           | 8月6日～8日   | 58      |
| 特別支援学校初任者研修教育課程別研修          | 9月11日     | 58      |
| 特別支援学校初任者研修学部別研修            | 11月13日    | 58      |
| 特別支援学校初任者研修宿泊二次研修           | 2月5日～7日   | 58      |
| 特別支援学校2年次教員フォローアップ研修教科等指導研修 | 8月20日     | 49      |
| 特別支援学校経験者研修Ⅰ全体研修            | 6月19日～21日 | 39      |
| 特別支援学校経験者研修Ⅱ共通研修            | 6月25日～27日 | 29      |
| 特別支援学校経験者研修Ⅱ教科等指導研修         | 1月16日～17日 | 28      |
| 計                           |           | 504     |

## (3) 職能研修

| 研修名                     | 期日及び期間    | 受講者数(人) |
|-------------------------|-----------|---------|
| 特別支援学級等新任担当教員研修会        | (共通) 4月   | 109     |
|                         | (地区別) 11月 | 77      |
| 特別支援学級担当教員(経験三年)研修会     | (地区別) 9月  | 41      |
| 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会  | (地区別) 6月  | 149     |
| 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会   | 5月15日     | 44      |
| 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会 | 5月24日     | 26      |
| 特別支援学校訪問教育・医療的ケア担当教員研修会 | 7月23日     | 24      |
| 通級指導教室担当教員研修会           | 7月17日     | 56      |
| 計                       |           | 526     |

## 第4節 調査研究・教育研究事業

### 1 調査研究

「発達障がいの可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査研究」(二年度)

#### (1) 調査研究の趣旨と目的

特別支援教育が本格的に開始されてから10年以上が経過した。平成25年には学校教育法施行令の改正に伴い就学に関する手続きが見直され、また、平成28年には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行に伴い合理的配慮の提供が義務化されるなど、障がいのある児童生徒が地域で共に学ぶ仕組みづくりが推進されてきている。本県においても第6次福島県総合教育計画の施策の一つとして、障がいのある児童生徒が「地域で共に学び、共に生

きる教育」の推進を掲げ、特別支援学校のみならず小・中学校、義務教育学校及び高等学校等における特別支援教育の充実に取り組んでいるところである。

一方、平成23年度に「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」が全国規模で行われたが、本県を含む東北3県は震災の影響により実施対象とならなかった。そのため、本県における発達障がいの可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒の状況は、平成16年度(小・中学校)及び平成20年度(高等学校)に福島県養護教育センター(現福島県特別支援教育センター)が行った調査以来、把握ができていない状況となっていた。そこで、平成30年度に小・中学校、義務教育学校の通常の学級及び高等学校に在籍し、発達障がいの可能性のある児童生

徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒の状況を調査した。

調査結果から、特別な教育的支援を必要とする児童生徒は一定数に達するものの、合意形成の上、合理的配慮の提供を受けている割合は必ずしも高くはないことが明らかになった。また、合理的配慮の提供に関する課題として、教職員の理解が最も多く挙げられたことから、教職員研修の改善・充実を図るとともに、県内への波及を図るために7校の研究協力校において実践研究を実施し、校種や規模に応じた有効な取組を明らかにする。

## (2) 研究の実際

### ア 合理的配慮に関する情報発信

合理的配慮の理解を促進するために、リーフレット「みんなで進める 合理的配慮」（基礎編、実践編、事例編）を作成し、県内全ての学校に配布するとともに、本センターのWebサイトに掲載した。

リーフレット「基礎編」では、合理的配慮の基礎的内容のほか、合理的配慮の提供のプロセスや合理的配慮の具体例などについて取り上げた。

「実践編」では、合理的配慮を始めるため、充実させるためのポイント、合理的配慮の提供に向けた実践例等について掲載した。

さらに、「事例編」には、合理的配慮の提供計画チェック表や研究協力校の実践事例を掲載し、各校における合理的配慮の提供に向けた計画づくりに生かせるようにした。

### イ 合理的配慮に関する研修の充実

本センター主催の小・中学校、義務教育学校及び高等学校の教職員を対象とした職能研修5講座と専門研修9講座等において、合理的配慮に関する内容を取り上げるとともに、講義だけでなく仮想事例を基に具体的な支援策を検討する演習も行うなど研修の充実を図った。

講義で使用する資料については、作成したリーフレットの内容との整合性を図り、リーフレットを活用しながら研修ができるようにした。講義・演習等を工夫し、教職員の理解の促進を図った。

また、要請に応じて実施する地域・学校支援23件においても同様の資料を活用して支援を行った。

### ウ 協力校との実践研究

協力校との合理的配慮の充実に向けた有効な取組が広く県内に波及する効果を期待し、小・中学校、義務教育学校及び高等学校から、規模や地域が偏らないように7校に実践研究の協力を依頼した。

協力校においては、「教職員向け研修」「児童生徒・保護者向け説明」「意思の確認」「校内委員会での検討」「支援内容の文書明記と保護者との確認」「支援内容の評価と見直し」について、学校としてどのように取り組んでいくか検討、整理して、合理的配慮の提供計画を作成し、計画に沿って取組を進めた。

## (3) 研究の成果

### ア 合理的配慮に関する情報発信について

合理的配慮に関する教職員の理解啓発を図るためのリーフレット「みんなで進める 合理的配慮」（基礎編・実践編・事例編）は、本センターのWebサイトにも掲載しており、実践編を掲載した令和元年9月から令和2年3月までの間に、延べ5,000件を超える閲覧が確認されている。利用者の特定はできないものの、1日30件程度のアクセスがあることから、各校に配布したリーフレットとともに教職員の理解を促す資料として活用されていると考える。

### イ 合理的配慮に関する研修の充実について

職能研修や専門研修講座等において、講義だけではなく、協議や演習を取り入れたことで、受講者からは、講義を通して合理的配慮についての理解が深まったという感想や合理的配慮の提供に向けて「校内で取り組んでいきたい」という意見が多く見られた。また、「研修内容を学校で伝えたい」という感想も寄せられたことから、小・中学校、義務教育学校及び高等学校の教員を対象とした研修で合理的配慮に関する内容を取り入れたことは、各学校への波及も期待できると考える。

### ウ 協力校との実践研究について

合理的配慮の提供に向けた有効な取組は、規模や校種、地域の様子など学校の状況によって様々であることが明らかになった。

また、各協力校が「合理的配慮の提供計画」を作成し、教職員を対象とした研修を実施したり、児童生徒や保護者に対して説明したり、計画に沿って取組を進めたりしたことで、合理的配慮に関する理解が深まり、合理的配慮の提供につながったと考えられる。

## (4) 研究のまとめ

### ア 研究の成果

- 講義のみならず演習や協議を取り入れながら、合理的配慮に関する研修の行い方を工夫したり、各学校での波及も狙いながら、合理的配慮について取り上げる研修を吟味したりすることで、合理的配慮に関する教職員の理解を促すことができた。
- リーフレット「みんなで進める合理的配慮」は、各学校で行われる特別支援教育に関する校内研修や、教育支援アドバイザーや特別支援学校のセンター的機能を生かした小・中学校、義務教育学校及び高等学校への研修支援の場で活用され始めている。
- 調査研究アドバイザーの助言に基づき、合理的配慮の提供に影響を及ぼす取組として、具体的には「教職員の理解を図るための研修」「児童生徒・保護者への説明」「校内体制の整備（合理的配慮の提供計画の作成と共有）」の3つが、各協力校における合理的配慮の提供の充実につながった。

このことから、各学校において合理的配慮の提供計画を作成することが児童生徒の指導・支援を充実させ

るために非常に重要であることが明らかになった。

#### イ 今後の展望

児童生徒一人一人に応じた合理的配慮が提供されることは、すべての児童生徒が持てる力を最大限に発揮しながら「地域で共に学び、共に生きる教育」の実現にとって極めて重要である。

今後は県内すべての学校において合理的配慮の提供が一層推進されるように、研究の成果を踏まえ、合理的配慮に関する理解を促すための研修の充実や情報発信に引き続き取り組んでいくとともに、協力校の取組を各地域において波及させていく。また、一人一人に応じた合理的配慮が提供できるように障がいに応じた取組の在り方についても研究を進める。

## 2 教育研究

「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の指導の充実」(二年度)～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～

### (1) 研究の趣旨と目的

平成 29 年 4 月、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が改訂され、小・中学校に準じた改善が図られるとともに「学びの連続性を重視した対応」の一つとして、知的障がいのある児童生徒のための各教科が整理され充実した。障がいのある児童生徒が自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うための教育の充実、各教科の指導の充実が求められている。

本研究では、研究協力校(研究推進モデル校 2 校、地区協力校 5 校)と共同し、新学習指導要領を踏まえた実践研究により、知的障がいのある児童生徒への各教科の指導の充実を図り、児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す。

### (2) 研究の経過

#### ア 新学習指導要領の理解啓発

(ア) 各校の課題やニーズに応じた新学習指導要領に関する情報提供

各教科の指導の意義、新学習指導要領の要点等について情報提供を行った。

(イ) 新学習指導要領、解説を活用した講義・演習の充実  
新学習指導要領に基づき、学習状況を可視化して整理し、指導の偏りなどに着目しながら、年間指導計画を各教科の内容の指導事項との関連で見直した。

(ウ) 実践研究等の情報発信

県内特別支援学校のすべての教員を対象とした「実践研究通信」の発行や、Web サイトにおける資料の掲載を行った。

イ 新学習指導要領を踏まえた授業研究(研究協力校との取組)

(ア) 新学習指導要領を踏まえた学習指導案、授業研究会の在り方

研究協力校連絡協議会において学習指導案の様式を検討し、各研究協力校の実践から、学習指導案や授業研究会について情報共有をした。

(イ) 年間指導計画、教育課程等の工夫、改善点の整理・共有

各研究協力校の年間指導計画や教育課程等を持ち寄り、具体的な取組について情報共有した。

ウ 学びの連続性を確保するためのシステムの構築～新学習指導要領に基づく学習状況等の把握～

(ア) 「学びの履歴」シートの活用と検証(研究協力校との取組)

研究協力校(研究推進モデル校)による活用を通して、「学びの履歴」シートの効果や改善点について意見収集した。

(イ) 活用の効果と改善点の整理と改善

活用の効果と改善点を整理し、「学びの履歴」シート〔2020 年版〕を作成し、Web サイトに掲載して情報発信した。

### (3) 研究のまとめ

#### ア 成果

(ア) 新学習指導要領の理解啓発

○ 新学習指導要領に関する研修の充実が図られたこと  
各校で開催された校内研修会、本センターの研修講座、Web サイト、実践研究通信などを通して、知的障がいのある児童生徒のための各教科の指導について、教員間で学び合う機会が増えた。

(イ) 新学習指導要領を踏まえた授業研究(研究協力校との取組)

○ 各教科の指導と評価の在り方を明確にした授業づくりと授業改善の実践が深められたこと

研究協力校における学習指導案と授業研究会の工夫・改善を通して、教科別の指導、各教科等を合わせた指導の具体的な実践を深めることができた。

(ウ) 学びの連続性を確保するためのシステムの構築～新学習指導要領に基づく学習状況の把握～

○ 「学びの履歴」シートによる学習状況等の把握と指導への活用について、効果と改善点が明らかになったこと

研究協力校での活用と検証を通して、学習状況の整理と引継ぎの重要性、指導計画の見直しに効果的であること、具体的な指導内容の設定が必要なことなど、各教科の指導と評価につながる重要な視点を獲得することができた。

#### イ 課題

○ 各教科の指導における主体的・対話的で深い学びの好事例の蓄積と情報発信をしていくこと

○ 児童生徒の学習状況を把握し、年間指導計画や単元計画の工夫・改善に生かすための方策を検討していくこと

○ これまでの研究成果を、実践する教員が活用しやす

い資料としてまとめ、県内外に広く発信していくこと  
ウ 今後の取組に向けて

知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の指導の充実のために、各研究協力校との実践研究から、以下のポイントが挙げられた。

○ 学習状況の整理・把握

学習指導要領に示された各教科の目標及び内容に基づいて、児童生徒一人一人の学習状況を整理し、把握することで、各教科の指導における個別の指導目標や指導内容を具体的に設定することができる。

○ 学ぶ内容を明確にし、つなぐこと

学習指導要領に示された各教科の目標及び内容に基づいて、単元（題材）の指導目標及び指導内容を明確にし、単年間や学年間の学習内容をつなぐことで、各教科の系統的な指導ができる。

○ 自立活動との関連の整理

各教科と自立活動の指導目標設定の手続きの違いに留意し、各授業における教科と自立活動のそれぞれのねらいと関連を整理することで、資質・能力を育む単元計画を立てることができる。

○ 主体的・対話的で深い学びの実現

単元（題材）のまとまりを通じて、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点で手立てを工夫・改善することで、資質・能力を育む単元計画を立てることができる。

○ 学習評価と授業改善

観点別学習状況の評価を行うことで、児童生徒の学習状況を分析的に捉え、指導の改善に生かすことができる。また、単元（題材）においても、学習評価を適切に行うことで、具体的な授業の改善に生かすことができる。

○ 年間指導計画の工夫

学校や学部における指導の重点、内容の系統性、適切な時期等を踏まえ、単元（題材）の時数や配列など、年間指導計画を工夫することで、組織的・計画的な各教科の指導と評価を行うことができる。

これらのポイントを押さえ、各教科の指導の充実を図ることにより学びの連続性が確保されるとともに、学校の教育活動の質的向上を図るカリキュラム・マネジメントにつながるものとする。各研究協力校の実践事例を広く波及していく。

### 3 長期研究員制度による研究

平成 29 年度より長期研究員制度が復活した。長期研究員は、各自が研究テーマを設定して、計画、実践、評価をして二年次に研究をまとめ、発表・報告を行うこととしている。令和元年度は 4 名が研究に取り組み、福島県特別支援教育センター研究発表会では二年次の 2 名が研究のまとめを発表し、一年次の 2 名がポスター発表で中間報告した。また、研

究成果を「研究紀要」にまとめた。

## 第 5 節 教育図書・資料の収集・提供事業

### 1 教育図書・資料の収集・整理

#### (1) 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度 36 冊の新規購入及び受贈の結果、蔵書数は 6,392 冊になった。その種類は、障がい児の教育関係図書が 1,731 冊、その他の図書が 4,661 冊である。障がい児関係図書については、利用しやすいように障がい別（視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語障がい、情緒障がい、重複障がい等）に配架している。

#### (2) 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は 6 種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

#### (3) 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した 273 冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

## 第 6 節 広報・啓発事業

### 1 所報「特別支援教育」(72 号)

#### (1) 内容

##### ア 巻頭言

「これからの特別支援教育の担い手に求められるもの」  
福島県立あぶくま支援学校 校長 上妻 弘

##### イ 特集「学びの連続性や切れ目のない支援体制の充実に向けて」

(ア) 教育研究から「各教科の指導の充実と『学びの連続性』の実現に向けて」

(イ) 調査研究から「合理的配慮の充実に向けて」

##### ウ 地域における特別支援教育の充実を目指して

(ア) 教員研修から「教員研修で大切にしてきたこと」

(イ) 教育相談から「保護者との相談で大切にしていること」

(ウ) 学校・地域支援から「子どものよりよい支援のために、ケース会議を開いてみませんか」

##### エ 長期研究員より

(ア) 長期研究員の研究紹介

(イ) 2 年間の長期研究を通して

##### オ インフォメーション

(ア) 令和元年度研修講座の実施状況

(イ) 令和元年度教育相談と地域・学校支援の実施状況

(ウ) 教材・支援機器ポータル

(エ) 図書教育資料「今年度購入した図書の御紹介」

(オ) 刊行物紹介

○ コーディネートハンドブック

○ リーフレット「みんなで進める 合理的配慮」

○ 実践研究通信

(カ) ホームページ紹介

カ 編集後記

## (2) 規格、ページ等

ア 規格A4判

イ ページ数28ページ

ウ Webサイトで公開

エ 各関係機関へ配付

## 2 研究紀要「第33号」

### (1) 内容

ア 調査研究

「発達障がいの可能性のある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」(二年次)  
～合理的配慮の提供の充実に向けた実践研究～

イ 教育研究

「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校における各教科の充実」(二年次)～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～

ウ 長期研究員研究

○ 「困難さに寄り添う通常の学級における算数科授業づくり」(一年次)～つまずきの背景をとらえた指導の工夫と個別の配慮～

○ 「特別な教育的支援を必要とする児童に対する効果的な生徒指導の在り方」(一年次)～児童の思いや願いに視点をあてた児童理解を通して～

○ 「教師がつながりながら学び合う校内の特別支援教育の充実」(二年次)～児童の困難さに気づき、必要な支援を考え学び合うチームとしての学校を目指して～

○ 「中学校の自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する生徒が自己実現に向かうための進路指導の在り方」(二年次)

### (2) 規格、ページ、部数

ア 規格A4判

イ ページ数70ページ

ウ Webサイトで公開

エ 各関係機関へ配付

## 2 情報機器活用

専門研修講座を中心に、支援機器に関する情報提供やWebカメラ等の貸出を行った。

## 3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実

Webサイトで本センターの事業内容を多くの方々に伝えるため、研修や研究の広報充実に努めた。

広報・啓発事業担当者と協力し、「合理的配慮リーフレット」「学びの履歴シート」「もっといいチームになるヒント-0JL-」「コーディネートハンドブック(内容の更新)」をWebサイトに掲載し、適宜新しい情報の追加を行った。

○ 本センターWebサイトアクセス件数4,175,545件  
(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

## 第7節 情報教育事業

### 1 ICT活用支援

専門研修講座において、「特別支援教育に活かすICT機器やデジタル教材ー合理的配慮の充実に向けてー」を実施し、講義や教材・支援機器・ICT等の活用についての演習を行い、特別支援教育における教材・支援機器等の活用促進と実践力や専門性の向上を図った。

また、初任者研修の基本研修において、情報モラルに関する講義を実施した。



---

---

## 令和元年度実績 教育年報

発行 令和2年10月30日  
編集発行 福島県教育委員会  
福島市杉妻町2-16  
TEL (024) 521-7759

---

---